

〔利用者調査：認可保育所〕

(事業所名：杉並区立杉並保育園)

調査対象	園児の保護者66所帯。	
調査方法	園児の保護者へお迎え時に職員からアンケートを渡してもらい、記入ご、登園時に持参してもらった。園で回収後、評価機関で引き取った。	
利用者総数(人)	72	
調査対象者数(人)	66	
有効回答数(人)	48	
回収率	72.7	

利用者調査全体のコメント

総合的な感想は、大変満足10人、満足23人、どちらかと言えば満足12人の合計45人、満足度は93.75パーセントに上る。どちらかと言えば不満はゼロ、不満1人で保護者からは圧倒的な支持を受けている。4人以上が質問に「いいえ」と答えた質問項目は、「登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか」、「保育士や職員の保育姿勢や対応にバラツキが少ないですか」、の2項目のみである。利用者の満足度は高いとはいえ、改善の余地もあることを示している。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	37	77.1	7	14.6	4	8.3	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	41	85.4	5	10.4	2	4.2	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	40	83.3	8	16.7	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	39	81.3	7	14.6	1	2.1	1	2.1
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	41	85.4	6	12.5	0	0.0	1	2.1
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	30	62.5	10	20.8	7	14.6	1	2.1

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	23	47.9	21	43.8	4	8.3	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	43	84.3	4	7.8	1	2.0	3	5.9
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	42	87.5	2	4.2	1	2.1	3	6.3
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	38	79.2	8	16.7	1	2.1	1	2.1
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	37	77.1	8	16.7	1	2.1	2	4.2
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	45	93.8	3	6.3	0	0.0	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	38	79.2	8	16.7	2	4.2	0	0.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	36	75.0	9	18.8	3	6.3	0	0.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	36	75.0	9	18.8	3	6.3	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	37	77.1	10	20.8	1	2.1	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	43	95.6	1	2.2	1	2.2	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	30	62.5	15	31.3	3	6.3	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	30	62.5	15	31.3	2	4.2	1	2.1
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	27	56.3	16	33.3	2	4.2	3	6.3

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	28	58.3	13	27.1	6	12.5	1	2.1
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	27	96.4	1	3.6	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	26	92.9	0	0.0	2	7.1	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	22	45.8	23	47.9	3	6.3	0	0.0

組織マネジメント項目

共通評価項目	
カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定
サブカテゴリ1	
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <div style="text-align: right;">評点(A)</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(A)</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

「五つ星の区役所運動」をふまえた事業所の理念・方針を掲げ、特に職員の目に付く事務所の壁に貼るなど、理念・方針の徹底には腐心している様子が見える。毎月の指導計画策定の際や職員会議の際には、常に方針を明示し、方針に反していないかチェックしているという。対外的には、新入園児説明会や保護者会の折などに伝えており、園たよりも掲載するなど、取り組む姿勢は立派である。

理念や方針を実現するために、経営層は毎朝の打ち合わせ会議や職員会議などで、自らの役割と責任を全職員に伝えている。率先垂範として、毎日の各クラス巡回を実施しており、現場に入ること現場職員の相談にのったり、指導を行っている。現場の職員からは、仕事がやり易くなったと好評のようである。

経営層は重要な案件の決定については、会議等を通して全職員に伝えているので、情報の共有化は出来ていると言える。しかし、利用者に対しては、掲示板に貼る、園たよりに掲載するなどが、伝達手段の主流になっている。そのため、忙しくて目を通さなかった利用者は、園に関する情報不足になる。一部の忙しい人のために、PR方法にもう一工夫が必要と思われる。

2	カテゴリ2	
	経営における社会的責任	
	サブカテゴリ1	
	社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	
	評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
○非該当		
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	
○非該当		
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	
○非該当		
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3
将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

地域の人に、毎月第一と第三水曜日に園庭と教室を開放している。また、園児以外の幼児も頼まれれば、一緒に散歩に連れていっている。更に、公園では、育児相談を行っている。又、おもちゃの選び方の講習会は、一般の幼児を持つ親にも好評だったようだ。これからは、公園での出前相談など、出前講座で地域の人福祉に大いに貢献するである。

地域の関係機関とは、地域ネットワークを通して交流している。そして、当園では特に積極的に参画するように奨励している。特筆すべきは、小学校との協働事業として、遊びのフェスティバルを開催して交流している。お互に大きな成果を得ているようだ。地域との係わりでは協働事業が有効であると考え。

ボランティアの受け入れについては、園長を中心として受け入れ体制は整えられている。しかし、受け入れボランティアの数は決して多くはなく、現在、中学生ボランティアを受け入れているとのことである。一般的な受け入れマニュアルはあるが、中学生用はない。中学生用も作成する必要はないか。

カテゴリ3

3

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

サブカテゴリ1

利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

評価項目1

利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

利用者の意見・要望については、アンケートなどは行っていないが、行事の後には必ず感想を聴いたり、要望を採ったりして把握に努めている。乳児については、連絡帳により把握に努めている。また、保護者会や個人面談で、また、父母会会長から出される要望など、積極的に聞いている。しかし、園の行事に積極的に参加する人の声は届いているが、余り園の行事に参加しない人の声は分らない。今回のように、アンケートなどによる全家庭を対象とした調査も必要ではないか。

地域の事業環境に関する情報は、区からの情報、園長会・主査会での情報、地域ネットワークからの情報、更に、新聞等の切り抜きなどで収集・整理されている。収集の面は良いが、どの程度活用されているのか不明である。

苦情に関しては、保護者も満足しており、特に問題はないようだ。それは、迅速に適切な処置を取ったためと判断する。全園的に苦情処理に取り組んでいる姿勢は立派である。想定される苦情についても、今から考えておくことである。

カテゴリ4

4 計画の策定と着実な実行

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

カテゴリ4の講評(一つ以上)

計画の策定と実行面は区の中長期計画で策定した「五つ星のサービス目指す杉並区」の保育園版「杉並区子供・子育て行動計画」に基づき、マネジメントの基本に従って運営されている。年間指導計画に基づいて月単位、週単位の計画を策定して実行している点である。特にCS(利用者満足)を重視して策定にあたっている事はすばらしい。育児課題では現場の意見を重視し、障害児プロジェクトを立ち上げ、取り組んでいる。大変実践的で好感を持つ。

計画の推進では役割分担を行ってしっかり進めている。ISOの取り組みでは経費の削減をテーマに取り組んでいるが、成果がどれ位あったか分からないとのこと。ISOは認証を取ることが目的では無く、あくまで問題解決の手段である。テーマの選定や目標の設定などには、TQCの活動手法などを参考にして進めると良い。

利用者の安全対策では、年間の防災計画に基づいての防災訓練や防犯訓練を実施している。また、危機管理マニュアルも完備されている。訓練については園だよりも載せている。災害については万全の対策を取っているようだが、小さな事故(いわゆるヒヤリ・ハット)についてはマニュアルも不完全で、取り組みは万全とは言えない。今、ひとつの対応が欲しい。

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が運動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)

職員の能力開発については、セオリーどおりに実施されている。研修歴カードに基づいて個人別の研修計画を立て、個人の希望を聞き、園長の要望も取り入れて、研修に参加させている。研修後は報告会を開いたり、報告書を提出させ、研修に参加しなかった人の能力開発にも役立てている。今後も続けることである。

職員のやる気の向上については、園長は職員の日常の活動をよく把握し、誉めたり、励ましたりしてあたっている。評価については職員とのヒアリングを重視して行っている。区立の施設であり、昇給、昇格、昇進などは区が行っており、園長の仕事としては、それで十分かとも思える。しかし、仕事の達成感を味わわせることも、やる気の向上には欠かせないものである。

区の人事制度・方針に基づいて人事管理は行われている。毎年の担任の決定や役割の分担を決める際は、各人の希望を聞き、話し合いによって決めている。民主的なやりかたでよいと思うが、残業を行ったり、自宅への仕事の持ち帰りの人もいて、不満を抱く職員もいるよである。何らかの対策が望まれる。

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)

園で収集した情報は、テーマ別にファイリングされており、職員なら誰でも見れるようにしている。区からの園長宛のメールに就いては、機密性を考慮して園長の判断で別に保管している。情報の共有化はなされているが、活用については十分とはいえない。

個人情報については、個人情報保護法に基づいて利用目的を明示している。外部からの開示要求にたいしては、対応方法を明示して、情報の保護につとめている。また、実習生やボランティアに対しても担当者が説明を行い、個人情報の保護を徹底している。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
	改善の成果	
	経営における社会的責任として、地域に対し内容を分りやすくした、園独自のパンフレットを作成した。園で地域の人との交流会を開いている。園庭開放のチラシを配布して利用者の拡大に努めている。公園で地域の人と積極的に交流している、が挙げられる。成果は、前年度より上がっていると判断できる。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」 		
改善の成果		
今までになかったことをシステム化した。次の2点である。乳児リーダーと幼児リーダーを決めて、定期的な話し合いの場を持っている。研修報告日を決めて報告会を実施している。職員の能力アップと情報の共有化に有効で、効果が上がっている。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 		
改善の成果		

クラスだよりの発行回数をふやしたり、白板を使用して、利用者に対し情報の提供に努めている。情報提供の頻度が増した。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面に於いては保育料は据え置きであるが、補助金・交付金が一般財源化し、運営費の増加が6%、職員費はダウンしているが全体的には自主財源で賄っているの向上している。そんな中、ISOの取り組み「節電、節水」に心掛けて、節約効果が出ている。その他の消耗品も、節減に努め、手作りのおもちゃや教材を作成して、保育サービスの質をいささかも、落としていないことは、改善の成果と言える。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握」

A+ A B C

改善の成果

保育士の、保護者に対する対応のバラツキがあるとの指摘が保護者からあったことから、保護者対応マニュアルを作成し、確認しあった。結果は、バラツキとクレーム対応に対する保護者の苦情数が減ったことである。これは成果といえる。

カテゴリ8の講評(一つ以上)

園の活動面で改善されたものに、内部的には、乳児組と幼児組のリーダーを決めて定期的な話し合いの場を持ったこと。地域に向けては、園で交流会を開いたり、園庭を開放したり、公園での地域の人との交流があげられる。交流を通じて地域のニーズを掴み、実施することで、地域に貢献が可能となるので、更なる発展を期待したい。

研修については、昨年は、研修報告会の報告日を決めて行っていなかった。今年は報告日を設定して報告会を行ったところ、より情報の共有化が計れているようだ。報告の準備やスケジュールのやりくりなどがあるので、前もって決めておいたことが良かったのである。

サービスの提供面では、クラスだよりの発行回数を増やしたり、白板を利用した利用者へのおしらせの提供を行った。前年に比べて、活動の回数が増加している。サービスの質の面は、保護者の苦情の減少が、それを表している。サービスの量の面でもサービスの向上につながり、大変良いことである。

サービス提供のプロセス項目

共通評価項目													
サブカテゴリ1													
1	サービス情報の提供												
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし </td> <td>1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし </td> <td>2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし </td> <td>3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
	評価	標準項目											
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当										
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当											
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当											
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし													
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)													
保護者に対する情報源としては、保育園のしおりなどの提供を行っているが、内容は一般的なものであり、園独自の創意工夫が望まれる。事業所の情報は、行政や関係機関にも提供されており、行政からの日々のメールや、電話連絡により、行政との情報交換を行っている。													
保護者からの見学希望には、開園時間中であれば、突然の訪問にも園長か主査が対応しており、園長、主査が不在であっても、リーダーが対応する。このような積極的な姿勢は、地域での園の受け入れ促進にも貢献すると思われる。													
職員の顔写真は、スナップであり、親しみやすい。しかし内廊下に貼り出されており、保護者の目に留まる機会が少ない。登園時の担任が誰であるかの情報が欲しい、との保護者の声もあることから、職員を認知してもらうためにも、保護者にわかりやすい場所に貼り出されると有効であろう。													

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)

入園説明会や、保護者会、個人面談を通じ、園のしおりなどを配布し、基本的ルールや重要事項について説明している。説明内容については、保護者の同意を得るようにしている。

新入園児の名簿を作成し、備考欄に個別状況を記入、それを元に児童票に書きこんでいる。利用開始直後には、登降園時に直接保護者を出迎え、家庭での様子を聞いたり、園での様子を話したりして、サービス利用前の生活からの環境変化にたいする子供や保護者の不安解消に努めている。入園当初は、他の保護者のお迎えの姿が見えると、子供が動揺するため、カーテンを新しく設置して、子供の動揺を防いでいる。慣れ保育は特に行っていないが、4月の入園時から、個別に対応している。

転園に際しての、転園先への情報提供などは、個人情報保護を意識しながら、保護者が同じ情報を何度も提出することのないように保護者の負担を軽減し、又、転園先にも情報提供により利用者像が把握されていることで、転園への不安が解消されるように、連携をとることが望まれる。

サブカテゴリ3

個別状況に応じた計画策定・記録

3

評価項目1

必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

父母会からの提案で、ゴミ収集車に園にきてもらい、不燃ごみや可燃ごみの区別など、ごみについての意識付けを幼少から養っている。運動会の後は、保護者からアンケートをとり、今後の計画作成の参考にしている。保護者から意見が出れば、随時職員会議や朝の打ち合わせで検討し、朝の時間が足らなければ、昼にもミーティングを行って検討している。

保護者自身が精神的問題を抱えている場合は、個人面談をおこなったり、場合によっては、気持ちをリラックスさせるよう、園庭の木の下で立ち話風に相談に乗ることもある。園で怪我をした子供の情報は、翌日以降必ず保護者から様子を聞き取り、経過を確認している。

子供一人ひとりについての情報は、個人面談などで把握して、児童票に記入しており、保育の計画は年度始めの会議で年間指導計画を作成、月ごとに全体職員会議で見直し、変更を行っている。職員が作成している日常の記録は、必ず園長が目を通し、コメントを記入している。時間中は職員室のデスクに置かれ、職員はいつでも見ることが出来る。休憩時間には園長や主査が意識して、積極的に職員に話しかけに行っている。この事は現場での職員の評価は高く、職員の意欲向上に貢献しているとのアンケート結果を得ている。

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

こどもについて、病院や警察など他機関へ照会する際は、保護者の承諾を得ている。外部からの写真の撮影は基本的には断っている。ボランティアの受け入れに監視、園長または主査が担当し、ボランティアが入る際の利用者のプライバシーの尊重やその他留意事項について伝えている。個人情報に関する書類は、職員室の鍵のかかる書庫に保管しており、園長が管理している。備品としての鍵のかかる安全な書庫は不足しており、今後の整備が望まれる。

こどもを叱ったり、諭したりする場合は、全員の前では行わず、個別に対応している。子供同士の間でも、相手の名前を呼ぶときは、ちゃん・くん付けをするよう指導しているが、利用者アンケートにもニックネームで呼ばないでほしいとの記述があり、職員自らが手本を示せるよう、再確認が求められる。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

毎朝8:30から職員室で打ち合わせを行っており、その中では子供の状況の変化の報告や、その後の経過や対応の報告、日程の確認などが行われており、保育に当たっていて参加できない職員にも伝えられている。

公立保育園研究会、区の研修など、職員ひとりが年間2~3回参加しており、参加した内容については報告により、職員全員は共有している。職員アンケートでも「職員間の連絡が密になった。」「共通認識がしやすくなった。」「理念やビジョンの実現に向けて、チームを作って実施している」など職員の質の向上についての記述がみられ、園の職員が一体となって取り組んでいる様子が伺える。

サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目1の講評(一つ以上)			
現在園では、障害児を預かっているが、職員がつききりになる場面が多い。園内で障害児の会議を月に1回持ち、全体で情報を共有、年4回の臨床心理士の巡回や、医師からのアドバイスを元に、月指導計画にも反映させている。地域の中で、障害を持つものが、違和感なく受け入れられる下地作りが行われている。就学しても、障害者に対する受け入れが自然と出来るような、児童の育成が行われていると考えられる。			
園外活動として、阿佐ヶ谷商店街の七夕祭りに、園児が作ったおみこしを出品したり、地域の町内会のお祭りに山車を引いて参加したりしている。プランターを使い、きゅうり、ピーマン、ミニトマト、枝豆などの栽培をしたり、チューリップの球根を植えて育てている。カブトムシやザリガニなども飼育しており、子供の興味を集めている。			
クラスに世界地図を貼って、いろいろな国があり、いろいろな人種や言葉や習慣があることは「おあつまり」の時に子供に話している。3歳児が鉄棒をやりたいと言ったときは、危険性・安全性を考え、又冬期は鉄棒が冷たくなるなどの条件も考慮し、自主性を重んじながらも、発達に合った遊び方が出来るよう配慮している。			

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目2の講評(一つ以上)			
区の保育課の栄養士の指導に基づき、区で統一された献立を作成している。又、食物アレルギーのある子供に対し、代替食は栄養士の指導の下で提供しており、お盆は個別にして間違えないようにしている。芋ほりの芋や、栽培したナスやピーマンなどを調理してもらい、嫌いなものでも食べることが出来ている。又、体調のすぐれない子供には、お粥を提供するなど配慮している。			
椅子は子供の状態に合わせ、お風呂マットを切ったものを足台にしたり、1歳児は借用した肘付椅子を使い、座位を保てるよう工夫している。テーブルには生花や造花を飾り、雰囲気を出している。月に一度の誕生日会にはお子様ランチとしてランチプレートを使ったり、お楽しみ会や行事食には、ランチョンマットを使うなど、変化をもたせて食事を楽しんでもらっている。食後、口の回りを拭くため、1・2歳児には、ホットパックでお絞りを温めたものを使っている。			
アンケートからは「おかずの品数を増やしてほしい。」「展示食を参考にしている。」「同じものを作って食べてみたいので、レシピが欲しい。」などの声が出ているので、出来ることから要望にこたえる努力が望まれる。			

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目3の講評(一つ以上)			
保健便りは年間9回ほど発行しており、流行している病気については、掲示板に貼り、登降園時に保護者が見られるようにしている。職員は、登降園時に直接保護者と話す機会があれば、情報を伝えている。子供の健康状態は、月に1回の園医の巡回で診てもらっており、保育日誌、健康カード、健康一覧表に記録している。			
アトピーの子供の塗り薬をはじめ、与薬、投薬に関しては、主治医の指示の下、薬を預かり対応している。保護者からの健康相談の内容は、園医に連絡、報告し、相談に応じてもらっている。園医の訪問が月に1回のため、緊急性を要する相談では、保護者に医療マップを必要に応じ渡している。医療マップは職員室にも掲示されており、職員がケース毎の医療機関の情報は常に把握できている。園内で診察が必要な状況が発生すれば、園医に連絡をとり、往診してもらっている。			

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目4の講評(一つ以上)			
子供が遊具を使って、集中して遊べるように、棚などでコーナーを作るなど工夫している。体調が悪い子供が休養できるように、アコーデオンカーテンを用い、部屋の一部を仕切って、じゅうたんの上に布団を敷いているが、感染のことや、安静のことを考えると、別室で職員が目が届くところで休養できることが好ましいと思われる。お昼寝は特に1歳児は時間がまちまちであるため、個性を尊重して対応している。起きる時間は大体合わせているが、早く起きてしまった子供は他の子供の昼寝の邪魔にならないように、別室で職員が対応している。			
建物の老朽化もあり、設備としては新しいものがない。収納場所は不足していて、事務用品、備品、保育教材などは内廊下に置かれているが、水色の引き出しの収納具で統一されており、整然としている。クラスの壁に吊り棚があるが、地震などで扉が開かないよう、簡易鍵で止められており、安全に配慮されている。			
登降園時、門から保護者が自由に入ることが出来、外廊下から各クラスに入るようになっていて、外部から不審者が侵入してもわからない状況があるため、防犯については、社会情勢を鑑み、緊急に対策が望まれる。			

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目5の講評(一つ以上)

保護者が急な事情でお迎えに来られなくて、小学生の兄弟しかいなかった時に、担任が送っていくこともあるなど、柔軟に対応しているが、「お迎え時に子供の様子を話して欲しい。」「ビデオで園の様子を知らせて欲しい。」「登園時の担任保育士が誰であるか明確にして欲しい。」などの声もあるため、保護者が担任を確認できるシステムが望まれる。

園の月だよりに、保護者からの投稿コメントを掲載し、月だより作成に参加してもらっている。年間行事、参観日以外でも、園の「お店屋さんごっこ」に保護者が参加している。父母の会に、保育園の教室を提供し、話し合いの場を持ってもらっている。父母の会は成田児童館、成田西児童館との交流を行っており、地域での一貫した子育て支援の体制があるといえる。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目6の講評(一つ以上)

虐待防止や育児困難家庭支援のために、職員は研修に参加し、月1回の研修報告会で職員全体に内容を伝え、研修内容を共有している。育児困難と思われる家庭の保護者に対しては、積極的に声がけを行い、改まった個人面談ということではなく、日常の送迎の中で相談、援助を行っている。今年度の異動で、ベテラン職員が増え、保護者への助言や、支援の巾が広がったと職員も感じている。

利用者アンケートの中には、「保育園の雰囲気がアットホーム的で、親しみやすく、何でも相談できる」「職員がプロ意識を持ち、優しく、安心して預けられる」などの意見が見られる反面、職員の言葉遣いや、子供への呼称については批判もあるため、保護者に心理的ストレスを与えないような、接遇に関する教育も職員自身に求められる。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
園児の散歩時に、園児以外の幼児も希望があれば、散歩に同行させている。毎月第1・第3水曜日は地域の人に園庭を開放している。「運動会」「お出かけください」「いっしょに遊ぼう」など地域の人に呼びかけており、「お出かけください」では、野球やテニスの得意な地域の人に、園児が手ほどきをもらっている。これは地域の人にとっても、異世代交流での役割感の達成となっていると思われ、今後もぜひ継続して言ってもらいたいことである。													
年に3～4回は地元の小・中学校の連絡懇談会に参加し、地域ネットワークの構築の一貫としている。又、小学校の「遊びフェスティバル」には職員が3名参加して、体験を園の保育に反映させている。東田中学校からは、職場体験の受け入れを行っており、体験を通し、将来の職業選択の際に役立ててもらっている。													
園の外の掲示板は、地域の人にも提供しており、迷いペットのチラシなどの掲示依頼にも快く対応している。園児の登降口にあるウォールポケットに、児童祭りや近くの私立幼稚園のバザー情報をはじめ、お知らせなどを入れており、保護者はいつでも手に入れることができる。													
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 80%;">標準項目</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
毎月第1・第3水曜日は、園庭を開放しており、「いっしょにあそびましょう」とポスターで呼びかけている。来園児の身体測定をしてあげたり、手作りおもちゃの紹介をしたり、紙芝居を読んであげたりと通常保育のノウハウを生かした支援をしている。身体測定の際はカードを配布し、次回来園のきっかけ作りとなっている。継続して園の行事に参加もらえること、又参加者へのフォローも期待したい。													
来年度は定員増の予定があり、8名の増加で、合計80名の受け入れとなる。登園は住宅街の中にあり、44年の実績に基づいた地元との信頼関係が築かれている。今年度、経験豊かな職員が異動して来た事からも、今後の地域子育て支援の中核としての役割が期待されている。													
今回の調査に関しては、「これからも協力したい。」「調査結果をぜひ聞かせて欲しい。」などの保護者の声もあるため、絶好の機会と捕らえて、調査結果を、保護者とのコミュニケーションのアイテムのひとつとして、役立てられることを期待したい。													

特に良いと思う点		
1	タイトル	職員の意識の高さ
	内容	保育園時代を、「子供にとっていい育ち」をしてもらいたいという、全職員の共通認識がある。園長や主査をはじめ、職員が役割を認識し、意見具申や相談がしやすくなったと職員が感じている。苦情処理や問題解決に向けての改善策、諸連絡での職員間のコミュニケーションが大変良い。その結果、保護者からは、とても親しみやすく、なんでも相談できる。保育士の質が高い。保育士がプロ意識を持っている。安心して預けているなどの声があり、信頼を得ている。
2	タイトル	子供がのびのびとした園生活
	内容	保護者の状況に合わせ、柔軟に保育時時間や送迎の対応をしているため、保護者の精神状態が落ち着く。そのことにより子供も必然的に落ち着いてくる。クラスでは、コーナーで区切って集中して遊べるように配慮し、玩具も台所用品をそのまま使ったり、木のおもちゃで、年齢に応じて工夫して遊べるなど、子供のために考えた職員の創意工夫改善により、園児がのびのびと園生活を楽しんでいる。建物は老朽化してはいるが、逆にそのために安全面に充分配慮され、子供の怪我也減っている。
3	タイトル	地域の育児支援としての拠点
	内容	44年間の歴史により、地域に溶け込み、地域住民から信頼されている。来年度に定員数が増加することもあり、ますます子育て支援の拠点として、期待されている。大宮保育園、成田保育園とは定期的に交流が行われており、4・5歳児は他の園児との交流がある。第1・第3水曜日は園庭が開放されており、来園した子供の身体測定の提供など、子育て支援にも努めている。今年度、ベテラン職員が赴任してきたこともあり、地域のよき相談相手として期待される。
さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	一層のマニュアル化の推進
	内容	区立の施設なので区の規定や指示に従って働けば十分という考えもあるが、保育園は福祉サービス業に位置づけられているので、利用者満足(CS)の面からサービスの質の向上は求められてくる。当園でもマニュアルの整備は行われているが、十分な活用に至っていないように思う。さらなる向上のために、仕事の手順、客との対応、安全管理……などテーマ別のマニュアルを整備し、日常業務に活用されますよう期待する。さらに、マニュアルを活用した職員の能力アップ(OJT)を計りたい。
2	タイトル	安全対策の強化と保護者へのPR
	内容	保護者アンケートを見ると、地震対策と不審者侵入に対する不安だとする意見がある。古くなった建物を新築したり、最新のIT機器の設置も容易でない現在、それなりの対策で対処していると思う。安全管理は重要な課題であるので、もし利用者に不安があるのならば、利用者を交えた対策会議を開くなり、園だよりやお知らせには、一回でなく数回にわたり取り上げ、園の熱意ある対策をPRしたい。
3	タイトル	さらなる職員の能力の向上を
	内容	区の人事制度に基いて、研修歴カードと個人の希望を受け入れて研修計画を立て、職員を参加させている。終了後には報告書を提出させ、報告会を開いて情報の共有化を計っている。集合研修(OFFJT)の面ではそれで十分と思うが、OJTによる能力開発が不十分である。園長は環境の変化を知り、保育園としての価値を高められる職員が望ましいとしているが、課題研究やOJT教育の中に、この問題の具体策テーマを出し、全員で取り組むことである。

調査対象	杉並区立井荻保育園の園児90人の保護者世帯70世帯の保護者。	
調査方法	園を通じて。園児のお迎え時に保護者に調査票(アンケート)を各担任から配布してもらい、保護者が記入後、登園時に園に提出してもらい、評価機関がこれを回収した。	
利用者総数(人)	90	
調査対象者数(人)	70	
有効回答数(人)	51	
回収率	72.9	

利用者調査全体のコメント

定員90名の杉並区立認可保育園で、園児数90名、その保護世帯数は70、回収は51、回収率は72.85%となった。総合的な感想では、大変満足31.37%、満足41.18%、どちらかといえば満足13.73%で、満足率は86.28%と保護者の満足度は高い。ちなみに不満を示す回答はどちらかといえば不満1.96%、不満1.96%大変不満0%であった。「はい」回答率が高かったのは下表に見られるごとく 問1、2、3、5、8、10、22、24が上げられる。21の質問中「いいえ」の回答が一番多かったのは、問21の「保育園運営の基本的考え方(理念・方針)を知っていますか」で13.7%であった。現在園では、保護者会での伝達、掲示板、職員室、園だよりなどに掲示、掲載されていることを確認。回収率が高いが、職員の子どもの扱いに対する保護者の見方はかなり複雑な思いが示されており、今後、真摯に双方が向き合わなければならないことである。行事日程の決定の配慮をどうするか、いずれも対決する事ではなく、互いの理解が必要である。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	43	84.3	7	13.7	1	2.0	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	48	94.1	1	2.0	2	3.9	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	48	94.1	3	5.9	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	43	84.3	7	13.7	0	0.0	1	2.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	45	88.2	6	11.8	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	28	54.9	20	39.2	3	5.9	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	35	68.6	14	27.5	2	3.9	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	43	84.3	7	13.7	1	2.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	39	76.5	7	13.7	1	2.0	4	7.8
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	45	88.2	6	11.8	0	0.0	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	41	80.4	7	13.7	2	3.9	1	2.0
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	43	84.3	6	11.8	1	2.0	1	2.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	35	68.6	14	27.5	1	2.0	1	2.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	32	62.7	14	27.5	4	7.8	1	2.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	25	49.0	18	35.3	6	11.8	2	3.9
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	35	68.6	13	25.5	3	5.9	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	36	70.6	14	27.5	0	0.0	1	2.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	29	56.9	17	33.3	4	7.8	1	2.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	32	62.7	15	29.4	4	7.8	0	0.0
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	27	52.9	18	35.3	4	7.8	2	3.9

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	28	54.9	15	29.4	7	13.7	1	2.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	28	96.6	1	3.4	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	24	82.8	5	17.2	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	35	68.6	13	25.5	1	2.0	2	3.9

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
		○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○ 非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○ 非該当
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
		○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
		○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① この園では15年度第三者評価を実施し、その評価を踏まえて改善に努め園長、職員そして利用者、ほとんど同様な評価が現れている、まとまった園である。園の保育目標は1、自然を愛することも 1、意欲的に遊べることも 1、自分で考えて、行動できることも、であり子どもの人権尊重、園生活が子どもにとって楽しく、発達成長する過程に援助し、生きる力を養成することの目標が職員室に掲示してある。園長は園長になって3年目、その指導力は職員が認めている。
- ② 園長は職員の能力向上を図り、情報の共有化のため会議を中心に密に交換し、職員の感性を重んじ、その努力を評価して和を保っている。職員会議を重んじ、園長の抱負を年の初めに伝え、目標を年度始めに職員に伝えている。新人(転入者を含む)に対してオリエンテーションにて連絡、相談、報告の重要性について説いている。指導計画は、職員を交えて作成している。
- ③ 保護者の意見や苦情を言いやすい雰囲気を作り出し、地域の子育て保育を積極的に推し進めている。

カテゴリ2

2

経営における社会的責任

サブカテゴリ1

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

評価項目2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(B)

評価	標準項目	
○あり ●なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

① 保育園の機能や専門性を生かした取り組みは、十分とはいいがたい。地域の社会に還元すべく、園庭を開放し、地域の子どもの身体測定を行い、地域の児童館の行事への参加し、インターシップなどの高校生の受け入れを行っているものの、保育の専門家の集団である保育園の存在価値を、地域に知らしめ、保護者以外の保育相談の受け入れ、専門家としての保育士ら職員の講師としての地域派遣等は今一步の感がある。

② ボランティアの受け入れについては、担当者があるものの手引書は準備中である。ボランティア希望者には、面接時に、プライバシーの尊重を始めとする守秘義務について口頭で伝えている。

③ 地域とのネットワークについては、事業者連絡会・園長会に園長や主査が出席し、共通の話題に取り組むために、行事には役割分担し、参加している。そして地域とのかかわりを各クラス担任も自然な形で受け入れ、地域で要請があれば保育課程経由で緊急一時保育を行っている。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○非該当	
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○非該当	
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(B)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者一人ひとりの意向は、保護者と職員の日頃の会話、連絡帳、個人面談、保護者会開催時の利用者アンケートなどにより収集に努めている。保育園以外の苦情相談制度が色々あること、その機関の内容なども口頭で伝えたり、ポスターを園内に掲示している。要望や苦情があった場合、担任に答えられることは即答し、それ以外は主査、園長が対応している。意見・要望・苦情は、職員会議の議題とするようにしている。
- ② 地域の福祉ニーズの収集は、児童館主催の地域懇談会への参加による情報収集が、主となっている。ここには、地域の小学校、PTA、地域住民、地域の青少年育成団体などが集まり、種々の情報を交換し合っている。1回90分、年に4回ほど開催されている。参加した園長、主査はその内容を職員会議で発表し、情報の共有化に努めている。
- ③ 全体の情報の整理・分析は、今後の課題である。

カテゴリ4

計画の策定と着実な実行

4

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)

①	<p>計画の策定と実行面は区の制定した「五つ星のサービスを目指す杉並区」の保育園版「杉並区子供子育て行動計画」にもずいた 保育計画は、年間の保育計画を立て、月案、週案、行事のプロジェクトで実施し、次年度へ繋げている。課題の明確化、計画策定の手順は決まっています、指導計画は毎月のクラス会議で話し合わせ、その結果を持って全体会議が持たれ検討されている。行事などは多くの利用者が参加できるよう配慮されている。</p>
②	<p>計画におけるリスクは利用者へのリスクが少ないように配慮されているが、その結果として、職員の仕事は短期集中となることもあるようである。企画推進の方法は役割分担表の作成・配布を行い、他園で経験した事例等をも参考にして、保育計画を明確にしている。月の指導計画は、反省の上翌月の計画に反映され、前期の反省を踏まえて後期へと伝えている。</p>
③	<p>安全の確保、向上については、園児の安全を図るための避難訓練、防犯訓練(消防署、警察から係員を派遣していただいた)火災訓練、交通安全指導を受けている。その打ち合わせで再発防止、予防対策の話し合いを行っている。その報告書の作成、全体、クラス会での打ち合わせで確認、または口頭で伝えている。</p>

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)

① 人事方針は、正職員は杉並区の職員であり、区の方針に従って採用・配置される。園の求める人材像は、子どもの要求や想いに気づき受け止め、愛情深く対応すると共に自らの感性を養える人、である。非常勤職員についても同じであり、その結果職員は、個々のチャレンジプランを持っている。人員配置については職員の意向を把握し、園の目指すサービスを実現するために各クラスに必要な人事構成にしている。

② 職員の質の向上には、各種研修への参加を奨励しており、職員は希望の研修会に出やすい様、日程調節している。区や関係団体から園に連絡の来る研修会案内は年間40件ほどに上る。年間30名以上が参加している。研修後は報告書を提出させている。又、職員は、自主的な活動として学習会や個人で見つけた研修会にも参加し、自己研鑽に励んでいる。

③

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)

①	園が蓄積している経営に関する情報は、重要性や機密性をふまえ、区が設定した管理方法に基づき、重要書類の保管は鍵つき保存を行っている。項目ごとにファイリングし、職員が自由に閲覧できるようになっている。1年毎にファイリングキャビネットを決め、更新時に新しい情報と差し替えまたは追加している。
②	「個人情報保護法」の趣旨に添って、個人情報の利用目的については、利用者に対し入園説明会や保護者会にて説明している。保護に関する規定や開示説明に対する対応方法は全て杉並区で設定されており、職員は個人情報保護の研修を受けている。また実習生やボランティアにはオリエンテーション時に説明している。職員は、一人ひとりの子どもの情報を職員間で共有し活用している。ただし、情報の整理・分析は十分とは言えない。
③	

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
	改善の成果	
	<p>リーダー会議を実施。地域とのかかわりを各クラス担任が自然の形で受け入れ、保育相談にも応じている。その記録がリーダー会議録、職員の保育に関する努力、意識目標を各自設定している。園庭開放、地域身体測定、児童館との庭遊び対応、保育相談、離乳食アドバイスなどが記録に残されている。こういった事は、前年度にたいし改善効果が上がっているものと判断できる。</p>	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」 		
改善の成果		
<p>職員は個々の保育目標を掲げ、チームワークと協力体制を持って、意識的に取り組んでいる。ヒヤリングの後、各自の反省を基に目標設定を行い、園長、主査、職員間でめざす達成目的に対する職員間の協力体制がスムーズに確立され、職員の意識が子どもの健全な発達・成長への援助に向かっている。職員の保育サービスに対する取り組みは、前年度よりも更に向上した。これは、園長の指導もあるが、自主的な職員個々の自己啓発の成果でもある。</p>		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 		
改善の成果		

入園説明会の時、意見、要望、苦情の対応を理解してもらえ、わかりやすく、丁寧に説明、対応している。説明内容は、保育の現状を細かく、分かりやすく、具体的に知らせている。苦情解決制度(苦情処理委員制度)があることを、毎月委員が変わるポスターを園内に掲示。また園だよりにて保育園と地域のかかわりを知らせている。個人情報の保護の見地から改めて重要書類保管場所の施錠を行っている。個人情報保護法の施行により、情報に対する認識は大きく変わり、職員・保護者ともに理解を深めており、この面での改善効果は大きい。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面においては保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し運営費の増加が6%職員費はダウンしているが全体的には区の自主財源で賄っているため向上していると考えられる。保育園で出来ることとして徹底的な費用の節減に取り組んでいる。消耗品は、たとえば、事務管理面ではパソコンの印刷、文書のコピー用には使用済みの裏紙を使用、園児用の玩具としてリサイクル用品を利用、ペットボトル、牛乳パックなどを使って紙製遊戯品や教材を作り使用している。このような努力の結果、保育サービスの質を改善している。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

・カテゴリ-3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

A+ A B C

改善の成果

保護者会開催時には、気持ちを和ませる工夫を行い、話し合うテーマを、保護者のアンケートの結果を踏まえて、懇談の時間を増やす。全体会、グループ、個人面談等時期はクラス単位で考えて行く、等の事を行った。行事の企画を検討したことにより、幼児担任の職員の自発的な研修参加につながり、多くの職員研修の参加によって、子どもたちと一緒に行事を作り上げていく事が出来た。

カテゴリ8の講評(一つ以上)

① 平成2年10月、現地に移転新築した建物ではあるが、園庭が狭いと苦情は多く、新しいと言うイメージではないが、園長を中心に主査と共に、保育目標に定めた保育の実践を行っている。より良い保護者との関係を作るために、職員一体となって研修に挑み、体得し、これを持って保護者との関係を強固なものにする姿勢を見ることが出来た。園長はじめ職員は区職員であるが、休日も返上して研修に自主参加している。これが地域に還元する原動力になっているものとかんがえる。

② 歴史ある園ではあるが、地域社会との連携を深めることによって、その地位は飛躍的に増大すると考えられるが、保護者の意見に持って耳を傾けながら、東京都、杉並区の方針を説明し、保育園の活動には制約があること、何よりも職員の園児に対する愛情を、保護者にもっと伝える工夫と努力を期待する。

③ 地域関係者及び機関との連携は保護者の新しいニーズの構築を図るためにも、今関係している区、警察、消防署など親密に行っているが、これまで以上の関係を維持し、保護者が安心して預けられる環境を地域ぐるみで作ることが可能である。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	当園の情報は、利用を決定する行政への情報提供、および利用者に対し保育園の概要や行事予定などを知らせたり、近隣の保育園に情報も知らせ、利用者の希望による保育園を選定しやすいようにしている。保護者の問い合わせや見学希望には保育時間帯への配慮をしつつ希望に応じ、スケジュールを決めて個別に対応している。	
②	行事日程に関しては参加がしやすいと考えている保護者が半数強にとどまっているため、更に参加しやすい日程の検討が求められる。具体的には、夕方や土曜日の開催となるが、この場合、自営業者の不満が出てくる。全員の満足を得られるは無いことを理解させる努力も必要となる。	
③	近所に散歩に適した公園が数多いため、散歩時は保育園のPRを積極的におこなっていききたい希望がある。効果的で継続性のあるPRが期待される。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)													
①	入園説明会や入園面接時に、基本ルールや重要事項は説明資料によって説明を行っている。保護者の意向は、説明会の後に質問があった場合、その件については職員会議で全体報告・記録している。												
②	入園直後の子供の不安を軽減するために、短時間の対応から段階を踏んで1週間くらいのならし保育を行っているが、保護者の都合により短期間しか保育が出来ない場合も、都合に合わせ、負担を少なくするよう心がけている。保護者には保育状況をくわしく伝えている。利用前の生活の継続性を保つため、0～1歳児には実際に保護者に食事を与えてもらい、食事の仕方をみせえてもらうこともある。												
③	転園にあたっては、保護者の負担にならないよう、保育園間で連携をとり、転園先で健康診断なしでの受け入れが出来るようにしている。												
サブカテゴリ3													
3	個別状況に応じた計画策定・記録												
	評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
	評価	標準項目											
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当											
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当											
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当											
【標準項目を超えた取り組み】	○あり ●なし												

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 一人ひとりの子どもの様子は児童票や健康記録、保健日誌、保育日誌に記録されており毎日園長が目を通し、場合により直接担任に確認している。月毎、期毎に各クラス毎や職種毎に保育反省をおこなっている。職員会議は定期的におこなわれており、年度末は月2回程夜にも行われている。
- ② 保育計画や指導計画は、年度初めの保護者会で説明を行い、個人面談などで保護者の意向を汲み取り、問題提起があれば職員会議で検討を行い、必要があれば計画見直しを行う体制がある。
- ③ 保護者のなかには保育延長を望む声もあるため、個別のサービス計画については更に対応への工夫も望まれる。

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 子ども一人ひとりの思いを大切にしていこう、他の子どもにも自分と違う思いがあることをわかってもらおう、という職員の共通理解があり、気づきがあればその都度対応していく体制も整えている。
- ② 子供のいいところだけでなく問題点も指摘してくれるため、子育ての参考になるという保護者の感謝の声もある。
- ③ 子ども一人ひとりの人権の尊重のひとつとして、子どもの名前を呼び捨てはせず、子ども同士でも「ちゃん、君」などをつけて呼び合うよう、職員間の徹底と子どもへの指導を行っている。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 保育計画・指導計画・散歩のマニュアル・防犯マニュアルなど各種マニュアルは、職員間で話し合っ、職員が共通理解できるような表現をするよう工夫している。期毎の反省会や年度末の反省会、日常的なクラス毎の反省会で保護者の意見や子どもの様子、職員の意見などを反映させ、次期の課題として取り組んでいる。
- ② 外部からの侵入者に関しては不安を感じている保護者も多く、特に、登降園時に誰でもが入り込めることに不安があり、昨今の社会事情を鑑み、不審者に対する強固な防犯体制が望まれる。
- ③ 朝夕の挨拶は、職員と保護者のコミュニケーションの基本と考え心がけているが、対応などに職員間のばらつきがあるとの保護者の指摘もあり、研修や職員会議を通じ、全員が一定レベルの対応が出来るよう望まれる。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	当園では保育を通して「生きる力の養成」が大切と考えており、発達年齢に合わせて環境づくりをしている。幼児クラスではリズム遊びを系統だてて3年以上継続しており、今後リズム遊びの継続を通して、経過観察により保育全体への好影響を期待したい。		
②	子ども一人ひとりを大切に、子どもの思いを受け止め、表情・動きなどから職員が敏感に察知し、自分の思いを伝えられるよう援助している。		
③	現在障害児は在園していないが障害児教育への研修参加しており、参加した職員は他の職員にも報告し、自主学習の材料としている。個別プログラムの作成や人員配置に関しては、いつでも受け入れる用意がある。		

評価項目2 A+以外では【標準項目を超えた取り組み】のコメントは削除してください

栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している

2

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2の講評(一つ以上)

- ① 献立は杉並区の統一のものであるが洋風のメニューが増えているので、和風食の体験を多くさせたいという思いがあり、現場からの提案を取り入れてもらう工夫が望まれる。喫食状態に合わせて味を変えるなど工夫しており、お代わりも出来るなど子どもの食事の量に対し配慮されている。農園で栽培した芋・きゅうり・トマト・ピーマンなどをその日のうちに提供しており、子供たちは嫌いなものでも自分で収穫したものならば食べられるようになっている。芋は一部芋版にも使用されて、クラス内に掲示されており、子どもたちの良い思い出となっている。
- ② アレルギーのある子どもには保護者、担任、調理師、栄養士が連絡を取り合いながら除去記録票により代替食を提供、またお盆は個別にしている。離乳食については進捗会議を持ち、子どもの食べ具合を確認しながらすすめている。子どもの体格に合わせて、足が床にきちんと着いて姿勢が良くなるようにマットなどで工夫している。
- ③ 4, 5歳クラスの幼児に対し年2回、クラス毎に栄養士により栄養指導が実施されており、食に対する理解を深めさせている。嫌いな物も食べられるようになり、家庭でも話をするようになった。園だよりに献立のレンピを提供し、忙しい保護者にも簡単につくれるよう紹介している。離乳食の参考書の貸し出しを行っており、数人の利用者がいる。子どもができる簡単な調理体験により、食に対する興味を持ってほしいと思っているので実現に向けて努力が期待される。

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態は、日々の記録や長期の記録が、保健日誌や健康記録に残されている。医療ケアが必要な子どもには保護者から委託された与薬や冬期の皮膚保護の塗布薬などで対応している。		
②	0歳児の担任はSIDS(乳幼児突然死症候群)の研修に参加し、症状の理解がなされており、午睡時の15分ごとのチェックは記録されている。救急救命研修には毎年1名ずつ参加させており、緊急時の救命について全職員が対応できる体制を進めている。		
③	感染症予防のため、うがい、手洗いの励行・実施の指導をしている。感染症発症時には情報を保護者の通行する廊下側にクラス毎に張りだしたり、お迎えのときに適宜保護者に伝えている。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	木のおもちゃを意識的に多く揃えるようにしており、手触りを楽しんでもらうと同時に同じおもちゃでも年齢によって遊び方が異なり飽きが来ないため、物を大切にする気持ちの育成にも役立っている。職員の名札はフェルト製で袖につけられており、子どもとスキンシップをはかる際、子どもに怪我をさせないよう配慮している。		
②	子どもの誕生会は、該当者の当日におこなっており、祝い方法は本人の希望を取り入れている。3, 4, 5歳児の保育室はオープンスペースとなっているため、年齢を超えた交流がある。職員の感性を活かしたクラスコーナーの一層の充実を図りたいと思っているため、今後が期待される。		
③	園庭には大きな桜の木があり、シンボルとなっている。内階段の踊り場の壁は大きなガラスブロックとなっており十分な採光が得られ、踊り場のコーナーには小さなベンチがあり、人形などが飾られており、階段昇降時には小休憩となる環境が作られている。		

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 職員の紹介は、職員の顔写真を送迎時に保護者が通る外廊下に貼り出しており、保護者の目に留まるようにしている。デジカメ撮影された各クラスの子どもの様子はタイムリーに壁新聞にして貼り出している。
- ② 土曜日の運動会の実施など保護者が参加しやすい行事日程を組んでいて、保護者会には7割程度の保護者が参加しているが、参加できない保護者からは更に機会を増やしてほしい希望があるため、園としても保育参観などの機会を増やす努力をしている。保護者からのプレゼントとして人形劇の上演などを提供してもらっている。文集作成などに保護者の参加を企画している。
- ③ 登園・降園時における保護者以外の送迎は中学生以上とし、事前に保護者からの連絡により確認している。

評価項目6

虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている

6

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目6の講評(一つ以上)

①

虐待防止に関し、職員が研修会に参加し、その内容は報告して園全体で認識し、支援を行える体制をとっている。

②

子どもの変化や気になる点がみられた場合は速やかに確認を行い、保育課・家庭支援センターなど各関係機関と連絡をとり合っている。又経過観察を記録し、関わりの適切さについて振り返ることが出来る。日常での保護者とのコミュニケーションのなかで情報交換を行い、共通認識を得るようにしている。

③

評価項目7

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

7

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	地域の人々への情報の提供と、園の行事への参加の呼びかけなどは 掲示板にポスターを貼り呼びかけを行い、月に2~3回水曜日の10:00~11:30に園庭開放をし、地域の人との交流を図っている。職員も園庭開放などを通じ、地域の人たちとの触れ合いが自然にもてるようになったと自覚しており、保育相談もその中で適宜対応している。												
②	卒園生は小学校の一学期の間はよく遊びに来てくれ、子どもたちにとっては先輩とも交流が図れる環境にある。近くの児童館には日曜日に親子で訪問している家庭もある。就学への準備の一環として継続されることを希望する。												
③	年長児は、小学校の行事を見に行くことも多い。今後他園の園児との交流(年長のドッジボール大会など)や4,5歳児が近くの老人福祉施設での敬老の日の行事への招待に参加が検討されている。積極的な取り組みにより、世代間交流でお年寄りへの理解が深まるよう期待される。												
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 80%;">標準項目</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	地域の人が見ることの出来る掲示板に、行事への参加の呼びかけを行っている。園庭開放、身体測定、給食の紹介など、地域で子育てをする親への支援を行っており、リピーターがでてきている。園側としては更にどのような情報が求められているかを検証し、対応しようという姿勢が見られる。												
②	近くの児童館には年に一度保育士を講師として派遣して、乳児の保護者の相談に応じている。園のPRの機会でもあるため、効率的な活用が望まれる。												
③													

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	一人ひとりの子供の思いを大切にする保育
	内容	当園での生活が子供にとって楽しいものであり、子ども自身が出来ることは手を出さずに見守りや声かけなど、発達段階に応じた援助をすることで「生きる力の養成」に寄与したいと考えている。そのために、一人ひとりの思いに気づき、汲み取る努力を職員全員が共通認識として持っている。又、職員間での意見交換や情報の共有が密に行われ職員の質の向上についての意識付けが行われている。
2	タイトル	地域交流の良さ
	内容	園庭開放や行事への参加呼びかけで、地域住民との交流を図っており、地域の人たちとの触れ合いが自然にもてるようになったと職員も感じている。児童館に職員を派遣し、相談を通じて地域の子育て支援に一役買っている。
3	タイトル	昔ながらの良さを取り入れた保育
	内容	木のおもちゃの手触りやぬくもりを大事に思い、又、同じおもちゃでも発達段階に応じた遊び方ができるため、厳しい予算の中からも数多く用意したいと園長は思っている。給食も洋風のものが多くなっているため、和食の良さを伝えていきたい思いがある。3, 4, 5歳児の保育室がオープンスペースであるため、異年齢交流が日常的に行われ、年少者への思いやりが自然に行われている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の保護者への対応力の向上強化を
	内容	保護者のアンケートへの自由記述の中に、職員の言動についての不満、意見が散見している。職員も人間であり、感情があることを承知の上で、なぜこのようなことを言うのだろう、なぜ説明してくれないのか、と云うことである。特に、お迎え時に担任や職員と話が出来ないことや、感情の起伏がありすぎることを問題としている。CSを言葉で知るだけでなく、相手の期待に応える精神を常に持ち、明るい笑顔で、親の不安を取り除く十分な説明、会話を持つことである。そのためには、常に相手の気持ちを思いやることである。
2	タイトル	更なる啓発で能力向上を
	内容	子どものケガに職員が気づいていない、聞いても説明が無い、との声が複数ある。保育職員が、全員の子どもを100パーセント把握できないことは、十分に理解できる。しかし、個人の努力、自己啓発により、それに近づくことは出来る。職員は、保育のプロである。プロには、生涯学習が求められる。これまでの勉強以上に、研修の場を求め、自己研鑽に励むことが、今後の保育環境の変化に対応できる人材を作り上げることになる。
3	タイトル	園長・主査のマネジメント学習強化
	内容	園長・主査は、これまで保育園の運営管理者とあって良い立場に有った。民営化の流れはとどまる所を知らず、杉並区でも保育園の民営化がスケジュール化している。この園は現在該当しないが、今後、園長は経営者としての能力が求められる。民営化するしないに関わらずである。予算の効率的消化だけでなく、マネジメント能力を身に着けるための、自己啓発に取り組んで欲しい。経営の目的は、顧客満足、従業員満足である。

調査対象	杉並区立上高井戸保育園の園児の保護者世帯37世帯の保護者。	
調査方法	園を通じて、園児のお迎え時に保護者に調査票(アンケート)各担任から配布してもらい、保護者が記入後、登園時に園に提出してもらい、評価機関がこれを回収した。	
利用者総数(人)	40	
調査対象者数(人)	37	
有効回答数(人)	27	
回収率	73.0	

利用者調査全体のコメント

定員40名の杉並区立認可保育園で、園児数40名、その保護世帯数は37、回収率は73.0%となった。総合的な感想では、大変満足25.92%、満足40.74%、どちらかといえば満足25.92%で、満足率は92.59%と保護者の満足度は高い。ちなみに不満を示す回答はどちらかといえば不満5.66%、不満5.65%大変不満1.88%であり、不満を表明した保護者がは13.2%とになった。「はい」回答率が高かったのは下表に見られるごとく 問5、22、24が上げられる。いいえと回答があった問6の「保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(バラツキが少ない)ですか」は14.8%であった。

現在園では職員のばらつきがないよう職員会議の席で話したり、研修に参加するよう促し、研修報告もされているが、職員全体の取り組みにはなりきれていない。

利用者調査の回収率も高いとはいえない。職員1人ひとりの子どもの扱いに対する保護者の見方と、園長の思いとは多少ずれがあるようだ。保護者の複雑な思いを把握し、今まで以上に双方が真摯に向き合い、互いに理解をしていくことが必要と考える。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	17	63.0	9	33.3	1	3.7	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	21	77.8	6	22.2	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	19	70.4	8	29.6	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	21	77.8	6	22.2	0	0.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	25	92.6	2	7.4	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	13	48.1	10	37.0	4	14.8	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	17	63.0	7	25.9	2	7.4	1	3.7
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	19	70.4	7	25.9	1	3.7	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	18	66.7	6	22.2	2	7.4	1	3.7
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	19	70.4	6	22.2	0	0.0	2	7.4
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	18	66.7	6	22.2	0	0.0	3	11.1
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	20	74.1	7	25.9	0	0.0	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	19	70.4	6	22.2	1	3.7	1	3.7
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	17	63.0	9	33.3	0	0.0	1	3.7
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	20	74.1	7	25.9	0	0.0	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	21	77.8	5	18.5	0	0.0	1	3.7
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	18	66.7	6	22.2	2	7.4	1	3.7
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	17	63.0	10	37.0	0	0.0	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	16	59.3	10	37.0	0	0.0	1	3.7
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	20	74.1	6	22.2	1	3.7	0	0.0

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	19	70.4	7	25.9	1	3.7	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	18	94.7	1	5.3	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	12	57.1	6	28.6	1	4.8	2	9.5
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	25	92.6	2	7.4	0	0.0	0	0.0

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 園は京王井の頭線久我山駅から南へ徒歩12分の都営住宅の中にある。この園では14年度第三者評価を実施し、その評価を踏まえて改善に努め園長、職員そして利用者の同様な高い評価が現れている、まとまった園である。園の保育目標は「生きる力 大きな心を持った子ども」とし副題に 1. 自分を愛せることも 2. 友達を大切にできることも 3. 意欲のある子ども 4. 心もからだも元気な子ども とし職員室に掲示、各クラスから出された基本方針に年間指導計画を作成の上で、全体会議を開き、就任3年目の園長とベテラン主査が決定している。
- ② 園長は職員の能力向上を図るために、職員会議を開き、職員と密に交換し、主査はクラス担任をしながら職員をリードし率先垂範している。職員会議を重んじ、園長の抱負を年の初めに伝え、目標、指導計画を年度始めに職員に伝え共有化している。新人(異動転入者を含む)に対してオリエンテーションにて連絡、相談、報告の重要性について説いている。
- ③ 園長は重要な行事日程は、保護者の意向を聞いて決めている。機を逃さず、直ぐ話し合うと言う姿勢は園だより、事務所だよりに、また個別に文章で伝えられ、情報の伝達は比較的スムーズに行われていると認められる。

カテゴリ2

2

経営における社会的責任

サブカテゴリ1

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1

事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 福祉サービスとして守るべき規範は杉並区より配布された公務員倫理、全国保育士倫理綱領服务等の冊子をもとに管理され、情報セキュリティ研修会の参加で守秘義務を全うしている。地域の社会に還元すべく、園庭を毎日開放し、地域の子どもの遊び場になっていることを確認した。近隣の母親と子育ての話をしている。総合避難訓練(起震車の体験)、救急法などを地域の人々と行って、関わりあいを密にしている。
- ② ボランティアの受け入れについては、保育実習オリエンテーションのレジュメを使い、ボランティアの本人と確認、プライバシーの尊重を始めとする守秘義務について口頭で伝えている。中学生の体験学習、高校生の学習活動、社会人など幅広く受け入れていることが認められる。
- ③ 地域とのネットワークについては、児童館が事務局となりネットワーク、行政連絡会に園長や主査が出席し、共通の話題に取り組むために、行事には役割分担し、参加している。そして地域とのかかわりを各クラス担任も自然な形で受け入れ、地域で要請があれば区の保育課を通して緊急一時保育を行っている。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	
	評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(B)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者一人ひとりの意向は、福祉サービス苦情調整委員の案内ポスターを掲示し、保護者の意見用のポストを常時設置して、その都度良く聞いて、意見、要望に迅速に対応している。結果は翌日に答えている。運動会や子ども会のような大きな行事の後は、利用者アンケートなどにより意見収集に努めている。意見・要望・苦情は、総て職員会議の議題とするようにしている。
- ② 地域の福祉ニーズの収集は、児童館主催の地域懇談会への参加による情報収集が、主となっている。ここには、地域の小学校、PTA、地域住民、地域の青少年育成団体などが集まり、種々の情報を交換し合っているもので、1回2時間、年に4回ほど開催されている。参加した園長、主査はその内容を職員会議で発表し、情報の共有化に努めている。
- ③ 園の保育に関する情報の収集については、区の保育課作成の「保育サービスの新たな展開」の説明会に参加し、情報の収集を行い、全職員に報告している。地域福祉ニーズの情報整理・分析は行われていると言えず、今後の課題である。

カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
	サブカテゴリ1	
	実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
	<p>評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
<p>評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	計画の策定と実行面は区の中・長期の計画で制定は、区の「五つ星のサービスを目指す杉並区」の保育園版「子供・子育て行動計画」に基づき、園では組織目標、中・長期の指導計画が策定されている。その計画により、年・期・月の指導計画、係分担、組織目標を実施するための役割分担表を作成している。その視点は組織としてどう取り組むかという点で、各自で明文化し、会議にてかけ、現場の意向を取り入れている。
②	役割分担によって、具体的に進捗状況をつかむことが出来、昨年より計画が進んでいることを確認できる体制となっている。職員は分担表で完了したものについては、チェックを入れることにより、半期の反省、年間の反省することが出来るようになっている。これによって職員のモチベーションはかなり上がっているように見受けられる。
③	安全の確保については、安全パトロールを行い、学校110番、防犯マニュアルに基づき、職員の役割分担を決めている。保育課指導係から事故事例等が報告され、年度末には事故統計を提出し、話し合い、予防、再発防止に努めている。園独自に文書化され再発防止・予防の策定となっている。その結果、当園は子どもの事故、けがが非常に少ない。また、文書化された報告書は職員会議で報告し、共有化している。

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	事業所の人材構成については区が決め、職員の採用もまた区が行っている。採用された職員の役割分担については、担任を決め、採用職員と話し合い、自分の持っている力が発揮できる様に配慮している。研修一覧表を作成し、個人の資質に合った研修に参加するよう要請し、月の予定表に繰り入れ、周知し、研修に参加しやすい様な調整・配慮を行っている。研修終了後はレポートを提出し、全職員がこれを読み、報告を受け、話し合い研修成果を共有化している。
②	職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての取り組みについては、実施可能な範囲を明示した上で行わせており、日頃の気づきや工夫について、必要なとき会議の議題に載せ、暖かい雰囲気の中でお互いに話し合っている。この取り組みが重要であり、職員の意識の向上に必ず繋がるものと考えている。
③	職員のやる気については、園長と職員希望者は区の保育課において、ヒヤリングが実施されている。園長は常日頃職員に公平に、個別に、声をかけ、コミュニケーションを良好に保ちながら、保育の要として、職員のモチベーションを高めるよう配慮している。区の福利厚生制度など積極的活用を職員に勧めている。

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
7	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <input type="radio"/>非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している	
評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリの講評(一つ以上)	
①	園が持っている経営情報の保護・共有についてはパソコンのパスワード使用と管理を行っている。他には超過勤務手当ファイル、デジカメは情報リーダーのIDを使用し、情報の漏れが無き様、万全を期している。文書の管理もファイリングシステムで整理・保管し、施錠管理している。保存年限が経過したものは、速やかに区の回収車にて安全に処分している。
②	個人情報保護法の精神を踏まえての取り組みについては、区役所の情報公開係による指導に基づき、個人情報の取り扱いについて園独自で作っている。情報開示請求があれば区の公開規則に照らし合わせて通知することになっている。職員には会議の中で確認し、ボランティアには保育実習のオリエンテーションのレジュメに明記されているとおり、口頭でも確認している。
③	

カテゴリ8	
8 カテゴリ1～7に関する活動成果	
サブカテゴリ1	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
改善の成果	
<p>「リーダーシップと意思決定」については基本理念、園目標について全職員で話し合う機会を設け、共通理解を得るよう取り組んでいる。「経営における社会的責任」については園庭を毎日開放し、近隣の子ども、父母が訪れて、子育てについての相談がおこなわれている。保育の速報やクラスだよりを発行、ポスターにて地域に、その専門性を大きく伝えている。「計画の策定と着実な実行」は組織目標を職員自身のものにすべく、役割分担表の作成に積極的にかかわり、会議で議論の後は着実に実行されているかを、職員全員でチェックしその成果を確認し合い、前年より成果を得ることが出来た。</p>	
サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	
改善の成果	
<p>職員と組織の能力向上は、組織目標の実行に当たり、職員の役割分担を決めた結果、個々の役割を達成するため真剣に考え、自ら進んで研修に参加し、目標に挑む姿勢となった。それぞれの個性と力強い成果となって、前年を上回る成果となって表れ始めている。その事を誰よりも職員が認識しており、保護者の理解も出来たと評価する。</p>	
サブカテゴリ3	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	
改善の成果	
<p>情報保護については、今年度当初より個人情報保護法が施行され、個人情報の取り扱いが慎重になった。園ではe-ラーニング、情報公開の説明会に参加し、一定の成果を得ることが出来た。その上で、会議の中で問題点を話し合い、個人情報管理マニュアルを作成し、全職員に周知して情報管理が徹底されていると確認できる。</p>	

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+ ● A ○ B ○ C
改善の成果	
収入面に於いては保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し、運営費の増加は6%、職員費はダウンしているが全体的に区の自主財源で賄っているの向上していると考えられる。園では保育材料費など園が主体的に予算の統制できる部分がある。その管理において無駄を省き、消耗品費は意義ある支出を計り、前年度より子どもに良い教材(玩具)を購入することが出来た。何よりも節約の精神と物品に対する「もったいない」と言う心の醸成に繋がっていることは意義のあることである。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している ・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握」	○ A+ ● A ○ B ○ C
改善の成果	
利用者意向や地域・事業環境などの把握については、園は昨年度のアンケートを分析し、今年度の実施時の参考にしている。運動会に見物に来られた地域の観客や弁当持参で来られた保護者の食事の輪に保育士が加わり、食事を共にして交流することが出来た。保護者の評判も大変よく、その関わりが温かく迎えられ、意思疎通が豊かに実っている様を見るとき、これもまたよりよきサービスの提供と思われる。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	昭和36年11月に建設された都営住宅の1階にあるが、老朽化し、地震対策など不安は拭い切れない。このような環境で、園長は環境ISOに積極的に取り組んでおり、区の指導の下 ISO 14001を取得している。園が使用するあらゆる物品の再利用の可能性を求めて、考え行動している。顧客満足度(CS)を高めるべく利用者である保護者・園児に視線が向けられ、改善を行っていることを評価できる。
②	地域社会との連携を深めることによって、その地位は存在感をより深めたといえる。これまでの姿勢を堅持して、地域住民や保護者の意見にもっと耳を傾けながら、東京都、杉並区の方針を説明し、公立の保育園には制約があること、何よりも職員の園児への愛情を保護者にもっと伝える工夫と努力を期待する。
③	地域関係者及び機関との連携は保護者の新しいニーズの構築を図るためにも、今関係している区、警察、消防署など親密に行っているが、これまで以上の関係を維持し、保護者が安心して預けられる環境を地域ぐるみで作ることが可能である。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(A+)</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	
	園では、園庭開放のチラシを職員も散歩時に持参していき、地域の親子に配布したり、児童館に置かせてもらうなど、積極的に情報提供をしている。また、園をのぞいている親子にも声をかけて遊べることを伝えている。職員も笑顔での対応や優しい言葉で声かけができ、全職員が来園者の対応を出来るようになっている。	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	園の情報は、区の保育情報誌やホームページ、園が独自に作成したパンフレットには園案内用の「杉並区立上高井戸保育園」、園庭開放のお知らせ用の「園庭でいっしょにあそびませんか」「上高井戸保育園」がある。園案内用のパンフレットは、園独自の活動、基本理念、園目標、保育目標、園の概要、年間行事、遊具の種類、散歩コース、園独自の活動、園からのひとことなどが記載されている。これらのパンフレットは、色画用紙を使用したしっかりとしたもので、表や図、写真などを取り入れ、レイアウトも良く、見やすいものとなっている。	
②	ふれあい保育や「園庭でいっしょにあそびにきませんか」の内容では、園庭開放やふれあい保育のお誘い、園の目指す姿や園の環境、などが記載されている。園庭開放は地域の親子と園児、職員との交流により、子ども同士が一緒に遊んだり、保護者が育児や遊ばせ方、地域の人同士の交流などができる事業で、ふれあい保育は、食事も含む生活体験もある。どちらも月曜日から金曜日まで実施しており、園庭開放は10時～11時40分ごろまで、ふれあい保育は10時から13時まで実施している。このチラシには地図も入れ、太字で見やすく作成されている。	
③	園では、これらのチラシを職員も散歩時に持参していき、地域の親子に配布したり、児童館に置かせてもらうなど、積極的に情報提供をしている。また、園をのぞいている親子にも声をかけて遊べることを伝えている。児童館への情報提供の成果で乳児グループが来園している。入園検討中の保護者や見学者にも希望する時間帯を聞き、見学者の都合のよい時間を設定している。来園者の子育てに関する相談にも応じている。職員も笑顔での対応や優しい言葉で声かけができ、全職員が来園者の対応できる仕組みがある。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園前には園内を案内し、保護者からの質問を受けて子育てに関する情報提供やアドバイスをしている。また、入園説明会では園のご飯を食べてもらうようにしており、子どもに適切な食事の味付けや形状、量などもみてもらっている。園では、保護者には入園前に、子どもの園の生活がイメージしやすいように話したり実体験してもらうことに努めている。更に、面接時には、健康診査のほか、生活状況や心身の健康状態、喫食の状況やアレルギーについての話をし、園の生活がなじみ易いような情報交換をしている。園長や栄養士、看護師と個別に面談している。
②	入園が決定した人には、入園説明会で「入園のしおり」を用いて、園の理念や方針、園の保育目標と年の指導計画、月の指導計画や行事についての話をしている。また、入園後の子ども達の生活についての話や、健康管理、アレルギーや与薬に関する事など登園に関する留意点について具体的に説明している。プライバシー保護については、個人情報保護について、園の取り組み姿勢を話し、同意を得るようにしている。入園説明会の際には、保護者が話を聞きやすいよう、子どもは各クラスで遊べるように職員が配慮している。
③	園では子どもが園の生活になじみやすくなるための工夫として、1対1の関係を大切に、子ども一人ひとりの気持ちにそった対応に努めたり、子どもが親しんでいるものを持ってきてもらっている。園の生活においては、離乳食の完了状況に応じた食事の対応や睡眠時間、生活のリズムなども個々に応じた対応をしている。当園は1歳児から5歳児が対象園であるため、入園前に他園に入園していた経験を持つ子どもも少なくない。そのため、なじむための保育日数も個別で対応しており、通常3～5日の実施で1日保育となっている。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点(A)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】			○あり ●なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 職員は、入園前に保護者から確認した情報や入園後の子どもの様子、保護者との会話や連絡帳などによる連絡から子どもの心身の健康状態や個性、遊びの様子、喫食状況など様々な発達過程などを日々の日誌や児童票、発達経過記録などに記載し、子どもがより発達するための課題を設定している。その課題は、年齢ごとと乳児やアレルギー児、心身の健康に配慮が必要と思われる子ども一人ひとりに対する設定としている。園では、子ども達の生活、遊び、健康状態、発達状況などに関する内容や保護者の意向や要望なども記載している。
- ② 保育計画には園の理念に基づく園の保育目標を各年齢ごとに作成されている。指導計画には行事なども盛り込まれた年間指導計画、月ごとの指導計画、週の指導計画などが作成されている。これらの計画は子どもの様子に応じて立案され、保護者からの意向や要望が寄せられた場合には、園で話し合いをし、必要に応じて変更したり、修正したりして子ども達への支援の計画としている。子ども達への支援内容はクラスだけで知らせている。職員は、保育に対しての反省を毎月、半年、年度末に行い、年齢ごと、乳児・幼児ごと、全体の各会議で見直しをしている。
- ③ 職員は、全園児の情報を保護者などから受けたり、職員同士で話し合いをした内容を日々の申し送りや朝夕保育ノート、電話ノートなど様々な記録に書留めたり、全クラスに月の指導計画などを配布し、職員全員が子どもの支援に関する認識を深めながら情報の共有化を図っている。園では保護者の意向や要望も大切にするように努めているが、保護者の中に職員の対応や価値観とのずれを感じている人も存在する。今後は保護者との話し合いを今以上に深め、子どもにとって「今、何が、どのように必要か」などの共通認識が更に深まる取り組みを期待したい。

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			評点(A)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】			○あり ●なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 子どものプライバシーを守るために、子どもの発達や心身の変化、虐待などの恐れがある際にも、緊急を要する時以外には、必ず保護者の同意を得るようにし、他機関から、子どもの情報提供を求められても、応じないという姿勢を持っている。子どもの羞恥心に対しても、排泄に関する配慮と大人がして欲しくないことは子どももして欲しくないことと考えて行動することとしている。職員は保育士や専門職としての倫理規範を持つ公務員であるため、法や公務員規程、区の職務規程に基づき、適切な支援をするように定められている。
- ② 子ども達自身が主体性を持ち、責任を持って一つの事に取り組めるよう、当番活動を実施している。当番は、その日の各クラスの子どもの数を園長らに報告したり、乳児クラスの午睡時に乳児の入眠のための手伝い、食事の配膳や挨拶などの当番、布団敷きなどがある。子ども達は一生懸命、自分の役割を遂行し、できたことを認めてもらえたときにはうれしそうにしていた。対応する職員の態度や姿勢、何気ない一挙手一投足を見て、子ども達は学んでいることを再認識した支援に今後も努められた。
- ③ 園目標には、「生きる力、大きな心を持ったこども」を設定し、サブテーマには「自分を愛せるこども、友達を大切にできるこども、意欲のあるこども、心もからだも元気なこども」を上げている。これは職員が、「子ども自身が自分を大切に、他者の気持ちへの理解や配慮などの思いやりの気持ちを持つように職員が働きかけ、心身の健康が保持・促進され、子ども自身の主体性や知・情・意が育つように支援していきたい」という意味でもある。職員自身が設定した目標を全職員が心を合わせて実践され、保護者とともに子育ての実践に努められた。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映させている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 園では、調理や用務に関するマニュアルを園独自で作成し、職務に反映させ、子ども達が安全に、より健康にすごせるような取り組みをしている。また、保育に関する事柄は前年度の反省をもとに、毎年、子ども達の状態に応じた内容にするため、職員会議で検討の上で計画され、実施されている。日常的な危機管理や健康管理、アレルギーなどについては、区で作成したマニュアルを元に日々の保育に努めている。保護者の意見や要望などが寄せられた際には、職務や行事、保育内容、接遇などについて見直す準備があり、話し合いをする機会も多く持っている。
- ② 職員は、様々な研修に参加して、より良い保育が提供できるように学びを深めている。そのため、子ども達の感性が豊かになる遊びについて、様々な検討をし、多くのおもちゃの購入や廃材を利用したおもちゃの制作、自然を生かした遊びなど様々なものを用意し、見守っている。園では、特に安全面に関する配慮に留意し、職員同士で見直しをしたり、声を掛け合うようにしている。衛生面や環境整備に配慮していると思われるが、常に「子どもにとっての良好な環境(人的、物的、社会的)とは何か」について話し合われ、更なる環境づくりに努められたい。
- ③ 園では、保護者が何かを言うと誰が言ったかわかる可能性が高いため、即座に解決しているとしている。顔が見えるがために言えないことがないかを保護者からの意見や要望が寄せられたときだけでなく、誰もが話しやすい環境を築くことも重要な課題として園ではとらえている。今後は保護者にも当事者団体としての活動が生まれると、職員とは異なる視点で、園の運営やより良い園にするための標準化が図られると思われる。保護者の声が更に反映される取り組みに期待したい。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	職員は一人ひとりの遊びの状態や園での生活状況、保護者からの連絡や個人面談などから発達の状態や成長の様子を把握したり、子どもの成長に必要な刺激や支援、経験などを総合的に判断するために、日々の日誌に書きながら確認し、児童票や発達経過記録などに記載し、以前の状態との相違点について客観的に確認している。確認した内容は、指導計画や様々な遊び、経験に反映され、子どもが更に成長するような取り組みとなるように努めている。職員は、常に子ども一人ひとりの今の力や発達段階を把握した上での支援をしている。		
②	当園は杉並一といわれる桜の木があり、花びらやさくらんぼ、落ち葉などで日々遊んだり、園庭の中央部に育成されている芝生の上で、気候の良い時には走り回ったり転げまわったりして遊ぶことができる環境にある。この環境の中でのんびりと外遊びを楽しむほか、兵庫橋公園や宮下橋公園、木の公園、NHKグランドなどに出かけて全身を思いっきり動かして遊ぶことをしている。朝の自由保育には、将棋崩しやオセロ、カルタ、トランプ、積み木、ままごと、イラストや模様の色塗り分け、ミニカーなど様々な遊びに集中して楽しんでいる姿が見受けられた。		
③	園では、文化の異なる生活習慣や経験を持つ子ども達を受け入れる際の配慮について様々な検討をしていたが、外国語の堪能な保護者の協力を得られたり、子どもも園になじむにつれて日本語が判るようになってきたりと、自然な形で交流が始まっている。また、当園は障害児や心身の発達面において気になる子ども、個別の配慮が必要な子どもへの対応として、発達センターから巡回相談や指導に訪れた職員にその様子を見てもらっている。支援を要すると思われる子どもには個別に職員をつけたり支援する配慮をしている。		

評価項目2

栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している

2

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
○あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	●非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2の講評(一つ以上)

- ① 食事の提供は、子ども一人ひとりの健康状態や食欲、咀嚼などの状態に応じて対応しており、子どもが食べやすい形状や量にしている。子ども一人一人には食べられる量も嗜好も異なることを配慮し、朝の時点で子どもの体調に変化があれば、ご飯を軟らかくしたり、油物でないものに替えるなどの対応をしている。食事前には自己申告制で量の加減をしている。乳児の食事は離乳食が完了していない子どもには、幼児食を軟らかくしたり、刻むなどの工夫をして提供している。アレルギー児に対しては除去食を基本とし、場合によっては代替食材を使用している。
- ② 園ではコップやスプーン、フォーク、箸などの食具が上手に使用できず、食べこぼしが多かったり、食器をうまく扱えない子どもには、家での様子を保護者から確認し、発達段階を確認後、支援の必要な段階の指導をすることで、子ども自身が上手に食事できるように練習する機会を持つようにしている。また、椅子に正しい姿勢で座った時に足底部が床に届かない子どもには、足台としてお風呂マットを加工して作った足台を使用するなど、姿勢を正して食べるようにしている。子ども達は良い姿勢で食事をしている。
- ③ 保護者からの子どもの食に関する相談が寄せられた場合には職員や園長、主査が対応しており、職員に判断が付けにくい専門的な知識に関する相談があれば、園医や協力園の栄養士、看護師に連絡したり、助言をもらうようにしている。アレルギーを持つ子どもへの対応としては次月の献立について保護者、担任、園長、調理士がいっしょに話し合い、代替可能かどうかの確認をしたり、代替ができないメニューであれば持参してもらうことを決めている。

評価項目3
子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている

3

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	○非該当
●あり ○なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
●あり ○なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3の講評(一つ以上)

- ① 子どもの健康状態の把握は、職員による朝の視診、乳児は検温による確認と、保護者からの連絡や連絡帳などにより確認している。子どもの健康状態は年2回の園医による健康診断と、ギョウ虫卵健査、歯科健診、耳鼻科健診、眼科健診があり、その際には、保護者からの質問も受け付けている。医師の診断や意見は看護師が受け取り、担任や保護者に伝達する仕組みとしている。アレルギー児や心身の疾患により常時、服薬や薬の塗布の必要な子どもには、区の規程どおりの内容で、職員や主査、園長が看護師の指導や区のマニュアルに従い、対応している。
- ② 園では、乳幼児突然死症候群の防止のために2歳になるまで15分おきに午睡チェックを行っており、その状態を毎日、記録として残している。感染症が流行した場合やその兆候が見られる時期には、保健だよりで知らせたり、早急に貼り紙を作成し、保護者が目にしやすい位置に掲示したり、お知らせを文書にして保護者に渡すなどの配慮をしている。園では、38度以上の発熱と嘔吐や下痢、体力の低下など著しい変化があった場合に保護者に連絡するようにしている。
- ③ 当園は、日々の健康管理にはすぐに相談し、支援が得られる看護師の応援体制があり、マニュアルも整備されている。職員もベテランであるため、問題は生じないと思われるが、保護者の中には「薬のことが伝えにくい」との声もある。子どもの健康管理を適切に行うためには、保護者の考え方や子どもへの健康管理における話し合いを更に密にした対応を図りたい。また、日々の子どもの健康管理(疾患や障害を持つ子どもも含めて)においては、専門職としての学びを深め、より適切な対応や管理ができるよう更に努められたい。

評価項目4

園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている

4

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	○非該当
●あり ○なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	○非該当
●あり ○なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4の講評(一つ以上)

- ① 子ども達が園の生活を楽しむための機会として進級お祝い会、全体交流会、夏祭り、おじいちゃん・おばあちゃんとあそぼう会、運動会、幼児の遠足、お店屋さんごっこ、新年子ども会、乳児交流会、幼児子ども会、幼児交流会、お別れ遠足などがある。誕生会の時には子ども一人ひとりの誕生日に誕生会を実施し、誕生児の写真を貼った誕生カードを渡すなどして、皆で祝っている。子ども達は、おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぼう会や、新年子ども会でおぼえたこま回しや周り将棋、将棋崩し、オセロ、カルタなどの遊びも日々の遊びとして楽しんでいる。
- ② 園では、子ども達が遊びやすい部屋づくりに心がけ、遊びごとのコーナーを設定するように努めている。乳児の部屋は、食事の部屋やテーブルを使用して遊ぶコーナー、ままごとを楽しむコーナー、遊具などを使用して遊べるコーナーなどがあり、おむつ交換の場所も設定されている。他のクラスも今年度の目標として、のんびり遊べるコーナーやおもちゃの見直し、季節感あるきれいな保育室にして気持ちよく落ちつける空間にするなどの取り組みを計画し、少しずつコーナー設定を開始し始めている。
- ③ 午睡時の取り組みとしては、子ども一人ひとりが安定した気持ちで休めるように敷く位置を定めたり、子どもの生活リズムや睡眠状態において一人ずつの配慮をするようにしている。園では、食事する場所と布団を敷く場所を分けている。寝食分離の取り組みは良いことだと思われるが、今後は更衣する場所や午睡時間等への更なる配慮を望みたい。

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

保護者の参加できない行事は、職員がデジタルカメラで撮影し、カミタカ・スナップとして、掲示したり、クラスだよりに掲載して保護者に子ども達の様子を紹介している。

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 当園には園内の活動を支援してくれる保護者や近隣住民がおり、子ども達の生活が豊かなものになるような取り組みとなっている。その例として、夏祭りがある。園では、夏祭りの企画について保護者に声をかけたところ、お化け屋敷を年長児の保護者が協力し合って開いてくれ、音楽家の保護者がコンサートを開演してくれたり、子ども達も様々な体験することができ、保護者とともに楽しい夏の夜を過ごすことができています。夏祭りは平日の夕方16時から18時過ぎまで実施された。
- ② 園では、子どもの様子をいつでも見てもらえるように、申し出があれば参観自由としている。また、月々の行事や子ども達の遊びの様子は園だよりやクラスだよりに掲載されている。また、保護者が参加できない行事の際には、子ども達の様子がわかりやすいように、デジタルカメラで撮影している。その写真を「カミタカ・スナップ」という速報を出し、園内に掲示したり、クラスだよりに掲載して紹介している。
- ③ 保護者の事情で降園時の迎えができない場合にも、保護者からの連絡があり、その人の名前や特徴を覚えてもらい職員が確認後、子どもが確認をした上で引渡しをするようにしている。また、園では保護者の仕事が忙しかったり、送迎時間が遅くなる際には連絡を頂くことで、登園時間や降園時間の変更があってもその事情を受け入れるようにしている。保護者の中には、交通事情や急な残業で降園時の迎えが若干、遅くなった場合の「対応が厳しい」という感じている声も聞かれている。職員、保護者との話し合いを会以上に密にされ、更なる対応を検討されたい。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握した際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】		○あり ●なし	

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 職員は、虐待防止や育児困難家庭の支援に関する区や保健センターなどの研修を受けている。研修を受けた職員は申し送りや職員会議で報告したり、研修で提供された資料や職員が書いた研修報告書を園内で回覧することで、情報の共有化に努めている。また、園内で気になる子どもが見られたり、職員の経験した事例がある場合には、皆で話し合って学ぶなどの取り組みをしている。
- ② 園では、支援が必要と思われた場合には、職員間で確認し合ったり、会議などを開催してその対応について話し合いをしている。虐待を受けていると思われる子どもや育児のストレスや不安が強く、適切な子育てができていないと思える子どもを発見した場合には、担任や園長らが個人面談などをして、保護者の気持ちを受け止めるように努めている。また、その支援策として、区で設定している虐待防止マニュアルに従い、区や保健センター、児童相談所と連携をとる体制を整えている。
- ③ 子育ての不安やストレスの原因ともなりうる子どもの発達の遅滞や育児の仕方がわからない保護者に対しては、保護者会の分科会で話し合ったり、育児についての意見交換会をもつようにするなどして、先輩の保護者が自分の経験談を話したり、職員が保護者の状況を理解しながらアドバイスすることで、不安やストレスの解消が図られることもある。継続的に個別の対応が必要な場合には、関連する専門機関と連携し、支援方法について学習したり、園内で検討して対応するような仕組みを持っている。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	園では久我山東保育園や高井戸保育園、久我山保育園の年長児同士の交流、たんぼぼ園との交流、児童館に来ている乳児グループ、富士見丘小学校や久我山盲学校、富士見丘中学校の子ども達と同年代や年齢の異なる子どもとの交流を持ち、子どもが地域の小学校に就学後も、安心して楽しく様々な人と交流しながら暮らせるような係わり合いを持っている。園には保育専門学校の実習生のほか、中学生、高校生の職場体験や教職員のボランティアが訪れ、生活の幅が広がる交流をしている。												
②	地域の住民より、ジャガイモ掘りに招待されたり、園舎のある都営住宅在住の高齢者に声をかけ、合同の避難訓練を行ったり、おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぼう会で、地域の高齢者と一緒に昔ながらの遊びをしたり、高齢者の一人から得意な手品を披露してもらうなど、高齢者や地域の人とのふれあいの機会を持つことができている。子ども達は地域の子どものもととして育ち始めている。												
③	園では、児童館、富士見丘小学校、富士見丘中学校、宮前図書館、保健センターなどから配布されたポスターを掲示したり、区や都のお知らせなどを配布したり、見やすい場所に掲示するなど情報提供をしている。園の情報として、ふれあい保育や緊急一時保育も実施していることを伝えている。												
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 65%;">標準項目</th> <th style="width: 20%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	園では、園の子育て機能を更に拡大するために、ふれあい保育を受け入れたり、月曜日から金曜日まで、「いつでも来てください」の姿勢で園庭開放を行いながら、地域の親子の子育て相談に応じるなど、自然な形で地域への子育て支援を行っている。また、緊急一時保育を実施して、地域の要望に応えたりしている。ふれあい保育などの後には、簡単なアンケートを実施し、来園者の利用しやすさを検討したり、今後の支援方法の検討課題にするなどの取り組みを行っている。												
②	園では、杉並一の桜の木の保存や園庭の芝生を育成することにより、自然を大切に育てたり、緊急一時保育の必要な子どもの連絡を受けた時に区に連絡、協議した上で、緊急一時保育を実施している。園では、地域の課題を当園の課題として受け止め、区に働きかける取り組みをしている。												
③													

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	桜の木の見守る中で元気に遊ぶ子ども達
	内容	子ども達は、園庭にある杉並一といわれる桜の木の花びらやさくらんぼ、落ち葉などで日々遊んだり、園庭の中央部に育成されている芝生の上で、気候の良い時には元気に走り回ったり転げまわったりする時間と、寝転んで空を眺めるのんびりとゆったりとした時間を過ごしている。また、都内では数少なくなった築山で泥んこ遊びをしたり、石ころで遊ぶなど、毎日を楽しく過ごしている。園内には、季節の草花も植えられており、せみやトンボ、チョウチョも遊びに来ている。子ども達はそれぞれが好きな遊びを満喫し、豊かな心をはぐくんでいる。
2	タイトル	様々な人との交流を楽しみながら幅広い視野を育てている子ども達
	内容	園では近隣の保育園や小学校、たんぽぽ園や盲学校の子どもの交流、児童館に来ている乳児グループの親子、実習生や職場体験の中高生との関わり、教職員のボランティアと交流しながら、様々な遊びを教えあって楽しんだり、障害に配慮した関わり方を学んでいる。また、地域住民からジャガイモ掘りに招待されたり、近隣の高齢者と、おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぼう会で、一緒に昔ながらの遊びをしたり、高齢者の一人から得意な手品を見せてもらったりしている。子ども達は様々な人との交流から幅広い視野を持つことができる環境にある。
3	タイトル	「生きる力、大きな心を持った子ども」を育てる職員
	内容	園目標である「生きる力、大きな心を持った子ども」には、サブテーマがあり「自分を愛せる子ども、友達を大切にできる子ども、意欲のある子ども、心もからだも元気な子ども」としている。この目標に向けての取り組みは、職員自身が、子どもの心身の健康が保持・促進され、健全な発育を遂げ、子ども自身の主体性や「知・情・意」を育てる保育をするということである。この目標の結果はすぐには出ないかもしれないが、職員全員が心を合わせて実践され、保護者とともに子どもの生きる力、大きな心を育てている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育の環境整備
	内容	小規模保育園を有効な保育の場とするために園長、主査は研究し、対応しているが、その成果が今一利用者の目には物足りないものとして映っている。「落ち着いた環境作りをしたい」との園長の願望を実現するためにも、緑豊かな園庭の植栽、季節ごとの草花の栽培、食材を兼ねた野菜の栽培、清潔な砂場の管理など、さらなる環境整備に力を注いでほしい。地域社会の核となるよう全職員に強固なる連帯を期待する。
2	タイトル	地域社会との連携
	内容	園庭を毎日開放し、地域の子育て支援に力を注いでいるが、その広報、PRに違う視点からスポットを当てて、時流にあった、話題性に富んだ仕掛けを行うことが必要と考える。いずれにしても地域住民や保護者の絶対的な賛同、協力が必要であり、こちらからの投げかけがあってはじめて、意見が出てくることも認識する必要がある。それを協議し、意見交換の上、実現されることを強く望むものである。
3	タイトル	組織とモチベーション
	内容	園では、保育目標を達成するために、役割分担表を作成し、職員の理解とモチベーションの高まりに繋がっていると思われるが、この高まりを維持、継続させるために、チェックさせるだけでなく、相当の評価が必要である。区営という制約の中で、信賞必罰がどこまで出来るか疑問であるが、子どもの保育に当たっている保育士の日頃の接し方を、園の管理者は職員にも適用することで向上は確実に出来る。

調査対象	杉並区立高井戸保育園の園児の保護者世帯77世帯の保護者。	
調査方法	園を通じて、園児のお迎え時に保護者に調査票(アンケート)各担任から配布してもらい、保護者が記入後、登園時に園に提出してもらい、評価機関がこれを回収した。	
利用者総数(人)	87	
調査対象者数(人)	77	
有効回答数(人)	53	
回収率	68.8	

利用者調査全体のコメント

定員87名の杉並区立認可保育園で、園児数87名、その保護世帯数は77、回収は53、回収率は68.8%となった。総合的な感想では、大変満足24.52%、満足33.96%、どちらかといえば満足24.52%で、満足率は83.01%と保護者の満足度は高い。ちなみに不満を示す回答はどちらかといえば不満5.66%、不満5.65%大変不満1.88%であり、不満を表明した保護者が13.20%となった。「はい」回答率が高かったのは下表に見られるごとく問2、3、5、22が上げられる。8割を超えた満足項目が3つということに問題を感じる。問6の「保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(バラツキが少ない)ですか」20.8%であった。現在園では職員のばらつきがないよう職員会議や研修にて教育している。その様子が掲示板、職員室、園だよりなどに掲示、掲載されていることを確認。回収率は高いが、職員の子どもの扱いに対する保護者の見方はかなり複雑な思いが示されており、今後、真摯に双方が向き合わなければならないことであり、互いに理解が必要と考える。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	42	79.2	8	15.1	3	5.7	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	48	90.6	5	9.4	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	44	83.0	7	13.2	2	3.8	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	41	77.4	9	17.0	3	5.7	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	44	83.0	7	13.2	2	3.8	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	25	47.2	17	32.1	11	20.8	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	41	77.4	10	18.9	2	3.8	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	37	69.8	14	26.4	1	1.9	1	1.9
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	39	73.6	10	18.9	3	5.7	1	1.9
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	42	79.2	9	17.0	1	1.9	1	1.9
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	33	62.3	13	24.5	6	11.3	1	1.9
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	40	75.5	10	18.9	3	5.7	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	37	69.8	6	11.3	8	15.1	2	3.8
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	30	56.6	16	30.2	6	11.3	1	1.9
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	28	52.8	16	30.2	9	17.0	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	42	79.2	11	20.8	0	0.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	41	77.4	10	18.9	1	1.9	1	1.9
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	39	73.6	12	22.6	1	1.9	1	1.9
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	32	60.4	12	22.6	8	15.1	1	1.9
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	26	49.1	16	30.2	10	18.9	1	1.9

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	32	60.4	15	28.3	3	5.7	3	5.7
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	29	87.9	4	12.1	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	21	63.6	7	21.2	5	15.2	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	29	54.7	17	32.1	5	9.4	2	3.8

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <div style="text-align: right;">評点(A+)</div>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
職員ハンドブックを制作し、職員には常にこれを携帯させ、基本方針など徹底した職員教育を行い、問題遭遇に対応している。		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(A)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 井の頭線高井戸駅から2分という至近な距離に園はあり、玄関には基本方針が掲示されており、保護者、区民が直ぐに確認できる。入園時に「保育園のしおり」と「入園にあたって」を配布、その中に保育方針と保育目標を明示している。毎年4月には利用者全体会議にて園長より説明している。公設公営から公設民営に移管、運営2年目での苦勞が漸く突ってきたようである。
- ② 職員ハンドブックに保育方針、保育目標、職務基準を記載し、会議に利用し職員教育に有効に使っている。マニュアル集(感染症、危機管理、保健衛生、給食衛生管理、アレルギー食対応、職務、人事考課基準、個人情報保護に関する文書など19のマニュアル)を作り持っていて、会議や地域の交流会において活用されている。
- ③ 重要な案件は、園規則に規定された通り、先ず幹部会で行われ、続いてリーダー会、乳幼児会議、そして職員会議の順で行うことが決定しており、会議に参加できなかった職員は記録を必ず読み、会議の内容を知らせ、職員のばらつきのない様に教育していることがわかる。また、園だより、クラスだより、保健だより、行事ごとの取り組み内容のお知らせなどを通じて利用者に通知している。

カテゴリ2									
2	経営における社会的責任								
	サブカテゴリ1								
	社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる								
	評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 65%;">標準項目</th> <th style="width: 20%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当	●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
評価	標準項目								
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当							
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当							
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし									
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A+)									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 65%;">標準項目</th> <th style="width: 20%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当	●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
評価	標準項目								
●あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当							
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当							
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし									
高井戸保育園のホームページは詳細に渡り、園の内容には保育方針、保育目標、情報公開の原則、児童虐待防止法の順守、基本的な配慮のほか、特に保育上心がけていくこと、食事について、保育参加・参観について、保健について、健康カードについて、保育園での与薬について、嘱託医について、保育園の一日を紹介、説明している。財務の内容も公開されており極めて透明性の高い経営がなされている。									

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 園の地域性やその地域に専門性を還元する目的において、その取り組みは、「ふれあい保育」を実施、育児相談に応じ、地域ネットワークに参加し、その一角を担当している。地域の児童館に行事参加し、インターシップなどの高校生の受け入れを行っている。保育の専門家の集団である保育園の存在価値を、地域に知らしめ、保護者以外の保育相談を受け入れているが、専門家としての保育士ら職員の講師としての地域派遣等は実行されていないのが現状であり、積極的な取り組みが求められる。
- ② ボランティアの受け入れについては、担当者を配置し、手引書の作成がなされている。ボランティア希望者には、面接時に口頭で、プライバシーの尊重を始めとする守秘義務について、オリエンテーション時に伝えている。
- ③ 地域とのネットワークについては、地域教育連絡会、園長会、保育部会に園長や主査が出席し、共通の話題に取り組むために、行事には役割分担し、参加している。そして地域との関りを各クラス担任も自然な形で受け入れ、地域で要請があれば緊急一時保育を行っている。またそのための「緊急一時保育実施要綱」や「ふれあい保育要綱」も整備されている。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		評点(A+)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし ホームページや意見箱から意見、要望、苦情が寄せられた場合は3日以内に回答を掲示し、他には見られない取り組みを行っている。		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		評点(A+)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし 保護者が参加しやすいように全体保護者会を同じ内容で平日の夕方と土曜日の午後2回行って、保護者は出られる方を選択している。これによって苦情が激減している。この取り組みもまた評価できる。		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 苦情については理解が得られるまで保護者と話し合いを持っていて、丁寧に対応しているがまだ課題は大きい。苦情が減ってきている現実が努力の現われと認めるがなお一層の努力が必要である。保護者会ではアンケートを取り、問題や困っていること、疑問に思うことを聞き出し、問題の把握に努めてはいる。問題の抽出だけでなく、いかに保護者に努力していることを示し、理解してもらうことも必要である。
- ② 玄関先には意見・アンケートの提案箱のポストがあり、投函された苦情は苦情解決委員会で話し合われ、その結果は三日以内に玄関先の掲示板で自由閲覧できるようになっている。玄関先掲示の情報が多すぎ、もう少し情報の集中・ポイントを明確にさせるべきと考える。
- ③ 地域子育てネットワーク、地域教育連絡協議会に参加し、保育園が求められている情報の収集に勤め、園長会や公文書及び東社協、全国私立保育園連盟、東京私立保育園連盟の通知などにより情報収集している。収集した文書整理は行われているがより深い分析を行う必要がある。

カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
	サブカテゴリ1	
	実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
	評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(A+)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
本部の社会福祉法人 東京家庭学校本部(上水保育園)で策定したNQ計画(ナーサリークオリティープラン)に基づき、保育の品質管理、運営を行っている。このプランは上水保育園が考える保育(保育園)の質に関する方針及び長期計画を示したもので、1. 保育士の知識と技術及び総合的人事考課と研修 2. インフラ(環境) 3. 運営者層の経営方針 4. 保護者との連携 5. 保育計画 の5つの項目が詳細に定義され、この取り組みを前向きに進めていくことが保育(保育園)の質を向上させていく方策であるとしている。		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	保育計画は、NQ計画は母体である社会福祉法人 東京家庭学校本部が策定したもので、保育(保育園)の質に関する方針及び長期計画を定めたものに基づき設定されており、当法人のホームページに平成16年度事業報告、17年度事業計画の中に詳細に記載されている。これらの情報は職員のみならず保護者との共有を図る有効な情報である。
②	計画におけるリスクは利用者へのリスクが少ないように配慮されているが、その運用は園規則に明示され、職員の仕事は手順マニュアルに従って行われている。短期集中とならないよう配慮されている。企画推進の方法は役割分担表に基づき作成・配布を行い、系列園および他園で経験した事例等を参考にして、保育計画を明確にしている。月の指導計画、前期の反省を踏まえて後期への事業計画策定となる。
③	安全の確保、向上については、危機管理マニュアルが(職員ハンドブック)で示されており、園児の安全を図るための避難訓練、防犯訓練(消防署、警察から係員を派遣していただいた)火災訓練、交通安全指導を受けている。その打ち合わせで再発防止、予防対策の話し合いを行っている。その報告書の作成、全体、クラス会での打ち合わせで確認、または口頭で伝えている。

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

新入職員の月報提出 一人一人の日頃の気づきや実践を文書にして提出してもらい、リーダー、主査がコメントし指導している。

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	人事考課基準を平成13年3月制定し、人事評価を行っている。研修は新人研修、リーダー研修、3園合同研修、外部研修が行われている。職員の採用は論文、筆記試験、面接の総合点で採用されている。ホームページ、学校、織り込みチラシ7万～10万枚を配布募集を行っている。職員の人事に対する理解が足りないと思われる
②	研修は内部研修と外部研修があり、研修に当たり職員全員面接を行い、保育のどこを勉強したいかなど希望を聞き行っている。現時点では新人研修とリーダー研修を行っている。面談にて目標設定し、それを踏まえて主査が指導している。職員の配置は個人の意識調査を行い、主査の配置案のもとに本部が行う。職員は土・日曜の研修にも積極的に参加しており、外部研修は今年既に40回にいたり、延べ87人が参加している。ちなみに研修予算は年間50万円である。
③	職員は担任するクラスの責任を持ちクラス会議を主導するが、主査の判断を仰ぐことも可能となっている。その他リーダー会議、職員会議など意見交換が活発に行われている。研修成果はレポートを提出し、職員室掲示板や園だよりに掲示されている。職員の人材マネジメントは人事考課表によって70項目5段階評価にて行われ、園長、主査、本人にて行っている。考課後はモチベーションを上げることを目的として再度面接を行い、判定を把握させ向上を図る動機付けに利用し、民主的に運用されている。

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
7	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している
	○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している
	○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している	
評点(A+)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している
	○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している
	○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	
高井戸保育園個人情報保護規則を制定し、明示している。	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園が蓄積している経営に関する情報は、文書における管理は整理整頓され、施錠できるは書類棚に収納され、園長または主査の許可の下、記入のための持ち出し、閲覧ができるようになっている。パソコンの取り扱いにおいても機密性のあるものは、パスワードで保護されている。パソコン情報は直ぐ活用でき、閲覧できる。又使い易いように更新されている。
②	「個人情報保護法」の趣旨に添って、個人情報の利用目的については、高井戸保育園個人情報保護規則、高井戸保育園情報公開要綱、個人情報保護規則を制定し、その配布を行い徹底化を図った。事務所保管庫の施錠管理を行っている。最近対応をより強く求められる問題であり、より一層の充実を図り、地域、保護者の信頼を得ようと懸命に努力している様子が伺えた。
③	

カテゴリ8	
8 カテゴリ1～7に関する活動成果	
サブカテゴリ1	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
改善の成果	
<p>リーダーシップと意思決定については公設民営の2年目であり、保護者との関係において前年と比べリーダーシップを発揮することが出来、意思決定の成果も上がった。「経営における社会的責任」については地域社会とのコミュニケーションにおいて重要な働きを増やすことが出来、「計画の策定と着実な実行」も職員、利用者に支えられて計画は実行され、確実に改善されている。その証として苦情の投書が激減している。</p>	
サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」 	
改善の成果	
<p>「職員と組織の能力向上」については経営層と職員の連携によって、園の発展の力になっており、職員は自発的に研修に参加し、互いに研鑽した。利用者の苦情が激減し、信頼に変化するように見える。職員の自発的研修参加は保育福祉の原点を知りたいと思う個々の技術の向上に繋がっていると思料する。</p>	
サブカテゴリ3	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 	
改善の成果	
<p>「サービス提供のプロセス」の前年度との比較において、前年度は「これまでどおり、今後も歯磨きは行わないで欲しい」と一部の保護者アンケートの要望もあり、行わないで来たが、昨年5月再度のアンケート調査を実施の結果、歯磨きの要望が多く、9月歯科検診を踏まえて、11月看護師による歯磨き指導を行った。その後は歯磨きは実施され、健康増進に役立っている。</p>	

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
園の経営状態はインターネットで16年度の財務諸表を公表。17年度も財務計画を策定、前年度に比べ安定し、赤字は縮小されている。透明性の高い財務諸表の公開は何よりも利用者の信頼を勝ちうるものとなる。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している ・カテゴリ3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
公設公営から公設民営へと移管過程で保護者との関係が悪化したが、懸命な努力の結果、保護者との信頼関係が築かれつつある。父母の会が独自に行ったアンケート結果でも高い満足度が得られている。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	人、物、金の経営3要素が開花しつつあり、利用者の満足度も上がってきているといえる。高井戸保育園父母会通信(保護者が独自に組織)にて報告されている。
②	人材が豊富にあり、職務、職域を明確にし、職員間のチームワークが良い。公設民営に職員一丸となって園児に、保護者に決め細やかな対応を心がけてきた。様々な苦労の中から職員同士の支え合いが強くなっているように思う。これだけ出来ていることを評価する。
③	職員の作業状況を見るに、書面における記入作業が多いので、パソコンの普及を促進し、業務のシステム一元化管理ソフトを構築して職員の負担を軽減する計画を推進されるように大いに期待するものである。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	当園の情報は、保育園のしおりや月に2回の園だより、月に2回～5回のクラスだより、月に2回の保健だより、年4回の給食だよりやホームページで保護者に提供されている。	
②	当園は民営であるため、母体である社会福祉法人の指導の下、ホームページが作成されており、利用者はいつでも見ることが出来る。保育内容・行事予定・特別保育事業・非常災害時の避難場所など詳しく載せられている。ホームページにアクセスできない保護者については、事務室の前にファイルが置かれていて、いつでも閲覧できる。	
③	見学の希望があれば、すべて対応し、園長または主査が案内している。見学の記録は業務日誌に記録されている。民営化直後は保護者対応におわれていたため、これからは園庭開放をはじめ、外部への呼びかけや情報発信の必要性を感じているとのことで、期待される。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	サービスの開始にあたっては「保育園のしおり」「入園にあたって」などの資料を用いて説明し、個別の親子面接で細かい打ち合わせを行い、延長保育の時間、登降園の時間など話し合っており、内容については面接票に記録している。
②	事務室前の棚には「高井戸保育園各種規則および要綱」が置かれており、保護者はいつでも閲覧できる。又、運動会などの行事の写真がアルバムに整理されており、保護者が申し込みしやすいよう工夫している。
③	利用初日は、親子で一緒に保育園生活を体験してもらったり、2人担任制をとって、子供の様子を知る職員が必ず在園することで、安心感を与えている。又、必要に応じて、1週間くらいの慣れ保育を行っている。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)	
①	子どもの状態は、健康調査票、健康カード、生活状況票、指導計画、発達記録、保育日誌に記録し、把握している。又、0・1・2歳児は個別のカリキュラムを作成し、見直しをしている。計画の見直しは月毎に行われており、担任、リーダー、看護師、栄養士が参画している。
②	保護者の意見は、月に1回の職員会議や、月に2回の幹部会で検討し、対応している。昨年度は民営化された年でもあり、意見箱の利用は非常に多かったが、今年度は問題提起はないので、保護者の理解や受け入れが進んでいるものと思われる。
③	子ども一人ひとりの情報は、個別の指導計画や発達記録に記録されており、入園から卒園までの一貫した個人ファイルを作成している。個人の記録などは事務室で施錠管理されている。事務室には常に職員が在席している。職員の早番遅番の伝達事項は連絡票を作成、チェックを行うことで、業務引継ぎを行っている。

サブカテゴリ5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 個人情報については、「個人情報保護規則」「個人情報取り扱い事業に係る概要書」をホームページにも掲載されており、園でも、園児の顔写真や園児の作品を掲載する場合は、保護者の了解を得ている。個人情報に係る書類は、すべて施錠できる書庫に保管されており、管理されている。
- ② 園のすぐ横は、遊歩道になっており、通行人も多いため、夏の水遊びのときは、シャワーに衝立てを置き、よしずを立てている。おむつ替えは、園内の一定の場所で行われており、子どもの羞恥心には配慮されている。
- ③ 職員の言動については、園長・主査が日常の保育に入り、チェック・指導しているが、保護者アンケートの中には、子どもの言葉遣いが悪くなったという声があり、又、接遇面に不満を漏らす声もある。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 基準書・手順書・マニュアルは、ホームページにも掲載されており、誰でも見ることが出来る。職員は年度当初の職員会議で読み合わせを行い、全員で共通理解をしている。園で独自に作成した「職員ハンドブック」を全職員に配布しており、毎年内容を見直して作成している。
- ② 職員が一定レベルの知識や技術を学べるように、新人研修・月に1回のリーダー研修・年に2回の三園合同研修・区の実務研修などに参加しており、参加した職員は報告会を行い、全員で研修内容を学んでいる。
- ③ 職員間の相談・助言は、指揮命令系統に基づいて行われており、現場では適宜リーダー層が助言・指導している。その内容は報告書により報告されている。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	ひとりひとりの発達の過程は入園時の面接や家庭連絡票などで把握している。0. 1. 2歳児は個人別のカリキュラムを作成している。		
②	職員には、自然の中で身体を使って、普段経験できないことを園児に経験させてあげたいという思いがあり、週案、日案の中で活動を決めて、園外活動などを計画している。		
③	当園では、障害児も保育しているが、年長児は障害児のすべてを手助けするのではなく、出来ない部分だけを支援していることから、身体状況の違いを認め、尊重する心の育成が行われていると感じられる。		

評価項目2

栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している

評点(A)

2

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2の講評(一つ以上)

- ① 昼食は、2・3・4・5歳児は職員も一緒に食べており、大人と同席しての食事が食育として活かされている。調理員は昼食時に巡回して、喫食状況を把握し、次回の調理に反映させている。
- ② 発達に合わせたグループ作りや、ベランダにテーブルをセットしたり、昼食時の環境に変化をつけている。園児の個人差に配慮し、食事の分量を加減して、完食の喜びを感じるように配慮している。
- ③ 七夕ランチ、クリスマスランチ、鬼ランチ、ひなまつりなど行事食も取り入れ、食事の紹介や栄養情報は年4回の食事だよりで保護者に伝えている。朝食を食べない子どもも見られることから、保護者や子どもに栄養指導をはじめ、食について考えてもらえるように、食育について更に充実させたいと考えている。

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	0歳児は月に2回、1・2歳児は月に1回、3歳児以上は年に2回の健康診断が行われており、又毎月、身体計測を行っている。毎日の健康状態は、保護者からの朝の情報と、職員による視診、場合により検温が行われている。		
②	0歳児室の隣が医務室になっており、看護師が常駐しているため、緊急時の対応を速やかに行うことができる。乳幼児突然死症候群について、職員は学んでおり、睡眠中、0歳児は10分おき、1歳児は15分おきにチェックし、記録している。手洗い指導、歯磨き指導が行われており、虫歯罹患率が減少しているという効果が現れている。月に1度、上水保育園、上水保育園分園と三園合同の看護師会議を行っており、情報交換が行われている。		
③	園医、又はかかりつけの医師および関係者の指示のもと、医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制が整っている。健康に関する相談は看護師および主査が応じている。		

評価項目4

園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている

評点(A)

4

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	○非該当
●あり ○なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	○非該当
●あり ○なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4の講評(一つ以上)

- ① 各保育室と、職員室の前に絵本棚を設置、表紙が見えるように並べてあるため、好きな本が一目で選べ、年間貸し出し状況も2250冊に及んでいる。今後更に絵本を増やす計画がある。子供の誕生日は、当日クラス毎にお祝いしている。職員からの声が上がリ、2ヶ月に1回「みんなであそぼう！」を企画して楽しんでいる。
- ② 子どもが使用する布団は、乳児は番号で管理しており、個人が特定されている。又、月に1回～2回、布団乾燥車により布団の乾燥を行っている。
- ③ 0歳児と乳児トイレには、お尻拭き用のホットキャビネットを設置し、貸しオムツを温めて使用しており、お尻を拭くときの心地よさを与えている。使用済おむつは個人ごとのバケツに入れられ、廊下側から個人ごとに取り出せるようになっている。

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 当園は平成16年に民営化され、職員も一新したことから、保護者との信頼関係の構築に力を注いできた。職員は昨年と比較し、投書箱への投書が激減し、保護者との信頼関係が築けたと評価しているものが多いが、利用者アンケートからは保育姿勢や保育士の質、行事参加日程、事故対応で満足度は低くなっている。そのような保護者の声に耳を傾けていく姿勢が望まれる。園側では保護者との共同行事などの連携を深めていく必要性も感じているところから、今後に期待したい。
- ② 事務室は玄関を入った正面にあり、登降園の様子が事務室からも良くわかり、声がかかりやすい。各種掲示物は玄関ホールの保護者が見やすい場所に貼られている。
- ③ クラスの前の白板に、今日の保育内容や子どもの様子がクラス毎に記入されており、迎えに来た保護者は一日の様子を知ることが出来る。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握した際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし			
育児困難家庭の支援を行っている。たとえば、子供が発熱している場合でも受け入れているし、家庭で入浴が困難な場合は、園で子どもを入浴させている。			
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	保護者が体調不良で育児困難になっている時は、園で子どもを入浴させることもあり、お迎えに来られる状態になれない場合は、自宅に子供を送り届けるなど対応している。子供が発熱した場合も、保護者の事情を鑑み、預かっている。		
②	青少年センター、民生委員、保健センターと連絡を取り合っており、育児困難家庭への支援を行っている。家庭に事情がある場合の送迎時間には柔軟に対応している。又、延長保育や年末特別保育も行っており、保護者は安心して仕事等が出来る。		
③	園として、虐待防止への取り組みとしては、さらに保護者向けの啓蒙・研修などの活動の必要性を感じているので、共通認識の下に、子どもが心身ともに安心して成長できる環境づくりが期待される。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	児童館のお知らせや、各機関の催し物のポスターなど、保護者への情報は、玄関ホールに貼られており、送迎時に保護者の目に留まる。サポートセンターや病後児保育のパンフレットは玄関においてあり、いつでも手にとることが出来る。												
②	バザーをはじめ、地元の郷土会によるお餅つき、園庭での焼き芋会など、地域の人々に保育園の行事を知らせ、参加を呼びかけている。都営住宅の1F全フロアを保育園で使っており、2F以上に居住する住民へは、行事の度のお知らせをポストインしている。園では、更にわかりやすいポスターの掲示で、地域の人々へ参加を呼びかけていきたいと思っており、近くにある「老人福祉施設」との交流も考えている。												
③													
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 65%;">標準項目</th> <th style="width: 20%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	近くの中学校からは、生徒の職場体験学習で、今年度は合計4名の受け入れをおこなっており、中学校を通じ、体験生徒からは、進路選択の際の貴重な体験について謝辞が寄せられている。												
②	当園では、20:30までの延長保育・延長スポット保育・年末特別保育にも対応しており、保護者が安心して就労できる。又、保護者の事情にも柔軟に対応し、子育て支援を行っている。育児アドバイスについては、感謝しているという保護者の声がある反面、相談しにくくなったと感じている保護者もあるため、職員から保護者への声かけや、話しやすい雰囲気作りが望まれる。												
③	保護者とその乳幼児が、一緒に保育園での生活を体験する「ふれあい保育」を通じて、育児に対する知識や技術を伝え、子育てに対する悩みや不安が解消できるよう、職員の相談体制を整えている。「ふれあい保育」は月曜日から土曜日までの10:00～13:00で参加がしやすくなっている。												

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	絵本の充実と貸し出し
	内容	絵本は民営化後、新規に380冊購入、紙芝居は170巻購入している。絵本の年間貸し出し数は2250冊にも上っており、各クラスでも、絵本を自分で選んで読むことは日常的で、非常に盛んである。じっくり腰を下ろして絵本を読むことで、集中と落ち着きが自然と養われていると感じる。今後も絵本の購入予定はあり、又、子育て文庫の開始もある。
2	タイトル	複数担任制の維持
	内容	担任が、一人ひとりの子どもの状態を常に把握しているため、通常時間以外でも安心して登園し、相談できる。又、職員同士も子どもの様子について、双方で確認、話し合いができるため、心強い。園側の、子どもや保護者へ思いやりの気持ちが伝わる保育体制であると評価できる。
3	タイトル	地域子育て支援
	内容	保育園は、地域の中核として存在し、また子育て支援の拠点となるとの考えから、各家庭の状況を受け止めて、保護者と協力して地域子育て支援を行っている。ホームページが充実しており、パソコン世代の保護者には、園の情報を簡単に手に入れることができ、情報の変更にも即応性がある。核家族・少子化・高齢化などの社会情勢をふまえ、子育ての環境作りの地域リーダーとしての、今後が期待される。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者との信頼構築
	内容	公設民営化の2年目で、8割以上が満足と見ることが出来るが、不満の方々が13%以上おられる。また、満足と答えた方の中にも、対応を誤れば、すぐに不満者になる要素はある。そうならないためにも、環境を重視し、子どもの個性をどう伸ばすかを常に考え、保護者の価値観を認めつつ、粘り強く努力の程を理解してもらうこと。間違っても対立関係にはならないこと。この園の職員ならば出来ると期待するものである。
2	タイトル	事務の合理化
	内容	職員の事務量の多さは想像を絶するほどに、種々の書面に記入し、それを上司が見て、判断し、問題の定義となり、次の課題を達成するための新しい計画となって行く。そのための仕事であることを理解し、毎日を勤務されている。しかし、パソコンが登場した現在、同じ書類を作るにしても、手間を省く事は容易である。またそれを管理する上司・管理者もまた今いる場所を移動することなく、確認できることが可能である。事務の合理化が急務である。
3	タイトル	計画と管理
	内容	高井戸保育園は駅に至近な距離にあり、この公設民営の園に子どもを預ける保護者は幸福な方々である。しかし、国、地方の財政は厳しく公立の保育園もまた民営化の波に飲み込まれようとしている。保育計画の立案と財政管理が一体化して行われることの重要性は益々高まっている。それだけに福祉サービスの自立性、採算性を追及する姿勢が経営者・管理者に強く求められる。赤字であることを良しとしている福祉社会は無いものとして、更に研鑽し、研究し、教育することが改善に繋がると考える。

調査対象	杉並区立大宮前保育園の園児の保護者世帯60世帯の保護者。	
調査方法	園を通じて、園児のお迎え時に保護者に調査票(アンケート)各担任から配布してもらい、保護者が記入後、登園時に園に提出してもらい、評価機関がこれを回収した。	
利用者総数(人)	68	
調査対象者数(人)	60	
有効回答数(人)	40	
回収率	66.7	

利用者調査全体のコメント

定員71名の杉並区立認可保育園で、園児数68名、その保護世帯数は60、回収は、回収率は66.7%となった。総合的な感想では、大変満足12.5%、満足40.0%、どちらかといえば満足27.5%で、満足率は80.0%と保護者の満足度は高い。ちなみに不満を示す回答はどちらかといえば不満5.0%、不満2.5%大変不満5.0%であり、不満を表明した保護者がは12.5%となった。「はい」回答率が高かったのは下表に見られるごとく 問1の一つしか上げられていない。いいえと回答があった問6の「保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(バラツキが少ない)ですか」は27.5%であった。現在園では職員のばらつきがないよう職員会議や研修に参加して教育している。研修レポート報告はされているが職員全体の取り組みにはなっていない。回収率も高いとはいえない。職員の子どもの扱いに対する保護者の見方と園長の見方とはかなりのづれがあり、保護者の複雑な思いを把握し、今まで以上に真摯に双方が向き合わなければならないことであり、互いに理解が必要と考える。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	17	42.5	16	40.0	6	15.0	1	2.5
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	34	87.2	5	12.8	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	31	77.5	9	22.5	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	30	75.0	8	20.0	1	2.5	1	2.5
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	28	70.0	9	22.5	3	7.5	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	20	50.0	10	25.0	9	22.5	1	2.5

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	12	30.0	20	50.0	8	20.0	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	27	67.5	11	27.5	1	2.5	1	2.5
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	27	67.5	7	17.5	4	10.0	2	5.0
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	34	85.0	3	7.5	1	2.5	2	5.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	29	72.5	6	15.0	0	0.0	5	12.5
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	29	72.5	9	22.5	2	5.0	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	29	72.5	6	15.0	4	10.0	1	2.5
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	20	50.0	13	32.5	6	15.0	1	2.5
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	29	72.5	6	15.0	4	10.0	1	2.5
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	27	67.5	10	25.0	3	7.5	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	28	70.0	10	25.0	2	5.0	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	20	50.0	13	32.5	4	10.0	3	7.5
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	20	50.0	13	32.5	3	7.5	4	10.0
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	19	47.5	16	40.0	3	7.5	2	5.0

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	20	50.0	11	27.5	8	20.0	1	2.5
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	19	95.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	14	70.0	6	30.0	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	28	70.0	9	22.5	1	2.5	2	5.0

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 園は京王井の頭線久我山駅の北に井の頭通りから10メートル入った住宅地にある。この園では14年度第三者評価を実施し、その評価を踏まえて改善に努めているが、園長、主査の職員そして利用者の。園の保育目標は職員室の壁に掲示されており、1. 子どもの人格を尊重し、人権を守る。 2. 職員は人間性と専門性を高めるために学習する。 3. 社会状況に目を向け、保護者との連携を密にし、よりよい関係を作っていく。 から基本方針が理解できる。
- ② 園長は職員の能力向上を図るために、問題点、課題を明確にした上で、職員全体会議に提示し、会議の中で確認し合い、意思決定している。主査は園長を補佐しながら職員を指導している。職員は福祉とりわけ保育の専門職であるという自覚と誇りを職員に伝えて、人間的に信頼される様に日々研鑽を積み、園長自から率先垂範している。
- ③ 園長は重要な行事日程は職員全体会議に計り、クラスレベルで判断するもの、園全体での判断をすべきものに分けて、保護者会、面談などで意向を聞いて決めている。全職員には文章化されたもので伝えられたり、ミーティングを繰り返して周知した上で、クラス便り、園便り、事務所便りにて伝えていると認められる。

カテゴリ2

2

経営における社会的責任

サブカテゴリ1

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1

事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

① 福祉サービスとして守るべき規範は区より配布された杉並区例規集、第7編行政総則、杉並区保育所処務規定に明示されているものを遵守している。処務規定に法り、職務遂行するよう職員に個別指導または集団指導している。前回の第三者評価を踏まえて、これを真摯に受け止めて組織全体の質的レベルを上げるべき努力している。

② 実習生やボランティアの受け入れについては、保育実習の目的を確認し、全職員で受け入れ態勢を整えている。学校より持参した実習要綱に基づき、本人と実習の目的を確認し、その達成が出来るプログラムを作成している。ボランティアセンターを通したり、卒園生、職員の知人、友人や中学生の体験学習、高校生の学習活動、社会人など幅広く受け入れていることが認められる。守秘義務について口頭で伝えている。

③ 地域とのネットワークについては、高井戸第4小学校区域に属し、ネットワーク運営会議および連絡会に参加し、情報の交換を行っている。月1回の園庭開放や随時の体験保育(ふれあい保育)が行われており、第2水曜日には施設見学や電話相談、来所相談に応じている。近隣の児童館に乳児グループに職員を派遣し、育児のノウハウを教えたり、わらべうたを唱って教え、手作りおもちゃの講習を行っており、参加していた親子が園の見学を訪れている事を確認した。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者一人ひとりの苦情対応は、福祉サービス苦情調整委員の案内ポスターを掲示し、保護者の意見は園長、主査が窓口になり、その都度良く聞いて、意見、要望に迅速に対応している。園独自のものや区の保育課にての利用者アンケートなどにより意見収集に努め、利用者の把握に努めている。園でのみ解決できない問題は、区の保育課を通じて、他部署の連携を踏まえて、よりスピーディーに解決している。意見・要望・苦情をより明確にし、園として何が出来るを職員会議で検討している。
- ② 地域の福祉ニーズの収集は、日常的に近隣住民との付き合いを行い、会話や近隣機関交流の中から情報やニーズの収集に取り組んでいる。職員は地域住民との関わり合いや交流を積極的に行なおうと言う意識が芽生え、参加して得られた情報を基に、園長、主査がその内容を職員会議で発表し、情報の共有化に努めている。
- ③ 園の保育に関する情報の収集については、区の保育課作成の「保育サービスの新たな展開」の説明会に参加し、様々な研修や業界誌紙から保育動向の情報収集に努めている。集められた情報を全職員に報告している。しかし、全体の情報の整理・分析はまだまだ充分に行われていたとは言えず、今後の課題である。

カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
	サブカテゴリ1	
	実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
	<p>評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
<p>評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

A+以外では【標準項目を超えた取り組み】のコメントは削除してください

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

<

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	計画の策定と実行面は区の中長期計画で制定した「五を星のサービスを目指す杉並区」の保育園版「杉並区こども子育て行動計画」に基づき、園の対象年齢1歳から就学前までの5年間プラス小学校入学を見据えての保育目標を策定している。さらに「年間指導計画を各年齢毎に策定し、月間計画、週間計画と定め、行事など担当者を中心にスケジュール表を作成している。その視点は組織としてどう取り組むか」と言う点で、各自で明文化し、会議にかけ現場の意向を取り入れている。
②	目指す
③	安全の確保については、管轄内の警察、消防署と連携を取り、民間パトロール隊の協力を得て、安全確保を図り、職員間でも防犯上の約束の徹底を図っている。指導係から事故事例等が報告され、原因を追究し、分析し、再発防止・予防の対策を策定し、職員の共通認識として、全員に再発防止の徹底を図っている。園独自に文書化された報告書は会議で報告し、共有すると共に、利用者には「区としての防止設備は整っていること」と共に保護者会、園便りなどで周知している。

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A+)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

平成15年に明治図書から出版された「保育園の環境づくり」の著者である当園の職員が、今年8月20日、21日静岡県伊東市において開催された「全国幼年教育研究協議会 第43回全国研究集会要綱」の研究主題「いのち はぐくみ いのち かがやき」—子どもの笑顔にはげまされ、子どもの想いによりそいながら、広めよう人にやさしい実践を！ に事例発表し採用され、この内容が出版された。当園の職員の取り組みが全国で紹介されている。

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	人事制度については、杉並区職員勤務評定実施要領に基づき、保育課の指導の下に行っている。園長は臨時職員の面接、採用、更新の可否について行い、人材の配置については個々の性格、能力、適性を十分に把握し、配置している。研修については区からの研修通知があった時、又職員のキャリアアップ研修に参加の要請があった時、その時点で希望者を募り、参加している。個々の意欲によって研修の取り組みが違おうで、職員のばらつきを無くすための研修となっていない。
②	職員一人一人の主体的な判断・行動と組織としての取り組みについては、職員との信頼関係の下、実施内容の目的や範囲を明示した上で権限委譲し、日頃の気づきや工夫を積極的に会議で議題に載せ、園長・主査は職員同士が自由発言できる雰囲気を作り、積極的に意見交換が出るよう取り計らっている。この取り組みが重要であり、職員の意識の向上に必ず繋がるものとする。
③	職員のやる気については、区の保育課や管理担当課において、ヒヤリングが実施され、園長は職員の公平且つ正しい評価を行い、人材マネジメントに連動できるよう、年2回行っている。園長は、職員個々が置かれている背景を把握し、心身ともに健康に仕事ができるよう、相談にのっている。また、日頃の職員の創意、工夫、成果を認め全体が向上するように配慮している。最小限、区の厚生施設など利用できる様、希望がかなえられる様、配慮している。

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
7	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している
	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している
	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
	<input type="radio"/> 非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している	
評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している
	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している
	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
	<input type="radio"/> 非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園が持っている経営情報の保護・共有については杉並情報化基本方針に基づき、文書管理の情報リーダーの上、アクセス権限を設定している。パソコンまたは文書によって収集した情報はその都度整理・保管している。常に最新の情報に更新し、保管している情報も活用しやすいよう整理整頓されている。文書の管理はファイリングシステムで整理・保管し、施錠管理している。
②	園長は 個人情報保護法を熟知し、漏洩事故を起こさぬよう利用目的を明示している。全職員の責任と自覚において保護するように明示している。情報公開の対応方法については育児記録や会議記録などに客観的な表現、事実に基づいた記録をするように指導している。職員には個人情報の管理には細心の注意を払うよう指導し、ボランティアや実習生にはオリエンテーションの際、ボランティア活動や保育実習で知れた情報は、守秘義務があり、口外しないことを厳重に注意し、確認している。
③	

カテゴリ8	
8 カテゴリ1～7に関する活動成果	
サブカテゴリ1	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
改善の成果	
杉並区の「保育サービスの新たな展開」(概要)が示され、地域性、地域のニーズを把握し、園が果たす役割と責任を全職員が自覚し、園のみならず、地域の子育てにも目を向けようとする意識が向上している。園長、主査が窓口となり地域の保育関連機関とスムーズに連携できるようになっている。また経験豊富な保育士を人材活用し、他機関との連携において園の存在価値を見出していることを確認できた。	
サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	
改善の成果	
職員と組織の能力向上において、園長、主査は公平にかつ正しく職員を評価し、職員相互が長所、能力を認め合い、研修成果を発表し合い、その結果は前年と比べて大きな成果となっている。向上心(新分野へ取り組む意欲)があり、学習意欲が旺盛であり、個人的研修や、グループ研修を受講し、その上で実践している。	
サブカテゴリ3	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 	
改善の成果	
サービスの提供については職員が保護者との日常的コミュニケーションを図り、会話の中から必要としているサービスを把握し、具体的な提供手順を考慮、迅速に提供できるようにしている。園独自で提供できるサービスは園長判断、または職員会議にて協議の上、提供している。区レベルのものは保育課と相談し、提供できるサービスは実施している。情報保護については保護法の精神を遵守して、保護者会、園便りなどで提供している。	

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+ ● A ○ B ○ C
改善の成果	
収入面においては保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し、運営費の増加6%職員費はダウンしているが全体的には区の自主財源で賄っているため向上していると考えられる。園では、保育材料費、賄費の年間計画による健全運用を心がけている。区民の共有財産という認識において節約に取り組み、設備・備品を大切に扱うことを、管理においては無駄を徹底的に省き、より綿密なる点検を行うことにより、前年度より健全な運用実績であった。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している ・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握」	○ A+ ● A ○ B ○ C
改善の成果	
利用者の苦情件数は前年度より減少しており、また担任や事務所に直接、意見、苦情を寄せてくるので迅速な対応を行い、サービス向上に繋がっていることが認められる。就任2年目の園長は、利用者との関係において互いに信頼関係が不足していたとして、今年は園長の子育てに対する考え方を、園の思いを、園だより、事務所だより、保護者会にて積極的に発表し、幾度も説明することにより、信頼関係も高まり理解され、関係改善が図られている。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	保育計画にある、子どもの人格の尊重、人権を守るという基本的な部分は職員一同共通認識を持っている。更に、子どもの人格とは何かという点に対する考え方や理解において、解釈の仕方に、確固たる信念を持ち、推進するよう取り組まれない。そのため、健全な保育が形成されるよう、この目標課題をも含めて職員会議で議論する必要があると判断する。
②	保護者は率直に園に対し、要望、苦情などを寄せ、園としても迅速に対応しているようではあるが、利用者アンケートと照らし合わせると、必ずしも満足しているとは言えない状況であり、もっと本質を聞いたうえで、解決策を出すには、様々な角度から検討し提案する必要がある。いろいろ制約もあることを利用者にも理解してもらわなければならない。回答を急ぎすぎるとかえって不満を増やすことになる。多面的な角度からの検討を要望する。
③	職員数の少ない中で、環境整備に積極的に取り組んでいる姿を確認できた。園庭には桜の木や銀杏の木が植えてあり、植木職人が切った残材の中から、美しいオブジェとして生かされている。園庭や廊下のあちこちにおいてあり、和まされ、利用者である保護者、地域住民に職員の温かさを感じさせるものとして、その努力を評価するものである。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <div style="text-align: right;">評点(A)</div>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	園の情報は、区の保育情報誌やホームページ、区の「入園のしおり」と園が区のしおりををわかりやすく構成し直した園のしおりにより入手することができる。園が作成したしおりには、園の保育目標や園内見取り図、主な散歩コース、保育時間、定員、職員数、園庭遊具の種類、主な年間行事などが、イラスト入りで作成されている。また、「いっしょにあそぼ!!」という、地域交流事業の内容やふれあい保育、夏祭りやわくわくデー(運動会をより子どもの遊びの延長と考えると企画にした活動)を記載した案内用のちらしがある。対象児は1～5歳児である。	
②	見学希望や保護者の問い合わせが寄せられた場合には迅速に対応するように努め、保護者の都合の良い時間を優先して受け入れている。当園は、職員全員が電話の問い合わせや園内見学の対応の仕方が浸透しており、どの職員でも対応できるようになっている。見学の希望が寄せられた場合には、ふれあい保育や「いっしょにあそぼ」の紹介をして、入園希望の保護者に保育園の成果ウや遊びを体験してもらえる機会があることも伝えている。ふれあい保育では実費で、給食の体験もできることを伝えている。	
③	園の情報は保育課を通したり、園長の判断により、児童館や子育て家庭支援センター、保健センター、発達センターなどに提供している。園からの情報は個人情報保護やプライバシーに留意したものとなっている。入園希望者には園の空き情報がわかるよう、在園児数の変化があった場合には区に知らせ、区のホームページに空き情報の更新をしている。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)													
①	園では入園前に子どもの状態について具体的に把握するため、子どもの心身の健康やなんらかの配慮が必要と思われる子どもに関する会話を面接の際に個別に保護者で行っている。個別の面談後の内容は個別の面接記録、児童票、発達経過記録等に記載し、子どもの遊びや生活に関する留意点を確認している。また、病気や障害を有する子どもは、子ども一人ずつの既往歴について、状態の変化があった場合の対処法やアレルギーなどの対応などについても話し合っている。												
②	入園説明会では、保護者の理解が得られやすいように、保護者と対話型の説明会を実施し、質疑応答を繰り返しながら同意を得るようにしている。今年度は、個人情報保護法の施行により、プライバシー保護や個人情報としての写真の取り扱い、提供方法などについても話しをしている。入園前には、園長や定期的に来園する栄養士や看護師との個別面談も必要に応じて行っている。当園は、入園後の子どもや保護者のストレスや不安を軽減するために、親子が一緒に保育体験をする親子慣らしを行得ることを伝え、徐々に親子分離をするようにしている。												
③	子どもの入園後の生活が、安全で、安心して楽しんでもらえるようにアレルギーや心身の健康に関する配慮、子どもの嗜好や生活リズムなどを親子慣らしにより把握し、子どもの状態に応じて職員体制も考慮するようにし、クラス担任の持ち上がりなども可能な限り実施している。子どもの急な退園・転園などが生じた場合にも、保護者の相談があれば、対応する意向を持っている。公立保育園から私立保育園に転園した場合には、プライバシー保護という問題により支援の継続ができないことも生じるため、今後の協働について検討の必要性を感じている。												
サブカテゴリ3													
3	個別状況に応じた計画策定・記録												
	評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
	評価	標準項目											
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当											
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当											
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当											
【標準項目を超えた取り組み】	○あり ●なし												

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(A)
---	--	----------------

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 職員は、子どもの心身の変化や生活状況、発達の経過などを日々、日誌や連絡帳などに記載し、必要に応じて児童票や発達経過記録、健康台帳、健康カードなどに記載している。また、保護者の要望や意向は個人面談記録に記載している。記録された日々の子どもの様子や保護者の意向や要望は指導計画と連動し、内容により課題の見直しや修正、新たな設定としてしている。また、子どもの状態や保護者の意向や要望がよせられた場合には児童票や指導計画により確認し、必要に応じて課題として設定に加えられている。
- ② 指導計画には、園全体とクラスごとの年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画があり、日々の遊びや生活、様々な体験への取り組みとしている。1～2歳児や障害児、アレルギーや個別の配慮が必要と思われる子どもには、個別指導計画を作成し、個別の記録を行っている。年間指導計画は、園としての取り組み、保育目標、年間クラス別目標が発達年齢に即して中長期で作成されている。当園では、園の年間指導計画をもとに、各クラスの子どもの状態や個性、クラスの目標にあわせ、新たに年間保育計画が作成されている。
- ③ 全体の指導計画は年度末の反省をもとに職員会議で見直されている。新年度ごとに確認されて実施されたり取り入れられている年間指導計画は、年度初めに各クラスごとの年間保育計画、それに基づく月間指導計画、週間指導計画は、各クラスで話し合いをした後、乳児、幼児ごとの会議で検討され、全体の指導計画検討会において更に検討されている。実施後も毎月、指導計画検討会で見直しながら、子ども達の状態に適した計画となるように努めている。また、緊急に計画の変更が必要な場合には、毎日のミーティング時に検討され、意見集約後実施されている。

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(A)
-------------------------------------	--	----------------

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 園では、子どもの個人の意思を尊重し、子ども達個々の判断力を養う支援のために当番活動や異年齢交流などを実施し、一人一人が責任を持って、自分で考えて行動する機会を持つようにしている。例えば、各クラスごとに作成され、実施されている指導計画を職員間で共有した上で、他の職員がそのクラスで保育したり、時間外でその子どもと対面した時にも同じ対応ができるように努めている、子ども自身で考え、回答できるように言葉を投げかけたり、すぐに結論づけずに待ち、子ども自身で判断するように支援する、などしている。
- ② 保育に従事する職員は社会福祉法や児童福祉法を、また、公立園の職員は区の職員であり公務員であるため、区の職務規程や公務員規程に基づき、適切な支援をするように定められている。そのため、職員は、子どもだけでなく、保護者と対面する際にも、傾聴と受容に心がけ、具体的な提案や保護者の意見に歩み寄るなどの姿勢を持つようことを園としては目指し、その対応ができるように努め始めている。
- ③ 今回の調査による保護者のアンケートでは、70%の保護者が「子どもの良いところや個性を認めてくれている」と答えている反面、23%の保護者は職員の保育姿勢や対応にばらつきは少なくないと答えている。自由記載欄にある、挨拶の仕方や声かけの仕方、対応の仕方に配慮がほしいと要望している声に全職員が一体となり、耳を傾け、今以上により良い園となられるように研鑽されたい。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 園では、区で作成したマニュアルを元に日々の職務を遂行するように努めている。また、園では、職員が業務や役割の分担を行い、日々の保育や園の運営などに関する事柄も責任を持って対応するように努めている。当園には、自然物を活用した保育環境づくりを長年研究してきた職員がおり、遊び場や制作、室内構成など様々な点で学び合い、刺激しあい、それぞれの専門性を高めようと努めている。職員は、休日に山や沢などに出かけた際にも、流木や木の実、石、貝殻など様々な素材を集め、園に持参し、遊びや環境設定に取り入れている。
- ② 職員は保育理念を持ち、子ども達の豊かな感性を育む保育を実践し、職員同士で刺激しあい、研鑽に励んでいる。保育環境には、物的、人的、社会的、制度的など様々な環境がある。子ども達が、自然に触れ、自ら遊びたくなる素材や遊びの環境また、創造力を高めるなどな取り組みなど物的な環境整備はよく配慮されている。今後は園独自の取り組みをマニュアルなどの成果にされると、更に向上すると思われる。
- ③ 園では、毎日のミーティングや週1回の定例会議、月1回の職員会議、随時の話し合いや会議など様々な話し合いの機会を持ち、サービスの質が低下しないように努めている。また、職員自身も自分自身でわからないことや対応などが困難なことが生じた場合には、園長や主査などに相談したり、職員自身の一方的な価値観を押し付けないように聴く姿勢を持つように園長や主査などが職員同士で確認し合うようにもしている。今後は、全職員が言葉のかけ方や対人援助の際での質の向上に努められると、更に向上すると思われる。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ◎あり ○なし			
毎日の活動は自然物を活用して、制作活動をしたり、インテリアにして子ども達が様々な表現ができるように計画している。日々の遊びこみは、環境設定の段階から実施し、年齢に応じて計画的に固定遊具の利用なども行っている。園には、自然木を固定遊具に設置して丈夫なロープで作ったアスレチックのネットや秘密基地のような小屋などを設定し、園庭で充分にからだを動かしたり、創造力をたくましくして遊んでいる。			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	子ども一人一人の発達や心身の状況、保護者との会話や日々の連絡帳等の活用のもとに子どもの全体像を把握し、児童票や指導計画に記載している。子ども達は年間の指導計画に基づき、様々な活動や遊びの準備をし、関心を高めるための取り組みを設定している。職員は、常に子ども一人一人の発達や個性、環境などの全体像を把握するように努めている。そのため、各クラスごとに遊びのテーマや時期に応じた環境設定をしている。各部屋の環境は子ども一人一人の遊びを考慮し、おもちゃや自然物などの素材を用意して、遊びこめるコーナーを用意している。		
②	子どもの自主性や自発性が育つようにコーナーを作り、遊びのために様々なおもちゃや素材を発達過程や子ども達しよい刺激をあたえらと思われる時期に交換しながら設定し、更に充分に遊びこめる時間の配慮として、職員は声かけにも配慮している。室内には、かまぼこの板の上にとんぐりのこけしが配置された造形や、枯葉や木の枝などの自然素材を用いて制作された絵画などが展示され、充分に遊んだようすが伺える。また、日常的に言葉カードを用いての言葉遊びやわらべ歌遊び、リズムなども楽しんでいる。当園では子ども達の遊びこみを支援している。		
③	園外保育では交通公園で職員の安全に対する配慮と見守りのもと、木登りのしたい子どもには木に登らせたり、井の頭公園で小動物と触れ合ったり、片道40～50分歩いてかしのみや保育園まで出かけるなど、様々な体験を計画にもとづき、実施している。また、園庭や近隣の公園では、鬼ごっこやサッカー、泥団子作り、水遊びや砂遊びを楽しんだり、自然木を固定遊具に設置し、丈夫なロープで作ったアスレチックや秘密基地のような小屋などでからだを動かしたり、創造力をたくましくしている。めだかやカワニナなどの飼育で生命についても学んでいる。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	区の統一メニューであるが、各クラスの食事時間に合わせ、できる限り温かいものは暖かいうちに提供するように努めている。また、味は薄味に心がけ、子ども達が食事を楽しめるよう、行事の際にはメニューを変更するなどの配慮をしている。日々の食事は子ども一人一人の健康状態や食欲、咀嚼などの状態に応じて調整され、提供されている。アレルギー児の食事は間違えないようにトレーを変えたり、職員が確認してから提供している。アレルギーの子どもには、個別の症状に応じ、保護者と毎日、献立成分表に基づきチェックし、除去食を提供している。		
②	園では、食育として枝豆やナス、キュウリ、トマト、ゴーヤ、サツマイモ、米、オクラ、とうもろこしなどを栽培して収穫している。収穫した野菜は、子ども達が洗ったり、皮をむくなどし、調理室に持っていき、調理してもらって味わっている。食事用の椅子やテーブルは、子どものからだに合わせるようにしているが、更に一人一人に合わせるよう、足の下に台を置いたり、状態に合わせてマットで背もたれに当て物をしたりしている。子ども達は姿勢よく食べるよう指導されている。		
③	食事の時にはできるだけ、生花をテーブルに置くように心がけたり、落ちついて食べることを意識した環境づくりをしている。現在、4～5歳クラスは1部屋で遊びのコーナーと食事のコーナーが設けられている。そのため、食事の時間は年齢ごとに時間差を設け、5歳児が食事中の時には4歳児が待つという日課を持っている。食事時間の時差は日課として子ども達に習慣づいているため、4歳児は「待つ」ことが子どもの見通せる行動となっている。マナーある食事をするという視点で当園は快適な食事の配慮をしている。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態は、毎日の朝の視診や乳児の検温、保護者からの連絡や連絡帳などにより確認している。また、定期的な健康診断として、年2回の内科検診、年1回の耳鼻科検診、眼科検診、歯科検診などが行われている。検診の記録は児童票、健康カード、健康台帳などに記載し、職員が把握している。また、当園は久我山東保育園から応援看護師が、検診含めて月2～3回来園し、各クラスごとに健康教室をしている。健康教室では、12月は3歳児に「ばい菌やっつけろ」、4歳児に「我慢の脳みその話」、5歳児に「からだの話」をしている。		
②	園では、乳幼児突然死症候群の防止のために、2歳未満児には午睡時に職員がそばにつき、15分おきに睡眠状況の確認をし、チェック表にその状態を毎日、記録している。感染症に対しては流行が見られる時期には区のお知らせや保健だより、保健センターからの連絡やポスター、文書などを掲示している。また、感染症などの疑いがある場合や健康で気になることが生じた場合には囑託医や応援看護師に知らせ、指示を仰いだり、指導を受けながら対応している。囑託医も協力的で、親身に相談にのってもらえる関係にある。		
③	園では、子ども達の健康に関する保護者からの相談には、職員が対応しているが職員が単独で判断しづらい内容の場合には、園長が直接、回答するようにしている。また、専門知識が必要な相談や診断は囑託医に、看護に関することであれば応援看護師に相談し、その回答を職員または保護者に直接回答するようにしている。回答は口頭又は文書で伝えるようにしている。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし			
自然あふれる環境づくりを行い、固定遊具や日々の遊びの素材を遊びや生活にも自然を取り入れている。たとえば、木の切り株を椅子にしたり、りんごや食パンなどを乾燥して額に入れてインテリアにするなどの感性を刺激するような環境づくりも行っている。また、各クラスの室内は遊びと寝食の分離し、一人一人の安定できる場所を設定したり、それぞれの行為別で環境づくりをするという取り組みを行っている。			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	子ども達が日々の生活を楽しめるよう、誕生会の時には子ども一人一人の誕生日にワッペンをつけたり、クラスの入り口付近に誕生時の写真を貼るなどして、皆で祝うようにしている。誕生児には園庭に咲いている花を花束にしてプレゼントしている。子ども達の楽しめる行事には、遠足、七夕、夏祭り、わくわくデー、芋ほり、焼き芋、おたのしみパーティ、新年子ども会、ひな祭りなどがある。わくわくデーは、子ども達の遊びの延長として、また、保護者との交流を楽しむ機会として、運動会を改良した取り組みとして実施している。		
②	各クラスの室内は遊びと寝食の分離を旨とし、落ちつける環境づくりを行うようにしている。各部屋は広いとはいえない建物だが、一人ずつ好きな遊びができるようコーナーを設定して、自分の好きな遊びが継続できる空間作りを職員は目指し、食事のペースも子どもに応じるよう、食事の早い子は、着替えて各自の布団に行き、絵本を見ながら待つという手順を持っている。食事も布団も自分の位置が決まっており、常の特定の位置で特定の行動をするという環境設定に当園は力を入れている。		
③	当園は園内の随所に木の切り株を椅子にしたり、りんごや食パンなどを乾燥して額に入れてインテリアにするなどの感性を刺激するような環境づくりも行っている。遊ぶものも、また、どんぐりやくるみなどの木の実などをミニカーや貨物車にのせて遊んだり、ままごとに使ったり、わらべ歌遊びなどに力を入れる独自の保育を実践している。今後は、更に様々な環境や状況にも臨機応変に対応できるよう、柔軟な対処方法も身につく支援や環境設定にも取り組まれない。		

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

保護者の同意のもと、子どもの生活の一部を写真で掲示したり、食事、排泄、着脱、遊びなどの様子をビデオ撮影し、保護者会で放映することで、園の様子を紹介するようにしている。

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 園では、子どもの様子を連絡帳や口頭、ホワイトボードなどに記載して日々の子どもの様子を伝えている。また、毎月の園だより、クラスだより、保健だより、随時の事務所だよりや行事だよりなどを発行したり、保護者の同意のもと、子どもの生活の一部を写真で掲示したり、食事、排泄、着脱、遊びなどの様子をビデオ撮影し、保護者会で放映することで、園の様子を紹介するようにしている。園では、各種のたよりやビデオや写真で子ども達の様子を知らせているが、子ども達の生活は保護者の肉眼を通して確認してほしいと考えている。
- ② 園では、保護者会を4～5月に各クラスで1回、12月には5歳児、2月は2～4歳児クラスがそれぞれ実施しており、保護者の都合に合わせて曜日や時間帯を考慮して設定するようにしている。個人面談や保育参加・参観等は保護者からの要望に応じ、随時行っている。また、職員が子どもの状態の変化や保護者に気持ちを察した場合に声をかけ個人面談を行う場合もある。保護者への配慮として、わくわくデイも土曜日に行うようにしている。保護者の事情において連絡さえ頂ければ、保育時間も開園時間内で柔軟に対応できるよう心がけている。
- ③ 夏祭りの際にバルーンアートのコーナーを実施してもらったり、ゲームコーナーのもぐらたたきや的当て、体力測定、警備などに保護者の協力を得て実施している。今後も保護者と協働での行事作りや保護者の企画参画などにも力を入れられ、共に子育てする関係を深められたい。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 虐待防止や育児困難家庭の支援を職員が適切に行えるように、区や保健センターなどの研修会に参加したり、その研修の報告会を職員会議で行ったり、研修で提供された資料や報告書を園内で回覧し、情報の共有化に努めている。また、園内でも虐待が疑われたり、育児困難ではないかと思われる家庭が見られた場合には、十分に確認した上で、支援する体制を持っている。また、職員の経験した事例を報告しあったり、事例についての検討会をすることで学びを深めている。
- ② 園では虐待を受けていると思われる子どもや育児のストレスや不安が強く適切な子育てができていないと思える子どもを発見した場合には、区が発行している「児童虐待の早期発見・対応のために(関係機関用マニュアル)」にそって対応するように設定されている。そのマニュアルに従うと共に、園では、担任や園長が個人面談などをして、保護者の気持ちを受け止めるように努めている。また、その支援策として、区や保健センター、児童相談所と連携をとる体制を整えている。
- ③ 子育ての不安やストレスの原因ともなりうる子どもの発達の遅滞や育児の仕方がわからない家庭への支援を、保護者会などで話し合ったり、個人面談などを通して子育てや子どもの発達についての相談に応ずる中で、子育てに関する共通認識が持てるように努めている。現段階では、区の公立保育園合同での懇談会や講演会があるが園独自の取り組みがないため、今後は、園独自でも子育てに関する懇談会や勉強会の開催も期待したい。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	園では月1回の園庭開放やふれあい保育、夏祭りやわくわくデーなどでは地域の子どもや卒園児と、また、中学生・高校生とは職場体験を通して、保育専門校の実習生、敬老館との年3回、近隣の高齢者デイサービスの利用者とはつき1回の交流をするなどを通してコミュニケーションをとる機会を持っている。様々な状況の高齢者と子ども達が接する機会を持つことで、大切にもらえる喜びを経験したり、いたわりの心を育てる機会としている。												
②	園では、保護者が要望する地域の情報として区や児童館、保健センターなどから配布されたポスターを掲示したり、お知らせなどの文書を配布したりし、地域の情報提供をしている。												
③													
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 80%;">標準項目</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	園では地域の子育て支援として、近隣の施設にチラシを配布したりポスターを掲示して園庭開放やふれあい保育の参加を呼びかけている。また、施設見学者からの子育て相談や電話での問い合わせで相談に応じることもある。利用者は月に3~4組であるため、地域交流としての取り組みには今後更なる工夫が必要と考えている。												
②	園では、近隣の児童館の乳児グループに職員を派遣し、子どもとの遊び方や子育ての仕方を伝える出前保育を行っている。その際には、わらべ歌遊びや乳児の手遊び、グループ懇談などを行っている。グループ懇談では入園について生活リズムの作り方や食事などについての紹介をしている。												
③	園では年間子育てサービス計画を立案し、近隣の関係機関に働きかけたり、出前保育や園庭保育、ふれあい保育などに参加している保護者に、口頭もしくは文書で意見をもらっているが、件数は多くない。今後は子育て支援の更なる充実に目指し、積極的な広報と地域の需要を確認していく体制を整備され、更に利用率の高い子育て支援を展開されたい。												

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自然物や日本ながらの遊びを取り入れた保育
	内容	子ども達は、散歩時に見つけたまた、職員が集めてきた自然木や木の枝、木の葉、どんぐり、くるみなどの木の実、貝殻や石などの自然物を園に持ち帰り、それを用いて制作活動を行ったり、木製のおもちゃと一緒に用いて遊びを広げたりしている。また、わらべ歌遊びや言葉遊び、手遊びなど、日本本来の遊びを多く経験している。園内には、子ども達が楽しんで作ったアートや職員が工夫したインテリアや椅子などに触れながら、豊かな感性を育て、日本ながらの遊びをすることにより、言語表現も豊かな子どもに育っている。
2	タイトル	子ども達の環境設定に熱心に取り組む職員
	内容	園では、職員が様々な業務や役割の分担を行い、日々の保育や園の運営などに関する事柄も責任を持って対応するように努めている。特に自然物を活用した保育環境づくりを長年研究してきた職員と、各職員が学び合い、遊び場や制作、室内構成など様々な取り組みを行い、楽しみながら環境設定を行っている。職員は、日々、子ども達が楽しく遊べる素材選びを行い、外出先でも流木や木の実、石、貝殻など様々な素材を集め、園に持参し、遊びや環境設定に取り入れている。固定遊具も自然木を活用したアスレチック遊具に改良している。
3	タイトル	作って食べられる喜びの食育
	内容	園では、食育の一環として、枝豆やナス、キュウリ、トマト、ゴーヤ、サツマイモ、米、オクラ、とうもろこしなどを栽培して収穫している。自分達が毎日、水やりをして育てた野菜を収穫する喜び、収穫した野菜を、子ども達が自分達で洗ったり、皮をむくなどし、その重さや肌触り、においなども体験できる環境にある。また、それを調理室に持っていき、調理してもらって味わうことで、苦手な食材も一口食べてみることから、偏食がなくなる取り組みともなっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	目標設定等会議のあり方と言葉の使い方
	内容	指導計画立案の会議で共通理解を深め、実践した内容を計画に照らして反省し、新たなる計画を作成していることを確認したが、それらの文書の文脈や言葉の意味が理解できないものが多い、議論された内容を文書化し、それを持って文脈、誤字、脱字を含めて見直す機会を作ることが必要である。情報公開が求められている昨今、公開を求められても、意味不明な文書は意思疎通を欠くばかりか園長初め職員の質を疑う結果となる。改善を求める。
2	タイトル	子どもの受け入れ時の工夫
	内容	次から次へと預けに来られるお子さんたちを、受け入れる保育士の緊張が伺えるが、毎日のことであり、マンネリと事務的になりやすいことは理解できるが、保護者から見ると、その瞬間のやり取りが一番重要なことであり、今日一日が楽しく過ごせるか、気がかりで暗く過ごすことになるか、の分かれ目になることを再確認して欲しい。80%が満足していても、20%不満があれば、該当者にとっては悲劇である。明るく、やさしく受取り、抱きしめその具合で体温から異常を察知し、保護者とのコミュニケーションに入れる。今一度検討を願うものである。
3	タイトル	園庭の砂、土の状況管理
	内容	園庭の砂、土はこの12月乾燥しているが、6月梅雨時は湿って、水溜りができるという。この環境をどのように管理するのか明確な答えがない。蚊の発生を保護者は指摘し、防虫対策を求めている。同時に砂場の衛生管理と保身に傾注していただきたい。園は地域の顔であることを常に認識し、このことは杉並区及び地域の関係者との話し合いやご協力もとに早期の解決が求められるものである。

調査対象	当該園の0歳児から5歳児までの合計定員91名。利用者総数91名全員を対象として調査を進めた。	
調査方法	調査方法はアンケート方式。杉並区との事前打ち合わせから同区の要望により14の質問項目を追加、また各質問カテゴリ毎に7段階の満足度質問項目を追加して調査を行なった。	
利用者総数(人)	91	
調査対象者数(人)	91	
有効回答数(人)	59	
回収率	64.8	

利用者調査全体のコメント

調査対象総数91名に対して有効回答数は59名64.8%であった。利用者の満足度は平均して比較的高く表れているものの、保護者と保育士との間のコミュニケーション不足と思われる傾向として、登園時と降園時の子供の様子確認について保育士からの確認や申し送りについての評価が低いこと。また発育段階にあった教育内容や保育姿勢についての満足度があまり高くなかった。これは保育園運営理念・方針についての認知度の低さに共通していると思われる。評価員による具体的な事実調査からは特筆する問題点はなかった。この調査結果からは、園の理念や保育方針・内容の明確な実践と保護者への理解。また保護者の多様な価値観や保育への期待感にどのように応え対応しているかについて保護者との意思疎通を図ることが今後の課題と感じられた。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	41	69.5	18	30.5	0	0.0	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	53	89.8	5	8.5	1	1.7	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	50	84.7	7	11.9	2	3.4	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	45	76.3	13	22.0	0	0.0	1	1.7
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	56	94.9	2	3.4	1	1.7	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	41	69.5	15	25.4	3	5.1	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	37	62.7	19	32.2	2	3.4	1	1.7
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	50	84.7	9	15.3	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	47	79.7	6	10.2	2	3.4	4	6.8
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	51	86.4	5	8.5	0	0.0	3	5.1
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	49	83.1	5	8.5	1	1.7	4	6.8
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	52	88.1	7	11.9	0	0.0	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	48	81.4	11	18.6	0	0.0	0	0.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	46	78.0	11	18.6	1	1.7	1	1.7
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	49	83.1	8	13.6	1	1.7	1	1.7
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	55	93.2	4	6.8	0	0.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	49	83.1	10	16.9	0	0.0	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	40	67.8	17	28.8	2	3.4	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	30	50.8	21	35.6	2	3.4	6	10.2
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	30	50.8	23	39.0	1	1.7	5	8.5

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	25	42.4	20	33.9	10	16.9	4	6.8
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	24	96.0	1	4.0	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	24	96.0	1	4.0	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	29	49.2	22	37.3	3	5.1	5	8.5

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 園が目指す理念と方針の明示として、職員室には「大宮保育園保育目標」が良く見える位置に掲示されている。その他にも杉並区が作っている保育園施設案内パンフレットとは別に、園独自に作成している「園のしおり」や「園だより」を保護者に提供するために、園内に掲示コーナーを設けている。職員会議は職員室で行い、事業所の目指す方針や目標は常に認識できるようになっている。
- ② 園長は自らの責任と計画のもとに、園の方針や目標を話し合い、保育士の資質向上と安全安心の保育を目指して毎月1回、半期1回の職員会議を実施している。職員会議では園長より行政からの福祉政策の方針や施策の内容が伝達され、地域社会の動向なども職員に伝えている。そして園としての施策実現や対策に向けた話し合いが行なわれている。また園の方針に対して保護者の声や職員の意向も吸収することに勤めている。
- ③ 重要案件の決定は主として職員会議の場で行なっている。緊急な課題などの場合は園長と主査の間で話し合い決定する場合もあるが、その決定にいたる経緯は、職員会議で説明され職員の理解を図っている。利用者などへは保護者会で伝えることを公式としているが、日常的には毎月定期発行している「園だより」で文書化して伝えている。

2	カテゴリ2	
	経営における社会的責任	
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(B)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

評価項目2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
◎あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目3

地域の関係機関との連携を図っている

評点(A+)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
◎あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ◎あり ○なし

地域関係機関ネットワークとして併設されている児童館を事務局として、「松ノ木地域子育てネットワーク」で積極的に活動している。園長、主査、保護者2名がメンバーとして定期的に活動し、シンポジウムで子育て支援としての赤ちゃん事業に継続的に取り組んでおり、行政と地域の結びつきにも大きく貢献している。今後は保育士としての意識付けと人材育成に向けて職員の参加も検討している。

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 福祉サービス従事者が守るべきものとして職員室には、杉並区で編纂した関係法令や規定を集約した要綱集および児童福祉法、職員ハンドブックを備え職員がいつでも閲覧できるように開示している。園として職員に法や規定の遵守、倫理の高揚に向け理解を深める場は職員会議において職員指導計画の一環として実践している。
- ② 開かれた組織としての取り組みは、杉並区からの外部監査を定期的に受け、園の運営や予算収支について開示している。また東京都が主導する福祉サービス第三者評価も受審して評価結果をインターネットにより公開している。地域への開示は「オレンジ通信」を毎月発行して、児童館、近隣の小学校などに「園のしおり」も加えて30部ほど配布して園の保育方針や園児の様子を伝えている。
- ③ 事業所としての園の機能や専門性は、地域で取り組んでいる「ふれあい保育」「トトロの会」などに加わり保育についての理解・啓発に努めると共に、待機中の保護者からの相談や体験保育(遊びの提供)も積極的に受け入れている。また地域の小・中学校・児童館に講師として職員の派遣や遊びの提供を行なっている。保育士を目指す学生の実習や地元中・高生によるボランティアの受入も、園独自の受け入れ体制を設けてマニュアルを作成している。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○ 非該当	
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○ 非該当	
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○ 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者などからの苦情解決制度は杉並区で定めている制度で運用している。園内の廊下の壁や掲示板に苦情解決への申し出でから解決までの間の窓口や相談者などを案内したポスターを、保護者に見やすい場所に掲示している。利用者からの意見・要望・苦情などは、速やかに保護者個別に聞き取りし、応急対応の後に職員会議の場で検討し改善を話し合い解決している。
- ② 利用者の意向は年に1回定期実施する「保護者会アンケート」、行事の実施後にとる「行事アンケート」で園の運営や活動内容に関する把握に努めている。アンケートから取りまとめられた保護者の意向は、あらためて個別面談や「父母会だより」を通じて具体的にその現状や問題の把握を行なっている。園では「迅速な対応」をモットーとし、職員会議で対策や改善案などを検討し、職員全員が周知徹底するよう取り組んでいる。
- ③ 地域・事業環境の収集は東京都社会福祉協議会の機関誌や行政など関係機関の情報誌やメール配信から収集すると共に、児童館を事務局とした「松ノ木地域子育てネットワーク」を通して地域環境の収集に努めている。また区が主催している保育園や障害児を預かる園長たちの福祉に関する検討会の場で収集された情報に関わる福祉ニーズや事業動向について整理・分析が行なわれている。

カテゴリ4

4 計画の策定と着実な実行

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	計画の策定と実行面は区の中長期計画で制定した「五つ星のサービスを目指す杉並区」の保育園版「杉並子供子育て行動計画」により中期的な保育目標と保育計画を立てて明示し取り組んでいる。年度単位の計画の核となるものとして、区保健福祉部の様式例1に基づいて立てられた「組織の目標」がある。また短期的な取り組みについては、職員に活動を委任した4つのプロジェクト(会議・防犯・行事・緑日)を組織して週・月の計画を立て推進している。
②	取り組み課題の設定については、新年度始めに区の方針明示や職員の異動等があるために、職員の配置が完了する4月から5月始めにかけて職員会議で話し合い決定することが慣習として決められている。課題の策定には杉並区の「子供未来構想」の把握と共に、地域ニーズや事業動向を考慮しながら、0歳児から5歳児を担当している保育士や看護師、栄養士の職員が抱えている園児の保育課題や保護者の意向などを反映しながら計画設定されている。
③	利用者の安全確保・向上については、杉並区で制定している「危機管理マニュアル」に基づいて取り組んでいる。区全体や周辺地域の事故や危険に関する情報を区から発信されるメールによって収集し、園としての対応策を検討し、2ヶ月に1回防犯訓練を実施している。園の職員全員の取り組みによる防犯対策の実践状況は区への報告、保護者会や園だよりを通じて伝えられている。

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	園が必要とする職員の人材は、杉並区の人事制度に基づいて採用している。担任への配置については、本人の経験の有無や希望などを話し合い、職務能力を見ながら可能な範囲で適材適所に取り組んでいる。人材育成も杉並区の制度をもとに計画的に行なっており、研修後はレポートをもとに職員会議で研修報告を行なうと共に、日常保育の中にどのように実践できているかのフォローも会議の中で話し合っている。職員個人も積極的に自由研修を行なっている。
②	保育士、看護師、栄養士それぞれ日々の実務の中に起きることは随時担当別に関わりなく、職員同志で話し合い解決して行く体制にしており、職員の話し合いで対応困難な問題は主査・園長に相談するようになっている。職員の気付きや改善提案なども職員間で日常話し合い実践しながら共有する必要があるものはレポートし、職員会議の中で報告し共有化している。
③	職員の給与や昇進など人事評価は杉並区の制度に基づいて行なわれているが、休暇については全ての職員が平等に取るよう配慮している。年度始めに職員で話し合って決めた17年度チャレンジプランでは「こんな職場にしたい:大宮保育園に預けてよかった!元気な声がこだまする保育園」「そのためには:保護者と職員の信頼関係をつくります。職員のスキルアップ・レベルアップを図ります」を掲げて職員が主体的に取り組んでおり、自由に意見が言える雰囲気大切に、チームワークがとれている。

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	情報の機密保持や運用管理については杉並区で制定している「個人情報保護規定」を準用して管理・運用されている。収集された個人に関する情報や園の運営に関わる情報は、内容別に分類してファイルされ、情報を必要とする職員がいつでも閲覧できるように整理されており、新年度の更新や新たな情報への差し替えも随時行なわれている。ファイルは関係者以外のもので勝手に取り出せないように鍵のかかるロッカーに保管されており、園長、主査が管理している。
②	個人情報の保護や利用目的などについての規定は杉並区の個人情報保護規定を文書化して園内に明示されているが、保護規定の目的や開示請求に対する対応のし方を、職員に対しては新入所職員には研修オリエンテーションで、実習生やボランティアについても利用者保護の使命のもとにマニュアルの中で説明し理解をつくっている。
③	

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
	改善の成果	
	<p>17年度は組織の目標・課題として「大宮保育園でよかった!」という保護者の声と「楽しいことがいっぱい!」という子供の声が聞こえることを経営層と職員層が共通目標として目指している。またその実現のために「日常業務目標」「人材育成目標」を掲げて取り組んでいる。そのための具体的な手段として今年度は新たに「会議プロジェクト」では会議の進め方の効果性と合理化を図り、「防犯プロジェクト」では予防対策の検討と訓練を、「行事プロジェクト」では各種行事について保護者の声を反映しながら園とのコミュニケーションを高めて行くこと、「縁日プロジェクト」では楽しい遊びの提供を目指すなど4つのプロジェクトを立ち上げて活動している。その成果は利用者アンケートに現れている。園のサービス内容や保護者との関わり交流に対する満足度の高さからうかがい知ることができる。</p>	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」 		
改善の成果		
<p>園からの情報発信の中心は日々の中で保護者に向けた「図書だより」や「草花だより」などの各種お便り発行にある。中でも今年度はクラス担任保育士による「クラスだより」の発行が活発に行なわれ、幼児クラス全体の合計として、すでに100号を越えている。また貸し出し圖書の設置も実現し、保護者からの反応も良く、保護者との日々のコミュニケーションが向上している。これらの状況は事業所の理念実現への園長の方針に基づくこととはいえ、それを実践することができる保育士や職員の組織的な協力や実務能力の向上があればこそといえる。何がどれだけといった定量評価はできないが、利用者の満足度の高さによって評価を推し量ることができる。</p>		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 		
改善の成果		

園では、組織目標について保育に関する具体的な目標を年ごとに定め、目指す姿の課題をもとに、子どもへの対応、職員間の協働、人材育成などの細部にわたる取り組みについてのテーマを持って職務を遂行し始めている。この職場の目標が、保育目標に反映され、年間指導計画骨子になり、各クラスの年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画となり、保護者の満足度を向上させている。業務改善として記録用紙の見直しも行っている。個人情報の保護・共有においても、年間指導計画骨子に盛り込み、日々、実践している。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面に於いては保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し、運営費の増加6%職員費はダウンしているが全体的に区の自主財源で賄っているの向上していると考えられる。園では財務に関して改善を考える範囲は水道光熱費や消耗品費をいかにして予算内に納め、前年実績を越えずどれだけ引き下げられるかに留まっている。環境対策との混同も感じられる。コピー紙は裏表使う、ペーパータオルの使用量を抑える、などの範囲からこれからは事業所の経営としての財務改善に目を向けて行くことが求められる。区立による予算管理制度という現状から、今後どのようにして事業所としての経営責任の中から財務の改革・改善を実践して行くかが重要課題のひとつと思われる。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

A+ A B C

・カテゴリ3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

改善の成果

年に一度の保護者会アンケート、行事開催毎の行事アンケートと利用者意識に対する収集や把握。保護者との降園時の「ティータイム」を通じたコミュニケーション、利用者の思いを受け止めることに良く取り組んでいるといえる。その反面大宮保育園の運営方針に対する保護者の認知度は42%と低い。利用者意識の捉えかたに偏りがあるように思われる。一方地域や事業環境に関する把握と取り組み方は積極的に行われている。区併設の児童館を事務局にして地域ネットワーク活動を通じての収集と把握。区主催による関係機関責任者の検討会参加など広範囲な事業環境を良く把握し向上しているといえる

カテゴリ8の講評(一つ以上)

- ① 経営層のリーダーシップによる園運営方針の実践。保育士、看護師、栄養士の協力体制とチームワーク。経営層と職員層が自由な意見の話し合いによって立てられた組織目標。そしてその実現のために日常実務に並行して取り組む4つのプロジェクト。事業所としての組織の運用と目標実現への着実な取り組みは今後に向けて評価できる。
- ② 限られた人員と人材配置の中で日常実務に加えて課題達成のプロジェクトを推進する。また担任保育士からの活発なクラスだより。保護者の思いを掴むための行事毎のアンケート収集と改善等々。この姿は職員達によって園の理念を目指そうとしている思い、そして利用者により良い保育サービスを提供しようとする実務スキルとレベルのアップから生み出される相乗効果、職員の実務能力が向上している成果といえる。
- ③ 園長、主査、保護者2名の協力による地域ネットワークへの参加と活動の取り組みは活発に進められているが、さらに今後は保育士などの職員の参加へ拡大する計画を持っていることは、職員の能力向上への相乗効果を持つ可能性として評価できる。施設として専門領域の地域還元貢献。還元活動を通じてより良い保育事業への職員人材育成。大いに取り組みを期待する。

II サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <div style="text-align: right;">評点(A)</div>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	当園では、区の保育情報誌やホームページ以外に、園が作成している「入園のしおり」という冊子がある。「入園のしおり」には、保育目標や定員、0～1歳児のデイリープログラム、1～2歳児及び3歳児以上の保育園の1日、乳児の発達の目安、健康として年間保健行事、与薬説明、治癒証明書、年齢別の持ち物、登降園時の留意点、園医などが記載されている。園だよりには月の行事や、お知らせなどが掲載されており、クラスだよりは、発行回数の多いところは4月から11月まで25号発行している。	
②	園の情報には、各月には園だより、クラスだより、保健だより、オレンジ通信(地域の子育て支援のための機関紙)を、随時の取り組みとして図書だより、草花だよりを発行している。オレンジ通信は児童館、近隣の小学校、医療機関の待合室などに「園のしおり」も加えて30部ほど配布し、取りやすい位置においてもらっている。クラスだよりや保健だよりもイラスト入りで見やすくなっている。図書だよりは、読み聞かせの効用や新刊紹介、草花だよりは園内の草花の紹介や種や球根の寄付についても載せている。これらは職員の発案で発行されている。	
③	見学希望や入園検討中の保護者が気軽に園を訪れやすいように園庭解放やふれあい保育を広報したり、オレンジ通信を配布している。また、地域支援事業としての赤ちゃん事業、トトロの会なども受け入れている。見学希望があれば都合の良い時間に来てもらい、園長らが園内を案内している。見学者には利用者の見学目的を聞き、その上で園内を案内し、希望するクラスの遊びを見てもらうように努めている。園では「心もからだも健やかに」育てていることや「えがおであいさつ げんきなこえがこたます。ほいくえん」を実感してもらっている。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点 (A+)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

見学希望や入園検討中の保護者が気軽に園を訪れやすいように園庭解放やふれあい保育を広報したり、オレンジ通信を配布している。また、地域支援事業としての赤ちゃん事業、トロロの会なども受け入れている。見学希望があれば都合の良い時間に来てもらい、園長らが園内を案内している。見学者には利用者の見学目的を聞き、その上で園内を案内し、希望するクラスの遊びを見てもらうように努めている。園では「心もからだも健やかに」育てていることや「えがおであいさつ げんきなこえがこだまする ほいくえん」を実感してもらっている。

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点 (A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)													
①	入園前の面接の際には、子どもの心身の健康状態や生活状況、喫食状況、アレルギー児、子どもの個性や遊び、嗜好などについて保護者の提出している書類をもとに話し合いをし、入園後の生活が円滑に送れるように充分、話し合い、児童票や発達経過記録、個人面談表などに記録している。特にアレルギーに対しては毎月、その状況を確認し、献立を調整したり、配慮についてしっかりと話し合い、それを献立記録にしている。また、病気や障害を有する子どもは、個別の配慮について担任や園長、看護師、調理師らが個別に相談に応じている。												
②	入園説明会では、「入園のしおり」にそって園の目標や持ち物についての具体的な説明や怪我や病気の際の対応、日常の注意事項、災害時の子どもと待ち合わせる場所や引取り者についての話をしている。また、不審者対策として10時から16時までの施設やそれ以外の時間も職員が十分に気を配っていることや個人情報保護に関する子どもの写真や記録に関する取り扱いについても話し、同意を得ている。持ち物については布団カバーや布団袋の作り方や名前をつける位置等がわかりやすく記載されている。												
③	入園直後の子どもの不安を軽減するための配慮として、ある程度の慣れ保育期間を設けたり、クラス内でも一人の保育者がいつも特定の子どもの関わりを深めるための保育をしている。保護者の仕事の都合にも応じるが、余裕があれば保護者に子どもと一緒に保育に参加してもらうようにし、食事風景を見てもらおうようにしている。子どもにも保護者にも精神的な安定が得られるように、優しく穏やかな対応をしてストレスを軽減している。また、子どもも保護者も落ちつけるように和める空間作りを行っている。												
サブカテゴリ3													
3	個別状況に応じた計画策定・記録												
	<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点(A+)</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
	評価	標準項目											
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当											
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当											
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当											
【標準項目を超えた取り組み】	●あり ○なし												
<p>子どもの日々の様子を記載する連絡帳や日誌の様式をクラスの職員間で見直し、効率的で書きやすく、誰もが見てすぐに内容がわかるようにしている。乳児の連絡帳には記号やタイムテーブル、家庭からの欄と園の欄が、乳児の日誌には個別のタイムテーブルをもとに、薬の有無や検温(午前、午後)の記入欄、観察事項、生活、遊びなどを区別して書き込めるものとなっている。</p>													

評価項目2
 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(**A+**)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

職員は年間保育目標に基づき、保育計画を各年齢ごとに設定した一覧表を作成している。また、各クラスごとの具体的な年間指導計画骨子を作成し、クラスの特徴、目標、どんなクラスにしたいのか、どこを重点に保育していくか、室内環境、クラス運営(大人と子ども、大人同士)、保護者への対応、保護者会の項目を設けている。この骨子に従い、半期ごとに反省をし、職員一人一人が自らの保育の評価と反省を行っている。

評価項目3
 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(**A**)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 職員は年間保育目標に基づく、保育計画を各年齢ごとに設定した一覧表を作成している。また、各クラスごとの具体的な年間指導計画骨子を作成し、クラスの特徴、目標、どんなクラスにしたいのか、どこを重点に保育していくか、室内環境、クラス運営(大人と子ども、大人同士)、保護者への対応、保護者会の項目を設けている。この骨子に従い、半期ごとに反省をし、職員一人一人が自らの保育の評価と反省を行っている。日々、保育についての目標を設定し、自己評価を行う取り組みは、職員の保育に対する思いの強さを感じる。
- ② 子どもの日々の様子を記載する連絡帳や日誌の様式をクラスの職員間で見直し、効率的で書きやすく、誰もが見てすぐに内容がわかるようにしている。乳児の連絡帳には記号やタイムテーブル、家庭からの欄と園の欄が、乳児の日誌には個別のタイムテーブルをもとに、薬の有無や検温(午前、午後)の記入欄、観察事項、生活、遊びなどを区別して書き込めるものとなっている。職員は、より子どもの姿が把握しやすく課題が整理しやすいように、また、保護者と職員、また職員同士の情報の共有が図りやすくなるように配慮している。
- ③ 保育計画には、園の保育目標を元に「健康な子ども」、「心豊かな子ども」、「自分も人も愛せる子ども」、「自分で考えて行動する子ども」の項目別に子どもの発達上の課題や職員の留意点をコンパクトにまとめたものと各クラス用の指標を持ち、月間保育計画や週間保育計画を展開し、毎月、評価反省をしている。各クラスの保育計画は子どもの状態やニーズが異なっている場合や、保護者の意向や要望により修正や改良の必要がある場合、クラス内、乳児・幼児ごと、全体の職員会議、また、各部門別の会議などで見直しや検討がなされている。

5 サブカテゴリ5
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

年間指導計画骨子内の「どこを重点に保育していくか」には、個々の対応や言葉かけを大切に丁寧にかかわることを定め、乳児にも呼び捨てやニックネームでなく名前と呼ぶことなど具体的な対応を設定し、半年に一度、各職員が見直し、職員会議で報告しあう取り組みをしている。

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 年間指導計画骨子内の「どこを重点に保育していくか」には、個々の対応や言葉かけを大切に丁寧にかかわることを定め、乳児にも呼び捨てやニックネームでなく、名前と呼ぶことなど具体的な対応を設定し、半年に一度、各職員が見直し、職員会議で報告しあう取り組みをしている。職員の組織目標にも「大宮保育園でよかった!」「楽しいことがいっぱい!」を設定している。職員はこの目標に従い、どのようにすればよくなるのかの視点で、子どもや保護者の人権や個性を尊重し、それを守れる職員になるよう、日々努めている。
- ② 園では、保護者の価値観や生活習慣を日々の会話や連絡帳、大きな行事後のアンケートなどで把握するように努め、その支援方法については、自らの保育及び園に対する見直しとして、できる限り保護者の要望に沿えるように努めるように取り組んでいる。今回の調査では、保護者の満足度は非常に高い数値を示し、自由記載にも感謝の意を表するものが多かった。今後も今以上に職員の対応についての質の向上に努められるとさらに満足度が向上すると思われる。

③

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

園では、組織目標について保育に関する具体的な目標を定め、子どもへの対応、職員間の協働、人材育成などの細部にわたる取り組みについてのテーマを持って職務を遂行し始めている。この職場の目標が、保育目標に反映され、年間指導計画骨子になり、各クラスの年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画となっている。

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

職員自らが発案し、実施となった図書プロジェクトや草花プロジェクトは、各職員の専門性や保護者の協力のもとに実施されている。その成果は子どもや保護者に還元され、絵本を借りた子どもは家でゆっくりと読み聞かせてもらえ、草花プロジェクトは園の自然環境を向上させている。それぞれの図書日より、草花日よりを発行している点も評価できる。

評価項目3 【標準項目を超えた取り組み】の「あり」「なし」をチェックしてください

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点()

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ○なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 園では、組織目標について保育に関する具体的な目標を定め、目指す姿「子どもも大人も生き生きと」の課題をもとに、子どもへの対応、職員間の協働、人材育成などの細部にわたる取り組みについてのテーマを持って職務を遂行し始めている。この職場の目標が、保育目標に反映され、年間指導計画骨子になり、各クラスの年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画となっている。保育サービスに関する視点から、各サービスや業務を見直す取り組みは謙虚な姿勢がなければできない取り組みである。今後も努力され、まい進されたい。
- ② 区で作成したマニュアルが基本とし、当園では防犯マニュアルや怪我防止マニュアルを作成し、日々の職務に繁榮させている。また、職員自らが発案し、実施となった図書プロジェクトや草花プロジェクトは、職員の業務改善への取り組み姿勢をあらわしている。これらのプロジェクトは各職員の専門性や保護者の協力のもとに実施されている。その成果は子どもや保護者に還元され、絵本を借りた子どもは家でゆっくりと読み聞かせてもらえ、草花プロジェクトは園の自然環境を向上させている。それぞれの便りを発行している点も評価できる。
- ③ 職員は日々の職務の見直しをプロジェクトとしての提案や見直し、各クラスごとの反省や評価を行うほか、さまざまなマニュアルについても必要に応じ確認したり、年度末に全体の反省をするなどして点検している。また、職員は、保護者からのアンケートや意見、要望が上がった際だけでなく、積極的に改善の必要を感じたことが生じた場合には、職員会議で意見を述べたり、提案し、改善への取り組みとしている。日常的に使用する日誌や連絡帳、個人面談記録の書式も見直し、年ごとに必要に応じた改良を行っている。内容は園長や主査らも確認している。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ◎あり ○なし			
子どもが自発的に室内で遊びやすいよう、環境プロジェクトチームを持ち、園庭の遊具を見直したり室内環境の整備をすることで子ども達が遊びこめる環境づくりに励んでいる。例えば、今まではブランコとして使用していた固定遊具に船舶用に使用しているロープをネット状に編んでアスレチックの遊具にして子ども達が自ら積極的に遊びたくなる環境づくりを推進し、それらを使用して遊ぶ時間を充分にとるようにしている。			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	子ども一人一人の発達や心身の状況、保護者との会話や連絡帳等でのコミュニケーションと、日誌への記載により日々の子どもの全体像を把握し、児童票や発達経過記録、個人面談記録等に記載している。その記録に基づき、年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画をも直したり、必要に応じて個別計画を見直しながら、様々な遊びの準備をしたり、子どもの興味・関心を高めるための取り組みを設定している。子ども達はその中で、様々な活動により元気いっぱいからだを動かしたり、集中して室内遊びを楽しんだりしている。		
②	園では、子ども達の自主性や自発性が育つよう、毎日の遊びの中で外遊びを充実させる時間と、室内でじっくりと遊びこめる時間を用意し、それぞれの遊びが充実するように努めている。散歩では、自然豊かな公園に今日も行こうと、杉並児童交通公園や緑陰広場、和田掘公園、子どもの広場、ひょうたん池、大宮八幡宮などの様々な場所で走り回ったり、自然を満喫している。園内では、リトミックや自然物や廃材を利用した制作、楽器遊びやリズム遊び、歌唱、手づくりのおもちゃ(例えば吸盤と縄跳びの紐で作った聴診器や布製の手まりなど)で楽しんでいる。		
③	園では、子どもが自発的に室内で遊びやすいよう、園庭の遊具を見直したり室内環境の整備をすることで子ども達が遊びこめる環境づくりに励んでいる。例えば、今まではブランコとして使用していた固定遊具をアスレチックの遊具に改良して、子ども達が自ら積極的に遊びたくなる取り組みをしている。また、園庭にはブロッコリーやトマト、なす、きゅうり、とうもろこしなどの野菜や季節折々の草花を育てて植物の成長を観察したり、収穫している。この他、めだかやトンボを飼育し、それぞれが産卵後の飼育も続けている。		

評価項目2		【標準項目を超えた取り組み】の「あり」「なし」をチェックしてください	
栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している			
2			評点()
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している		○非該当
◎あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している		○非該当
◎あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている		○非該当
◎あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている		○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ○なし			
離乳食の時期を確認しやすくするために、離乳食の提供表を作成し、その表に子ども一人一人の名札をつけてどの時期にいるかがわかるようにしている。その表は、職員も保護者も見やすい位置に掲示している。また、離乳食の各期ごとの食事を子どもに提供している量で盛り付けて展示している。			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	毎日の献立は区で作成したメニューで提供されているが、園では子ども一人一人の健康状態や食欲、咀嚼などの状態に応じた食事提供となるように、日々職員が連携しながら、調整し、提供するようにしている。アレルギー児の食事においては、保護者と担任、栄養士、調理士等と毎月話し合いをし、献立の内容を確認したり、除去食や代替食を決定している。また、配食の際に間違えないよう、トレイは色分けし、それぞれに除去内容が記載された名札を乗せて間違えないように職員が確認して配膳し、誤食の内容に努めている。		
②	離乳食の時期を確認しやすくするために、離乳食の提供表を作成し、その表に子ども一人一人の名札をつけてどの時期にいるかがわかるようにしている。その表は、職員も保護者も見やすい位置に掲示している。また、離乳食の各期ごとの食事を子どもに提供している量で盛り付けて展示している。冷凍母乳も持参可能で、希望に応じて調理室で調乳してもらえ。離乳食は、子供一人一人の離乳状況に応じるため、担任、栄養士、調理士等で会議を持ち、子どもに適した食事提供ができるように努めている。食事時間は基本的に個別対応をしている。		
③	各クラスでは椅子の背もたれにカバーをつけて安全性に配慮したり、食事時にはテーブルクロスやランチョンマットを使用している。テーブルクロスやランチョンマットの使用は子ども達が楽しく明るい雰囲気ですべて食事ができている。また、日常使用する机であっても食事時間として子どもも認識でき、気持ちを切り替えられるため遊び食べの防止ともなっている。また、椅子は子どもの成長に合わせて使い分けられ、足が届かない場合には、足台を使用するなどの配慮もしている。また、食に関する保護者からの相談には、担任、看護師、園長も随時応じている。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点 (A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし			
看護師は乳児クラスにおいては十分な視診をし、保護者や担任にもわかるように健康状態を伝え、感染症などに関する知識も伝えるようにしている。その際に、保護者との個人面談や個別の相談の時間として活用されており、園と家庭、看護師や職員と保護者間での情報の共有化が図られている。			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態は、看護師や職員による朝の視診、乳児は検温、保護者からの連絡や連絡帳などにより把握している。特に乳児クラスにおいては、免疫力の高くない時期の生後5日児も受け入れているため、看護師は乳児クラスにおいては十分な視診をし、保護者や担任にもわかるように健康状態を伝え、感染症などに関する知識も伝えるようにしている。また、幼児クラスの子どもの体調不良時には、散歩などの活発な活動を避け乳児の部屋でのんびりと過ごしたり、受診の必要がある場合には保護者と連携をとりながら対応するようにしている。		
②	園では、健康を確認する機会として0歳児は月2回、1～5歳児は年2回の健康診断と眼科検診、歯科検診、耳鼻科検診を実施し、健康観察記録や健康ノートに記載し、保護者や職員との情報の共有化を図っている。また、園では乳幼児突然死症候群の防止のために、0歳児は10分おきに、1歳～2歳児は15分おきに午睡チェック表に記録している。感染症流行時期には保健だよりやポスターで知らせたり、感染症の発生が見られた場合には早急に貼り紙を作成し、保護者が目につく場所に貼付している。保健だよりは見やすく、充実している。		
③	子ども達の健康管理においては職員がすぐに対応できるような手引書(医療マニュアル)があり、職員はわからないことがあると看護師に相談し、適切な対応ができるように努めている。健康管理においては手洗いやうがいの指導を充実させるように努めたり、乳児の口拭きやおしぼり等は衛生面や保護者の負担を軽減させるために園で洗うようにしている。薬品類は看護師が責任を持って薬用冷蔵庫に保管し、区の規程と医師の指示通りに対応している。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし			
子ども達の健康管理においては職員がすぐに対応できるような手引書(医療マニュアル)があり、職員はわからないことがあると看護師に相談し、適切な対応ができるように努めている。健康管理においては手洗いやうがいの指導を充実させるように努めたり、乳児の口拭きやおしぼり等は衛生面や保護者の負担を軽減させるために園で洗うようにしている。薬品類は看護師が責任を持って薬用冷蔵庫に保管し、区の規程と医師の指示通りに対応している。			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	行事には園主催の行事と保護者主催の行事があり、共に協力し合って様々な行事が行われている。園主催の行事には全クラス参加の行事と幼児参加、年長児参加のものがある。全クラス参加の行事には日フィル出張コンサート、縁日ごっこ、運動会などがある。縁日ごっこでは、子どもが作ったお面やゲーム、職員が企画して演じたパネルシアターやヨーヨーつり、保護者が出展したアートバルーンや物々交換のコーナーなど、充実したものとなっている。また、運動会は、2歳以上の参加とし子ども達に無理なく楽しめるものになっている。		
②	各クラスの室内は一人ずつ好きな遊びができるようコーナーを設定してある。乳児の遊びのコーナーは、牛乳パックでつくった本物そっくりのキッチンコーナーがあるままごとを楽しむコーナー、木製の汽車とレールを用いての電車遊びや積み木などで遊ぶコーナー、絵本がゆっくり読めるように配慮したコーナーなどが用意されている。キッチンコーナーには、電子レンジ、冷蔵庫、手づくりおもちゃの食材なども手作りされており、仕切られた空間でのんびりと遊んでいる。絵本もウォールポケットを使用したり本棚からとる出しやすく片付けやすくなっている。		
③	園では、寝食分離をしたり、子どもの発達年齢や生活状況に応じて環境を改善したり、季節感がある空間づくりに努めている。おもちゃは子どもの遊びを見ながら交換したり、使用しやすいように配置したりしている。色だまつくりのために羊毛の繊維を置いたり、松ぼっくりやどんぐりなどの自然物もいつでも素材にできるように用意している。色鉛筆やはさみなども用いて、集中して遊べるコーナーもある。昼寝は子どもの生活リズムに合わせてるように配慮しているが、更に午睡への取り組み方については今後の検討課題としている。		

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

月1回、午後4時から6時45分までをティータイムとして、保護者がゆっくりとお茶を飲みながらくつろげる場所と時間を作っている。ティータイムを実施する部屋には草花を飾ったり、子どもから見えないように工夫することで、子育ての疲れを癒す空間作りを行っている。父母の会の活動も活発で、父母の会だより「つくしんぼ」を発行したり、独自の行事を開催するなどの取り組みをしている。

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 当園では父母会の活動が活発でクラスごとの懇親会(保護者間の交流を図っている)や、自主的に父母会だより「つくしんぼ」という会報誌を発行している。父母会では、ミニコンサートや人形劇を呼び、鑑賞する機会をもったり、ロコミ小学校ガイドやロコミお医者さんガイドの作成、子供服の物々交換、子ども祭りにはバザーやパントマイム、ミュージックシアター、コンサートなども開催し、子育てシンポジウムにも協力している。園主催の縁日ごっこでは、アートバルーンや物々交換などの出展もし、園と共同した取り組みを行っている。
- ② 園では月1回、午後4時から6時45分までをティータイムとして、保護者がゆっくりとお茶を飲みながらくつろげる場所と時間を作っている。ティータイムを実施する部屋には草花を飾ったり、子どもから見えないように工夫することで、子育ての疲れを癒す空間作りを行い、保護者の要望や意見の収集を図る機会ともなっている。園では、保護者の申し出があれば、約束した保育時間外の対応も柔軟に行っている。園では、土曜日に運動会を行ったり、大きくなったね会与保護者会を同日に開催することで、保護者の便宜を図るようにしている。
- ③ 毎日の子どもの様子は連絡帳や幼児クラス前に掲示しているホワイトボード、園だより、クラスだよりで知らせるようにしている。年間行事予定に保護者に参加していただきたい行事を夏祭り、運動会、大きくなったね会を掲げて、その協力を依頼している。保護者会や個人面談は各クラスごとに計画され、実施されている。懇談会では、グループ面談なども行い、保護者が気軽に話せたり、子育ての楽しみや悩みを共有できる機会を持っている。また保育参加や参観はいつでも可能としている。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 虐待防止や育児困難家庭の支援を職員が適切に行えるように、区や保健センターなどの研修に参加したり、研修に参加した職員が研修報告を職員会議や資料及び報告書の回覧により、周知徹底している。また、園内でも気になる子どもや職員の経験した事例があれば日々、その様子を報告しあったり、事例検討会などを行うことで職員全体の意識や情報の共有化を図る仕組みを持っている。近年、横行している虐待には、身体的虐待や育児放棄だけでなく、過度な干渉やしつけも少なくない。保護者の気持ちの理解と子どもの養護に更に励まされたい。
- ② 園では、区が作成している虐待防止マニュアルに従い、区や保健センター、児童相談所などの専門機関とのネットワークにより、虐待を受けていると思われる子どもや育児のストレスや不安が強く、適切な子育てが困難ではないかと思われる子どもを発見した場合には、職員間で事実確認している。もし、支援の必要があると思われる場合には担任や園長が個人面談などをして、保護者の気持ちを受け止めるように努めることとしている。
- ③ 子育ての不安やストレスの原因ともなりうる子どもの発達の遅滞や育児の仕方がわからない家庭への支援のために、保護者会でテーマ別の悩みの共有化やその解決策について話し合う機会を持つようにしている。園では、子育てに関する相談をいつでも受け付けており、看護師や園長、職員らが相談に応じている。父母会が開催している各クラスの懇親会もピアカウンセリング機能を持つ取り組みである。月1回のティータイムも保護者のストレスを解消する取り組みとなりうる。様々な機会を通じて、全ての保護者が子育てを楽しめるような取り組みを期待したい。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	園では、子ども達にさまざまな人と交流する機会を持てるよう、中学生、高校生の職場体験を受け入れている。中学生・高校生のボランティアは年間20名、延べ100日間の参加であり、子ども達は保護者とも職員とも、在園する異年齢の子どもとも異なる雰囲気を持つお姉さんやお兄さんと遊ぶことで、日頃できない遊びやかかわりを経験している。園は、ボランティアセンターや学校との連絡を取りあっている。
②	園では、児童館や保健センターなどから入るされたポスターを掲示したり、区や都のお知らせなどを配布したり、見やすい場所に張り出すなどすることなどの情報提供をしている。また、園長や職員は出前保育や児童館での子育て講座の講師などを引受け、子育て支援のサポートをするように努めている。また、地域の親子に「あそびにきませんか」や夏祭り、運動会の参加を呼びかけている。
③	
評価項目8 【標準項目を超えた取り組み】の「あり」「なし」をチェックしてください 地域子育て支援の充実に努めている 評点()	
8	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている ○非該当
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある ○非該当
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ○なし	
評価項目8の講評(一つ以上)	
①	地域の子育て支援として、地域交流事業である「トトロの会」で、地域の親子と遊ぶなどの交流をしている。また、来園した保護者の一人一人と丁寧にコミュニケーションをとるように努め、その話の中から子育ての不安やストレスを理解しながら相談にのり、安心してもらえた経験を園では持っている。こどもとの関わり方を伝える役割を当園は温かいまなざしで支援しているといえる。
②	園では、地域の子育て支援を展開する中で、不審者や事故にいつ会うかわからない時代と感じ、地域のさまざまな人にも子ども達を守ってもらいたいと思っている。そのため、保護者や子ども達が地域住民との交流が希薄なことを危惧し、地域住民としての意識を高めてもらえれば・・・と思っている。できれば、年度末のアンケートで保護者にその意向を確認したいと考えている。
③	

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	遊びの充実を目指す保育
	内容	園では、毎日の遊びの中で外遊びを充実させる時間と室内でじっくりと遊びこめる時間を用意し、それぞれの遊びが充実するように努めている。散歩では、「自然豊かな公園に今日も行こう」と、近隣や遠方の公園やグラウンドなどの様々な場所で走り回ったり、自然を満喫して遊んでいる。園内では、アスレチックの遊具や泥遊びや草花での遊び、リトミックや自然物、廃材を利用した制作、楽器遊びやリズム遊び、歌唱、手づくりのおもちゃなどを用いて楽しく遊んでいる。子ども達の遊びは、保育の視点が見直された指導計画に基づき、実施されている。
2	タイトル	父母会の多角的運営と園との連携
	内容	当園では父母会の活動が活発でクラスごとの懇親会(保護者間の交流を図っている)や、自主的に父母会だより「つくしんぼ」という会報誌を発行している。父母会では、ミニコンサートや人形劇を呼び、鑑賞する機会をもったり、ロコミ小学校ガイドやロコミお医者さんガイドの作成、子供服の物々交換、子ども祭りにはバザーやパントマイム、ミュージックシアター、コンサートなども開催し、子育てシンポジウムにも協力している。園主催の縁日ごっこでは、アートバルーンや物々交換などの出展もし、園と共同した取り組みを行っている。
3	タイトル	子育て支援となる環境設定
	内容	保護者が子育てをする際に生じやすい戸惑いや不安、ストレスを解消するために、離乳食の提供時期が明示された確認表や乳児の発達段階表を作成して保護者に提供したり、離乳食の各期ごとの食事を子どもに提供している量で盛り付けて展示することで、離乳期における情報提供を毎日行っている。また各部屋に施されている環境づくりを保護者が見ることで、遊びこめる環境の認識を持つことができる。また、月に1度、保護者と職員で構成される空間で「ティータイム」を持ち、子育ての疲れを癒したり、情報交換や交流する場を作り出している。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	事業所経営の視点に立った財務改善の取り組みが必要
	内容	毎事業年度設定されて事業予算の中に何とか支出を納めようと、経費支出の上昇を抑えムダな費用の発生をなくす努力が展開されている。しかしその取り組み内容には、ペーパータオルのムダ削減やコピー用紙の裏紙使用や裏コピーなどに重点が置かれ偏りが見られている。環境対策と財務改善がすり違ってしまった感もする。これからは過去の延長による予算設定から、今後保育園事業としてどうあるべきかゼロベースの視点から経費全般に改善の見直しをかけて行くことが必要と感じられる。
2	タイトル	短時間で結果を出せる職員会議を実現しよう
	内容	保育士ほか多くの職員に「会議時間を有効に使おう」といった声がある。日々の保育実務の中に見え隠れしている大小の問題を組織として話し合い、深くその要因を見つめ、総合的な判断の中から解決策を見つけ出して行く会議にしたいと言う職員の真摯な意向がある。情報伝達に時間をとられてしまう会議の有り方から、それぞれが事前の準備と計画によって集まり、課題取り組みや問題解決の話し合いに重点を置く職員会議に転換して行くことが必要と思われる。
3	タイトル	保育園の理念・運営方針をもっと保護者の理解向上に努めよう
	内容	利用者アンケートでは保育園の運営方針を知っていると応えた保護者は僅か42.4%。その過半数はよく理解していないということになる。園の理念や運営方針の実現は、職員はもとより利用者の理解と協力が不可欠といえる。日々の保育活動では保育士、看護師、調理師などが組織一体となって実務に専念している姿がある。その姿はどのような理念や方針によっているのかを、あらゆる機会に保護者に語り、共有化し、より多くの信頼と協力を醸成して行くことも、これからの事業活動として必要なことと思われる。

調査対象

調査対象者は91名であり調査記入者は父と母で%であり、年齢層は34歳までが%、35歳以上が%である。対象者の勤務状況は常勤が%である。母の勤務状況は%が常勤となっている。

調査方法

調査対象者数(人)91名に対して、園の協力により調査票を配布していただいた。回収については当機関所定の返信用封筒を用い直接当機関に郵送する方法により個人情報の保護に注意を行った。

利用者総数(人)	91
調査対象者数(人)	91
有効回答数(人)	48
回収率	52.7

利用者調査全体のコメント

保護者の保育士に対する感想としてはおおむねよい評価を述べていますが、中にはパート職員についての不信の批判が幾つかありました。また園の施設の古さについての指摘がありました。これは区が対応すべき問題と考えます。園内への人の出入りの安全面の不安をのべる意見もありましたが、対応を考える必要があります。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	29	60.4	15	31.3	4	8.3	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	40	83.3	5	10.4	2	4.2	1	2.1
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	42	87.5	5	10.4	1	2.1	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	38	79.2	8	16.7	1	2.1	1	2.1
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	40	83.3	7	14.6	1	2.1	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	30	62.5	11	22.9	7	14.6	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	23	47.9	19	39.6	6	12.5	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	43	89.6	5	10.4	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	38	79.2	8	16.7	2	4.2	0	0.0
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	42	87.5	6	12.5	0	0.0	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	40	83.3	4	8.3	2	4.2	2	4.2
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	42	87.5	6	12.5	0	0.0	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	34	70.8	7	14.6	6	12.5	1	2.1
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	29	60.4	16	33.3	2	4.2	1	2.1
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	31	64.6	17	35.4	0	0.0	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	42	87.5	6	12.5	0	0.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	34	70.8	10	20.8	4	8.3	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	32	68.1	10	21.3	5	10.6	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	27	56.3	18	37.5	0	0.0	3	6.3
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	21	43.8	23	47.9	2	4.2	2	4.2

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	30	62.5	9	18.8	8	16.7	1	2.1
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	29	96.7	1	3.3	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	26	86.7	4	13.3	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	40	83.3	7	14.6	1	2.1	0	0.0

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <div style="text-align: right;">評点(A)</div>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(A)</div>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① この園は杉並区の指導の下にあるので、中長期計画は、区の運営の方針に則って行なっている。その事情のもとで、区役所の提唱する「めざせ！五つ星の区役所づくり」チャレンジプラン、の方針に則って「もっとアットホームな保育園」を目指して運営を行っている。またテーマ別(危機管理・保護者対応・年間指導計画)に会議を開催して参加メンバーで検討を行うことにしている。
- ② 年度初めに年間行事計画・役割分担表・プロジェクトメンバー編成などを作成し、職員全員に会議で徹底している。これらの内容は、年度の間(9月)に見直し、年度末に実施状況を反省している。
- ③ 重要案件の策定については、園長・主査間で協議し、その案・方針を示し職員会議にかけて決定することになっている。それによって業務の透明性を保つと同時に参加者意識を持たせる効果を期待する。内容によっては守秘義務を守るように徹底を図っている。

2	カテゴリ2	
	経営における社会的責任	
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 杉並区の指導の下に、守るべき法・規範・倫理については園長以下全員に徹底を図るようにしている。たとえば個人情報保護については、全職員が区の講習を受講し、その他の研修については受講した職員が、その内容を全職員に文書や口頭で伝えたり、会議で説明したりして園内に徹底を期している。
- ② 地域社会に対して透明性の確保のために「遊ぼう会」を行ったり「ふれあい保育」の実施をして地域の親子の参加を求めたり、ボランティアの受け入れなどを行っている。また年間行事で行われる各種行事を一般に開放し参加を促している。毎回かなりの親子が参加して、園児たちと共に楽しんでいる。
- ③ 第三者評価の受け入れは今回で2回目であるが、評価を受ける事による透明性を確保するように心がけ、また園の行事などの諸情報を「ちらし」などで地域に発信することによって、地域に対する透明性を図っている。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○非該当	
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○非該当	
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者に不満が生じた場合に対処する「杉並区保健福祉サービス・苦情調整委員制度」があることを保護者に認識できるように区のポスターを園内に掲示してある。また保護者の不満が保育士に認められたときには、園長が主査に報告して対応を考える。保護者が苦情や意見を直接園長に相談に来る場合もある。
- ② 本年度チャレンジプランの内容として、「保護者へ保育園の様子をタイムリーに密に知らせる(園だより・クラスだよりなどで)」、という方針を組み込み保護者とのコミュニケーションを密にするよう取り組んでいる。またアンケートや父兄の意見には、すぐに検討して対応するようにしている。園の行事に対する意見については、ファイリングをして残し、今後の参考になるようにしている。
- ③ 地域のニーズの収集については、区の指導に従って対応している。園長は福祉広報・研究会・園長会などへ出席し、福祉事業の動向を収集する。地域とのつながりを深めていくために、「ほんあま子育て応援隊」と称して、ふれあい保育やあそぼう会への参加の誘いを行っている。

カテゴリ4

計画の策定と着実な実行

4

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1 A+以外では【標準項目を超えた取り組み】のコメントは削除してください
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

[

カテゴリ4の講評(一つ以上)

①	<p>計画の策定と実行面は、区の中長期計画で制定した「五つ星のサービスを目指す杉並区」の保育園版「杉並区子供・子育て行動計画」がある。園ではその実行のためには年度初めに行事予定を作成し、その中で行事日程、内容、担当者(プロジェクトメンバー)、などを定め、園内諸係りの担当者名、また避難訓練・誕生会・職員会議の担当者名などを記載して全職員に各自の業務を確認させている。</p>
②	<p>各行事の企画の際には、各クラスの特徴、子どもたちの現状、発達段階などを考慮して作成するようにしている。この際には極力職員の意見を取り入れるようにしている。また職員の繁忙度、曜日や子どもの兄弟姉妹関係、保護者の都合なども考えて、よりよい日程・内容になるように工夫している。行事終了後は反省会を行い、必要事項は記録して次回の参考のために残しておくようになっている。</p>
③	<p>安全の確保については、安全パトロール・警備の巡回(1日2回)、施設設備の改修、施錠の徹底、防犯訓練の実施などの対応をしている。また発生した子どもの事故や怪我については、その原因を追究し今後の再発防止の対策を検討して職員全員に徹底させている。必要な事柄は保護者にも連絡することになっている。</p>

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(B)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)

①	<p>人事制度の方針は区の定めるところによることになっているが、園長は年に1回職員のヒアリングを行って本人の意向を確認している。職員の採用は区が行うが、園内の適正な人事配置については園長は主査と相談して適材適所を考えて決めている。職員ひとりひとりの個人別の育成計画は作成していないが、職員が研修に参加しやすいように勤務日程を考え、また研修を受講した職員は、会議などで報告させ或いは研修報告を回覧して全員に徹底するようにしている。</p>
②	<p>業務遂行に際しての職員の判断基準についてはマニュアルがあり、場合によっては園長・主査に相談することになっている。職員間の情報交換のためには毎週・毎月あるいは夜の会議によって行い、行事などについてはその都度プロジェクトを組んで知識を交換している。職員はベテランが多いので、いろいろな事柄については過去の経験に基づいて臨機応変に対応出来ている。</p>
③	<p>職員の評価・報酬などの業務は区が行うが、園長としては職員の長所を公平に評価するように心がけている。全員の体制表を作成し、誰でも見られるようにしてあり、それによって全員で協力体制が組めるようになっている。福利厚生制度は区の制度を活用している。</p>

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)

①

重要な情報の保管については園長・主査が鍵を持ち保管管理している場所と職員全員が鍵の保管場所を知っているものと区別して管理している。情報のファイリングは年1回整理をし、時期や周知できているものなど分類して分かりやすいように保管している。

②

個人情報の重要性については昨年度に全員が講習を受講している。個人情報保護についての規定は、区の定めたマニュアルを全員が見られるように備えてある。実習生やボランティアの受け入れ時には、オリエンテーションの際に園長からよく伝達している。

③

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ○ A ● B ○ C
	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
	改善の成果	
	職員のアンケートによると、本年度になってから職員間のコミュニケーションがよくなり、仕事の役割分担が明確になって、仕事がやりやすくなったという結果が出ている。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ○ A ● B ○ C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
職員の平均年齢が前年より若返り、それによって会議での話し合いがスムーズになった感がある。前年の反省点を生かして本年の企画を考え、新しく取り組む体制が出来つつある。但し一部にはこのことについていけない人もいるので、ばらつきが生じているのが現状である。これらのことは、遊ぼう会の運営・貸本コーナー・遊具の見直しや、庭・倉庫・休憩室などの整理整頓などについて確認でき、すべてについて反省点を生かして出来るところから進めるように対応しつつある。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 		
改善の成果		

保護者の意見や要望は、毎日対応しているクラス担任が察知し園長や主査に報告相談し、また全員の話し合いで対策を考えるというプロセスが確立してきている。小さな不満でも大きくしないように対応するという心がけが出来てきた。保護者の意見は書面で受取ったり、直接園長に話しに来たりされるので、即座に対応できて大きな問題にならなくて済むようになった。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面に於いては保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し、運営費の増加職員費はダウンしているが全体的には、区の自主財源で賄っているため向上していると考えられる。園ではなるべく支出を少なくするように、廃品を利用しておもちゃを作ったり、各保育室の環境の整備をするように工夫をしている。区から受取るインセンティブ経費を上手に活用するように心がけて、園内の整備を図っている。具体的には保育室のコーナー造り、ジョイントマット・木の玩具・木の椅子など、工夫によって余り金をかけずに制作または配置を工夫している。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

・カテゴリ3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

A+ A B C

改善の成果

園の行事通知やお知らせに、保護者の意見欄を設けたことにより、その都度多くの建設的な意見が出されるようになり、対応が出来るようになった。

カテゴリ8の講評(一つ以上)

- ① 職員に対しての園長や主査の意向の伝達及び職員間のコミュニケーションのとり方に、前年より進歩が見られることは、評価できる。会議を多く行うことによって、園長・主査を含めて職員間のコミュニケーションがよく取れるようになってきている。
- ② 保護者の意見の吸収についても配布文書に意見欄などを準備し、或いは直接園長に話にくるなど、意見が出やすい方法を考えて対応している。
- ③ 経費節減については、工夫によってお金をかけずに室内環境の整備やおもちゃの製作などをして、対応を工夫している。

II サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(A+)</p>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
本園をよく知ってもらおうとする情報の提供方法には年々積み重ねの跡が見られます。入園者向けの「ようこそ本天沼保育園へ」や「これが本天沼保育園だ」という図解チラシなどに、イラストや楽しい絵がふんだんに使われて子どもも興味を持つように編集され、その中に保育目標を明記し、保護者が心配する保健や安全衛生管理体制、それに盛りだくさんの楽しい年間行事を盛り込んで地域にも広く知ってもらおうとする姿勢が感じられます。又、乳児を持つ保護者に「紹介カード」を手渡して園を知ってもらう情報サービス活動などが行われています。		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	クラス便りは絵や写真をたくさん使い、忙しい保護者を意識した視覚に訴えて見て理解してもらおうとする工夫がみられます。CSだより(ほんあまだより)や保健だよりも以前に比べて知らせたい内容の見出しのつけかたや文字の大きさを変え、読みやすくするなどの編集努力がされています。さらに、「すくすくだより」や事務所もおたよりを出してその時々々の園の動きをニュース的に知らせる取り組みが行われています。	
②	園児の健康状態、保育観察状況の保健所への報告(日報)、区役所への報告(月報)はきちんと行われています。区の保健課とは連絡を密にして、園の動きを知らせるだけでなく欲しい情報をお願いしたりしています。又、青少年センターや支援センターと連携をとって地域の子ども支援情報や地域の子どもの様々な動向を入手し、園の運営や保護者への情報提供や連絡に活用するようにしています。	
③	保護者の園の参観は時間外でもオーケーとし、入園のための見学についても保護者の都合に合わせて受け入れるようにしています。一方、外部からの見学者に対しては園内での感染症発生やインフルエンザなどに警戒し、参観、見学者の健康状態を確認して受け入れるようにしています。特に赤ちゃん連れの場合には、園児と赤ちゃん双方のことを考えて念入りな健康確認と園内の案内に注意を払うようにしています。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

子どもの入園までの生活状況や健康調査、食事調査などの子どもデータを区の指定記録用紙で把握しています。利用開始では、開始日半日間に保護者と担任の職員、クラスの子もたちとのコミュニケーションづくりで馴染んでもらうほか、入園一週間ほどを目安に慣れ期間をつくり子どもの環境対応を観察する保育方針としています。サービス終了時、転園時には個々に保護者と面接し、持ち物などはそのまま使えるように経済負担を軽くする手助けをしたり、転向先からの問い合わせには保護者に連絡した上で対処するようにしています

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 入園予定者には「ようこそ天沼保育園へ」の冊子を配布します。冊子は楽しいイラストや絵で園の雰囲気を演出し、園長のメッセージ、保育目標、花の名前のクラス配置・編成、保育時間、年間行事、防災、散歩コース及び保健の仕組みなど、サービス内容がくわしく、わかりやすく編集されています。保護者への説明会(入園前、3月の土曜日に実施)の後、保護者から出された意見要望などについて職員会に報告、検討し保護者に必ず返事する仕組みを作っています。
- ② 家庭での子どもの生活状況や個性、癖、健康状態などについて事前調査と保護者との話し合いでくわしく把握し、それらをもとに各人の保育計画を各担当がつくるようにしていますが、これは園長が大事な基本としている「園の保育計画について保護者の同意を得る」との考えに基づいています。そのために、園は面接を2回行って保護者の要望を満たし、満足が得られるように努力しているのは特徴的です。
- ③ 区の園長会議において、「区内転園の場合には手続きをもう少し簡素化されると良いのではないか、たとえば保護者の履歴や子どもの健康カードなどはこれまでのデータを活用して簡単に転園できないか」など、保護者の負担軽減や転園時の簡素化、保育園全体の運営効率化等に対する考えなどを提言する活動も行っています。

サブカテゴリ3

3	個別状況に応じた計画策定・記録	
	評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(A+)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している ○ 非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている ○ 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】		●あり ○なし
保育日誌、連記式児童票などの個人情報の管理や定められた様式での毎月、半期毎、年度管理はきちんと行われています。保護者からの直接間接の意見や要望、職員が察知したことなどを会議に諮り解決策を話し合っ保護者にフィードバックする取り組みが強化されることが実績記録から伺われます。更にそれらを年間計画の中にも反映させ、計画の改善につなげています。保護者とのコミュニケーションでは、聴く、話す、フィードバックするを合言葉にした活動が記録とともに充実している様子が見られます。		

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 子どもの心身の状況や生活の変化、成長などを綴る観察記録(日誌)をはじめ、児童票、月次計画、個人面談などは統一した様式によって正しく記録されています。また、年間計画のアセスメントも前年の経過を踏まえた新年度計画、月次、半期ごとの見直しなどが記録されています。保護者の意見に関しては、その意見の背景や要因を分析し、会議にはかり、職員が共有化した内容で保護者にフィードバックされるようにしています
- ② 月次での計画における個別児童対策、障害者に対する個別記録などがきめ細かに行われています。計画の保護者への説明は入園時のほかにクラスごとの保護者会、個人面談などを通じて理解と同意を得ようとする園側の努力がありますが、利用者から降園時の時間融通への要望(迎えが遅くなる場合)などについては今後対応していく課題とみられます。緊急的に計画変更などが行われる場合の職員間の連絡は、クラス連絡網、職員・パート連絡網などにより内容識別が行われています。
- ③ 子どもに関する個別情報とその管理は各種記録を含めて園長と主査が個人情報管理を厳重に行われ、職員間で共有する情報と守秘義務を持つ性格の情報の区別が行われています。毎日の申し送りや口頭での連絡事項が記録されていますが、非常勤者や休みの人へも共有化、周知徹底するという面で更にきめ細かな伝達方法を研究がのぞまれます。

5 サブカテゴリ5
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得ようとしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 区の担当課や保健所、発達センターなど他の機関に個人情報を報告提供する際には、事前を原則に、緊急時には関係機関と平行して保護者に対し情報内容を知らせて承諾を得るようにしています。個人情報の園内管理では、とくにパート職員に対して個人情報の取り扱いについて予め理解を深めてもらう教育をし、個人に関わる問題や他の機関に報告する際の守秘義務都度、徹底するようにしています。
- ② 子どものプライバシー、羞恥心対策として日頃の生活状況を把握して例えばお漏らしなどの時にさりげなくシャワー室でさっと着替えるなどの配慮をしそっと処置をしています。
- ③ 子どもの判断力と集団での約束尊重という面から集団生活の基本ルールを先ず教え、子どもがお互いに約束事を守るよう指導をしています。又、職員の約束事の一つとして子どもを呼び捨てしないことがあります。ただ、子どもが生活の中で呼ばれる名前や子どもの呼ばれたときの反応で〇〇ちゃんといった愛称で呼ぶ範囲は職員、子ども相互に認めあう自主性尊重を方針としています。虐待問題には、区からの虐待防止に関するマニュアルなども参考にしながら、少しの変化も見逃さず確認し関係機関と連携して保護者対応を行うことにしています。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① サービスを標準化する園独自のものには、保護者との電話連絡でバラつきが出ないように「電話応対マニュアル」などの例があります。一方、プライバシーの理由から一般職員にはかならずしもオープンにしていけないものもありますから、手引書関係が定期的見直しを行って新たな気付きや業務点検などで見つかったものを、最新版としてどう標準化し全体で共有化していくかが課題といえます。朝夕保育に関して計画を4月段階で毎年見直している活動はよい取り組みといえます。
- ② 区から指導されるの標準マニュアルは検討会を開いて職員全体が理解を深めるよう検討会持つようにしています。職員や保護者からの提案、意見は年度末に年間の反省点を確認して次年度計画に生かすように取り組まれています。特に各テーマごとに職員プロジェクトチームが作られ職員の工夫が生かされることはやりがいの出る活動といえます。職員のコミュニケーション対策としての報告(ホー)・連絡(レン)・相談(ソー)ルールは、発生した問題を速やかに解決する方法として、又ベテランと新人職員間の対話推進の面でよい運動といえます。
- ③ 職員間の保育の対応に大きなバラつきが出ないように、研修会への交互参加や計画に対するテーマ別グループをつくって検討するような進め方をしています。又、それらは記録を残して標準化とレベルアップにつなげるようしています。子どもの安全対策の面で、園独自の防災計画をつくり定期訓練や環境整備をすすめています。具体的な例で、室内の机や置物などのあらゆる備品の「角」(かど)で怪我しないように子どもの目線での手作りのテーピング保護施工などは小さなことですが光ります。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	0歳、1歳児の場合はそれぞれ子どものリズムでの生活を、9月頃からは月令成長に合わせた生活となるよう、保護者から家庭生活を聞いて視診後保育しています。「保育指針」を参考にして年齢にあった発達理解と保育内容を計画し実施することを基本にしています。予算の関係から玩具が少ない状態が見受けられますが、新聞広告紙を取って置き職員手作りの玩具を創作して園児にも教えたり、遊び場コーナーを時々変化させ玩具に頼らないも遊びが出来るようにする等の創意工夫が随所に見られます。		
②	子どもの自主性と相手への思いや行動を育てる取り組みを園の保育目標として子どもの年齢に合わせて職員が対面を心がけるようにしています。年齢の低い子どもには代弁者となってあげたり、逆に年長者の思いを年齢の低い子に伝える手助けをするなど、子ども同士の相互理解を介助してあげることで自主性と相手を思いやる気持ちを育てるようにしています。表現力育成の一環として、事のよし悪しを認知させる場合に言葉を反復させて次の行動に結びつけるような保育も心がけています。		
③	職員個々人にも得手、不得手があることを前提に職員の個性を生かす方向で職員相互に補充していくことを申し合わせています。障害を持つ子の保育には職員に不慣れなための問題が出ないよう、発達センターや保護者と特に綿密な連絡を取り障害特性に応じた対応が出来るよう取り組んでいます。他の子どもとは特別な区別をしないことを基本にしています。行事の中で「わくわくランチ」を幼児クラス合同で行うことを取り入れて子どもの発達を促すようなこともすすめています。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	メニューは区が作成した統一献立を基本としています。1～2週ごとに前週までの給食について子どもの食欲や評判そして保護者からの反応、職員の感想をもとに見直して次週献立に生かすようにしています。年度末に年間メニューの反省会を開いて次年度の献立計画に反映していくようにし、その中から区の保健課に意見や要望を出すこともしています。保護者の声として「試食したい」との声があるので、要望に応えていけるように検討したいと思っています。		
②	子どもの成長や生活習慣上の個別の特性などに配慮したテーブルや椅子が使われています。伝統的に木製素材を使っていることがあげられますが、これは子どもに木に親しんでもらい食事や遊びに温もりが与えられる環境をという考え方です。“楽しい給食をみんなで”をモットーにした給食を心がけ、定期的な「わくわくランチ」というイベントを取り入れた全体給食会を実施し子どものコミュニケーションづくりを図っています。食事の時の衛生面には特に注意が払われており、食事前の手洗い、食事の時の衛生環境づくりに気をつけるようにしています。		
③	アレルギーの子どもには「除去申請書」にもとづくメニュー管理をしています。食の細かい子どもには全部食べた満足感を持ってもらうように小盛り付けをしたり、年長子どもにはお替わりごはんを用意するなどして子どもの体質や成長、栄養面などを考慮した給食を心がけています。0歳児給食については、子どもによって午前睡した子食事は調理室で保管し目覚めたときに出すことや、お腹のゆるい子には油を取り除きおかゆに切り替えたり、その時々の子どもの状態にあった食事に行っています。食事するスペースがもう少し広ければなお良いと思われれます。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし			
毎週木曜日に園嘱託医による0歳児健康診断が行われています。地域の小児科医が休診日に当たっているため幼児診察もできることで保護者には喜ばれています。日常的な健康管理として看護師が毎日各部屋を見回って視診し、子どもの状態によって子どもや職員に適切にアドバイスし、職員がそれらの経過により保護者に必要な連絡を行うようにしています。看護師を、「児童館」に定期的に派遣して身体測定や病気相談に応じて地域との一体化に取り組んでいるのは特筆できます。			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の日常管理として、担当者が保護者、家庭からの健康状態連絡を確認してから一日が始まるようにし、お迎え時には子どもの一日の健康状態観察結果を連絡することを日課としています。看護師が毎日見回って視診しているのも子どもや保護者にとって安心が得られる園の体制です。毎月全児童の身長測定を行い成長記録がされています。感染症対策、予防の面で病気や風邪の子ども、怪我などの場合には症状に関わらず看護師に診せて処置と感染を防止するようにしています。		
②	子どもの居るところには必ず職員が側にいることを前提とし、0歳、1歳児には10分ごとに午睡チェックをしています。熱があったり、普段と違う場合は看護師に診せるとともに保護者への連絡を先ず行い対処するようにしています。乳児突然死症候群の情報については区や医師からのポスターを園内に貼って啓蒙し、会議でも話題にして日常の子ども管理に生かしています。保護者には家庭への「スクスクだより」を通じて知らせるようにしています。		
③	健康に関する保護者からの相談や問い合わせには、その内容によって担任だけでなく看護師や栄養士、園長を含めて全体で漏れなく共有できるようにして、それらの経過記録をその後の対策に生かすよう残しています。子どもの体力管理面、とくに首から上の怪我防止という点で運動機能強化、教育を強化するプログラム(柳沢プログラム)を昨年取り入れていますが、内容については今後なお研究が必要な課題です。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	子どもにとっても保護者にとっても楽しい保育園を目指そうとする方針は当園の目玉としています。行事を沢山計画し実施しています。誕生会(3歳以上)、春秋の遠足(3~5歳)、夏のプール・水遊び、秋のキャンプごっこ(5歳)、運動会(2~5歳)、冬のお店さんごっこ、お楽しみ会、新年の餅つき会、大きくなった会などです。これらの行事には保護者や近隣、中学生、実習生などのボランティアの協力を得て賑やかさ、楽しさ、全体化に力を入れています。		
②	園は歴史が長く建物も古くなっていますが日当たりが良く静かな住宅街にあるので室内は落ち着いた雰囲気となっています。各部屋は暖冷房の空調されており、普段クラス分けの部屋も遊びや行事では仕切りを取り除いて全体的に手狭ま感の部屋を広く活用しています。職員手作りの玩具に子ども自身が手を加えて遊びができるように作ったコーナーや紙細工や落書きが自由に書けるようなコーナーを作って、子どもが創作的遊びで夢中になれるような空間作りの工夫が見られます。		
③	0歳、1歳は個々の生活リズムで睡眠が取れるようにし、目覚めた子はほふく室で他の子どもたちと遊ぶようにしています。2歳~4歳児には押入れ遊び(押入れの下部分を空けて子ども自身が遊びを創造できるように、また5、6歳の年長には各種図鑑を置いてひとり立ちを促す雰囲気作りなど工夫されています。このような子どものための様々な行事や快適な室内環境づくりを維持していくために、人手や予算の使い方については工夫が必要です。		

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 園の参観については”いつでもどうぞ”ということを入園時保護者に伝えますがその後も常時参観可能としています。園が設定する参観日に来られないときは保護者の都合の良い日を選んでもらい、それに可能な限り合わせるようにして連携を保つ努力がなされています。参加日や行事参加の日、クラス別保護者会などを通じて職員が子どもとどう接しているか、子供同士のコミュニケーションの様子や生活ぶりをじっくり見てもらうような計画にしています。
- ② 登降園のときに保護者以外の家族などが来る場合には事前に知らせてもらう仕組みにしています。その場合は特にファミリーサポートやシッターの時は身分証明書を見せて頂き、子どもとの関係、誰であるかを確認し、間違い防止を図っています。保護者が仕事の都合で迎えが遅れるような連絡があった場合には18:30分頃を原則にしていますが、臨機応変を心がけるようにしています。保護者への行事計画表は3月に配布するようにしていますが、途中入園の場合には個別に配布し主として園長と主査が責任を持って説明しています。
- ③ 夏祭りなど園が行うイベントは保護者と共催の形で企画、実行するようにしています。親子遠足や運動会も基本的に協同で行うようにしていますが、これは保護者との連携、人的対策で安全と楽しさを倍増させるためですが子ども自身の楽しさが増大してきたと評価しています。園としては保護者が楽しんで参加してくれていると考えていますが、保護者の意見、要望の中には、職員の行事に対して楽しもうとする姿勢が未だ不足しているとの声もあります。今後職員の積極性、パフォーマンスを一層高めるていくことが望まれます。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 虐待に関する区主催の研修には職員が交代で受けられるようにし、又、その報告会を開いて虐待問題への関心と理解が深まるようにしています。虐待の発見や疑いが見られる場合には直ぐ検討会議にかけて対応を誤らないように、また、記録をしっかりとって内容確認の標準化体制をつくるようにしています。発見した場合には支援センター、児童相談所にも通知し保護者対応を相談する仕組みを整えています。
- ② 虐待の事実把握や特徴、発見ではベテラン保育士の気付きが大きな役割を持つとの経験則から、事例検証の段階で他の保育士への教育研修を含めて任務を遂行してもらうようにしています。発見した場合の保護者との面談には、複数職員体制で臨み間違いの無い話し合いを心がけています。虐待に関する情報はCS日より「ほんあまかわらばん」などで保護者に知らせていますが、その中に子育てのヒントなどの情報も織り込んで発信しています。
- ③ 園としてはこの問題について関係機関とのフォロー体制はしっかりしているとの自負があります。しかし、時間外や休日における虐待発見時の対応やフォローの問題、早い対応が必要と判断して保護者に連絡した結果保護者が拒否した場合にどうするか、などのむずかしい未知の課題があります。今後はそのようなケースを含めた様々な事例と個別対応に関してマニュアル化し、子どもを虐待から守り、家庭にどう支援できるかについて職員間で共有していくことが必要と思われる。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	子どもの安全や健康管理に関する内容について区が発行するポスターを地域や園内に貼って啓蒙しています。同様の趣旨で児童館や支援センターからの情報にははCSだより「ほんあまかわらばん」で知らせたりしています。園の開催する行事で、地域にも広く参加してもらいたい内容、例えば運動会開催などについて、“〇月〇日ほんあま保育園運動会”の自前ポスターを地域の協力を得て貼りだして地域の一員としての努力をしています。地域ではこのような園の対応を歓迎しています。												
②	夏祭りや運動会、遊ぼう会などの大きなイベント行事には、天沼サービスや沓掛小学校など高齢者施設や学校にも呼びかけ園児との交流推進、地域の一体化を図るようにしています。更にそれらの催しものに地域のボランティアに参加、協力してもらっています。ボランティアによる支援は人手不足をカバーしていく上でも重要な役割を担っていると思われます。												
③	地域との交流機会や園児散歩などにおいて乳児を抱いた人や小さな子どもを持つ親に対して、園の「紹介カード」を手渡したりして地域の人に当園を利用してもらえるようにとの活動を行っています。一方、地域とのふれあいが出来ているなかで、隣接道路が狭いことから園児の送り迎えなどで往来するマイカー駐車について危ないとの苦情がありますから、子どもの安全優先の面から保護者と充分話し合って解決すべき課題です。												
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	地域の子育て事業への協力の一環として園が2年前から行っている「あそぼう会」への企画では、地域周辺の子どもがいる家庭には個別に呼びかけチラシを入れたり、子どもの洗濯物が干してある家があれば家の人に呼びかけたり、近くの公園散歩での出会で親子と話をしたり、様々な機会と園児との交流を呼びかけています。17年では5月から10月までの半年間に15組が参加してくれていますが今後も地道な努力がのぞまれる取り組みです。あそぼう会の企画、実施が職員たちの発想、アイデアで自主的に運営されていることは大きな特徴です。												
②	地域への子育て支援として人的支援を行っているものに隣接の児童館へ看護師を毎月、保育士を年1回派遣していることがありますが、これは地域の福祉事業へのバックアップ事業所として関係方面から大きな評価を得ています。今後も地域の子育て支援の人的交流の中で園の存在感が一層大きくなるように推進していくことが期待されます。												
③	今後の子育て支援として、地域の中に未だこの保育施設にも所属していない子どもの掘り起こしをどう強化していくか、保護者の意向を充分把握していない反省も含めて、保護者が保育園というものに対してどのような希望や要望を持っているのか、それらに対して当保育園がどこまで応えていけるのか、今後取り組むべき課題は少なくないといえますが、延長保育などへの期待が強まっていることへの対応もその一つであるといえます。												

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者に対する正確で詳細な情報の提供
	内容	入園者向けの情報としては『ようこそ！本天沼保育園へ』や“これが本天沼保育園だ”という図解チラシなど、イラストや絵を使用して楽しい雰囲気を感じるような印刷物を活用して紹介している。その中には主な年間行事の紹介があり、お散歩コースなども記述されていて、保護者が安心して子どもを預ける気持ちになるような雰囲気を作っている。
2	タイトル	子どもの生活状況についての園と保護者間の情報のやり取り
	内容	入園までの子どもの生活の状況や個人的特性などを、予め書式で出してもらい、それに応じる処遇を考慮し実施している。毎日の受け入れ・引取り時にも、連絡帳の往復で子どもの状況を園と家庭とで互いに情報交換して正確に把握しておくようにしている。
3	タイトル	子どもの個別事情に応じたサービスの提供
	内容	子どもの心身状況や生活状況を保育日誌や児童票などで確認しておき、個人情報として管理しておく。これは毎月、半期ごと、年度ごとに見直している。また子どもの健康保持のための対策は嘱託医の0歳児健康診断など、特に常勤の看護師がいて毎日各クラスの子どもの健康に留意していることは保護者の高い評価を受けていることである。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業所業務の標準化
	内容	この項目についての評価が他の項目よりも若干低くなっている。マニュアルの活用などに工夫の余地があるので、なお一層の改善の検討と実行を工夫されるとよい。
2	タイトル	危機管理について
	内容	利用者のアンケートによると、園内に入る際の施錠の問題、侵入者対策の不安が述べられている。この点についての一層の確認が必要と思われる。
3	タイトル	
	内容	

調査対象	荻窪南保育園の保護者、72世帯。	
調査方法	調査対象の保護者が、園児をお迎え時に職員より調査票(アンケート)を手渡してもらい、登園時に記入済みの調査票を園で受け取った。その後、評価機関が回収した。	
利用者総数(人)	78	
調査対象者数(人)	72	
有効回答数(人)	54	
回収率	75.0	

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では、大変満足28パーセント、満足46パーセント、どちらかと言えば満足11パーセントで、満足度は85パーセントという非常に高い満足度を示している。下記の質問項目では、80%以上が「はい」の項目が17つある。一方、それが60パーセント以上のものが14項目ある。特に、注意して欲しいのが質問21の保育理念を知っていますか、の「はい」が48.1パーセントと過半数を割っていることである。園の保育理念を、保護者が知ることで、園の運営方針に共感するものである。検討の価値がある。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	43	79.6	9	16.7	2	3.7	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	48	88.9	5	9.3	1	1.9	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	42	77.8	11	20.4	1	1.9	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	46	85.2	7	13.0	1	1.9	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	48	88.9	4	7.4	2	3.7	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	31	57.4	14	25.9	8	14.8	1	1.9

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	36	66.7	13	24.1	3	5.6	2	3.7
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	44	81.5	8	14.8	1	1.9	1	1.9
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	42	77.8	7	13.0	3	5.6	2	3.7
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	48	88.9	5	9.3	1	1.9	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	42	77.8	8	14.8	1	1.9	3	5.6
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	39	72.2	13	24.1	2	3.7	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	36	66.7	13	24.1	4	7.4	1	1.9
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	35	64.8	14	25.9	3	5.6	2	3.7
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	42	77.8	10	18.5	1	1.9	1	1.9
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	40	74.1	14	25.9	0	0.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	38	70.4	13	24.1	2	3.7	1	1.9
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	33	61.1	17	31.5	4	7.4	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	32	59.3	15	27.8	6	11.1	1	1.9
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	28	51.9	21	38.9	4	7.4	1	1.9

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	26	48.1	17	31.5	10	18.5	1	1.9
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	23	88.5	2	7.7	0	0.0	1	3.8
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	22	84.6	3	11.5	0	0.0	1	3.8
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	32	59.3	15	27.8	6	11.1	1	1.9

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 本園は昭和48年に認可保育園として開設され、20余年の実績を背景に、障害児保育・指定園としても機能を発揮し、「保育目標」、「理念・ビジョン5」とともに「統合保育」も掲げて目標を明確化、区の17年チャレンジプランの実現に向けての取り組みも取り入れ、障害児たちも溶け合った、思いやりある子の育成を指向、障害者保育の経験を積んだ園長と主査の2人が経営者としての役割と責任を明示して率先垂範、リーダー層と一般職員を指導している。
- ② 保育目標は、所内に掲示するとともに、利用者には「入園のしおり」「クラスだより」の会」などを通じ、職員には、年間計画作成での討議や「個人ヒアリング」、更に日常的には全職員の会議やクラス別ミーティングなどを通じて、周知・徹底をはかり、認識させている。
- ③ 重要な案件の意思決定は、園長が職員会議などでの職員の意見を参考にして意思決定している。朝の始業時の各クラスの主任と園長・主査の打合せで、その日の伝達事項や、申し送り事項などを確認、必要に応じ、内容と経緯を全員で認識、共通化している。

カテゴリ2

2

経営における社会的責任

サブカテゴリ1

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 従事する者の守るべき規範・個人の尊厳などについては、児童福祉法やプライバシー保護条例などの区の法令集等に定められている事項を遵守。地域社会に対して事業所の透明性を高めるため、「地域向けお知らせ」、「保育園案内」のほか、「夏まつり」の行事案内による情報提供も。園内の随時見学受け入れ、実習生の受け入れも行っている。保育実習生の受入では、園独自のカリキュラムを作成して実施、若い世代の育成にも協力。
- ② 地域の福祉に還元する事業所の機能として、障害児の園内研修、を独自に展開、また、“遊びに来ませんか”のリフレットを作り、子育て支援も行って、親子連携プレイを推進。保育園の理解を深めるためにボランティアも随時受け入れ、園長や各クラスの担任が受け入れ時にオリエンテーションを行い、守秘義務の重要性など指導している。
- ③ 地域の関係機関との連携では、成田西児童館主宰のネットワーク会に参画し、近隣の防犯対策、取り組みなど、安全対策情報を得て、園の運営の参考としている。
現実に、西田小学校児童館より相談があり、成果を出している。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○ 非該当	
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○ 非該当	
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○ 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者の要望をあらゆる機会を利用して、職員が聞き出し、利用者満足CSの実現に努力している。苦情処理は、園長を中心に、タイムリーに対応することにし、その問題は、率直に耳を傾け、それに応えるよう努めている。苦情解決制度についてはポスターなどで伝え、事業者以外の相談先などの利用者に伝えている。
- ② 地域ネットワークの活用や行政連絡会参加、更に、見学者・来園者との懇談会を通じて、地域のニーズや、動向をつかむ努力が見られ、また、福祉事業分野の動向については 区の作成した区実施計画、保健福祉計画に基づいて情報収集し、各種計画や予定に反映させている。
- ③ サービスの向上については、毎年1回のアンケート実施や行事後のアンケートをとって分析、また意見箱の「愛ことば箱」も設置して、利用者の声を反映することになっている。地域福祉ニーズに応え、区チャレンジでの五つ星保育園を目指している。

カテゴリ4

計画の策定と着実な実行

4

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)

① 計画の策定と実行面は区の中長期計画で制定した「五つ星のサービスを目指す杉並区」の保育園版「杉並区子供・子育て行動計画」に基づくものとして、園では1年ごとの計画見直しを行い、前年の反省をもとに、アンケートも活用して、年度当初に職員会議などで詰める。区の子供未来構想も参考に、園独自の案を纏めている。

② 年度計画・月次計画などの進み具合、新たな環境変化への対応など 職員の役割分担に基づき、担当者が中心になって、話し合いを進め、進捗状況の把握など行い、計画遂行に取り組んでいる。

③ 園児・保護者の安全確保に対しては、警察による防犯訓練・実技指導や、決められた避難訓練の実施、非常通報体制、安全パトロール、セコム警備の実施などのほか、職員全員が保育園の安全管理に責任を持つという自覚を身につけている。

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)

①	<p>人事の基本的な方針については、区の方針に従っているが、新規・臨時職員の配置やクラス担任の決定は、本人の意向を踏まえ、適材適所で園長が決める。また、昇格試験への呼びかけ、自己申請制度も併用して、人材育成に注力している。</p>
②	<p>職員研修は、年間計画で自己申告を中心に定め、全員が研修参加の機会を持ち、参加できるように配慮している。研修終了後は研修レポートの回覧のほかに、報告会などで、全職員・関係者が研修内容を共有、質的向上を図るようにしている。</p>
③	<p>福利厚生関係は、区の規定に則っているが、主任・主事は職員個々の体調把握、家庭状況の掌握に努め、また取ることの難しい有給休暇取得を調整して、職員のやる気の維持に努めている。</p>

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <input type="radio"/>非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)

①

各資料は重要なものや機密性の高いものは、鍵つきの保管庫内に保管され、必要な時に取り出せるよう、整理整頓されている。計画表や発達経過記録等については、常に新しいものに更新されている。

②

個人情報については、規定が整備され、鍵つき書棚に保管されている。個人情報を扱う場合には、園長の許可が必要で、情報の開示は区の規定により行う。全職員が、説明会に参加している。

③

外部からの実習生やボランティアなどについては、オリエンテーション時に、園長または主査・担当職員から個人情報管理の重要性を説明している。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
	改善の成果	
	<p>利用者の安全確保・向上に向けて、計画的に取り組んだ成果が実り、1年前に比して大きく変わったのが、職員の安全、危機管理に対する意識の向上であろう。</p> <p>職員研修として、ビデオや絵本も使用した防犯訓練の実技指導を行い、又、非常通報設備設置や安全パトロールによる身近な安全予防対策、危機管理マニュアルの完備などがあり、保護者の協力も得て、職員の気持ちが一つになっての成果といえよう。ちなみに、区として携帯メールで、保護者が情報把握出来るようになっている。</p>	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」 		
改善の成果		
<p>保育に対する見方が、前年度は「クラス保育」に偏りがちで、園全体の問題として捉えることが少なかった。</p> <p>指導計画での話し合いや事例研究での討議などを通じ、改善の意識が高揚し、園の全体保育の課題として問題解決を図ることになったことは特筆すべきことと言える。「職員全員で全児童への対応を！」を合言葉として、「皆で遊ぼう会」が誕生したのは必然で、統合保育の精神が具現化したものと言えるであろう。</p>		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 		
改善の成果		

情報の保護・共有に関し、個人情報保護法の講習会に職員全員が参加したことにより、情報を納めた書類や資料の整理整頓、保管はもとより、報告・連絡・相談などのソフト面での業務が速やかになったと思う人が増え、成果を上げていることである。当然ながら、これまで、施錠など徹底した習慣にはなっていなかった面でも、厳重な施錠管理、個人情報の取扱いに対する職員の意識向上にもつながっている。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面においては保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し、運営費の増加6%職員費はダウンしているが全体的には区の自主財源で賄っているので 向上していると考えられる。園では限られた予算の中、サービスの質を落さず、節約する習慣がこれまで以上に芽生え、たとえば、・電気を消す ・裏紙を遣う ・ゴミをへらす ・リサイクルセンターから家具を購入 ・修理を自分でする 等々、経費の削減に寄与することが出来た。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

・カテゴリ-3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

A+ A B C

改善の成果

区の17年度「めざせ！五つ星の区役所づくり・運動チャレンジプラン」を園でも採り上げ、全職員で、考え合い、努力した結果もあって、
 ・職員同士が、園全体を見る力がついてきた。 ・職員会議での発言は、全員がするようになった。 ・利用者の声を把握するために、意見箱「愛ことば箱」を設置。 ・保護者会「親の会」において保護者同士で語り合える時間帯を設けたこと。など園内外ともコミュニケーションが密になってきていることは大きな成果と思われる。
 統合保育と相乗的に、効果をあげている。

カテゴリ8の講評(一つ以上)

① 障害児保育園の指定園となっていることで、統合保育が進められ、担当分野の職種を越えて、職員皆で話し合う場が生まれたこと、子どもたちも生活の中でいろいろな友達の存在を知り、仲間として育ち合うこと、保護者も障害者を見る日常の目が養われること、等々 園の成り立ちそのものの成果が生まれてきている。

② 昨今の社会情勢の中、幼児・子供に対する犯罪が多発しており、保育園の安全が大きな課題として、浮上してきている。杉並区では、区立全保育園に防犯通報装置を設置して、より安全性を追求した機器による対応づくりを進めているものの、安全対策としては万能薬というわけにはいかず、園として、更にきめ細かな人的対応策が必要となると思われる。

③

II サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	園の情報は区の保育冊子やホームページ、入園のしおり、園が独自に作成した「荻窪南保育園のしおり」、地域向けのチラシ、子育て支援事業の「あそびにきませんか」のリーフレットなどで入手できる。在園児の保護者は、園だより、クラスだより、保健だより、事務所だより、連絡帳、ホワイトボードなどの情報提供により、園内の子ども達の様子や園の取り組みや子どもの生活に関する情報提供などを行っている。提供している情報はわかりやすさに配慮するように留意し、外来語や専門用語を用いないように、職員間でチェックし合うようにしている。	
②	入園を検討中の保護者や見学を希望する人から、電話で問い合わせられた場合には、見学希望の日時を確認しできる限り希望の日時に来園できるようにしている。また、園では、見学の際には子どもの様子を見てもらったり、保育を体験してもらえ。また、問い合わせの時には、地域交流事業「あそびにきませんか」やふれあい保育、体験保育などの実施日に来園することも紹介している。見学は年間通していつでも受け入れており、見学のしやすさへの配慮をしたり、感染症流行時にはその状態も知らせるなど、健康管理への配慮も行っている。	
③	見学者や利用希望者への対応は、職員全員が共通認識のもとに実施できるように伝達内容がわかるようにしてあり、園長や主査だけでなく、職員も年間通して対応できるようになっている。このほか、サービスの情報提供においての事業所の情報提供については、区の保育課や区内の公立保育園の園長会、看護部会などの専門部会、児童館や小学校、保健センター、子ども家庭支援センター、発達センター、児童民生委員や主任児童委員などの専門機関とのネットワークがあり、その中で情報交換を行っている。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)													
①	サービスの開始時である入園前には子どもの身体測定と健康診断、子どもや保護者との面談を実施している。面談の際には、子どもの状態や保護者の意向を確認し、児童票や個別の面接記録、発達経過記録等に記載している。また、障害を有する子どもやアレルギー等、何らかの配慮が必要と思われる場合にも十分な確認や情報交換が行われている。面接の際には、保育士、園長、看護師、栄養士等と面談している。面接時には子ども一人ひとりの情報を記録として残し、保育サービスが開始された時に反映できるよう準備している。												
②	入園希望者に対して園では「荻窪南保育園のしおり」などを用いて保育士、調理、看護師等が説明し、安心感を持てるように努めている。「荻窪南保育園のしおり」には、園の概要や保育目標、園と家庭の連絡、保育のねらいや定員、保育時間や年間行事などが記載されている。このしおりは、読みやすい字の大きさに配慮したり、行間をあけてイラストを入れ、持ち物は写真を掲載してわかりやすさへの配慮をしている。布団カバーの作り方には、乳児用と幼児用の布団の大きさを掲載し、それに適した大きさの布団カバーの寸法や作り方などが記載されている。												
③	入園直後に生じる子どもや保護者の不安、ストレスへの配慮としては、子どもの体調や保護者の体調をみながら個別に対応するようにしており、保護者の時間の都合がつかう場合には、なじむための期間を設けた保育を実施している。また、子どもが安心できる環境を設けるために、子ども一人ひとりのあそびや生活状況、発達咀嚼力に応じた配慮をしたり、特定の保育士との安定した関係作りから支援に入るようにしている。保護者は、子どもの様子を見たり、職員から聞いたり、乳児は連絡帳などを見ることにより安心して仕事に専念できるようになっていく。												
サブカテゴリ3													
3	個別状況に応じた計画策定・記録												
	評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <div style="text-align: right;">評点(A)</div>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
	評価	標準項目											
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当											
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当											
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当											
【標準項目を超えた取り組み】	○あり ●なし												

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 職員は子どもの心身の状況や生活状況等について、日々、クラスの日誌、障害児日誌、巡回指導記録、児童票などに記載し、子どもの発達の状態や変化、成長などの記録としている。また、子どもの状態や保護者の状態が変化した際には保護者と個人面談をしたり、連絡帳での連絡や直接、会話をすることにより把握した情報も個人面談記録や児童票などに、保護者会の際には保護者会記録などに記載されている。子どもの健康状態は健康台帳、健康カードなど、それぞれに適した書式に記録している。
- ② 園では園の保育目標に従い、子ども達の成長や発達段階に応じた生活やあそび、体験などが盛り込まれているクラス別の年間指導計画、月間指導計画などを立案し、子どもの状態に応じて、また、個人面談の記録や、前期・後期、毎月の指導計画の反省に基づき見直し、計画を変化させたり、改良したりしている。当園では、通常、低年齢児、障害児、アレルギー児など配慮を要する子ども等に立てている個別の計画が、4歳児までの子ども達に立案され、子ども一人ひとりへの配慮が設定されている。特に、乳児や障害児の個別指導計画は仔細に計画している。
- ③ 園では子どもの変化や保護者からの連絡、職員同士の連絡、指導計画や行事など様々な情報交換は職員会議や毎日のミーティングの際に行われ、職員が相互に内容を確認したり、意見交換をしている。会議やミーティングに参加できなかった職員には連絡ノートにその内容が記載されており、伝達もれがないように努めている。連絡ノートは、子どもの怪我については赤字で記載し、打ち合わせなどが行われたらミーティングノートに色をつけて追加した内容がわかるようにするなど工夫をしている。パート職員はホワイトボードの記載内容で確認している。

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 園では、子ども一人ひとりの判断力を養うための支援として、個別の指導計画にその内容を具体的に定めた経験や到達目標を設定し、その計画に基づき支援をしている。特に、当園は障害児指定園として障害児の保育を行っており、統合保育を実践しているため、日々の生活の中で様々な仲間がいることや子ども同士も協力し合うこと、一人ひとりの命の大切さ、人権を尊重することなど、日々の生活の中で、学びあう環境を創出するように職員は努めている。
- ② 職員は児童福祉法、公務員規程、区の職務規程に基づき、適切な支援をするように定められており、それを遵守するように努めている。個人情報に関する保護については保護者会や園だよりにより保護者の意向を確認し、同意書ももらっている。職員は、自らの倫理規範の遵守に関してはお互いに職員会議やその時々で口頭で、相互に注意し合うことになっている。また、子どもの情報を他機関に照会する場合には、保育課の対応システムに基づき、保護者の承諾を得たり、緊急な対応をすることが定められている。
- ③ 今回の利用者調査で「(園は)保護者の価値観に理解を示しているか」の問いに、「はい」は65%、「どちらとも言えない」をあわせると91%と、高い数値を示し、保護者の価値観を理解してる職員は多いといえる。これは園のチャレンジプランとして、園は子育て相談、ガラスばりの保育、安全管理の3つを設定し、子育て相談のよりどころとなるためにあらゆる相談の受付、迅速対応に心がける、保護者との信頼関係作り保育内容を伝える工夫をしたり、安全対策として個人情報の取り扱いなどにも留意するなど具体的に設定している成果とも言える。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A+)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

区のマニュアルのほかに園では、園外保育や散歩、保護者・職員間の連絡方法、プライバシーや写真ビデオ撮影に関するマニュアル、障害児保育、近隣住民との関係、地域との関係、アレルギー対応、噛み付き・引っ掻き傷、怪我などの対応や日常生活での配慮などのマニュアルを設定し、日々の保育に努めている。

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

職員の係り分担の中に、研究会や園内研修、環境、CS(園だよりを含む)なども設定し、サービスの質の向上を目指すための話し合いを行ったり、そのための企画をするなどの取り組みをしている。

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 園では、区で作成したマニュアルを元に日々の職務を遂行するように努めるほか、職員はそれぞれ係り分担を持って、日々の業務を向上させるために取り組んでいる。その中には、研究会や園長会・医療会報告、園内研修、環境、CS(園だよりを含む)なども設定して話し合いを行ったり、そのための企画をするなどの取り組みもしている。職員は、係り分担が企画した内容や話し合いで出されたことに対して職員会議やミーティング、打ち合わせなどで確認し合ったり、意見交換をするようにしながら、業務の標準化や質の向上に努めている。
- ② 園では区のマニュアルのほかにも、園外保育や散歩、保護者・職員間の連絡方法、プライバシーや写真ビデオ撮影に関するマニュアル、障害児保育、近隣住民との関係、地域との関係、アレルギー対応、噛み付き・引っ掻き傷、怪我などの対応や日常生活での配慮などのマニュアルを設定し、日々の保育に努めている。マニュアル類は各クラスに設置してある。マニュアルの内容は全体打ち合わせの際に適宜点検し、必要に応じて差し替えを行っている。職員も様々なマニュアル類の整備ができてきていることを成果としてあげている。
- ③ 職員は園内外の研修に参加し、他の職員に報告したり、資料を回覧するなどの取り組みを行い、職員は様々な研修内容を学ぶことができる機会を得ている。職員は学びながら、質の高いサービスを提供したいと考えて職務に取り組んでいる様子が伺える。保護者の満足度も高い傾向が見られるが、中にはサービスの内容や園と家庭との連携方法、設備面や接遇面など様々な意見、要望も聞かれている。今後、更に向上するために、園が収集した意見や要望などへの対応や改善成果などを折に触れて伝達したり、保護者と協働しながら取り組まれることも検討されたい。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	○あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	◎非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	子ども一人ひとりの発達や心身の状況について、日々の生活やあそびの姿、保護者との話し合いや連絡帳、視診などにより把握したり、毎日の日誌や児童票、月間指導計画の目標や昨月の状況との比較により、全体像を把握するように努め、その比較をもとに発達の進捗状況や次の発達課題の目標設定を行っている。職員が計画した一年間の遊びの計画に基づいた経験をもとに経験値を高め、子ども達は大きく成長している。当園は統合保育を実施しているため、巡回指導の職員から、発達状況や障害に配慮した関わり方を学び、実践している。		
②	子どもの自主性や自発性が育つよう、日々のあそびにも散歩計画や課題遊び計画を設定したうえで、様々なあそびを展開している。その中には、運動プログラムの実践や遊具計画なども取り入れられており、年間通してだけでなく、在園期間をトータルで考えた生活習慣の体得やあそび、経験などが可能となっている。また、この計画は、子ども達の実生活や保護者からの意見、要望にも連動させ、個別の経験や対応にも反映された計画となっているため、一人ひとりの遊びにも個の保障がなされているともいえる。		
③	園では、子ども達が十分に遊びこめる時間を保障するためには環境整備が重要であると考え、園外保育の際にも手順をきめ、安全な環境であるかどうかを下見により確認している。もし、危険物がある場合には区に連絡をして、公園を整備してもらったり、不審者がいる場合には、園に連絡をし、各クラスの職員に場所を変更するように連絡してもらうなどの配慮をしている。日々の戸外活動では、善福寺川公園や西田公園、松溪公園、荻窪公園など様々な公園に行き、元気に活動をしたり、園庭で個別に遊んだり集団でわらべ歌遊びをしたりと遊びこみをしている。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	園の給食メニューは区の統一献立であるが、離乳食の完了期に到達していない子どもが入園した場合には子どもの咀嚼や嚥下の状況などを保護者と担任、看護師、調理士、栄養士らと話し合いをし、食べやすいように加工して提供している。また、日々の子どもの健康状態や食欲などの状態に応じて、ご飯の硬さや食材を確認し、個々に食べられる量や調理方法に配慮するようにしている。アレルギー児に対しては除去食を中心に、毎月、翌月のメニューを見ながら確認し、安全な食事提供となるように努めている。		
②	園では食育を推進するために、トマト、ピーマン、ししとう、オクラ、ミニトマト、なすなどを栽培・収穫し、調理室で調理してもらったり、家庭に持ち帰り保護者に料理してもらったりして、作る喜びと食べる喜びを体感している。食育では栄養士が月1回、園を訪れている際にも、栄養や食事に関する題材で、パネルシアターなどを見て、学ぶ楽しみも持っており、子ども達は、知識の面からも、バランスよく食べることの大切さや健康を維持することの大切さを学んでいる。		
③	快適な食事空間を作るために、園では土曜日の合同保育の際やお楽しみ会のときに、異年齢で食事をする機会を持ち、いつもと異なる雰囲気でする楽しみを持っている。子どものいすは、年齢に応じた大きさと設定されている。子どもの食に関する保護者からの相談にも、栄養士や園長、看護師も相談にのってもらえ、一人一人の食が健康を促進する取り組みとなるように努めている。区の方針で統一献立を提供しているが、園では、献立の見直しも行っていきたいという意向を持っている。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の毎日の把握は看護師や担任による朝の視診、保護者からの連絡や連絡帳などにより確認し、看護師の巡回記録や保健日誌などに記載している。また、健康診断は、春季・秋季の内科健診、耳鼻科検査、眼科健診、歯科健診、ギョウ虫卵検査などがある。園医は、低年齢児の健診のために毎週水曜日に巡回し、子ども達(障害児対応も含む)の健康管理に努めている。		
②	園では2歳までの乳幼児突然死症候群の防止のために、15分おきに午睡チェックを行い、その状態を毎日、記録としてチェック表に記録している。感染症に対しては流行が見られる時期には、保健だよりで知らせたり、早急にポスターを作成し、保護者が目にしやすい位置に掲示したり、お知らせを文書にして保護者に知らせるなどの工夫をしている。園では、医療保険業務マニュアルに基づき、看護師はじめ、各クラスの担任が責任を持って対応するようにしている。		
③	当園には常駐看護師が配置されているため、日々の健康管理が適切に行われており、保護者も安心して健康の相談を寄せることができる。また、園医も協力的であるため、日頃から、感染症の流行に対する配慮が早期になされ、保健だよりや園だよりで反映されている。服薬は区の規程どおり、看護師が責任を持って薬用冷蔵庫に保管し、医師の指示通りに処方している。アレルギーの相談に園医が応じたり、食物アレルギーの子どもインターールも、看護師が対応している。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園では、様々な行事や個別の誕生日のお祝いなどを実施し日常生活に変化をつけ、子ども達が日々の生活を楽しめるように努めている。子どもの誕生日には、保護者のメッセージをカードに書いてもらったり、写真のついたバッジを園長らにつけてもらい、主人公気分を味わうことができるように配慮されている。また、楽しい行事としての運動会は、子ども達が馴染みの環境で生き生きと活動している姿を保護者や子ども達の祖父母に見てもらおうと園庭で行うようにしている。子ども達もクラスの仲間全員で参加できる運動会などの行事を楽しんでいる。		
②	園の行事には、子どもの日、七夕、夕涼み会、園外保育、運動会、いも掘り、焼き芋、お楽しみ会、もちつき、新年子ども会、節分、ひな祭りなどを楽しんでいる。様々な行事や日々の活動は、個々の体力や健康状態、発達過程の段階などに応じて、動と静の遊びのバランスを考えて設定している。夕涼み会では、ヨーヨーコーナーやワニたたき、ボール投げ、作って遊ぼう、子ども劇場(職員の出し物)などを行い、職員が鳴子ソーランを皆に見せて楽しんでいる。様々な行事では、保護者のアンケートをとり、園だよりに保護者の声も載せている。		
③	園では遊びの環境設定に力を入れるため、環境設定等プロジェクトを構成し、園内外の環境の見直しを行っている。このプロジェクトでは、ホールの見直しを行っており、棚やおもちゃの場所やホールに置いてある物についても見直しをしている。園内環境整備として、ホールだけでなく、特別保育室や園庭、衛生環境なども見直しを随時行い、個を大切にしながら保育並びに統合保育の充実を図ることに努めている。個別の対応として午睡時もクラスごとに布団を敷き、早めに休ませるような配慮をしたり、寝かせてはいけない子どもへの配慮をしている。		

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

当園の保護者は「荻窪南保育園親の会」をもち、年間の活動計画を設定して、役員や委員が自主運営をしている。今年度の活動として、花火大会、マジックショー、人形劇、応急救護訓練、バルーンショーほか、自転車の「防犯パトロールプレート」の配布や、クラス交流会なども行っている。園は、親の会の企画行事に対して、園行事に組み込んで行ったり、親の会からの行事の際の警備などの申し入れを受け、園の行事に協力してもらっている。

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 当園の保護者は「荻窪南保育園親の会」をもち、年間の活動計画を設定して、役員や委員が自主運営をしている。今年度の活動として、花火大会、マジックショー、人形劇、応急救護訓練、バルーンショーほか、自転車の「防犯パトロールプレート」の配布や、クラス交流会なども行っている。園は親の会の企画行事に対して、園行事に組み込んで行ったり、親の会からの行事の際の警備などの申し入れを受け、園の行事に協力してもらっている。当園では親の会の活発な様々な活動を支援すると同時に、一緒に楽しむように工夫している。
- ② 日々の子どもの様子は1～2歳児は連絡帳への記載で、3歳以上はホワイトボードにその日のあそびの様子を記載することで伝達したり、行事などの際の写真の掲示により、日々の様子を伝えている。また、クラスだよりを各クラスごとに随時発行しており、多いクラスは12月時点で19号の発行をしている。4歳児のクラスだよりには、保護者の随筆なども掲載されている。また、年2回の保護者会の実施や年間通して随時の保育参観・保育参加、個人面談も実施している。保護者会の日程は保護者に都合の良い日に設定してもらっている。
- ③ 当園は障害児の受け入れ人数について定員枠外を設定したり、運動会を土曜日に行ったり、夕涼み会を午後2時30分から6時30分まで実施するなどの配慮をしている。また、仕事の延長や保護者の体調によっても、保育時間内であれば、柔軟に対応するように努めており、保護者の事情に応じる姿勢を持っている。登降園の送迎を保護者が行えない場合にも、入園時に設定した保護者以外の受け渡しを行う人物の特定により、安全に子どもの送迎ができ、また、保護者の事情に対応できる仕組みとしている。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 虐待防止や育児困難家庭の支援が適切に行えるように、職員は区や保健センターの研修を受けたり、その研修の報告を職員会議で行ったり、資料や報告書を園内で回覧し、学んでいる。また、園内でも気になる子どもや職員の経験した事例をもとに、報告しあったり、検討会をすることで全職員の意識や情報の共有化が図れるようにと努めている。
- ② 園では、虐待を受けていると思われる子どもや育児のストレスや不安が強く、子育てに苦労をしていると思われる保護者を発見した場合には、職員間で事実確認し、支援の必要があると思われる場合には担任や園長が個人面談などをして、保護者の気持ちを受け止めるように努めている。また、その支援策として、区で設定している虐待防止マニュアルに従い、区や保健センター、児童相談所と連携をとる体制を整えている。園では、子どもの心を傷つけないように配慮しながら支援をするようにしている。
- ③ 子育ての不安やストレスの原因ともなりうる子どもの発達の遅れや育児の仕方がわからない家庭への支援に対しては、担任や園長、看護師らが子育て相談を受けたり、保護者会などで、子育て経験の豊富な保護者からの話を聞く機会を持つなどの取り組みをしている。園では、保護者の気持ちの受容や共感的理解に努め、カウンセリング的な対応をするようにしている。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	園では子ども達が様々な地域の人と交流する機会を持てるよう、ボランティアや実習生を受け入れたり、近隣保育園や小学校との連携を持ったり、行事の参加を声をかけるなどの取り組みをしている。また、児童館が事務局となって実施している地域交流事業でのまつりなどに参加したり、園庭開放や体験保育に訪れる子どもとの交流機会を持っている。												
②	園では、児童館や保健センターなどから配布されたポスターを掲示したり、区や都のお知らせなどを配布するなどの情報提供をしている。地域との交流による子どもの生活の幅を広げる取り組みは現在、積極的に展開するべく、努力を開始し始めたばかりであるため、今後の取り組みに期待したい。												
③													
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 80%;">標準項目</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	地域の子育て支援として、「あそびにきませんか」で園庭開放のことを知らせたり、ふれあい保育、体験保育、電話相談、見学などを受け入れている。ふれあい保育や体験保育に参加し他保護者に対して、アンケートをとるよう努め、地域ニーズの把握に努めようとしている。												
②	地域の福祉ニーズについて当園独自で把握して実施するまでには至っていないが、地域連絡会に参加し、その中からの地域のニーズ把握をし、その課題は区に提案される仕組みとなっている。地域との交流を今後は更に深め、子育て支援の核となる公立園としての存在を更に確立されたい。												
③													

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども達一人ひとりに目を向けた保育サービスの提供
	内容	園では、子どもの自主性や自発性が育つよう、日々のあそびにも計画を設定したうえで、様々なあそびを展開している。その中には、運動プログラムの実践や遊具計画なども取り入れられており、様々なあそび、経験、行事なども取り組んでいる。子ども一人ひとりのあそびや経験は、家庭での生活状況や保護者からの意見、要望にも連動させた計画となっているため、一人ひとりの遊びにも個の保障されている。様々な行事や日々の活動は、個々の体力や健康状態、発達過程の段階などに応じて、動と静の遊びのバランスを考えて設定している。
2	タイトル	業務の標準化を目指すマニュアルの作成
	内容	当園では、区で作成したマニュアルをもとに日々の職務を遂行するほか、園外保育や散歩、保護者・職員間の連絡方法、プライバシーや写真ビデオ撮影に関するマニュアル、障害児保育、近隣住民との関係、地域との関係、アレルギー対応、噛み付き・引っ掻き傷、怪我などの対応や日常生活での配慮などのマニュアルを作成し、日々の保育に努めている。マニュアル類は各クラスに設置されており、内容は職員会議等で適宜点検し、必要に応じて差し替えを行っている。
3	タイトル	環境づくりに対しての組織的な取り組み
	内容	園では遊びの環境設定に力を入れるため、環境設定等プロジェクトを構成し、園内外の環境の見直しを行っている。このプロジェクトでは、多くの子ども達が遊ぶホールの見直しを行い、棚やおもちゃの場所やホールに置いてある物を片付け、自然物を使用して装飾したり、おもちゃを整理して使いやすいようにしている。また、特別保育室や園庭、衛生環境なども見直しを随時行い、個を大切にしたい保育並びに統合保育の充実を図ることに努めている。近隣の公園に関しても子どもが安全に遊べる環境づくりを行うため、区との連携も行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の更なる能力の向上
	内容	時代の変化と共に、保護者の価値観も変化し、多様化してきている。そのニーズの総てに応えることは出来ないが、保育のプロとして顧客の期待には応える必要がある。保育のみならず、保護者との対応を含めて、高い技術と能力を保つことである。そのためには、区や園での研修のみならず、自己啓発、自己研鑽が必要となる。個人の能力の拡大は、そのまま保育園の組織能力の拡大でもある。
2	タイトル	コスト意識の徹底
	内容	保育園の予算は、今後増えていくとの保証は無い。むしろ、より厳しくなるかもしれない。杉並区でも、公設民営化は計画されている。意見は色々有るだろうが、これからの保育園職員は、コスト意識の徹底が望まれる。コスト意識とは、金銭だけでなく物品、時間、空間、環境その他あらゆるものが対象となる。サービスの質を高めるには、自分個人の時間コストを知ることから始めることである。
3	タイトル	安全対策の再点検
	内容	昨今の様々な事件により、不審者の侵入に対する保護者の不安心理は高い。送り迎えの際、誰でも自由に園に出入りでき、それを職員の誰も見ていない時があることに、不安を感じている。人手が十分ではない中、常時人を置くことは出来ない。何らかの対策を、今一度検討して欲しい。

〔利用者調査：認可保育所〕

《事業所名：杉並区立高井戸東保育園》

調査対象	園児の保護者所帯数89。	
調査方法	利用者調査アンケートを、園の職員を通じて降園時に保護者に配布してもらい、期日までに登園時に持参してもらった。その後、評価機関が回収した。	
利用者総数(人)	95	
調査対象者数(人)	89	
有効回答数(人)	65	
回収率	73.0	

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では大変満足38パーセント、満足46%、どちらかと言えば満足12%と、満足度は90%と大変高い。一方、満足度が低いのは、要望・意見や不満・トラブル等への対応についてが合計66%、地域との交流についてが合計66%となっている。利用者の自由意見記述には、たくさんの意見が寄せられ、良いとする点が49、園に対する意見が79あった。その中には、民営化反対、職員にバラツキがある、延長保育に充実を、などに複数の意見があった。アンケートの記入者は、母が圧倒的に多いが、父母が相談してが11%有る。大変喜ばしい。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	64	98.5	1	1.5	0	0.0	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	61	93.8	3	4.6	0	0.0	1	1.5
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	64	98.5	1	1.5	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	63	96.9	2	3.1	0	0.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	62	95.4	2	3.1	0	0.0	1	1.5
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	46	70.8	16	24.6	3	4.6	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	60	92.3	5	7.7	0	0.0	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	49	75.4	11	16.9	5	7.7	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	55	84.6	10	15.4	0	0.0	0	0.0
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	60	92.3	5	7.7	0	0.0	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	43	66.2	20	30.8	2	3.1	0	0.0
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	40	61.5	21	32.3	4	6.2	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	59	90.8	5	7.7	0	0.0	1	1.5
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	43	66.2	13	20.0	4	6.2	5	7.7
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	60	92.3	4	6.2	0	0.0	1	1.5
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	55	84.6	7	10.8	0	0.0	3	4.6
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	58	89.2	7	10.8	0	0.0	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	59	90.8	6	9.2	0	0.0	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	52	80.0	11	16.9	2	3.1	0	0.0
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	41	63.1	20	30.8	1	1.5	3	4.6

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	36	55.4	21	32.3	8	12.3	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	63	96.9	2	3.1	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	64	98.5	1	1.5	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	57	87.7	7	10.8	1	1.5	0	0.0

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <div style="text-align: right;">評点(A)</div>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(A)</div>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 当園の理念は、1一人ひとりの人権を守る、2安心・安全管理の保育、3保護者のニーズに応える、4職員の能力向上、5地域の子育て支援、の5項目が明示され、職員は十分に理解し、職務に取り組んでいる。利用者にも、様々な機会に伝えられている。しかし、利用者の理解度は55パーセントであり、この点では今一層の努力が求められる。保護者に、安心して子どもを預けられる保育園を目指しており、地域の子育て支援については、現代の子育ては地域ぐるみで、の信念で園長を始めとした取り組みを行っている。
- ② 重要な案件についての意思決定は、定例打ち合わせ会、臨時職員会議、あるいは様々な計画の策定時に、職員全体に園長が提案し、会議等で話し合い、お互いが十分に理解納得した上で、決定している。その場合、保護者の意見、要望に応じているか、職員が公務員としての正しい職務となっているかなど、を十分に検討している。その場になかった職員に対しては、必ず伝達・報告をするようにしているが、正しく伝達できているかどうかについては、不明確な部分もある。より以上の、報告・連絡・相談のホウレンソウの徹底が望まれる。
- ③

2	カテゴリ2	
	経営における社会的責任	
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
◎あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目3

地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
◎あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 保育サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理などは、公務員として当然のこととして職員は理解している。杉並区の例規集はもとより、個人の尊厳、差別の撤廃、プライバシー保護、虐待防止などについては、口頭で伝えるだけでなく、区からの連絡文書などは園内に掲示している。個人情報保護法の施行時には、職員のほとんどが研修に参加し、保護者会でも話をしている。特に、守秘義務の徹底には、繰り返し園長が訓示している。
- ② 平成15年度に第三者評価を受審。改善提案された事項に、まじめに取り組んできた。多少は効果が上がっている、との園長判断である。地域社会への情報開示は、お知らせやポスター掲示にとどまらず、ふれあい保育、園庭開放、障害児施設である「たんぼぼ園」との交流、夏祭り、運動会などの地域住民参加への積極的呼びかけを行っている。この園の開園は昭和49年5月で、31年の歴史があり、卒園生が自分の子を入園させるケースも増え、地域密着の成果は上がりつつある。常勤する看護師の講師派遣や他の保育園への協力派遣も行っている。
- ③

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	
	評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者一人ひとりの意向の把握は、お迎え時の職員との話し合い(短い時間ではあるが)や保護者会、個人面談での意見・意向の収集のほか、行事終了後の各種アンケート調査、など種々の方法で集めており、その後に生かすように努めている。保護者会の日程やスポット保育の利用について、などの意見は十分に参考となっている。苦情解決制度については、常に、園長・主査が聞くことをはじめ、区の苦情調整委員制度のポスターが、毎月送られてくるのを、見やすいところに掲示している。
- ② 地域・事業環境の情報の収集と整理・分析は、区主催の園長会、主査会での行政の動き、園児の入所状況、待機児の状況などの収集を始め、新聞・専門誌の記事からの収集、地域ネットワークから得られるものなどを中心に集めている。園内では、一応整理分析しているつもりではあるが、各保育園からの情報により、区が全体の動向を正しく整理分析している。区保育課の「保育サービスのあり方検討部会報告」「保育サービスの新たな展開」などの発行に、少しは役立っているものと考えている。
- ③

カテゴリ4

4 計画の策定と着実な実行

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

カテゴリ4の講評(一つ以上)

①	<p>計画の策定と実行面は、理念・ビジョンの中長期計画で制定した「五つ星のサービスを目指す杉並区」の保育園版に園独自の目標を作成したものに取り組み、年度単位には年間指導計画を、四半期・月間・週間計画にはスケジュール・担当者を決めて、実現に取り組んでいる。具体的には、プロジェクトチームの編成もある。計画は利用者の意見や要望、地域のニーズを踏まえて策定し、見直しには職員参加の職員会議で、毎月及び年度末、年度始めを中心に行っている。策定には、制約条件を念頭に置き各方面への影響、コストなどを踏まえた計画としている。</p>
②	<p>計画推進にあっては、組織目標を第一にチャレンジプラン(路程表)に従って、役割分担表を作成し実行している。より成果が出るように、事例研究なども行い職員が十分な力を発揮できるよう、常に気をつけている。計画の中には、利用者の安全の確保・向上も重要な地位を占めている。不審者対応には、非常110番、防犯カメラ、防犯ベル、催涙スプレー、さすまたなどを準備し、関東警備保障(株)と密接な連絡を取っている。危機管理、事故対応のマニュアルを整備し、訓練などの実施後は反省を基にして、次回の対策につなげている。</p>
③	

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(B)

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)

①	園内の人事制度・方針は、採用は区が区の人事方針に基づき行っており、園長は配置された職員を、期待する人材像に近づける役割を担っている。責任感と積極的意欲を持って仕事に取り組む職員、を期待している。採用権限のある非常勤職員についても、同じである。職員の能力向上には、本人の希望を把握し、個人別研修計画を描き、研修会への派遣、報告会の実施、OJT、役割分担、クラス担任などを決めている。そういった一連の行動の中から、成果を判断し、本人にもフィードバックをして本人も納得の上、更なる向上計画につなげている。
②	職員個々の能力は、チームワークとして発揮されて始めて組織力となる。組織力発揮のために、職員が個々に気づいた点や工夫したことは、常に共通の場へ提供し、話し合いのうえ改善へとつなげるともお互いの学びの場としている。個人で判断に苦しむ時には、どうしたら良いのかは口頭で示し、特に明示はしていないが問題はない。職員のやる気と働き甲斐の向上については、職員個々の気持ちと感情をつかみ、本人のモチベーションとなりうることを園長は常に考え、与える努力をしている。その結果、職員は保育内容の向上に真剣に取り組んでいる。
③	

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <input type="radio"/>非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)

① 園内の情報の管理は、公務員としての守秘義務を熟知している職員構成ではあるが、部外秘、持ち出し禁止文書などは鍵つき金庫や書庫の保管しているものの、情報が増えるとともに鍵のかかるスペースが不足気味である。情報は、園長・主査が管理するものと、職員と共有するものに分け管理している。新しい情報との更新は、各クラスリーダーが月に一度実践している。持ち出した書類は、その所在を明らかにしている。個人情報保護法は、職員全員が区の研修を受けその内容と、対応方法は十分に承知している。保護者や実習生についても、説明している。

②

③

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
	改善の成果	
	前年度の反省会で、成果が得られなかったことについて、全職員で話し合い、利用者の要望に応え得る努力をした結果、改善成果が見られた。園長の認識である。それを裏づける利用者アンケートがある。「今年度は、職員の対応の格差をほとんど感じなくなった」「担任にバラツキが少ない」「こんな運動会にして欲しい、と要望を出していたら、よく検討してすばらしい運動会をしてくれた」「登降園の時間について柔軟に対応してくれ、仕事との両立が出来て感謝している」などである。上記のカテゴリ、社会的責任を認識し良き計画を策定し実行したものである。このことの裏側には、リーダーシップと意思決定がうまく発揮されたことを物語るものである。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」 		
改善の成果		
前年度まで無かった研修報告会を設け、情報を共有することで自己啓発につながっている。又、職員一人ひとりが目標を持つことにより意識を新たにして仕事に取り組んでいる。前年度、時間外に研修を受ける者がゼロであったのに対し、今年度はこれまでに3人の職員が時間外研修を受講している。この者以外でも、研修を受けた職員は、受講した内容を実践して、保育に生かしている。その成果は、前記の改善成果を挙げる事で十分であろう。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 		
改善の成果		

個人情報保護法により、園児を始めとする情報は全職員で共有し、鍵のかかる保管庫に収納・整理し、持ち出す時は職員同士で声を掛け合い確認している。このことは改善成果といえる。又、サービス提供のプロセスについても、さらに向上充実させている。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面に於いて保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し、運営費の増加6%職員費はダウンしているが、全体的に区の自主財源で賄っているの向上していると考えられます。保育園で出来ることとして徹底的な費用の節減に取り組んでいる。消耗品は、衛生管理面で消毒用に古着を活用し、事務管理面ではパソコンの印刷、文書のコピー用には使用済みの裏紙を使用、園児用の玩具としてリサイクル用品を利用、ペットボトル、牛乳パックなどを使って紙製遊戯品や教材を作り使用している。これらの品は、子どもたちにも喜ばれており、母親たちの評判も良い。予算減のなか、保育サービスの質を落とさずに運営をしていることが、改善成果といえる。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

A+ A B C

・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握」

改善の成果

利用者意向は、保護者の意見・曜日・苦情の対応に意見箱、送迎時の会話、連絡帳、保護者会、個人面談、行事アンケートなどから情報を得て、一人ひとりについていねいに応える努力をした結果、前述のような利用者アンケートの結果を頂いている。様々な意見・要望があり、多種多様なものの総てを受け入れることは困難ではあるが、保護者に理解してもらえるように調査結果を基に働きかけ、今後も信頼関係が向上すべく最善を尽くす必要が有る、との園長の意思がある。地域や事業環境の状況把握の点は、年々向上しているものの、いまだ十分とはいえない点もあり、今後も課題の一つとしてより以上の成果を上げることが求められる

カテゴリ8の講評(一つ以上)

① 改善成果に見るとおり、総てにわたって年々サービスの質は向上している。どの評点もAという評価で、さらにAプラスをめざしてほしい。職員教育の更なる向上充実を計り質を高め、保育サービスはもちろん、対境環境(保護者、地域住民、地域団体、学校、公共機関、地方自治体、取引関係者)などへの満足感を高める努力を続けることである。公設民営化の流れは、杉並区立保育園にも及び、スケジュール化されている。保護者もそれを知り、不安を抱いたりしている。しかし、公であれ民であれ理想の保育園運営は同じ、と知らせる事である。

②

③

II サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	A+以外では【標準項目を超えた取り組み】のコメントは削除してください 評点(A)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/> 非該当
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <input type="radio"/> 非該当
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/> 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	当園の見学や入園希望者は市の保育情報誌やホームページ、入園のしおり等で当園の情報を得ることができる。区のホームページには、在園児数と空き情報が掲載されている。当園は朝7時30分から午後7時30分までの延長保育実施園(1歳児以上)として、また、緊急時に保育時間の延長が必要な保護者の要望に応じられるよう、今年度の試行事業として、延長スポット保育制度を導入(月に35～6名の利用がある)している。現在、延長保育の利用者は25名で、延長スポット保育利用は当日の連絡でも、空きがあれば受け入れている。	
②	園の様子は園だよりやクラスだよりなどを月1回以上発行しており、クラスだよりはできる限り、多く出したいと考えて取り組んでいる。また、日々の様子は保護者との直接的な会話や乳児には連絡帳、幼児には、クラスの前に置いてあるホワイトボードで確認することができる。当園の職員は、保護者との会話を大切に考えているため、複数担任のクラスの職員が遅番や早番を引き受け、どのクラスの保護者も毎日必ず、保護者と会話している。その会話で子ども一人一人の状態を知ることができるため、保護者は安心して子どもを園に託している。	
③	見学や園への問い合わせに対しては、いつでも、都合の良い時に来園してもらえるように来園希望の日時を確認し、園長らが対応するように努めている。また、ふれあい保育により、園の生活を体験してもらえ、希望があれば1食200円で給食の試食も可能となっている。園の情報は、在園児数の変更や行事予定、様々な意見や要望等が寄せられた場合には区に、夏祭りや運動会の行事の際には児童館や、地域の商店の掲示や掲示板等に掲示している。行事のポスターは子ども達の作品で、毎回20枚程度の掲示がある。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

子ども一人一人への配慮をするために、できる限り担任の継続を図り、クラス持ち上がり制を実施したり、朝夕保育にも担任が関わり、保護者と直接会話するように努めている。

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 入園前の子どもの情報は、侵入園児健康診断の際の身体測定と、区からお渡ししている入所までの生活状況、入園時健康調査票や健康診査アンケート、0歳児1歳児の食事調査のほか、園が独自に作成した家庭連絡表がある。この家庭連絡表には、保護者の勤務先や連絡先、緊急時の連絡先、かかりつけ医(小児科、外科、歯科、整形外科)及び既往歴(脱臼も含む)や平熱、アレルギーやひきつけの有無などの欄がある。この用紙は、保護者の書きやすさに配慮するため、1項目ずつの行の幅が少し広めになっている。
- ② 入園説明会では、入園後の子ども達の生活について話をしたり、子ども達が健康で安全に楽しく生活できるように、保護者に対しての園からのお願いや、園が行っている安全管理、園で使用する持ち物の説明、延長保育や延長スポット保育に関する内容などの話をしている。園では、子ども達の安定に配慮するため、必要に応じて持ち上がり担任制を導入している。子どもも保護者も担任が継続されることで、信頼関係が深まっている。持ち上がり担任の配置により、子どもも保護者も個々の対応が充実し、安定した生活が可能となっている。
- ③ 当園はアレルギーの子どもが全園児の1割以上おり、心身の健康になんらかの配慮が必要と思われる子どもも少なくないため、入園前に個々の状態を十分にヒアリングし、入園後一人ひとりの状態に応じた適切な対応ができるように細心の配慮をしている。特にアレルギー要因も程度も異なる子ども達であるため、アナフィラキシーショック(アレルギーによる、死の危険性も伴う重篤な症状)は、絶対に起こしてはならないという認識のもとに、園長始め調理士、担任、看護師だけでなく全職員が一丸となって留意している。

サブカテゴリ3

3	個別状況に応じた計画策定・記録	
	評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点(A)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
◎あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし			

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 園では保育目標に「心身ともに健康で元気に遊ぶ子、丈夫なからだの子、豊かな心を持つ子、意欲のある子」を設定し、それをもとに、子どもの発達や遊び、生活、行事などを盛り込んだクラスごとの年間指導計画、月の指導計画、週の指導計画があり、これらが細分化され、日々の保育となっている。園では日々の打ち合わせや伝達、各クラスの毎日の打ち合わせ、乳児クラス、幼児クラスそれぞれの会議、月1回のカリキュラム検討会、全体の昼の打ち合わせ、夕方の職員会議で様々な計画や子どもの状態についてのケース会議などを行っている。
- ② 園では、保護者から確認している子どもの心身の状態や生活状況に変化があった場合や、保護者から報告や相談、意見、要望などが寄せられた場合には、担任はじめ必要に応じて、看護師、園長らも相談にのっている。その内容は、個人面談記録に書きとめられ、日々の保育計画や生活上の配慮点の修正や変更としている。保育計画の修正や変更を行う場合には、打ち合わせや職員会議を通じて、慎重に検討されたり、全体への周知としている。検討された内容は個別計画の作成や保育計画の修正、変更につながっている。
- ③ 心身の健康状態が気になる子どもへの支援は、看護師が保護者や担任に直接アドバイスしたり、支援上の留意点についてサポートをするようにしている。特に、発達上の課題を抱えていると思われる子どもには、園での生活や遊びに個別の配慮をしながら、1対1の関わりに努めたり、個別計画を立てながら保護者の気持ちも理解するように努めている。園では保護者との面談を大切にし、子育てに関する情報提供を行ったり、サポートするように努めている。園には年4回、発達相談や巡回指導が訪れるため、職員はその際に様々な指導も受けている。

サブカテゴリ5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重
---	--------------------

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			評点(A)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし			

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 職員は子どものプライバシーや個人の尊厳を守るため、児童福祉法、公務員規程、区の職務規程に基づき、適切な支援をするように努めている。職員は、今年4月から導入された個人情報保護法に対しての区の実施している研修に参加して学びを深めているが、園では法施行前より、園児を始めとする情報を全職員で共有し、鍵のかかる保管庫に収納・整理して充分管理している。保護者に対しても、入園説明会の際に、写真やビデオ撮影などの個人情報への配慮を依頼や同意について話し、同意を得た人のみの撮影としている。
- ② 園では子ども一人ひとりの自主性や主体性を育てるために、遊びや生活の中において、子ども自身が選びやすいような選択肢を用意したり、子どもが自分で決められるまで待つ取り組みをしている。また、子ども同士のトラブルがあっても、双方の言い分をしっかりと聞き、お互いの気持ちを双方の子どもが確認でき、納得できて、仲直りできるように支援しているクラスもある。園では、職員が常に自分自身を振り返り、適切な支援となっているかを職員間で確認したり、積極的な意見交換をすることで、個の尊重ができると考えている。

③

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 園では、区の作成したマニュアルを職員誰もがいつでも確認できるよう、所定の場所におき、閲覧可能としている。職員は、長年の経験を有するものが多いため、基本的なことはマニュアルがなくても理解でき、適切な対応ができていたが、特に延長スポット保育に関しては、今年度の試行事業であるため、職員全員が手順を覚え、チケットの受け渡しが円滑にできるようにしている。職員は日々、園長に確認しながらその手順や適正さを判断している。
- ② 職員は通常年度末に手順書やマニュアルの見直しを行っているが、子ども達の日常生活から把握し、改善が必要と判断したものが在れば手順初頭の見直しも行うようにしている。その例として、アレルギー食の見直しや展示食の取り組みを検討し、手順の改善を行っている。また職員はベテランぞろいであるため、保護者からのアンケートや意見、要望が上がった際にも、スムーズな対応が可能となっている。園では子育て環境の変化や保護者のニーズの変化に対応するために、職員の更なる向上が図れる取り組みを検討したいと考えている。
- ③ 園には、小学校の警備員が巡回したり、警官が立ち寄りして防犯に努めているが、不審者への対応には十分な配慮が必要と考え、防犯グッズや身の回りのものを使用して子ども達を守る術を確認し合っている。保護者の中には、世間をにぎわす様々な事件により、子ども達の更なる安全を求める声も聞かれている。ハード面の改善は、区と共同で取り組む必要があるため、十分に協議され、その対応に努められたい。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園では、「丈夫なからだの子、豊かな心を持つ子、意欲のある子」を育てるために、心身の健康を促進する遊びに力を入れている。「丈夫なからだの子」を育てるために、0歳からからだを動かすあそびをとりいれたり、1歳からの泥んこ遊びをしたり、体力に合わせて散歩の距離を伸ばし、体力をつけている。また、幼児になると運動プログラムの実践として、マット運動や巧技台を用いてのバランス運動、戸外でのボール遊び、ルールのある遊びなど様々な遊びを計画の段階から設定して取り組んでいる。自由遊びではわずかな時間でも園庭で遊ぶ子どもが多い。		
②	当園では自然の草花や木の実、野菜やリサイクル素材(ボタンやペットボトル、牛乳パックなど)、ハギレの布やリボン、毛糸など、身近な素材を活用して、おもちゃを作成したり、子ども達はその素材を活かして遊んだりしている。ペットボトルは中身を入れてジュースにするだけでなく、キャップをたくさん集めて、積み木やおはじき代わりにしたり、ひも結びなども遊びにしている。夏には水遊びだけでなく、花の絞り汁を利用して草木染めをしたり、オクラの切り口を用いてスタンプングをしたりなど様々な遊びをし、日々の遊びを楽しんでいる。		
③	園庭や畑でキュウリやトマト、なす、枝豆、オクラ、ピーマン、つまみ菜、ラディッシュなどを年齢に応じてできることの取り組みをしながら、栽培を楽しんでいる。サツマイモは近隣の農家の畑でできたものを、収穫後、焼き芋や調理したものを、みんなで味わっている。栽培では植物の成長を観察したり、収穫の楽しみを体験し、自然とのふれあいと食育の実践にもなっている。また、園で蝶を孵化させたり、カブトムシやクワガタなどの飼育も行っている。自然が少ないといわれている都内で、これだけの体験ができる子ども達は幸せである。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	園では区の献立をもとに、子ども一人ひとりの離乳の段階やその日の健康状態、食欲などの状態に応じて形態やメニューを毎日、調整した調理をしている。特にアレルギー児の食事に関しては、献立表の食材と照らし合わせ、毎月、保護者にチェックしてもらっている。そのチェックに基づき、職員間で事前、前日、当日のそれぞれに打ち合わせをし、素材や調味料等の確認をしている。アレルギー児の食事には除去素材を記載したプレートをつけ、個別のトレーに乗せ、職員が誤食防止に努めている。		
②	園では食べる時の姿勢がよいと消化を促進することや、遊び食べの防止になることから、安定した椅座位が取れる子どもには背もたれがあるイスとそうでないイスを用意したり、足底部全体が床面に届かない場合、足台を用意するなどしている。離乳食は、子供一人一人の離乳状況に応じるため、保護者と日々、連携をとり、職員で話し合い提供している。安定座位が確立していない乳児には姿勢保持の可能な程度に応じて変化させられる椅子が準備されている。0歳児は穏やかに落ちついて食べている風景が見られた。		
③	園では楽しくバランスよく、よく食べ、健康的に成長してほしいという思いから、年1回実施しているおたのしみおやつだけでなく、子ども達のリクエストメニューを取り入れて、園独自の献立が増やせるようになることを望んでいるが、評価者としてはせっかく作った野菜なども子ども達のクッキング保育となるような取り組みにもつながるような支援も検討されることを望みたい。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子ども達は毎月の身体測定のほか、乳児には週1回の巡回健康診断、幼児には年2回の小児科医による健康診断、年1回眼科、耳鼻科、歯科による検診が実施され、その記録は健康管理表や健康カードに記載され、保護者には検診等の結果を知らせ、情報の共有を図っている。園では健康管理を行うために、保健だよりを発行したり、感染症流行時にはポスターを作成し、保護者が目にしやすい位置に貼付したり、お知らせを文書にして保護者に配布し、知らせるなどの配慮をしている。		
②	看護師は、各クラスの朝の視診のほか、保護者からの連絡や連絡帳などから子どもの健康状態を把握したり、担任や保護者からの相談に応じている。子どもに健康上の変化がある場合には看護師が確認し、保護者に連絡をしている。また、看護師は必要に応じて医療機関への付き添いを行うなど、丁寧な対応をしている。服薬は区の方針に従って実施し、看護師が責任を持って薬用冷蔵庫に保管し、医師の指示通りに処方している。乳幼児突然死症候群の防止のため、0歳児は10分おきに1～2歳児は15分おきに午睡チェックし、表に記載している。		
③	保護者は子どもの発達や健康状態について不安があったり、悩みがある場合には、看護師が専門的知識を持って、情報提供してくれたり、アドバイスをしてくれるため、安心して子どもを預けることができている。当園は0歳児が11名いるほか、アレルギー児、心身の健康状態に配慮が必要な子どもも少なくない。また、散歩などで園外に出ている子ども達の緊急時には、職員の状態判断や対応が求められる。当園にはベテランの職員が多く、即座の対応も可能であるが、今後も研鑽を積み、より適切な対応ができるように努められたい。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園の行事には、毎月の誕生会、夏祭り、心身の発達を見てもらうミニ運動会的な「このゆびとまれ」、職員が子ども達に提供するミニシアター、冬や新年の子ども会、お楽しみ会などがある。夏祭りは、アイヌの踊りを年長児が披露したり、みこしを作って浜田山商店街を練り歩いている。園内ではヨーヨーつりやシャボン玉遊びなどを楽しんだり、職員の手品を見たりしている。また、幼児クラスの誕生会では月1回、おやつ後に、皆と一緒に歌を歌ったり、手遊びをし、カードを贈っている。子ども達は日々、楽しい時間を過ごしている。		
②	各クラスはそれぞれの年齢に応じた環境設定がなされ、一人ずつ好きな遊びができるように棚には、紙やクレヨン、粘土、ボタンやどんぐりなどの木の実、毛糸や空き箱、牛乳パックなどの廃材、ハギレの布やリボン、毛糸などの制作用の素材と、おもちゃや積み木、ままごとの道具などがそれぞれ遊びやすいように置かれている。子ども達は無邪気に遊んでおり、それぞれの遊びに集中している。子ども達は様々な遊びを展開していく力を持っているが、今後はその創造性を高める空間作りなどへの取り組みも期待したい。		
③	園では、子ども達の豊かな心や意欲を育てることを目標にしており、様々な工夫がしやすいように素材が豊富に用意されて、物的環境としての整備に対し、前向きに取り組まれている。子ども達はその素材を用いて、様々な遊びを楽しんでいる。できれば、その遊びを更に広げることかかわりや子ども達一人ひとりの気持ちを理解し、遊びの一つ一つに反映できる職員が今以上に増えることを期待したい。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	<input type="radio"/> 非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	園では子ども達の普段の様子を見てもらう機会として、保育参加や保育参観を設定したり、夏祭りや運動会、あそぼう会などの行事を保護者が参加しやすい時間や曜日にするように努めている。また、保護者に対しての、毎日の口頭の連絡や一日の様子などの報告、クラスの保護者会や個人面談時子ども達の家の様子を確認したり、園での様子を伝えるなどの取り組みをしながらコミュニケーションの充実に努めている。日々の様子がわかるように、写真展示も行うように努めている。		
②	園では、保護者の迎えが遅くなる場合には、当日の朝の口頭もしくは連絡帳の伝達、また、夕方でも保護者から直接電話をもらえれば、柔軟に対応するようにしている。また、延長保育の申請がない場合でも、延長スポット保育の空きがあれば、利用することができ、急な残業でも対応してもらえることが少なくない。保護者が直接迎えにこれない場合でも、その人の名前や特徴を電話で教えてもらったり、子どもに確認してもらうなど、している。ベビーシッターやファミリーサポートセンターの会員による送迎の場合には、名札で確認している。		
③	園では、日頃忙しい保護者の事情を考えて、イベントや行事に、企画から参加してもらうことはあまりないが、夏祭りの時には、浴衣の着付けや子ども達のねじりハチマキをつけるのに協力してくれたり、ヨーヨーコーナーの手伝いを申し出てくれる保護者も存在する。園の運営には保護者の協力が不可欠である。子ども達も自分の親が行事にかかわる姿を見ることで、情緒面も社会性もより伸長すると思われる。園でも保護者との連携を深めたいとの意向もあるため、行事開催曜日や時間等の検討を含め、何らかの取り組みを期待したい。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 園には、虐待防止マニュアルがあり、各職員がマニュアルを見て学んでいるが、職員全員が、虐待や育児困難についての理解を深め、適切な対応がさらにできるようになるため、区や保健所の研修を受けたり、職員会議でその研修の報告を行ったり、資料や報告書を回覧し、皆で情報の共有化に努めている。また、更衣の際の身体チェックや子どもの言動、保護者の態度などをしっかりと観察することで、その事実の確認をしている。職員は園内で気になる子どもが発見された場合、情報の共有を行い、お互いが相談、報告、連携するように努めている。
- ② 園では、子どもの心身の発達において他児と異なる場合や育児ストレスがあると思われる保護者が見られた場合には、積極的に話をしたり、面談をしてその悩みの解消に努めるようにしている。また、保護者会では、保護者から出される様々な話の中から、子育ての仕方や子どもの受け止め方などについての情報提供したり、保護者同士の意見交換で、取り組みの例を聴く機会もあるとして、保護者に対しての特別な勉強会は実施していない。
- ③ 園では、虐待が疑われる場合、職員から主査や園長に報告された後、区や子育て家庭支援センターや児童相談所に連絡をしながら、子どもの保護を行う準備もすることがある。基本的には、十分な話し合いと、子どもの受容と保護者の受容の双方を大切にすることが、適切な子育てを推進するものと考えている。職員は、より柔軟で繊細な心と適切な判断が出来る目を持ち、その対応に努められたい。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	子ども達に日頃から散歩時に地域の人に挨拶をしたり、地域の小学校に行ったり、近隣の子どもと公園などで一緒に遊ぶ機会を持っているほか、子ども発達センター「たんぽぽ園」との月1回の交流や敬老会館との年1回の交流、図書館利用などを行っている。また、園には、中学生・高校生の職場体験や夏休み中の大学生ボランティア、保育専門校の実習生などが訪れている。子ども達は様々な人と交流しながら、社会性を高め、日頃の遊びを充実させている。												
②	園では、都や区、保健センター、児童館、地域の催し物などの記載されたポスターやチラシを受け取った場合には、各家庭に配布したり、保護者の見やすい位置に掲示するように努めている。また、看護師ら園の職員を派遣し、子育て支援を促進する取り組みをしている。しかし、園で実施しているふれあい保育は月平均1～2組の利用者で、園庭開放に来ている地域の親子はほとんどいない状況である。そのため、園では、今後の対策として、地域に向けて園の取り組みを看板やチラシにして広報する予定である。												
③													
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 80%;">標準項目</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	園ではふれあい保育に参加してもらった保護者にアンケート調査を行ったり、施設見学に訪れた人の意見や要望を把握するようにしている。また、園に寄せられた保護者の意見や要望などで、区に対する内容のものは、区に連絡し、その対応を図ってもらうように努めている。												
②	地域子育て支援の充実の基本項目は満たしているが、ふれあい保育や園庭開放の利用者が多くない現状がある。職員の忙しさにより、地域に向けての取組みが遅滞しがちな現状も理解できるが、ベテランぞろいの園であるからこそ、より地域のニーズを把握し、その専門的知識や技術を地域に向けて発信されたい。												
③													

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	丈夫なからだづくり
	内容	園目標の一つ、「丈夫なからだの子」を育むため、0歳からからだを動かすあそびを取り入れたり、1歳からの泥んこ遊びをしたり、体力に合わせて散歩の距離を伸ばし、年長児は片道40分以上もの道のりを歩いて公園に行くなど、たくさん歩くことで体力をつけている。また、幼児クラスでは、運動プログラムの実践として、マット運動や巧技台を用いてのバランス運動、戸外でのボール遊び、ルールのある遊びなど様々な遊びを計画の段階から設定して取り組んでいる。自由遊びではわずかな時間でも園庭で遊び、体力を増進させている。
2	タイトル	遊びの工夫ができる環境設定
	内容	当園では 園庭や畑でキュウリやなす、枝豆、オクラ、つまみ菜などを各クラスごとに栽培して植物の成長を観察したり、収穫の楽しみを体験し、それを食べたり、遊びに入れたりする食育を実践している。また、自然の草花の染料を用いて草木染をしたり、園で蝶を孵化させたり、カブトムシやクワガタなどの飼育も行っている。公園や園庭などで見つけた木の実や葉っぱなどはリサイクル素材(ボタンやペットボトル、牛乳パック、ハギレなど)とともに遊びの材料としている。子ども達は高価なおもちゃでなくても楽しい遊びを見つけ、創造力を刺激している。
3	タイトル	アレルギー児に対する責任を持った対応
	内容	当園にはアレルギー児が1割近く在園しているため、アレルギー食に対してはより慎重に取り組んでいる。アレルギー児の食生活は、日々、医師との連携の元に行っており、保護者との連携がなくてはならないものと考えている。そのため、園では毎月、保護者と子どものアレルギー状況の状況について確認、献立表の食材と照らし合わせ、職員間で事前、前日、当日打ち合わせをし、素材や調味料等の確認をしている。アレルギー児の食事には除去素材を記載したプレートをつけ、個別のトレーに乗せ、職員が誤食防止に努め、責任を持って対応している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育園の理念・ビジョンの周知徹底
	内容	父母であれ保育園であれ、子どもの健やかな成長を願い、将来の良き社会人を育成したいとの気持ち、感情、愛情は同じはずである。しかしながら、保護者の意見の中には様々なクレーム、苦情が出てきている。区立保育園にかぎらず、出来ないこと、膨大なコストがかかるもの、などの制約の中で職員は努力をしているはずである。理念が親と同じと分かれば、苦情は改善提案に変わってくる。園の理念の理解度は、保護者の半数以下である。両者の理念・ビジョンの共有化が望まれる。
2	タイトル	環境変化の認識と新しい対応提案を
	内容	「超少子国」となづけられた最新の日本である。「子は宝」との言葉は、親にとってであったが今後は、日本国にとってである。様々な議論があり、問題がある中で保育専門家がいない保育園からの発信は少ない。現状の保育理念でも何ら問題は無いが、より時代にあった理念は考えられないか。保護者や関係者・団体がこの園の理念の共感者となり、国や社会・住民に保育園こそこの問題の解決集団であるとの認識を与えるほどの、提案を出来るような勉強、研究に全員が取り組んで欲しい。
3	タイトル	経営層の経営関係の勉強の強化
	内容	園長・主査は、区の役職では係長の職にあり経営者とはいえない。しかし、現に園長であり次期園長の立場にある。園の運営は、即経営でもある。区立保育園が民営化されようがされまいが、保育内容については対等のサービス競争に入る。公立と私立には、それぞれ良い所がありマイナス点もある。保育園経営についての学習を、これまで以上に幅を広げて取り組み、どの園を任かされてもナンバーワンにしてみせる、と自信を持って言える経営者となって欲しいものである。

調査対象	杉並区立松ノ木保育園 調査対象者は82名であり調査記入者は父と母で98%である。年齢層は34歳までは54%、35歳以上は46%である。対象者の勤務状況は常勤が62%であり、母の勤務状況は常勤が24%である。	
	調査対象者数(人)82名に対して、園の協力により調査票を配布していただいた。回収については当機関所定の返信用封筒を用い直接当機関に郵送する方法により、個人情報の保護に注意を行った。	
調査方法	利用者総数(人)	82
	調査対象者数(人)	82
	有効回答数(人)	52
	回収率	63.4

利用者調査全体のコメント

アンケート調査による保護者の意向は、本園の諸調査項目に対して大体において「満足感」を抱いていることが分かります。園児たちへの保育士の対応については、満足感を持っている保護者の感想が多くありました。但し保育士個人個人についての見方は、「質にばらつきがある」とも意見が幾つかありましたが、保護者との相性や、それを感じた時点での事情などで左右されることがあるので、一概にその意見を丸呑みには出来ないと思います。園にいるときの子どもたちは、楽しいひとときを過ごしているのか退園するときは満たされた表情をしているので、保護者たちもその点については安心感を持っているようです。総合的には大部分の保護者が、この園に対して満足感をもっており、その点ではよい運営をしていると評価できます。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	1	1.9	10	19.2	0	0.0	41	78.8
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	2	3.8	6	11.5	2	3.8	42	80.8
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	41	78.8	10	19.2	1	1.9	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	44	84.6	7	13.5	1	1.9	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	2	3.8	2	3.8	0	0.0	48	92.3
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少)ない)ですか	1	1.9	15	28.8	5	9.6	31	59.6

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	1	1.9	10	19.2	0	0.0	41	78.8
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	50	96.2	1	1.9	1	1.9	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	50	96.2	2	3.8	0	0.0	0	0.0
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	49	94.2	3	5.8	0	0.0	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	0	0.0	6	11.5	0	0.0	46	88.5
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	1	1.9	7	13.5	0	0.0	44	84.6
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	0	0.0	11	21.2	0	0.0	41	78.8
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	1	1.9	10	19.2	0	0.0	41	78.8
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	1	1.9	12	23.1	2	3.8	37	71.2
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	46	88.5	6	11.5	0	0.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	1	1.9	12	23.1	1	1.9	38	73.1
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	1	1.9	16	30.8	1	1.9	34	65.4
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	2	3.8	12	23.1	2	3.8	36	69.2
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	2	3.8	13	25.0	2	3.8	35	67.3

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	2	3.6	1	1.8	6	10.9	46	83.6
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	1	1.9	18	34.6	0	0.0	33	63.5

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <div style="text-align: right;">評点(A)</div>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(A)</div>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <div style="text-align: right;">○ 非該当</div>
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 当保育園が目指している「保育の理念」は、「1. こどもの最善の利益。2. 子供の福祉の増進」というように掲げ、その実現のための『保育目標』として「*健康な体のこども、*意欲的に遊べる子供、*情緒豊かな子供、*自分で考えて行動できる子供」と4項目を掲げています。この理念及び保育目標を、園の職員全員及び利用者にも明確に理解してもらうために、毎週の職員会議では園長が全員に話し、また「松ノ木保育園のしおり」に明示して全員に配布し、これらは園内にも掲示してあります。
- ② これらの理念・目標を職員に徹底させる手法としては、毎月の職員会議、ことあるごとにOJT、などにおいて園長や主査から徹底をさせており、具体的には「事務分担及び係り分担表」に記述して、各人が目標を達成できるように責任範囲などを確認させてあります。この分担表は園内の諸業務を総て網羅しているように見受けられ、各職員の担当業務及び責任の所在を明示することによって、全員が園内業務を把握して業務の円滑化を図るためにも役立っていると思料致します。
- ③ 経営層の意思を職員に周知徹底させるには職員会議、業務分担表によって行い、利用者に対しては「園だより」園内の掲示などで必要事項を伝えています。ことにその日その日の連絡事項は、各クラスごとにホワイトボードに記入し、園児のお迎えに来る保護者に周知徹底を図っています。またOJT活動での問題点や決められたことは、全員の会議の際に他の職員にも徹底できるように議題に載せて発表しています。これによって問題の全員での共通認識を図ることが出来るように進めています。

2	カテゴリ2	
	経営における社会的責任	
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

評価項目2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

① 職員が保育園の事業者として守るべき法や規範は園長が職員教育を通して徹底しています。個人情報保護の研修には全職員が参加しており、事務室にある園児の個人情報は施錠した保管庫に収納してあり、園長・主査などの権限のあるもののみ閲覧できるよう管理されています。これらは実習生や研修生・ボランティア達にも、受け入れの際に説明するマニュアルに記述してあり、その都度説明して確認しています。

② 地域との連携については、近隣への幼児への園庭開放や、焼き芋会、節分行事などの際に近隣を招いて参加をしてもらい、園児との交流を図って喜ばれています。また隣接する小学校区を単位とする連絡会「堀之内小学校地域子育てネットワーク」を結成して地域の諸機関との交流を図り、互いに情報交換をし、地域貢献にも役立てております。

③ ボランティアとして、中学生・高校生・短大生・教師などを受け入れています。その都度「実習生・ボランティア・インターンシップ等受け入れマニュアル」を提示し、園長がオリエンテーションをし、その後は主査が担当して対応しています。中学生・高校生は、近隣の学校の生徒達であり、園児との触れ合いがよい経験になっているように見受けられます。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	
	評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者に対しては個人面談(9月～1月)、保護者会(5～6月・2月)、園だより(毎月発行)などで折に触れて利用者の意向(意見苦情)などを把握するような機会を作っています。またこれらの利用者の意向については、口頭または文書にて迅速に対応するように取り組んでいます。ことに来年度から実施予定に調理委託制度については利用者の関心が高く、不安を持つ利用者が多いので、保護者会や会報などにて全職員が対応するように心がけています。またポスターの掲示によりこれらの事項を利用者に説明しています。
- ② 利用者に対するアンケートは、重要事項など(例えば延長保育に関して)についてその都度必要に応じて行い、今後の方向づけに活用しています。園では解決できない制度上の問題は、区に報告し検討を依頼します。児童の定数見直しについては、区に案を提出し、区の決定に従っています。
- ③ 地域や事業環境に関する情報は地域の町内会に出席して確認し、適宜行うアンケートなどで情報を収集しています。また近郊地域の動向を把握するために、「子育てネットワーク」を活用して情報交換をし動向を把握しています。園長は毎月の園長会に出席して福祉事業の全般的な動向を把握し、必要事項は主査などの職員に周知徹底しています。

カテゴリ4

4

計画の策定と着実な実行

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)

①	<p>計画の策定と実行面は区の中長期計画で制定した「五つ星のサヘビスを目指す杉並区」の保育園版「子供・子育て行動計画」より園での具体的な内容は概ね策定する事務分担及び係り分担表に記述し、担当者及び全員で確認している、この分担表は年間の園内のすべての業務や行事を総て網羅してあります。</p>
②	<p>前記の事務及び係り分担表を作成する際には利用者の同行や地域の福祉ニーズなどを踏まえて、職員の意見を加え策定しています。地域密着の行事なども加えてあり、職員の業務との関係や経費面の問題なども考え、前年度の反省を加えながら、計画は進められています。これらの内容は必要に応じて「園便り」や「松ノ木保育園のしおり」に記載して利用者にも発表しています。</p>
③	<p>利用者の安全確保については、随時避難訓練を行い侵入・火災の際の対策を確認しています。「危機管理マニュアル」が作成されており、その際の行動対策などを全職員に周知徹底させています。園外保育や地域開放の際の危機管理マニュアルも作成されています。また常に保育中の職員の立つ位置や声のかけ方についても、留意を払うような指摘がなされています。</p>

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	<input checked="" type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)

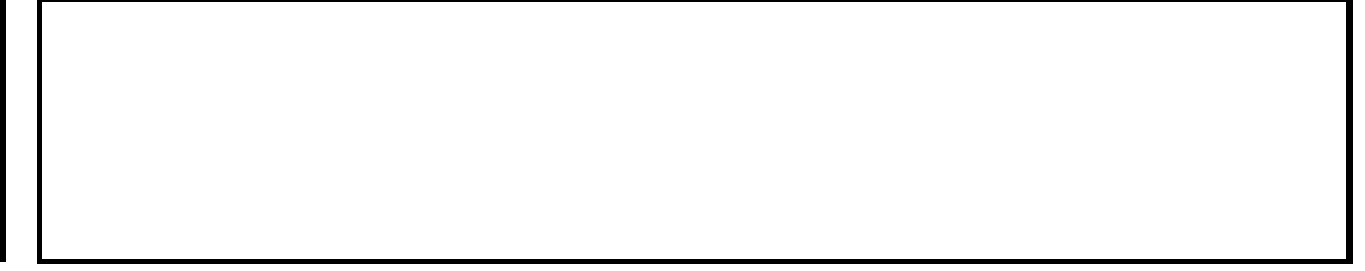
①	<p>職員の採用は、区が一括して行い、職員は区の方針で配置されてくることになっています。従って配置された職員をどのように適材適所に配置して有効活用するかが園に課せられた問題になります。この園では園内業務の分類分析がよく行われており、それらの各業務にどの職員が適しているかを検討して割り当てており、業務を通じて各人の能力を向上させていくように、園長は配置を考えています。</p>
②	<p>業務の割り当てに際しては、年に1度園長が職員一人ひとりに面接する際に本人の希望や目標を確認しておき、その資料を参考にしてOJTを行うと共に、研修会・講習会・専門研修などの受講の機会を与えるよう配慮しています。そのために年間研修スケジュールを組んであります。受講した研修内容などは、報告書で提出させ、必要ある事項については職員会で報告させています。</p>
③	<p>職員一人ひとりの面接を行うことによって各人の意識を把握し、やる気を出させるような業務配置を考慮すると共に、職員の成長を促しています。職員の気付きや提案についても、会議などで討議して評価するように機会を作っています。職員層が比較的若いため、課題の提起に対して素直に受け止めて学ぶ意欲が強いのは評価できることであります。</p>

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)

①	<p>総体的な情報管理については、区の規定・システムの定めにより管理されています。パソコンは3台あるがそれぞれ情報が漏れないように個別に管理されています。</p>
②	<p>園児や家庭の個人情報の管理については、情報の重要性を職員に認識させて、守秘義務を徹底をしています。またこの事項についての研修会に職員を参加させて、研修後に発表をさせ、全員に徹底を図っています。保育上必要な園児に関しての個人情報は、会議などの席上で互いに共有しています。個人情報保護法については、利用者にもその重要性を認識してもらうように図っています。</p>
③	<p>実習生やボランティアなどの外部に人に対しては、入園オリエンテーションの際にマニュアルを示して個人情報の守秘義務の重要性を理解させています。園内の事柄について外部に漏らさないよう、ことに個人の事項については留意をするように徹底しています。</p>

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
	改善の成果	
	<p>業務分析を詳細にして業務分担及び係り分担表を作成し、全職員に各人の年間業務を明確に指示することによって保育目標を達成できるような対応ができています。これによって職員は自分の業務範囲を明確に把握し、責任感を持って進めていく自覚が生まれてきています。OJT活動は「組織目標と課題について」、「保育目標について」、「室内遊びについて」、「保育環境について」、「咀嚼(食育)について」という課題で討議を行い、自発的に向上を図っていることが確認され、昨年より向上しています。職員一人ひとりに、園の運営に係わる一員としての自覚が生まれてきたものとみられます。</p>	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」 		
改善の成果		
<p>従来の会議はただ話をし、職員がそれを聞くだけの会議であったのを、本年度から自ら考えて、それを行動に移すような発言にすように変えました。話題については責任を持って実行することにしたため職員の意識が高まり、日常の保育の中で積極的に行動する姿勢が見られるようになりました。その点で職員の能力は向上し、それが保育の点に反映されてきています。</p>		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 		
改善の成果	「改善の成果」を入力してください	



サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面に於いては保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し運営費の増加6%、職員費はダウンしているが全体的には、区の自主財源で賄っているため向上している。園での実施は用務派遣の受け入れやISO の取り組みグリーン(再生紙)購入の実行など土を考えています。これらについて職員に会議の席で徹底をして、無駄の排除に心がけています。空調費についてもクールビズ・ウォームビズの施策に沿い、節約をしています。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

・カテゴリ3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

A+ A B C

改善の成果

保護者から改善事項の要望があったときには、すぐに迅速に対応できるような態勢にするようにしています。連絡帳や連絡系統一覧表を作成し、対応するようにしています。職員一人ひとりが何かの折には指示・連絡・報告を明確にすることによって、タイムリーな対応が出来るように改善されています。地域とは「子育てネットワーク」を活用して情報を収集するとともに各機関との連携を保つような仕掛けを作成しております。

カテゴリ8の講評(一つ以上)

① 全般的に前年度に比較して改善の効果は上がっています。区の指導に従って、マニュアルの活用を職員全員に浸透させるなど、日常業務に関しても、質の向上が認められます。地域との連携や、地域への貢献としての行事参加への勧誘など、よく企画して実行しています。

② 職員教育についても、年間行事への参加や、役割分担の遂行に積極性が見られます。職員の能力向上は、研修だけに頼るものではなく、各自の自発的な行動と思考が大切ですが、この点でも前年度に比べて向上しつつあると見られます。

③

II サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	園の情報は、区の保育情報誌やホームページ、園が独自に作成した「松ノ木保育園のしおり」というパンフレットがある。「松ノ木保育園のしおり」は、園の概要や保育目標、家庭へのお願い、健康管理、災害時の避難場所、入園時の準備物などの記載がなされている冊子となっている。また、地域交流事業「いっしょにあそびにきませんか」は、B5サイズのチラシとなっており、園庭開放、身体測定、ふれあい保育や子育て相談についての案内にイラストが付けられたものとなっている。当園は1歳児以上のを対象とした園である。	
②	園では、地域交流事業「いっしょにあそびにきませんか」を月曜日から金曜日まで、午前10時から11時30分まで実施しており、毎週水曜日には身体測定をしている。入園を検討中の保護者や見学を希望する人も、日・祝日以外の毎日行われている地域交流事業に参加しながら、園の子ども達と遊びながら、また、園長や職員と話をしながら、園内の見学や生活を知ることができる。このほか、ふれあい保育により、園の生活を体験することもできる。電話での問い合わせには、希望の日時にあわせて見学できるように配慮している。	
③	園だよりにはその月の行事や誕生児の紹介、お知らせ、ほけんだより、クラスだより、事務所だよりがある。クラス便りには子ども達の遊んでいる様子がタイムリーに保護者に伝わるよう、写真を載せたり、目でみてわかりやすくなるように工夫し、園長が確認したうえで、提供するようにしている。便りには、保護者の投稿も掲載するなどの工夫がされている。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	園では、入園前に園医による健康診断と担任予定者等による面談、また心身の健康状態に不安やなんらかの配慮が必要と思われる保護者と個別面談をし、その状態を家庭連絡表を元に、児童票や、個別の面接記録、発達経過記録等にも記載している。当園は障害児指定園ではないが、病気や障害を有する子ども、アレルギーや特別な配慮を有する子ども、何らかの支援が必要と思われる子どもにも対応できるよう、その対応法や薬類の管理について看護師のいる協力園に問い合わせたり、看護師が来園した際に指導を仰ぐようにしている。
②	入園説明会は、この作成した「保育園のしおり」と「松ノ木保育園のしおり」を使用した口頭での説明をしている。当園では、園での生活に必要な持ち物やルール、緊急時の連絡に関することや健康管理などについての説明を充分に行うように努めている。また、プライバシー保護に関する写真やビデオ撮影に関しては、同意できない保護者からは申し出てもらうように話している。各クラスごとの持ち物では、表で示し、作成の必要なものは作り方のページで「松ノ木保育園のしおり」にイラストとコメントで、名前をつける位置、枚数、サイズ等を示している。
③	当園は1歳児からの入園であるため、入園前には他園での経験を有する子どもも多く、保護者が早急に就労するケースも少なくない。そのため、1日でも早く、園の生活になじめるようにするため、新入園児が不安な状態となっているクラスに、子ども達が安定しているクラスの職員が応援に入るといった取り組みをしている。また、離乳食が完了していない子どもには、現状に合わせた調理の工夫を行ったり、保護者の意向や要望を十分にヒアリングして、子どもや保護者が安心できるように心がけている。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している
◎あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

園ではOJTを実施し、職員は半期ごとに子どもの生活、遊び、発達に即した支援の成果、保護者対応、クラス運営、その他の項目について、具体的にその姿・反省・気がついたことと、今後に向けての課題をコメントする書式を活用し、自らの保育の評価と反省を行っている。

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(A)
---	--	----------------

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 園では朝・夕の保育時、保護者とのコミュニケーションを深めるために、職員一人一人が子どもと保護者に必ず声をかけるということを徹底している。また、朝・夕保育のノートが以前が別々に存在したが、現在は一本化を図り、担任も朝・夕保育の職員も一つのノートに記載するようにしている。朝・夕保育のノートには、子ども一人一人の状態に変化があった場合や連絡事項、申し送り事項が合った場合に記載し、情報の共有をはかり、連絡ミスをなくすように努めている。また、朝のミーティングでは申し送りや引継ぎの必要事項を報告しあっている。
- ② 園ではOJTを実施し、職員は半期ごとに子どもの生活、遊び、発達に即した支援の成果、保護者対応、クラス運営、その他の項目について、具体的にその姿・反省・気がついたことと、今後に向けての課題をコメントする書式を活用し、自らの保育の評価と反省を行っている。日頃の職務に終わって、子どもの状態や保護者対応ばかりに目を向けがちな最近の保育所事情から一歩進んで、自己評価を行い、自らの課題を設定し、半期ごとに自らが高まる取り組みをしていく姿勢は評価に値する。
- ③ 保育計画には、園の保育目標を元に子どもの発達や遊び、生活、行事などが盛り込まれて作成されたクラス別の年間計画、月の指導計画、週の指導計画、日々の計画がある。乳児クラスや障害児、アレルギー児、気になる子ども等には、個別の計画が作成されている。職員は毎月、そのためのカリキュラムを見直し、職員会議で検討したり、半年ごとに反省をしている。園では、職員それぞれが事務や係りの役割を持ち、行事や環境整備などの計画を立案し、職員会議で検討の上、実行している。

5	サブカテゴリ5
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(A)
-------------------------------------	--	----------------

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○ 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 子供の権利擁護や意思の尊重については園目標「健康な子ども、情緒豊かな子ども、意欲的に遊べる子ども、自分で考えて行動できる子ども」をもとに、指導計画を作成し、一人一人を大切にされた保育に心を配り、日々の保育に反映させるように努めている。子ども一人一人の個性や発達、その時々々の気持ちの理解を大切に、その遊びが充実するように、また、できる限り保護者の価値観を理解し、可能な限り、期待に沿えるような支援をしたいと考えている。
- ② 職員は児童福祉法、公務員規程、区の職務規程に基づき、適切な支援をするように定められており、それを遵守するように努めている。個人情報に関する保護については入園説明会の際に説明会、保護者会等でも話しており、写真やビデオ撮影などの了承がある人からのみの撮影とすることを約束している。ボランティアや実習生にもプライバシーに関する事項の遵守を伝えている。
- ③

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

園長自らがリアリティセラピー資格によるコーチングを学び、職員自身の気づきを促しながら、質の向上となるように指導している。

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 園では業務の標準化を図るため、年に2～3回、日常保育における課題を職員に対して問題提起を園長自らが言い、職員内のグループ討議を行っている。そのグループ討議の中では年代層の若い職員も積極的に発言するようになっている。各職員に分担されているその職務の事務や役割の係りにおいても、職員自らが原案を作成し、職員会議等で他の職員の意見を導入し、様々な取り組みや改善が図られている。園内の決定事項や指導の取り組みには、指示・連絡・報告系統が明確に示されている。
- ② 当園では、区のマニュアルを園独自に改良する必要があるものは積極的に内容を見直しを図っている。子育て支援対応マニュアルは、平成15年度から毎年見直ししながら必要に応じた変更をはかっている。また、危機管理マニュアルは今年度4月に作成し、園内・園外それぞれの保育環境においての不審者に対する安全対策について具体的に定めている。その中には、行事や地域開放時の対応や職員の確認すべきことや認識、点検事項を定めている。
- ③ 園では、職員全員が共通の認識で職務に当たれるよう、マニュアルは各人に配布している。また、園全体として地域のニーズである子育て支援に力を入れるため、職員に係りを設定し、年間の取り組みを一覧表にしたり、保育計画に盛り込んでいく。その内容には、広報普及の手立てや看板の見直し、子育て支援事業を利用した親子に喜んでもらえる内容の検討なども行っている。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ◎あり ○なし			
仲良しの日を設定し、子ども達は各クラス間で自由に交流して楽しんだり、年長児としての責任や主体性を伸ばさせる取り組みとなっている。また、仲良しの日をきっかけに、仲良しの日以外にも子ども達が交流を楽しんでいる。年齢を超えた取り組みも、職員間で話し合われて計画の中に入れられている。障害児や気になる子ども配慮が必要と思われる子どももその特性を理解した保育となるよう、障害児指定園に担当職員が研修に行くなどの取り組みもしている。			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	子ども達は日々、近隣や徒歩で片道40分の場所にある公園に散歩に行ったり、小玉スイカやピーナッツ、とうもろこし、ピーマン、ミニトマト、サツマイモなどを栽培して収穫し調理してもらい、みんなで食べる楽しみを経験している。収穫したサツマイモは園庭で地域の人たちの協力を得、炭から火をおこして焼き芋にして食べたり、近隣住民に配っている。また、めだかやカブトムシなどの小動物も飼育している。子ども達は、戸外で十分に身体を動かして遊んだり、様々な自然に触れることで、体力をつけたり、感性や主体性を伸ばしている。		
②	園内では、各クラスごとに子ども一人一人が遊びこめる環境設営に心がけている。3歳児の部屋を例にすると、ままごとコーナーの上に、薄いヴェールのような布を天蓋にして夢が広がるような工夫をしたり、木製の積木やおもちゃ、遊具を多数用意してあったり、絵本が布製のウォールポケットに差し込まれていたり、お絵かき、ゲームなどを楽しむ机のコーナーがあったり...とそれぞれの空間が用意されている。この環境は子どもが自主的に好きな遊びが選べ、好きなことを人に邪魔されずに続けている。通路は大人用にも子ども用にも作られている。		
③	園では、子ども達が年齢を超えて好きなクラスで遊べるように、仲良しの日を月に2回設定している。仲良しの日には、子ども自身が選んだクラスで一日をそのクラスの子と遊んだり、年下の子どもの世話をしながら、年長児としての自覚を育てたりもしている。仲良しの日は月に2回あるが、各クラスの遊びに支障がなければ、仲良しの日以外でも遊ぶことは自由になっている。仲良しの日は年度当初は4、5歳だったり乳児クラスへのお手伝いだったが、11月からは3歳児クラスも仲良しの日の仲間入りをしている。園庭では乳児とも交流している。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	各クラスのいすは子どもの身長に応じているがよりよい姿勢で食事できるように、足元に台を用意したり、補助マットで調節するようにしている。保護者も子ども達に人気のメニューや新メニューが出た場合には、レシピを発行し、献立表とともに配布している。12月の献立レシピで当日の給食メニューのひとつ、肉団子の真珠蒸しは、肉団子の具にもち米をまぶして、真珠のようにした一品で、子ども達もおいしそうに、食べていた。園では咀嚼の研究者の発表資料やそのビデオを見て、意識して噛む時、飲む時にも口元を意識して食べさせるようにしている。		
②	当園は1歳児からの入園となっているが、入園時の子どもの離乳状況に応じて調理し、子ども一人一人の食べやすさへの配慮としている。また、アレルギー児の食事には充分注意し、毎月栄養士が訪問した際に個別の相談をしたり、保護者と職員、調理師の連携を密にとるように努めている。アレルギー食の提供時にはトレーに名札を乗せ、配膳の際にも留意したり、毎月、アレルギー児の保護者に確認するなどの確認も行っている。保育士と調理師が共に食育を学ぶ機会を持つことで、食事の大切さを共通認識するように努めている。		
③	区の作成した献立を子ども一人一人の健康状態や食欲、咀嚼などの状態に応じて工夫して毎日、提供している。体調不良の子ども主食はおかゆにしたり、油物を避けて他のものにするようにしている。現在は、食事への配慮や注意事項の標準化を図るため、仕様書を作成し始めており、栄養管理や衛生管理の充実を図るように努めている。そのため、衛生点検表や調理師や職員による喫食状況の確認、中心温度検査、検食などを実施しながら、子どもに適した食事となるよう、日々評価反省し、前進している。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	当園は体力づくりに力を入れることで子ども達の健康管理を行っている。体力づくりに運動プログラムやリトミック、散歩、戸外遊びを充実させながら行い、年齢にあわせた発達プログラムの実践でもあるため、保育計画に盛り込んでいる。幼児クラスになると体格も形成されたり、集団での活動が盛んとなってくるため、幼児には、ルールのあるものや社会性を向上させるものもなっている。体力づくりについては、体力づくりのカリキュラムの完成を目指し、係りを設定し、原案を作成しているため、完成が待たれている。		
②	園では、乳幼児突然死症候群の防止のために、1～2歳児対象に午睡チェックを行い、チェック表にその様子を記載している。感染症の防止においては、感染が広がらないためのマニュアルを活用し、その拡散防止に努めている。感染症に対しては流行が見られる時期には、お知らせを配布したり、ポスターを掲示することで知らせている。園では、子どもの病気や健康、発達などに関する相談があれば情報提供をする準備があり、必要に応じて園医や区の看護師や栄養士に確認して回答するようにしている。		
③	子どもの健康状態の把握は、職員や園長による朝の視診や日々の観察、健康診断により把握している。健康診断は年2回実施の小児科検診と、眼科、耳鼻科、歯科の検診を実施している。各科の検診は、地域の協力やネットワーク作りに努めた結果、実施可能となった。服薬は区の規程どおり、慢性疾患や熱性けいれん、てんかんなどを持っている子どもの服薬や座薬、アトピーや湿疹などのある子どもの塗り薬は、保護者、受け取り者、薬用冷蔵庫に保管した人、飲ませた人のそれぞれがチェック表にサインしている。服薬は事務所で行っている。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし			
大人の動線、子どもの動線を研究し、その動きに合わせた環境設定をし、遊び込みができる環境と、職員が見守れる環境の設定をしている。			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園では子ども達が日々の遊びの中から、一人一人様々な能力を開発し、健康で、情緒豊かに成長するように、日々の遊びを多様に用意し、その環境整備にも努めている。その中に大人の動線、子どもの動線がある。子どもの動線は子どもが遊びに集中する時に通る通路であり、大人の動線は職員や保護者が子どもを見守る時や遊びの介入時、また、移動時の動線を指し、それぞれの動きに合わせた環境設定も行っている。子どもの動線や環境設定には、子どもの目線から死角であっても大人の目線からは確認できる環境ともなっている。		
②	園の行事には、全園児参加の運動会、焼き芋、子ども会、節分、大きくなった会、ひな祭り、父母会共催の夏祭り、幼児のわくわく散歩や年2回のお楽しみ会、5歳児のプラネタリウム見学、新年子ども会、などの行事をしている。特に運動会では、職員が前もって設定をするよりも、子どもの自然発生的な遊びを大切にしたいという意向があり、今年度は海をテーマに親子の遊びや子ども達が普段している縄跳びの発表、ソーラン節の踊りなどを結びつけて発表している。各行事は職員がそれぞれ係りを持ち、原案やプログラムを作成して実施している。		
③	誕生会では、その子の生まれた日にバッジをつけて、各クラスの職員や子ども達から祝ってもらい、子ども達は祝福される喜びを味わっている。また、月2回ある異年齢交流の仲良しの日は、異年齢の自主的な活動や遊びを主体的に展開できるような取り組みとなっている。日々の生活では、休憩する時間も大切に考えているが、年長児は就学のこと考え、就学近くになると、午睡時間を短縮する取り組みも行っている。		

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

園では降園前のひと時、保護者同士が自由にゆっくりと話をするスペースとして、ペチャクチャルームを設定し、閉園時間まで保護者同士が会話を楽しんでいる。また、園で実施したアンケートや質問は内容をまとめて区に提出している。父母会の活動としては、機関紙の発行や夏祭りなどの主催がある。園は、父母会の行う夏祭りやバザーなどに協力している。

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 園では保育参観や保育参加の機関を設けて、子ども達が園で遊んだり、生活する様子を見てもらえるようにしているが、保護者の都合を優先し、期間中に保育参観や保育参加できない場合にはいつでも可能な旨を年間行事予定に記載し、入園当初に渡している。また、保護者の日頃の疲れを癒してもらったり、子育てについて保護者同士が気軽に自由に話し合えるスペースとして、ペチャクチャルームを設定している。このペチャクチャルームは、夕方から閉園時間まで保護者同士が会話を楽しんでいる。時には職員も話に参加することもある。
- ② 園では、夏祭りを父母会共催と位置づけ、企画の段階から話し合いを持ち、その内容の決定や準備、実施、片づけまで共に行うようお互いの係りを決め、終了後の評価・反省までを一連の流れとしている。年度末にはその評価・反省を活かし、次年度の取り組みとしている。夏祭りにはヨーヨーつりやおしゃれコーナー、ワニたたき、水鉄砲を使用しての的当てなど豊富な内容を持ち、実施されたが保護者も職員も一丸となって取り組まれ、地域の子どもや卒園児も参加した楽しい行事となった。保護者不在の子ども達も職員らと楽しんでいた。
- ③ 父母会の活動として、機関紙の発行や夏祭りなどの主催がある。園は機関紙の発行時に印刷機の貸出しや各家庭への配布の協力をしたり、園便りに保護者のコメントを掲載するなど、保護者と一丸となった保育を目指している。また、保護者参加の行事や保育参観などは参加しやすい時間帯を設定したり、保護者の都合に応じるように努めている。日頃の園の様子は、朝夕の保護者との対話を始め、園だよりやくらすだより、毎日の連絡帳やホワイトボードで行っている。また、園では行事後や年度末にアンケートを取り、内容をまとめて区に提出している。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 園では、育児ストレスや子どもの発達に関する不安が虐待や育児困難家庭を生み出している要因の一つと考え、そのストレスを解消するための一環としても、ペチャクチャルームを設定している。保護者がお迎えに来た後子どもとゆっくりくつろぎながら保護者同士のコミュニケーションをとれる場を作っている。このペチャクチャルームでのひとは、保護者のゆとりを生み出す取り組みともなっている。
- ② 職員は、区や保健所等の虐待防止や育児困難家庭に対する支援にかかわる研修を受けたり、その報告を職員会議で行ったり、資料や報告書をまとめて園内で回覧している。また、マニュアルやパンフレットが発行された際には各職員に配布され、職員はその内容を確認している。当園では、全職員が子どもや保護者の変化に対して早期に発見し、対応できるよう、気になる様子が伺える際には、声をかけたり、疲れている様子があれば休息されるようにアドバイスしたり、じっくり話を聞くようにしている。
- ③ 園では、区作成の虐待防止マニュアルに従い、区や子ども家庭支援センター等と連携をとっている。子育ての不安やストレスの原因ともなりうる子どもの発達の遅滞や育児の仕方がわからない家庭への支援策としては懇談会などで、子育て経験の豊富な保護者からの話を聞く機会などもある。また、園では育児相談を実施したり、子育てに関する講演会などのパンフレットを配布したり、そのポスターを掲示することで知らせることで、保護者と子育てに関する共通認識を深めるように努めている。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	子ども達が様々な人と交流できる機会と、地域の子育て支援を兼ね、夏祭り、運動会、焼き芋、節分等の行事の際には、地域の親子や近隣住民の声をかけたり、土曜日曜日以外に開催されている地域交流事業「いっしょにあそびませんか」では、在園児と地域の子どもが一緒になって遊ぶ姿も見受けられている。また、近隣の児童館や老人館や高齢者ふれあいの家に訪問したり、それらの施設が主催するイベントに参加させてもらい、様々な人との交流をしている。夏祭りの際には、地域住民のボランティアから盆踊りを教えてもらうなど、楽しく交流している。												
②	園では、中学生、高校生の職場体験を受け入れ、ども達は日頃接する機会の少ない年齢のお姉さんやお兄さんと楽しく遊んでいる。また、近隣の短期大学との交流があり、日頃から保育実習や保育研究に協力しているため、学生の新鮮なアイデアや取り組みを当園の子ども達は経験することができている。近隣の保育園や小学校とも連携があり、交流するなど、子ども達は様々な人と交流し、楽しく遊ぶ機会をもっている。												
③	児童館や保健センターなどから配布されたポスターを掲示したり、区や都のお知らせなどを配布したり、見やすい場所に掲示することにより地域の情報提供としている。園は、児童館と物品の貸出しや、雨の日などで児童館の催し物がない時などにホールを借りたりと頻繁に行き来しているため、児童館に遊びに来ている親子とも、交流することが可能である。年1回は、児童館と一緒に企画を立案し、事業を行う取り組みもしている。												
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 80%;">標準項目</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし</p>	評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	◎あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	◎あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
◎あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
◎あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	地域の子育て支援として実施している地域交流事業「いっしょにあそびにきませんか」では、月曜日から金曜日まで開催したり、ポスターやチラシなどの効果から利用する親子の増加や、地域住民からの問い合わせが増えてきている。園では、遊びに来た保護者の差し障りがなければ名前を覚えてもらい、その保護者の名前を覚えて、声をかけるなどの取り組みをしている。名前を覚えてもらった地域の親子は、園の職員に親しみが持て、日頃の子育てに関する不安や悩みを職員に話せるようになり、心を聞いて、子どもとの関係をよりよいものにしていく。												
②	園では地域交流事業の中で、1～2歳の利用が多い毎週水曜日の午前中身体測定、焼き芋会には10組などを実施している。地域交流事業に参加した保護者には、簡単なアンケートを取ったり、子育て相談に応じている。このアンケートで把握した地域の子育て支援の中に潜む悩みや課題は、その内容のみを記録し、報告書としてまとめた上で、区に提出している。また、園に訪れた親子や保護者は、展示されている幼児食並びに乳児食をみたり、ふれあい保育で保育園の生活を体験する中から、子育てについての学びを深め始めている。												
③													

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自然と共生しながら元気に育つ子ども達
	内容	子ども達は日々、近隣や徒歩で片道40分の場所にある公園に散歩に行ったり、小玉スイカやピーナッツ、とうもろこし、サツマイモなどを栽培して収穫し、調理してもらい、みんなで食べる楽しみを経験している。中でも、収穫したサツマイモは園庭で地域の人たちの協力を得、炭から火をおこして焼き芋にして食べたり、近隣住民に配っている。特に、体力づくりには運動プログラムやリトミックなども充実させながら、年齢にあわせた発達プログラムの実践を行っている。子ども達は、自然に親しみ、自然と共生し、楽しみながら心身を健康に育んでいる。
2	タイトル	子どもも保護者もくつろげる空間作り
	内容	園では子ども達が落ちついて、子ども一人一人の好きな遊びを充実して楽しんだり、様々な能力の開発や創造性、感性や知性が育つよう、各クラスごとに遊びこめる環境設営を行っている。子ども達の年齢や成長に応じて設営された環境には、職員の見守りがあり、安心して自分達の遊びを繰り広げている。また、保護者には、保護者同士の交流や仕事の疲れ、子育てのストレスや悩みなどを解消することができるペチャクチャルームがあり、気持ちの切り替えも、新しい知恵も吸収できるスペースとなっている。
3	タイトル	地域の子育て支援施設として
	内容	地域交流事業である「一緒にあそびませんか」は、ほぼ毎日実施されており、毎週水曜日には身体測定が行われたり、運動会や焼き芋などの行事に参加する楽しみも持っている。この事業では地域の親子が気軽に遊びながら、子ども自身は様々な遊びを学び、また保護者は子どもの遊ばせ方を学ぶ機会となっている取り組みであるが、子育て相談の場ともなっており、気軽に質問したり、悩みを相談することができる機会ともなっている。また、地域の施設や住民、医療機関など様々な人との交流があり、地域に根づいた保育園となっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育士の教育に関して
	内容	保護者の保育士に関しての意見は、「人によってばらつきがある」という意見が幾つかが見られましたが、その際の事態や事情によつての意見だと思います。しかし常に保護者は保育士に対して完全を求めているということは、それだけ保護者は保育士に大きく期待していることと心に留めて、状況によつて対応が変わらないように心がける、ということ全員に徹底していただければよろしいことです。
2	タイトル	
	内容	
3	タイトル	
	内容	

〔利用者調査：認可保育所〕

《事業所名：杉並区立阿佐谷北保育園》

調査対象	当該園の0歳児から5歳児までの合計定員90名。利用者総数92名世帯数83を対象として調査を進めた。	
調査方法	調査方式はアンケート方式。杉並区との事前う打ち合わせから、同区の要望により14の質問項目を追加、また各質問カテゴリーごとに7段階の満足度質問項目を追加して調査を行った。	
利用者総数(人)	92	
調査対象者数(人)	83	
有効回答数(人)	58	
回収率	69.9	

利用者調査全体のコメント

調査対象総数83名に対して、有効回答数は58名で回答率は69.9%であった。利用者の満足度は平均して比較的高く表れている。保護者と保育士との間のコミュニケーションが良好である特徴として、「登園時と降園時の子供の様子確認について保育士からの確認や申し送り」についての評価も高い。また「お迎え時に子供が満たされた表情をしているか」については満足度が高い。「保育園運営理念・方針についての認知度」は高くなっている、これは回答者58名中の33名が「はい」と答えている。これについて、「どちらともいえない・いいえ」は21名であるが今後の課題と感じられた。[行事を通して、地域住民との交流を図っているか]について、「ハイ」が50%と「どちらともいえない」が41.4%である。地域住民への交流の働きかけが期待される。この調査結果からは、園の理念や保育方針・内容の明確な実践と保護者への理解。また保護者の多様な価値観や保育への期待感にどのように応え対応しているかについて保護者との意思疎通についても更なる配慮が期待される。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	52	89.7	6	10.3	0	0.0	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	50	86.2	7	12.1	1	1.7	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	48	82.8	9	15.5	1	1.7	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	48	82.8	10	17.2	0	0.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	51	87.9	7	12.1	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	37	63.8	12	20.7	6	10.3	3	5.2

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	41	70.7	14	24.1	3	5.2	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	54	93.1	4	6.9	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	48	82.8	4	6.9	1	1.7	5	8.6
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	51	87.9	4	6.9	0	0.0	3	5.2
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	47	81.0	6	10.3	1	1.7	4	6.9
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	47	81.0	9	15.5	2	3.4		0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	44	75.9	10	17.2	3	5.2	1	1.7
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	41	70.7	13	22.4	1	1.7	3	5.2
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	35	60.3	17	29.3	5	8.6	1	1.7
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	49	84.5	8	13.8	0	0.0	1	1.7
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	46	79.3	11	19.0	0	0.0	1	1.7
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	41	70.7	11	19.0	5	8.6	1	1.7
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	35	60.3	15	25.9	3	5.2	5	8.6
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	35	60.3	19	32.8	1	1.7	3	5.2

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	33	56.9	15	25.9	6	10.3	4	6.9
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	33	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	29	87.9	4	12.1	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	29	50.0	24	41.4	4	6.9	1	1.7

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/> 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/> 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A+)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ◎あり ○なし

重要案件の決定は主として職員会議の場で行なっている。園では組織として意思決定の方法は独自の「問題解決フローチャート」を作成して行っている。又会議録を漏れなくファイリングしている。職員には物事を進めるためのリーダーシップのあり方を周知徹底させ、利用者へは保護者会でも伝えるているが、保護者向けに毎月定期発行している「園だより」に掲載して伝えている。

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 園が目指す理念と方針の明示として、職員室には「阿佐ヶ谷北保育園の保育目標」が良く見える位置に掲示されている。玄関にもアイコンタクトのよい位置に掲示されている。同様にその他にも杉並区が作っている保育園施設案内パンフレットとは別に、園独自に作成している「園のしおり」や「園だより」を保護者に提供するために、園内に掲示コーナーを設けている。職員会議は職員室で行い、園の目指す方針や目標は常に認識できるようになっている。特に年間カリキュラム会議、年間反省会の中で認識できるように注力している。
- ② 園長は自らの責任と計画のもとに、園の方針や目標を話し合い、保育士の資質向上と安全安心の保育を目指して日常の職員会議を実施している。職員会議では園長より保育課からの福祉政策の方針や施策の内容が伝達され、地域社会の動向なども職員に伝えている。そして園としての施策実現や対策に向けた話し合いが行なわれている。また園の方針に対して保護者の声や職員の意向も吸収することに勤めている。
- ③ 重要案件の決定は主として職員会議の場で行なっている。緊急な課題などの場合は園長と主査の間で話し合い決定する場合もあるが、その決定にいたる経緯は、職員会議で説明され職員の理解を図っている。此処では組織として意思決定の方法「問題解決フローチャート」を整備し、会議録をもれ無くファイリングしている、物事を進めるためのリーダーシップのあり方を周知徹底させ、利用者などへは保護者会で伝えることとしているが、保護者向けに毎月定期発行している「園だより」に掲載して伝えている。

2	カテゴリ2	
	経営における社会的責任	
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 福祉サービス従事者が守るべきものとして職員室には、杉並区で編纂した関係法令や規定を集約した要綱集および児童福祉法、職員ハンドブックを備え職員がいつでも閲覧できるように開示している。園として職員に法や規定の遵守、倫理の高揚に向け理解を深める「場」は職員会議であり、日常の保育作業を通して特に接遇の標準化や個人情報保護法マニュアルの励行を実践している。また非常勤職員に対しては採用時にガイダンスを励行している。
- ② 開かれた組織としての取り組みは、杉並区からの外部監査を定期的に受け、園の運営や予算収支について開示している。また東京都が主導する福祉サービス第三者評価も平成15年度と17年度の2回受審して評価結果をインターネット上の杉並区ホームページにより公開している。地域への開示は「園だより」を毎月発行し、児童館、近隣の小学校などに配布して当園の保育方針や園児の様子を伝えている。地域への開示は更に積極的取り組みが必要であると認識していることは評価できる。
- ③ 当園の機能や専門性については、地域で取り組んでいるネットワークを通じて保育についての理解・啓発に努め、待機中の保護者からの相談や地域の小・中学校の体験保育(遊びの提供)も積極的に受け入れている。ボランティアセンター・中学校の教育活動への協力もあり、児童館に講師として職員派遣を行なっている。保育士を目指す実習生の受け入れは、担当を主査に固定化して実習計画、オリエンテーションの実施を創案している。またボランティアの受入も事業マニュアルに明示しており園独自の受け入れ体制を設けてマニュアルを作成している。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		評点(A+)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
利用者の意向は年に1回父母会主催により実施する「保護者アンケート」、それに加え行事の実施後にとる「行事アンケート」で園の運営や活動内容に関する把握に努めている。父母会主催のアンケートから取りまとめられた保護者の意向・要望は、あらためて個別面談を通じて具体的にその現状や問題の把握を行なっている。園ではほぼ日常的に利用者アンケートを行っている。		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者などからの苦情解決制度は杉並区で定めている制度で運用している。園内の廊下の壁や掲示板に苦情解決への申し出でから解決までの間の窓口や相談者などを案内したポスターを、保護者に見やすい場所に掲示している。利用者からの意見・要望・苦情などは、速やかに保護者個別に聞き取りし、応急対応の後に職員会議の場で検討し改善を話し合い解決している。より早い時点で報告するシステムを動かしている。
- ② 利用者のニーズを把握するために年に1回父母会主催により実施している「保護者会アンケート」を実施している。更に行事の実施後にとる「行事アンケート」で園の運営や活動内容に関する把握に努めている。園では意見、要望、苦情はより早い時点で報告するシステムがある。アンケートから取りまとめられた保護者の意向は、あらためて個別面談を通じて具体的にその現状や問題の把握を行なっている。園では「迅速な対応」をモットーとし職員会議で対策や改善案などを検討し、職員全員が周知徹底するよう取り組んでいる。

③

4	カテゴリ4	
	計画の策定と着実な実行	
	サブカテゴリ1	
	実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(A+)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
多角的な視点から課題を把握し、計画を策定のための問題解決手法と意思決定手法が確立されている。これらはそれぞれについて考え方のフローチャート・具体的行動解決のフローチャート・サービス(指導計画)フローチャート等が経営管理手法に基づいて作成されている。単なる手順ではなくしっかりとした体系をもつて多角的な視点から		

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

カテゴリ4の講評(一つ以上)

①	<p>計画の策定と実行面は区の中長期で策定した「五つ星のサービスを目指す杉並区」の保育園版「杉並区子ども子育て行動計画」により保育目標と保育計画を立てて明示し取り組んでいる。これとともに、園として長期計画の中で保育内容、接遇、危機管理の継続的検討を加え、計画の策定と実行に取り組んでいる。</p>
②	<p>課題の明確化、計画策定の時期や手順については行事・保育内容・危機管理・接遇等の検討計画を作成し、現場の意見を個々に提出してもらい検討する中でフローチャートを作成し検討しながら確認して行くと言う手順を踏んでいる。進捗状況については年度途中の中間反省会により把握し、適時修正を加え実施している。</p>
③	<p>危機管理マニュアルのつとって、保育士、看護師、調理師はそれぞれ実務の中に起きるリスクは担当に関わりなく、職員同志で話し合い解決して行く体制にしている。職員の話し合いで対応困難な問題は主査・園長に相談するようになっている。利用者にこのような取り組みを具体的に伝達する方法は「阿佐ヶ谷保育園のしおり」と保護者向けの配布物により伝えられている</p>

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	園が必要とする職員の人材は、所轄課へ伝えて人員の要求等は行われる。担任編成は年度の途中でも柔軟に対応している。園長は仕事への希望把握のためのヒアリングを行っている。他部門からの移動者に対する研修も行い職員が研修に参加しやすいように日程表等により把握調整を行っている。研修直後の報告の徹底と区の研修後の調査等により、日常保育の中に実践できるようにしている。
②	職員の判断とそれを超えた場合の対処方法については杉並区の危機管理マニュアルにのっとり判断可能範囲を明示し確認している。万一職員が実施可能な範囲を超えて対応した場合には必ず報告するように義務付けている。職員一人ひとりの工夫やお互いに学ぶことについては相互に助言を行う仕組みが作られている。職員のやる気の向上については、経営層が接遇管理のありかたを応用しやる気と働きがいのある職場の雰囲気をつくっている。
③	人材マネジメントについては区の施策に従って運用されている。勤務状況は職員一人ひとりについて個別に把握し、経営層を含み園全体としてお互いが接遇意識をもって行動することによりモラル向上のための職場風土の取り組みにより職員の意識の高さが改善されている。接遇の基本的考えかたを職員全体が体得し利用者満足につなげるように努力している。

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園が蓄積している経営に関する情報の保護・共有については、園において専用フォルダーを作成し、重要性や機密性のある資料についてはアクセス権を設置している。情報の共有化すなわち必要なひとが必要のときに使用するためには共有フォルダーにて整理保管し活用できる仕組みになっている。保管している情報の更新は共用フォルダーは園全体で随時閲覧し更新され、紙ベースに関する資料はファイリングキャビネットを供覧し随時園全体として行っている。
②	杉並区個人情報保護規定が作成され、園においては個人情報の保護や利用目的などについて保護者向けの配布物を作成している。保護規定の目的や開示請求に対する対応のし方をマニュアルにそって職員や新入職員に研修・オリエンテーションで、実習生やボランティアについても利用者保護の使命のもとに説明し理解させている。園としては個人情報保護については研修も含め職員・ボランティアに理解をより深めたためのマニュアルもある。
③	

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果 1)「リーダーシップと意思決定」:2)「経営に於ける社会的責任」: 4)「計画の策定と着実な実行」の項目は事業マニュアルに見ることが出来る。具体的には行事、指導計画、危機管理、接遇、保育内容について計画的に改善のため検討作業を進め具体化しつつある点である。具体化の方法として問題解決フローチャートを作成している。現時点における対応策・検討課題として項目を設定しその内容としては、個別的課題と問題点・課題の整理・解決に向けてどうするかをプロジェクトチームで実施している。プロジェクト化していない検討課題の処理方法の案も作成さ改善すべき点が進歩している。、	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
改善の成果 5)「職員と組織の能力向上」:拡大カリキュラム等により問題意識を持てるようになったことがある。問題解決フローチャートによる各改善計画の進行に伴い職員の意識は着実に向上してきているのが伺える。保育サービスの中で改善計画を進めていくためのOJT効果もみられ職員相互に助言を行うことにより、職員と組織の能力向上の成果をあげている。組織目標は職員の自主申告による目標の作成を行いそれらを参考に全体の組織目標を作成していることにより組織の能力も向上している。今年度から実務研修記録簿を作成し全員が閲覧出来る体制も整備されたので研修内容を共有でき職員の能力の向上に成果がみられた。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
改善の成果		

6)「サービス提供のプロセス」: 当園では安定したサービスの提供に加え、会議等による見直し作業で質の向上を果たしている。入園に関する一連の手続きや入園後の対応等を標準化している。0歳児には親子参加の馴染み保育を取り入れた。園運営的事柄は利用者の意見を吸い上げ、保育計画にフィードバックするシステムを確立した。利用者への説明も十分機能している。組織目標について保育に関する具体的な目標を年毎に定め目指す姿の課題を基に、子供への対応、職員間の協働、人材育成などの細部に亘る取り組みのテーマを持って職務を遂行している。この職場の目標が保育目標に反映され、年間指導計画の骨子になり、各クラスの年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画となり、保護者の満足度を向上させている。7)「情報の保護共有」: 全員がパソコンを使えることにより飛躍的に改善を果たした。アクセス権限を設定してパソコンを管理している。また職員専用ホルダーと共有ホルダー、ファイリングキャビネット(施錠)も使用して文書を整理保管している。業務改善として記録用紙の見直しも行っている。個人情報の保護・共有に於いて年間指導計画に盛り込み実践している。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面においては、保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し、運営費の増加が6%、職員費はダウンしていて全体的には区の自主財源で賄っているため向上していると考えられます。園では財務に関して改善を考える範囲はいかにして予算内に納め、園の経営としての財務改善に目を向けている。更に自分たちで目標を定めて保育材料等を選択し、改善している。用途概略決算表等目標を定めて職員に明示している。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

A+ A B C

・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握」

改善の成果

3)「利用者意向や地域事業環境等の把握」利用者意向に対する収集や把握は保護者とのコミュニケーションをよくするため連絡帳の内容を工夫した。又各クラスだよりが充実したことが上げられる。これらにより保護者とのコミュニケーション、利用者の思いを受け止めることに良く取り組んで成果が現れている。苦情処理については17年度の苦情を整理しその中から18年度に検討すべき課題を整理して改善に向けている姿勢は評価できる。阿佐ヶ谷北保育園の運営方針に対する保護者の認知度は56.9%ある。納得度は100%であるので改善の効果が利用者調査に現れている。地域や事業環境に関する把握と取り組み方は積極的に行われている。近隣の児童館を事務局にして地域ネットワーク活動を通じての収集と把握。区主催による関係機関責任者の検討会参加など広範囲な事業環境を良く把握し向上しているといえる。

カテゴリ8の講評(一つ以上)

① 全体的に各問題(経営面・サービス面)にたいして常に改善しようとする組織体質が存在している。それは問題解決フローチャートにより解決すべき筋道をきちんと整理し大きくはプロジェクト化して現在改善に取り組んでいる課題とプロジェクト化していない課題に分類し、更に解決方法としては計画・実施・検討と経営管理の手法をしっかりと実行している。

② 園では接遇と表現しているが一般に言う接遇の概念だけではなくコミュニケーション・利用者との信頼関係・保育参観・面談・家庭の状況把握・子供に対する接し方等々サービス面のソフト部分を包含したものとしての接遇を大切にして保育サービスに園長以下が努力していることは高く評価できる

③ 地域ネットワークへの参加と活動の取り組みは活発に進められているが、さらに今後は保育士などの参加へ拡大する計画を持っていることは、職員の能力向上への相乗効果を持つ可能性として評価できる。施設として専門領域の地域貢献活動を通じてより良い保育事業への関心をもてる人材育成を行っている。

II サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <div style="text-align: right;">評点(A)</div>		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている <div style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</div>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <div style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</div>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <div style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</div>
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	毎月のクラスだよりに、子どもの発達状況や、今行っている手遊びを紹介したり、掲示板に、全クラスのクラスだよりを掲示し、他のクラスの状況を知らせるとともに、保育士間の意識を、高めあっている。また、園の全職員の顔写真も掲示しており、保護者が良くわかるように、工夫されている。	
②	福祉ナビゲーション等に、情報を提供したり、杉並区のホームページで、保育園の内容を、わかりやすく説明し、写真等も載せ工夫をしている。また、ほかの杉並区立園との比較ができるようになっている。保護者は、ニーズに合わせ、障害児保育指定園、産休明け保育指定園、延長保育指定園、年末保育事業等、選択しやすいよう配慮している。	
③	在園児の保護者を始め、入園希望者の見学についても、いつでも受け入れる柔軟な対応ができるようにしている。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)													
①	入園時ガイダンスでは、杉並区作成の入園のしおりと、園独自で作成した、阿佐谷北保育園のしおりを配布し、園での生活について具体的に説明している。また、保護者一人一人から子どもの様子を聞き、把握して保育に反映している。												
②	慣らし保育は、子どもの様子を把握しながら、無理なく進められている。0歳においては、工夫が見られ、保護者の都合がつけば、親子一緒に慣らし保育の時間を過ごすようにしている。そうする事により、子どもは園の環境に早く慣れ、安心してすごすことができ、慣らし保育がスムーズに終了することができる。												
③	サービスの終了時の対応は、杉並区内の転園の場合、健康カードの引継ぎを行い、改めて健康診断を行う必要をなくしている。また、転園先から依頼があり、保護者の許可があれば、その他の書類も引継ぎが可能である。												
サブカテゴリ3													
3	個別状況に応じた計画策定・記録												
	<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
	評価	標準項目											
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当											
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当											
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当											
【標準項目を超えた取り組み】	○あり ●なし												

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

① 乳児は個人別に連絡帳を使用し、日々の様子を細かく記載して、保護者に伝えている。利用者からもとてもよくわかると好評である。幼児クラスは一日の活動を、各クラスの入り口の連絡表に記入し、降園時に保護者に様子を伝える。希望があれば連絡ノートも使用し、家庭連絡の充実を図っている。

② 保護者に対しては、個人面談を行いニーズを把握し、個人面談記録に記載し、指導計画を立てる際に取り入れている。また、指導計画は、保護者会や、個人面談の際説明され、保護者の納得の上、実施される。

③

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 個人情報保護マニュアルに準じ、杉並区のホームページに掲載する写真や園の配布物等は、充分配慮し、必要があれば、保護者に承諾を得ている。個人情報に関する書類は、施錠し厳重に保管していて、職員にも守秘義務の徹底をしている。
- ② 日常の保育の中で、子どもや保護者への配慮がされない事がないように、職員同士気をつけ、何が子どもや保護者の気持ちを傷つける事なのか、気づいた時点で検討し対応している。国による習慣の違いなど、個人的に配慮、対応し、子ども同士でもお互いの違いを尊重しながら生活ができるように周りにも気づかっている。日々、子どもの状態や親子関係に注意し、虐待につながるような不自然な行動がないか見ながら、現実としてはないが、万が一にも備えるため、杉並区の虐待防止ネットワーク等と連携で対応できるようにしている。
- ③ 子ども一人一人を大切に保育を心がけ、場合によっては子どもの失敗を他の子どもに知らせない配慮など、日常の保育の中で行っている。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 保育の現場に必要なマニュアルは、中間反省や年間反省で確認し、各プロジェクトチームによって整備され、職員に周知されている。個人面談等で保護者の意見を聞き、子どもの発達に合ったものかを現場の職員の意見を出し合い、見直しがされている。
- ② 安全管理においては、園庭遊びプロジェクトチームで常に子どもの安全と、運動能力の向上にむけたとりくみが行われ、職員の認識の統一が図られている。太鼓橋やブランコにおいては、危険だから使わせていないという認識が保護者の中にあり、説明の徹底が必要と思われる。また、入り口等に防犯カメラが設置されているが、時間外保育での入り口の出入りが自由にできたり、二階に行くまで誰にも会わなかったりと、セキュリティーに不安の声もあるので配慮が望まれる。
- ③ 各種の研修を通して、職員は知識や技術を学び、園全体で共有し、実際に保育の中に取り入れられるものは、さらに職員の中で発展させ、保育計画で実践し成果を上げている。杉並区の職員という認識を高める研修もあり、自覚を持って職務に当たる指導もされている。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ◎あり ○なし 障害児保育指定園であり、複数の障害児を受け入れている。巡回指導が充実しており、嘱託医や発達センターの指導員が、子どもの様子を見に来たりセンターに行く際、記録をとり、それを基に話し合いがなされ、指導計画を作成していくという連携があり、子どもにとってより充実した保育をしている。			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	研修で習得した事柄が、園に合っていると感じた事から、運動プログラムによる表現活動を計画的に取り入れ、充実を図っている。また、縦割り保育を7月8月に行い、その後も時々、縦割り保育を主とした交流保育をして、思いやりを育てる保育に取り組んでいる。		
②	よく散歩に行く場所を、写真つきの地図で示した園独自のお散歩マップを作り、いつでも見られる場所に貼り、子どもが楽しめるよう、また親子の会話のきっかけになるようにしている。散歩で拾ってきた落ち葉やどんぐり等で作品を作り、展示する等子どもの楽しみとなっている。		
③	日本語があまり理解できない保護者に対し、入園のしおりをはじめとした園の配布物は、ひらがなに直し、理解しやすいように配慮している。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	椅子、テーブルは、杉並区全体で検討し見直され、現在は乳児だけが木製の物を購入し使用している。0歳では、座る状態や体格の差が大きい為、椅子は座りやすいようにクッションのような物を使用したりして工夫をしている。食事が落ち着いた雰囲気の中でできるよう、時にはテーブルに花を飾るなど配慮し、食事指導は無理なくすすめている。		
②	保育課の栄養士を中心に、献立検討会、作成会で、意見を出し合い工夫しながらメニューを立てている。アレルギーのある子どもについては、保護者や調理員と連絡を密に取りながら、個別対応をしている。乳児の離乳食は、進捗会議で確認しながら、無理なく進めている。		
③	食事を展示して、保護者が迎えに来た時見られるようになっており、人気メニューはレシピを紹介するなど、保護者に少しでも食事の様子が伝わるように工夫している。また、園庭の隅に畑を作り、子どもの食に対する意識を深める工夫が見られる。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点 (A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし			
嘱託医が障害児の巡回指導の担当医を兼ねているので、0歳児は、一週間に一回検診をしてもらい、他のクラスの子どもにも何か問題がある場合は、診察指導が受けられる。健康支援に対する取り組みが、充実している。			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	朝の視診、午睡チェック表、0歳児の観察表等、職員間での確認事項が徹底されており、看護師を中心に日々の保育での健康状態を、把握し記録している。また、保護者の相談にも応じ、必要ならば嘱託医との連携により、対応する事ができる。		
②	感染防止マニュアルが確立されており、感染症の報告があれば、迅速に対応している。便の処理については、園独自のマニュアルがあるが、杉並区としての統一見解が提案されたばかりで、まだ曖昧なところもあるので、保護者への周知徹底を行うことの必要性、またマニュアルの整備も含めて、課題として捕らえ解決をしようとする姿勢が見られる。		
③	保護者に対し、ポスターやリーフレット等で感染症や、乳幼児突然死症候群等に関する情報を提供し、感染症にかかった事実があった時は、速やかに保護者の目の着く所へその旨を掲示している。また、入り口に写真入りの医療マップを掲示し、必要な情報が得られると保護者からも好評である。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生日会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	子どもの誕生日会は、全体の行事として行うのではなく、個々の誕生日にクラスで祝う。また、その日には、保護者を招待し保育の様子を見られるように、工夫している。季節ごとの行事も、子どもの負担にならないよう配慮されている。		
②	保育室の棚や食事の展示台、おもちゃ等、安全性を考えた手作りの物が多く、温かみを感じる。清掃は、日中の保育で使用していない部屋の時間帯を把握しながら、園全体の清掃を行っている。午睡用の布団も手入れがされている。		
③			

評価項目5 A+以外では【標準項目を超えた取り組み】のコメントは削除してください

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

行事に関するアンケートを保護者にしてもらい、グラフ等でわかりやすく集計、分析し、次年度の行事計画に取り入れている。保護者には、結果を報告し、色々な意見がある時には、次の年に別の意見を取り入れる等して、なるべく保護者の希望に添えるような配慮をしている。

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 行事アンケートの意見から、運動会を土曜日に企画したり、毎年決まっている行事を同じ曜日に片寄らないようにし、保護者が参加しやすいように配慮している。全員の希望通りにはいかないが、保護者から参加しづらいという意見もあるので、説明を十分に行うことが望まれる。夏祭り他、父母会との共催企画があり、保護者との積極的な交流も行われている。父母会企画行事もあり、人形劇やリトミック等を行った。
- ② 行事予定表やクラスの掲示に、保護者が常時参観できると知らせてあり、受け入れる体制がある。クラス便り、掲示板の掲示物、デジカメによる写真掲示保育参観等で、保育園の生活の様子を保護者に伝えるとともに、その日の様子は、乳児クラスは連絡帳に幼児クラスは連絡表に書いて伝えている。保護者によっては、降園時の伝達や連絡帳の記載を求める声もあり、園側でも問題意識があり、具体的改善計画に取り組む準備中なので、今後の対策に期待したい。
- ③

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 虐待防止についての研修をする事で職員が重要性を認識し、自己啓発により毎日の保育の中でどのような事を配慮すべきかを園全体に浸透させる努力をしている。視診の強化や表情の変化などに注意し、何か変化のあった時には速やかに園長に報告をする体制を整えている。ただし、職員の中でも、認識の差があるため、継続的な努力が望まれる。
- ② 虐待防止マニュアルがあり、杉並区としても虐待防止ネットワークが組織化されていて、現在は事例が無いが、もし虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たり、虐待の事実を把握した際には、ネットワークとして連携できる体制がある。
- ③ 育児困難家庭への支援については、研修などで知識は得られても、その実態を把握するに至っていない。取り組み方法を考えていく必要性の認識があり保護者向けの啓発活動についても、園として取り組もうとする姿勢がうかがえる。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	散歩マップや医療マップを独自に作成し掲示する事で、保護者はそれを利用し役立てている。また、その他にも、必要と思われるポスターの掲示や冊子を保護者の目のとどく所に置き情報提供に努めている。保護者がどのような情報を必要としているのかを把握する必要性を感じているので、今後の努力を期待したい。												
②	ルンルン秋祭り(運動会)への地域の誘いや、同じ建物にある敬老館の訪問などで、地域の人との交流を図っている。また、散歩の時のふれあいや子どもたちへの声掛け等、これまでの色々な積み重ねによって地域に受け入れてもらえている。												
③	杉九小地域子育てネットワークがあり、学校との交流がなされている。しかし、職員や保護者からも、今一步地域との結びつきが弱いと感じているので、今後更なる対応が望まれる。												
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 80%;">標準項目</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	杉九小子育てネットワークでは、児童館、小学校、図書館が連携して活動を行っており、今年度は、児童館の出張講座に看護師を派遣し、地域の子育て事業の実施に、協力している。今後は、看護師だけではなく保育士の派遣も考えている。												
②	地域の子育て支援に対しては、親子で保育園の生活を体験するふれあい保育、緊急一時保育等、入園前の保護者が足を運べる場を設け、職員から子育てのアドバイスをしてもらったり、子育て事情を知ることができる。												
③													

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	愛され、親しまれ、信頼される保育園
	内容	当園は組織として「明日も笑顔のごあいさつ」を掲げ、それがサービスの原点となり職員一同に周知が行われている。父母会との連絡も密に取り「明日も笑顔のごあいさつ」をモットーに利用者気持ちよく利用してもらうことをコンセプトにしている。当園においてはサービスを提供する人材が豊富であり利用者への接遇にも重点を置いている。
2	タイトル	向上心の高い保育園の経営層、職員
	内容	当園は組織としての意思決定の手法が確立しており、計画・実行・検討を問題解決フローチャートにより行い職員一同が改善に前向き取り組んでいる。地域の行事に参加することにより地域との関係が密になり広がって来る。利用者への情報提供説明責任も果たしている。種々の課題についてはプロジェクト化して実行している。解決に向けて必要な計画を順序立てて検討し管理は徹底している。利用者へのサービス提供およびモラル向上のための職員の意識が高い。
3	タイトル	保育と健康管理
	内容	当園においては障害児の為に巡回の医師が嘱託医であることにより毎週0歳児の健診も行っている。又心理相談員が年6回来園している事により、園児の健康管理、障害児保育、園児の心理的な側面等の勉強会の機会も多く職員の資質向上に於いて大きなプラスとなっている。同時に保育サービス全体について健康面・心理面の配慮がなされている前向きな組織風土がある。職員の構成も年齢経験に偏りが無く人材が豊富である。保護者のニーズを考えてサービスの提供を行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ボトムアップ方式を適宜とり入れる。
	内容	物事を進めるのは組織の中でのリーダーシップのあり方の周知が肝要である。もう一段のレベルアップするにはボトムアップの良さを認めて実践する必要がある。しかし現在行っている問題解決手法は職員に対する教育効果もあるので十分に活用価値の高いものである。それらの手法と考え方を理解させるにはトップダウン方式が有効である。
2	タイトル	情報を共有し話し合いを重視している
	内容	広い範囲の必要な情報の蓄積をしてよりよいサービスを更に良くしていくための方法を模索していくこと。より良いサービスの向上のためには保育上の子供のためにという視点の選択肢と社会的知識を豊富に持つ為の話し合いがもてると問題解決手法が一段と輝くのでは無いでしょうか。
3	タイトル	おりに触れ、保育の原点(理念、保育目標)立とう
	内容	保育の向上に向けて保育の専門性の再確認、再認識が必要である。職員一人ひとり尊厳や尊重を子供の気持ちになって大事にしていくことを常に持って貰う指導をしていく。

調査対象	定員が0歳児から5歳児までの合計104名で、利用者総数が103名、その中で世帯数88戸を対象として調査を行った。	
調査方法	調査方法は、アンケート票配布後の、留め置き記入方式で行った。調査票は、保護者が記入し、各自から評価機関へ直接送付してもらい評価機関にて回収した。	
利用者総数(人)	103	
調査対象者数(人)	88	
有効回答数(人)	61	
回収率	69.3	

利用者調査全体のコメント

調査対象総数88名に対して有効回答数は61名、回収率は69.3%であった。総平均(杉並方式)で、“はい”が77%、“どちらともいえない”が13%と、利用者の満足度は概ね高く表れている。満足度が若干低い(“いいえ”が5%以上)項目は、①保護者の価値観の理解や行事参加への配慮(双方共6.6%)、②外部侵入者への安全対策(8.2%)、③園の基本理念・方針の認知(8.2%)である。満足度があまり高くない(“どちらともいえない”が20%以上)のは、①保育士や職員の保育姿勢や対応のばらつき(26.2%)、②お迎え時の子どもの様子の申し送り(21.3%)、③保護者の価値観の理解や行事参加への配慮(双方共24.6%)、④外部侵入者への安全対策(26.2%)、⑤不満やトラブルへの職員の対応(34.4%)、⑥要望等への改善(36.1%)が挙げられている。この調査結果から概括言えそうな課題は、①保護者の多様な価値観や保育への期待・対応にどのように応えるかについて保護者との意思疎通を図ること、②保育士や職員の保育姿勢や対応の標準化、③近年の安全対策志向への対応、が必要と感じられた。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	54	88.5	7	11.5	0	0.0	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	54	88.5	5	8.2	1	1.6	1	1.6
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	53	86.9	7	11.5	0	0.0	1	1.6
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	54	88.5	6	9.8	0	0.0	1	1.6
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	59	96.7	2	3.3	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	44	72.1	16	26.2	1	1.6	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	46	75.4	13	21.3	2	3.3	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	54	88.5	6	9.8	1	1.6	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	48	78.7	9	14.8	4	6.6	0	0.0
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	52	85.2	8	13.1	1	1.6	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	53	86.9	7	11.5	1	1.6	0	0.0
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	52	85.2	8	13.1	0	0.0	1	1.6
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	48	78.7	11	18.0	2	3.3	0	0.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	42	68.9	15	24.6	4	6.6	0	0.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	42	68.9	15	24.6	4	6.6	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	47	77.0	12	19.7	2	3.3	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	50	82.0	8	13.1	3	4.9	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	40	65.6	16	26.2	5	8.2	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	38	62.3	21	34.4	1	1.6	1	1.6
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	35	57.4	22	36.1	3	4.9	1	1.6

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	43	70.5	12	19.7	5	8.2	1	1.6
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	42	97.7	1	2.3	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	35	81.4	8	18.6	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	42	68.9	16	26.2	2	3.3	1	1.6

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
		○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○ 非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○ 非該当
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
		○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
		○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 園の目指す理念と方針については、「久我山保育園の保育目標」として事務室の良く見える位置に掲示されている。事務室や各保育室にも運営方針が掲示されており、事業所の目指す理念や方針は職員が常に認識できるようになっている。園目標は、①生き生きと遊ぶ子ども、②自分を大切にし、友達を大切にする子どもとなっている。又、園のシンボルが”ひまわり”とされて園内のそこかしこに表象されており、明るく、たくましく元気に育つようことの、保育の根底の思いが関係者に良く伝わっている。
- ② 園長及び主査は、園全体の状況今日把握を常に心がけ、職員会議の他に気づきがあった時は速やかに伝達している。職員会議では、5月に年間指導計画が示されるが、年頭初に”ほう、れん、そう”の伝達シートで伝えている。これら職員の意向を吸収するために、アンケートを取っている。
- ③ 職員会議では、特に情報の共有化を図り、統一した見解を持ってもらうように心がけている。利用者等への重要案件の決定事項は、毎月の”園だより”や”保健だより”等で文書化して洩れなく伝えている。

2	カテゴリ2	
	経営における社会的責任	
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

地域の関係機関との連携を図っている

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

地域関係機関との連携としては、地域におけるネットワーク連絡会議の事務局になっている児童館にて積極的に活動している。”自分も子供も褒めて幸せ子育て”というテーマで、講演会の開催を予定している。「ネットワークニュース」、「地域の医療機関や危険箇所のマップ」も発行し、保健センターへ配布したり、体験保育者や見学者に手渡ししている。以上のように、地域に開かれた子育てセンターとして、職員が一丸になって取組んでいる。

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 福祉サービス従事者が守るべきものとして、事務室には保育目標の他、杉並区で編纂した関係法令や規定を集約した要綱集および児童福祉法、職員ハンドブックを常備し、職員がいつでも閲覧できるように開示している。園として職員に法や規定の遵守、倫理の高揚に向け理解を深めるために、職員会議において職員指導計画の一環として周知できるように実践している。
- ② 地域社会への開かれた組織としての取り組みとしては、まず昨年も杉並区からの外部監査を受け、園の運営や予算収支について開示している。第三者評価は、2年前に受けている。又、施設開放の意もあって、「いつでも遊びに来てね」の看板を園のフェンス取り付けている。地域への情報開示としては、関係のポスターを、商店街や区の掲示板に貼ったり、リーフレットを児童館等に配布して、園の保育方針や園児の様子等を伝えている。
- ③ 事業所としての園の機能や専門性については、体験保育や体験学習を積極的に受け入れおり、児童館で出張講座も計画している。講座の内容は、乳児グループを対象に「2歳児のしつけ」をテーマとしている。ボランティアの受入については、園独自の受け入れ指針によるマニュアルを作成している。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A+)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし	
	日頃から利用者一人ひとりの意向確認やコミュニケーションを密にし、要望や苦情へは個人面談、連絡帳等でスピーディに対応している。 事例:①扉の引き戸への改善、②マンホールにゴムマットの改善、等。	
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A+)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○ 非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○ 非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○ 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
利用者意向をサービス向上に結びつけるために、保育の現場で従事する職員が中心になって「保育計画」や「幼児組年齢別保育計画」を作成し、保護者に理解してもらっている。その他にもできるだけ保育ニーズに応えるための事業に取り組んでおり、具体例として、スポット保育、年末保育、親支援事業「ほっとほっとたいむ」にも取り組むようになった。又、体験保育時には、その終了時にアンケートを取り、来園者の意見把握にも努めている。		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 利用者などからの苦情解決制度は、基本的には杉並区で定めている制度で運用している。園内の廊下の壁や掲示板に、苦情解決の申し出から解決までの窓口や相談者等についてを案内したポスターを、保護者の見やすい場所に掲示している。利用者からの意見・要望・苦情などは、連絡帳の他、速やかに保護者個別に聞き取りし速やかな対応の後に、職員会議の場で検討し改善について話し合い解決している。
- ② 利用者の意向の把握については、アンケートによる実態調査にて把握している。区からのアンケート結果を集計する等してその結果から、例えば延長保育について制度の見直しを図る等、園の運営や活動内容に関する改善を逐次図っている。
- ③ 地域・事業環境に関する情報の収集・把握・分析については、①まず、東京都社会福祉協議会の機関誌や杉並区保健福祉部等からの関係機関の情報誌から情報収集すると共に、②日頃から関係者や園長会等の関係機関とのコミュニケーションをとるように心がけており、各種の懇談会、交流会、等を通じて、情報の収集・把握に努め、③更にそれらから福祉ニーズや事業動向について整理・分析が行なわれている。

カテゴリ4

計画の策定と着実な実行

4

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

当園独自の取り組みとして、各年齢別の指導計画を立案している。更に、その内容を保護者に説明開示して、その上で了解を得て実際の計画としている。

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

園では、施設方法に改善を加え、それをマニュアルとして整備している。利用者の安全確保・向上に関しては更に、地域ぐるみの安全性の問題としても捉え、地域ネットワークによる情報提供の仕組みとしてよく関係プレーが取れている。つまり、区の危機管理の一環として各小學校に警備員を配備しているが、それを保育園等にも巡回してもらうようにしている。

カテゴリ4の講評(一つ以上)

①	<p>計画の策定と実行面は区の中長期計画で制定した「五つ星のサービスを目指す杉並区」の保育園版「子ども・子育て行動計画」により、中期から月間、週間単位までの計画を策定している。具体的には、5年間の保育計画に続き、年度当初に職員会議にて年間の保育計画を確認し、それを受け月間及び週間の指導計画を立てている。現場の意向やサービスの現状についての対応に対しては、「チャレンジプラン」、「ほっとほっとたいむ」、「五つ星のチャレンジプラン」等を通じて、職員会議等で皆で良く話し合うことにより、反映するようにしている。</p>
②	<p>計画推進に際しては、事務に関しての役割分担表を作成し、多岐な役割に対してきめ細かく分担するようにしている。又より高い成果が得られるように区の満足度調査である「五つ星のチャレンジプラン」を、十分工夫して活用している。計画の達成度合いの管理については、「チャレンジプラン」や「アクションプラン」によって統制している。チャレンジプランでは、その成果が認められ区長賞を取っている。</p>
③	

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)

①	園が求める職員の人材は、杉並区の人事制度や職員体制に基づいて採用している。クラス担任配置については、本人の経験の有無や意図を確認しつつ職務能力に照らし、可能な範囲で適材適所化している。人材育成についても、基本的には杉並区の研修制度を活用し計画的に行なっている。研修後は、職員会議で研修レポートをもとに研修報告会を行なうと共に、日常保育の中での実践についても会議の中で話し合っている。個人参加希望する自主研修についても、事前に勤務体制シフトを組む等の調整を行い参加できるようにしている。
②	職員一人一人の主体的判断や行動を尊重し、日常の業務は「ほう、れん、そう」を心がけ、それを職員会議で確認している。又、日常の気づき、工夫を自主的に発言しやすくするために、毎日打ち合わせ会が行われている。職員の研修成果については、レポートを提出してもらい、研修報告会を開催し発表することでそれらを共有化している。
③	職員の給与や昇進等の人事評価は杉並区の制度に基づいて行なわれているが、福利厚生については、職員相互にリフレッシュしあうことも薦めている。又、職員のアイデアを生かし実践につなげられるようにと、志気の向上を高めることにも配慮している。

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)

①	情報の機密保持や運用管理については杉並区で制定している「個人情報保護規定」を準用して運用・管理されている。収集された園の運営に関わる情報は、職員室の棚に内容別に分類してファイルされ、情報を必要とする職員がいつでも閲覧できるように整理されている。又、ファイルは関係者以外のものが勝手に取り出せないように鍵のかかるロッカーに保管されており、園長、主査が管理している。新年度の更新や新たな情報への差し替えについても、随時行なわれて運用されている。
②	園で扱っている個人情報の、利用目的については杉並区の「個人情報保護規定」に示されており、その開示請求の対応方法については研修等で理解し、職員はその内容について理解している。
③	個人情報の保護については、職員、実習生やボランティアは、区の説明会やオリエンテーションでの説明会、セキュリティやEラーニングの研修等で、理解し行動できるようにしている。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果 特に大きな成果としては、職員会議プロジェクトの立ち上げを行って、積極的、前向きな会議がもたれるようになったことである。今年度は、テーマを「メディアと子どもの脳の発達」として、保護者に「脳の前頭葉の活性化に関しての子どもの休日の活動」を内容とする、アンケートに答えてもらっている。アンケート回収後に、集計し、その結果についてグループ討議を行い、更にその結果報告をする、といった計画的な話し合いの場を持つようになった。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
改善の成果 ①職員の独創的な工夫・判断によって、各クラスのクラス便りを年間に5、6回発行し、その結果、職員の能力と利用者の満足度の顕著な向上が実現されるようになった。具体的には、子供達の様子や活動の取組みを知らせることで、保護者において保育に対する理解度を深めてもらい、そのクラス便りはスピーディーな発行をし、デジカメ等を活用して、子供のその日の活動の様子をその日の内に保護者に伝えている。 ②職員の大変良いアイデアと意見を吸い上げ、行事や会議に生かして組織の能力向上が図れるようになった。保護者支援の”ほっとほっとたいむ”や園独自の会議の取組みにより、利用者の満足度が一層高まった。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
改善の成果		

①新規事業への取組みをによって、潜在的なニーズが浮き彫りにされ明らかになったことで、サービス提供のプロセスが向上した。具体的には、スポット保育を行ったことで延長保育のニーズの存在が把握でき、利用枠の拡大が図れるようになった。

②情報保護に必要な文書やパソコン等の保管方法の見直しそれを徹底化したことで、情報の保護能力が向上した。具体的には、情報保護対象の関連文書やパソコンは、特定管理物として施錠できる保管庫で保管することとなった。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面に於いては保育料は据え置きであるが、補助金・交付金が一般財源化し運営費の増加が6%ね職員費はダウンしているが全体的には区の自主財源で賄っているので向上していると考えられる。園で、改善を考える範囲は水道光熱費や消耗品費をいかにして予算内に納め、前年実績を越えずどれだけ引き下げられるかに留まりがちだが、今年度、前向きに収入源の拡大を図ることができつつある。ISO14001の取り組みを昨年度に継続して努力し、コスト削減に寄与した。具体的には、水道光熱費の削減を図り、再生紙や通常紙の再利用でゴミ量の削減に取り組んだ。その実行のために、ISO14001の関連資料の収蔵や、ポスター、標語を書いたシールの園内の各所への掲示を行っている。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

A+ A B C

・カテゴリ-3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

改善の成果

①日頃から挨拶プラスαの励行によって、保護者とはコミュニケーションを蜜にとり信頼関係を深めているが、新たに「五つ星プラン」の課題を取り入れ、利用者の満足度を向上している。更に、このプランの実効性を実現するために、その目標を玄関、事務室、保育室に掲示している。②利用者一人ひとりに対し、その苦情、質問、要望に対する回答に、3日以内に実行できるように園全体で取り組み、より誠意ある姿勢で対応するようになった。回答は、連絡帳、保護者会、個別面談を通じて伝えている。

カテゴリ8の講評(一つ以上)

① 経営層と職員層が自由な意見の話し合いによって立てられた組織目標に対して、経営層のリーダーシップによる園運営方針の実践が、職員会議プロジェクト等、職員において良く改善活動として機能しており、事業所としての組織の運用と目標実現への着実な取り組みは今後に向けて評価できる。

② スピーディーなクラス便りへの取り組みや、保護者支援の”ほっとほっとたいむ”の発行等、職員と組織の両面において、著しく能力が向上している。これらの取り組みは、利用者満足の向上へ向けて大いに評価される。

③ 新規事業への取り組みは、サービス提供のプロセスの向上に結びつくばかりでなく、事業収支改善にも結びつく。更に、園の保育目標の実現に向けての職員のモチベーションアップにもなり、組織マネジメントとして大きく評価される。

II サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(A+)</p>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
散歩で公園や児童館に行った際、そこに遊びに来ている親子に園で作成したリーフレットを配布し、遊びに来てもらっている。特に連絡の必要も無くいつでも気軽に足を運べるようにしている。来園時に名前と住所を聞きバッチに名前を書いて付けてもらい、帰るときには手作りのおもちゃなどのお土産を渡し、再び園を訪れる時にバッチを持って来てもらうなど何度も園を訪れる親子も多い。		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	園独自のしおりやリーフレットを作成し、わかり易く園の概要を知らせPRしている。また、在園児でなくても、地域の乳幼児を持つ親から希望があれば、看護師が身体計測をしたり、ささいな気になることでも話を聞き、育児相談にも応じ、保育の専門性や看護の面からも、地域からの受け入れに柔軟な対応がなされている。	
②	各学校が拠点となって繋がっているネットワークがあり、近隣小学校、当該保育園、児童館、図書館、保健センター、中学PTA、小学校PTAで、情報交換会が年6回開催され、各施設の情報交換や、ネットワークニュースを発行し区の施設に配布したり、近隣の危険箇所マップ、医療機関マップを作り地域の人に役立つ情報を提供している。	
③	保護者の問い合わせはその時々に応じて丁寧に対応し、保育参観の要望があればいつでも受け入れる体制ができていて、その事は行事予定表に明示されていて保護者に周知されている。また、入園を希望している保護者の見学も応じる体制ができていて、保護者のニーズ(産休明け保育、延長保育、障害児保育など)によって、杉並区内の保育園を紹介もしている。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① サービスの開始にあたっては三月の第三土曜日に、入園説明会を行い、杉並区の入園のしおりと園独自の入園のしおりを使い、基本方針、重要な事項等伝えている。また、別の日に入園オリエンテーションを行い、健康診断と面接をし、個々の状況を把握して対応している。サービスの内容については、入園説明会や保護者会で、保護者の同意を得るようにしている。
- ② 児童票には入園時に保護者からの情報が記載されている調査書が添付されており、その情報と面接時の聞き取りにより、慣れ保育時間を設定し、集団保育経験があれば4～5日、経験がないと一週間程度の期間を目安に進められている。0歳児と1歳児においては担当制をとって、より個々の把握の徹底に努めている。
- ③ 退園や卒園した子どもには、夏祭りや運動会等の行事の招待状を出している。また、保護者に対しては、特に働きかけはしていないが相談などがあった場合はそれに応じる体制はできている。しかし、個人情報の管理上、支援の継続はどうあるべきか、どのような支援を行えばよいのか、対応の難しさを感じている。

サブカテゴリ3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

評価項目1
必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

入園の時より保護者との連絡を密にし、家庭での子どもの様子や保護者の意向を把握するために、定期的に個人面談を行い、その内容を継続的に記録している。担当が変わっても今までの保護者の意見や対応等がわかり、今までの事を踏まえた関わりがもてる。

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(A)
---	--	----------------

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

① 子どもの日々の状況は保育日誌に記録されている。保育日誌は乳児クラスは個人記録を主とし、幼児クラスは、クラス全体と個人の記録を記載している。クラスや個々の状態、個人面談での保護者の意見を基に、月の指導計画を立て、経過、状況を把握し、上半期の総括と年間の総括で定期的に見直しを図っている。また、指導計画は、保護者会や個人面談で保護者に説明され同意を得るようにしている。緊急に見直しが必要になった場合は、月の指導計画打ち合わせによって見直される。

② 子ども一人一人の情報は児童票に記録されている。月の指導計画に沿った保育の実践での経過や結果、問題点等月の指導計画打ち合わせで話し合われ個人面談の記録とともに次年度に引き継がれている。個人面談は、入園時より卒園まで記録が継続的に行われ、家庭での状況が把握され、担任が変わっても引き続き対応できる。

③ 子どもの状況に関する情報は、月1回の指導計画打ち合わせで全職員に周知され共通理解を深めている。昼礼によって日々の打ち合わせが行われ、昼礼ノートに記録される。夕方の特例保育で何かあったときは、次の日の朝の特例保育の職員にその事を伝え、保護者への対応が確実にできるように、専用ノートに記録し申し送りがされる。

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(A)
-------------------------------------	--	----------------

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 子どもの情報を他機関へ照会するような時は必ず保護者の承諾を得ている。また、個人情報となる書類は園長が管理し、書庫に施錠し保管されている。職員にも守秘義務の徹底を図っている。指導計画には、子ども一人一人を尊重し、判断力を養う支援ができるように、配慮されている。子どもの羞恥心に配慮し、排泄面での失敗などは、他者に知らせないようにしている。
- ② 子どものプライバシーは、きめ細かな個別配慮を重視することで尊重されている。また、保護者に対しては送迎の際、要望、苦情等あった場合、なるべく早く対処し、短期で回答ができる事柄については、3日以内に対応するよう取り組んでいる。杉並区のホームページでは、寄せられた意見、苦情等を載せ開示している。保護者の多様化した価値観への対応に全て応えることの難しさを感じており、今後の対応に期待したい。
- ③ 子どもの気持ちを傷つける事がないように、職員間で気をつけている。もし、不適切な行為があった時は、状況によって口頭で注意したり、体制を整えば落ち着いた時に職員会議や指導計画打ち合わせで話をしている。何か問題があった時は、まず事務所に報告し、昼礼にて園全体で周知する事により、職員全体で対処できる。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 日常業務を行うためのマニュアルは、杉並区からの安全管理マニュアル等と、園独自の子供同士のトラブルについて、かみつき、ひっかきの対応、危機管理、事故やアレルギーなどのマニュアルが整備され、職員会議で確認され職員の共通理解を得るようにしている。また、職員はわからないことが起きた時や業務点検の手段として、マニュアルを活用している。
- ② 園独自のマニュアルは、職員会議等で見直される。見直しに当たっては、職員の意見、連絡帳や個人面談等保護者の意見に耳を傾け、子どもの様子と共に反映させるよう努めている。会議で検討する時間がとりにくいという意見があったが、職員の勤務時間等を考えながら、対応するように心がける事が今後も必要だと思われる。
- ③ 職員の研修は区の研修計画に沿って参加したり、本人の希望などにより参加したり、年2～3回参加している。研修後は、報告を兼ね職員全体で情報を共有している。定期的な打ち合わせ会等により職員全体が共通理解を図り、会議においては発言しやすい雰囲気作りをして、意見交換をしながら業務の標準化に努めている。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ◎あり ○なし			
職員会議プロジェクトを立ち上げ、テーマを決めて会議を定期的に行なっている。子どもの発達を促す取り組みとして、今回は職員が研修会に行って興味を持ったテーマで、メディアと子どもの脳の発達について研究を行っている。研究結果は職員間に留まらず、保護者にも知らせ家庭でも協力を促している。			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	職員会議プロジェクトのテーマである「メディアと子どもの脳の発達」は、保護者から休日の活動時間に関するアンケートを行い、テレビやテレビゲーム等のメディアは、前頭葉にどんな影響を及ぼすのかを調べ、前頭葉を活発にする為の取り組みをしている。日々の保育でリズム遊びを取り入れたり、家庭でも車ではなく、なるべく歩くことを薦め、アンケートの結果と今後の取り組みを、資料を付けて保護者に伝えている。		
②	園外の交流活動は、隣接する建物にある敬老会館に来るお年寄りとの年数回の交流と、5歳児においては近隣の保育園四園で、年4回交流会が行われている。小学校で一緒にいる子どもたちが顔を会わせ交流ができる機会になっていて、これから同じ学校へ行く友達が一人でも多くできることは、子どもはもとより、保護者にとっても心強い事である。		
③	朝の受け入れ後には、静から動に活動がスムーズに移行できるように配慮している。休み明けは、不安定な子どももいるので適切な対応を心がけ、1日の活動が落ち着いてできるように工夫している。絵本、積み木、ままごと等コーナーを設定し、集中して遊べる空間づくりをよく工夫している。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	メニューは、杉並区の統一献立であり献立検討会や作成会に参加し、保育現場の意見を反映させているが、統一献立の見直しが必要と感じている。来年度から調理が民間委託になる予定のため、保護者から不安の声も聞かれるが、園として現状と変わらないように話し合いを進めている。今後の経過を保護者に知らせ、不安感を取り除くことが必要と思われる。乳児は、個々の生活リズムに合わせ、家庭になるべく近づけるように個人差にも配慮をしている。		
②	椅子やテーブルは、区の検討会で出されたデータにより、現在は乳児クラスのみだが、体にあった木製の物を使用している。幼児クラスにおいては機会があれば花を飾るなど、明るく楽しい環境設定を心がけている。また、子どもが畑で作った野菜を収穫した時は食事で食べたり、芋ほりの後さつま芋を洗う手伝いをし、焼き芋にして食べたりと、身近に食を感じられる工夫をしている。		
③	食物アレルギーへの対応は、アレルギー除去食マニュアルにより、保護者、看護師、栄養士、調理師、担任で話し合い、保護者へ負担のかからないようにできるだけ調理面で工夫をしている。調理室には、子どもの顔写真とアレルギー品目が貼ってあり細かい配慮が窺える。保護者には、年1～2回医師によるアレルギー検査を受けるよう促している。		

評価項目3 A+以外では【標準項目を超えた取り組み】のコメントは削除してください
 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている

3

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	○非該当
●あり ○なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
●あり ○なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3の講評(一つ以上)

- ① 毎日クラスの担任は、受け入れの時視診を行い、そのうえ看護師が全クラスの視診をして子どもの健康状態を把握している。保健日誌に健康状態を定期的に記録し、怪我や病気等、経過観察が必要な場合においては、観察記録をつけて職員は、いつでも見ることができ、状況を把握して保護者に対応している。
- ② 感染症等が発生した場合は、速やかに感染症対応マニュアルに従って対応している。保護者には保育室の入り口等、目に付くところへ情報を掲示し伝えている。乳幼児突然死症候群に対しては、午睡チェック表を付けることで対処している。また、保健便りでも感染症について取上げる等して、情報提供をしている。
- ③ 医療的なケアが必要な子どもに対しては、医療機関、保健センター等、関係機関との連携がなされ、保護者からの相談に応じたり、喘息や痙攣等の子どもの保護者からの与薬申込書により、看護師が薬の管理を行うような体制が整っている。

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	誕生会は各クラスで個別に行っている。運動会は土曜日に設定し、保護者の参加しやすい配慮をし、地域にポスターも貼って知らせている。参加は幼児クラスが主で乳児クラスにおいては、自由参加にしているが、保護者からは参加しやすくしてほしいという意見も聞かれ、親子一緒に無理の無い程度に楽しめる工夫が望まれる。お楽しみ会は、乳児、幼児別に年3回行われ、子どもが楽しめる機会となっている。また、夏祭りは、おみこしや山車で近所を練り歩き、地域の人とのふれあいの場にもなっている。		
②	各クラス1名の職員によって構成される環境プロジェクトがあり、年間計画を立て合理的で使いやすい保育園を目指している。ホールにソファ等を置いて家庭に少しでも近づける工夫をしたり、棚の中に何が入っているのか書き出す等、整理や清潔に心がけている。		
③	お昼寝は個々の体力や状態に合った個別配慮を行っている。子どもによっては、朝早くから保育園で過ごし、お昼寝を必要としていたり、眠れなかったりと個人差があるので、無理のないようにしている。		

評価項目5

保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている

5

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目5の講評(一つ以上)

- ① 保護者が年間通していつでも参観できることは、行事予定表に明示されている。また、日々の様子は、乳児クラスは個々の連絡帳で伝えられ、幼児クラスはそれぞれの保育室前のホワイトボードに記入されている。その日の保育の内容で、保護者に伝えたい事があるときは、デジカメプリントにて降園時に掲示し、なるべくその日のうちに画像で伝える事を心がけている。乳児の出入り口に、本の貸し出しのコーナーがあり、借りていく保護者も多く好評である。
- ② 子どもの登降園時において、保護者以外が行う場合は必ず保護者から連絡をするよう、入園説明会で周知している。保護者の突然の残業などで迎えが遅くなる時や、前もってどうしても都合が付かない時のために、スポット保育をしている。当園は延長保育指定園であるため、その枠が25名ある。延長保育が不要な日を把握し、その人数を延長保育以外の子どもを有料で受け入れる体制が整っている。
- ③ 保護者が園の行事に参加しやすいように、できるだけ土曜日に設定し、夏祭りや運動会には警備等をしている。父母会主催の行事もあり、芋ほりや、ミニコンサートを企画し行っている。また、現在平日の午睡時間に保護者会が行われ、参加しにくいと保護者から意見もあるが、今後夕方3時頃にすることが検討されている。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 虐待防止や育児困難に関する研修へ職員が参加し情報を得、理解を深めている。杉並区の虐待防止マニュアルにより、実際に虐待の疑いや、または事実があった時は速やかに対処できる体制を整えている。関係機関との連携や、情報交換等対応ができる。
- ② ほっとほっとプロジェクトを立ち上げ、親支援事業の一つとして、ほっとほっとたいむを設定し、迎える時間を利用し、年3回保護者がほっとできる機会を設け、くつろげる場を提供している。今までに、お抹茶を出したり、フラワーアレンジメント、足裏マッサージ等がある。保護者が家庭へ帰ってから、安定した状態で子どもと接する事ができる配慮からである。
- ③ 保護者会で、育児の事や困っている事を話し合ったり、個々に保護者とのコミュニケーションを図り、支援を心がけている。保護者の対応の面で、プライバシー等の事があり、限界を感じているが、積極的に対処しようとする姿勢が窺われる。虐待を受けている疑いのある子どもや、育児困難家庭への発見、対処に努力することを期待する。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	子育てネットワークから、子育てに役立つ情報を、子育てネットワークニュースによって提供している。子育てネットワークで作成した、医療機関マップや危険箇所マップは、保護者の利用が多い。また、体験保育や見学に来た時に渡している。地域の福祉ニーズを把握するのが難しいようであるが、今後も幅広い情報の提供に期待したい。												
②	地域の人の園行事の参加、父母会主催のミニコンサート等、交流の機会を設定し呼びかけている。呼びかけの方法の一つとして、5歳児クラスで行事のポスターを作り、園外に掲示している。また、敬老会館の利用者との交流会も定期的に行われている。												
③	保育実習生や体験学習の中学生、ボランティア等を、積極的に受け入れることで、子どもは職員以外の色々な人と関わりを持つことができる。また、公園等でリーフレットをわたして遊びに来てくれた親子との関わりも、子どもにとって地域の人との交流する機会の一つである。今後も、安全を確保しながら、交流する機会を持つことが望まれる。												
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 80%;">標準項目</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	園のフェンスに「いつでも遊びに来てね」と、書いた看板があり、気軽に園庭で遊んだり、必要ならば育児相談も、受け入れる。体験保育であるふれあい保育を実施。親子で1日保育園の生活を体験することができる。また、終了時にアンケートをしてもらい意見を反映させる努力をしている。職員全体が子育て支援に対する理解が深まり、積極的に受け入れている。												
②	児童館の出張講座に、乳児グループの講師として職員を派遣し、保育者として地域の子育て支援に協力している。ネットワーク事業も展開されつつあり、「自分も子供も褒めて幸せ子育て」というテーマで講演会を開催する予定である。												
③	散歩に行った先で、子どもを遊ばせに来ている保護者に対し、職員が声をかけたり、気軽に育児の話をしたり、相談を受けたりして、専門性を生かして地域の子育てに貢献している。来年度から待機者が多いが2歳児クラスは定員以上の広さもあることから、地域の福祉ニーズを把握し、区に働きかけることで、1名の定員を増やす事が決まっている。今後も身近なところからの声を聞き、これらについて区等に働きかけることも必要だと思われる。												

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	こども達が健やかに育つ保育環境づくり
	内容	フルタイムで働き、多様な価値観を持つ保護者が多く保育ニーズは高いが、これらに応えるために職員が一丸となって職務に従事している。保育理念である、明るく、たくましい花「ひまわり」をシンボルとして、子供達の保育環境の充実に努めている。長時間保育の子供達にとって、ホットできるコーナーの設定で気持ちの安定を図る等の面は、評価できる。
2	タイトル	利用者満足を図るために、職員の独創性を尊重する組織運営が適正に機能している。
	内容	利用者満足を向上するために、職員のアイデアや工夫による取り組みがよくなされ、園運営に活かされている。特に、子供の発達を促すための「こどもの脳の発達とメディア」プロジェクトの活動は、家庭でのTV視聴のあり方を考える機会にもなり、保護者からの反響を得て高く評価される。また、親支援事業「ほっとほっとたいむ」も、お迎えの前のくつろげる空間を提供して好評であり、評価される。
3	タイトル	地域に開かれた保育活動と、柔軟な受け入れ態勢づくり
	内容	園行事への参加呼びかけとともに、園のフェンスや近隣の公園に「いつでもあそびにきてね」の看板を掲げて気軽に遊びに来てもらったり、また散歩に行った公園や児童館などに園作成のリーフレットを配布し声かけをしている。また、地域の保護者の希望があれば身体測定や専門性を生かした育児相談にも応じ、地域の子育てセンターとしての役割を担っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	業務の合理的・効率的な運営
	内容	価値観や保育ニーズの高い保護者に対応すべく様々なプロジェクトを立ち上げる中、保育サービス向上に向けての業務負担も増え、次の点が課題となっており検討が望まれる。①時間の効率的な活用・配分、②会議の持ち方、③保護者とのコミュニケーションのとり方。
2	タイトル	現状に即したマニュアルの運用
	内容	業務マニュアルに関しては、公立保育園のため経営の一元性の観点から合理的・効率的な規定ではあるが、その運用に関しては、さらに弾力性の面で、職員間での共通理解への一層の配慮が必要かと思われる。
3	タイトル	外部侵入者への安全対策の再検討
	内容	区の指針に基づいて基本的な危機管理対策を講じているが、一部の保護者においては外部侵入者への安全対策に対して不安感を持っている方もいる。さらなる具体的対策の強化が、必要かと思われる。

〔利用者調査：保育所(認可保育所)〕

《事業所名：杉並区立浜田山保育園》

調査対象	調査対象は85名であり、調査票記入者は母と父で98%であり年齢層は35歳までが44%35歳以上が56%である。対象者の勤務状況は常勤が74%である。母の勤務状況は79%が常勤となっている。	
調査方法	調査対象者数(人)85名に対して、園の協力により調査票を配布していただいた。回収については当機関所定の返信用封筒を用い、直接当機関に郵送する方法により個人情報の保護に注意を行った	
利用者総数(人)	95	
調査対象者数(人)	85	
有効回答数(人)	57	
回収率	67.1	

利用者調査全体のコメント

園長を始め保育士たち職員に対して、利用者は大変感謝の念を持っていることが調査の結果認められます。殊に延長保育に子どもを預けている保護者にその念が強いことが分かります。子ども達が園の生活をとても楽しんでいることに対して、感謝の言葉が幾つかありました。 若干の保護者には、保育士にばらつきがある、との指摘がありました。男性の保育士がいたほうが良いという意見が幾つか出ていましたが、このことはこの業界の将来の課題として考慮することでしょう。、

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	47	82.5	9	15.8	1	1.8	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	50	87.7	7	12.3	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	50	87.7	7	12.3	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	46	80.7	11	19.3	0	0.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	53	93.0	4	7.0	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	38	66.7	14	24.6	5	8.8	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	39	69.6	16	28.6	1	1.8	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	49	86.0	7	12.3	0	0.0	1	1.8
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	48	84.2	7	12.3	0	0.0	2	3.5
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	53	93.0	3	5.3	0	0.0	1	1.8
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	44	77.2	9	15.8	1	1.8	3	5.3
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	47	82.5	8	14.0	1	1.8	1	1.8
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	44	77.2	11	19.3	1	1.8	1	1.8
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	38	66.7	16	28.1	0	0.0	3	5.3
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	41	71.9	14	24.6	2	3.5	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	51	89.5	5	8.8	1	1.8	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	45	78.9	12	21.1	0	0.0	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	30	52.6	24	42.1	2	3.5	1	1.8
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	43	75.4	12	21.1	0	0.0	2	3.5
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	42	73.7	13	22.8	1	1.8	1	1.8

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	28	49.1	18	31.6	9	15.8	2	3.5
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	25	89.3	2	7.1	1	3.6	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	24	85.7	4	14.3	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	41	71.9	12	21.1	2	3.5	2	3.5

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 事業所の理念・基本方針「健康な子ども・心豊かな子ども・自分で考え行動する子ども」を園内に掲示し、職員に徹底できるようにし、園長は年間指導計画策定のときにこの理念を全職員に徹底するようにしています。利用者家族にも理解できるように「入園にあたって」のパンフレットで解説をしています。日頃の業務の推進の際に、これらの理念・基本方針に沿った運営が出来るような問題提起を行い職員に対して気づきを促しています。
- ② 経営層は加入者に対して園の指導方針を説明し理解をしてもらい、また職員をよくまとめ、問題が発生したとき、職員が解決できないときなどに早く対応して問題をあとに残さないように的確に解決するように指導しています。
- ③ 重要な案件については、内容によって全体会議、プロジェクト対応、クラス代表会のいずれかに付議して経営層・関係職員の共通認識を持って検討し決定しています。その決定事項は、必要に応じて全員に認識できるように周知徹底しています。園長は在籍4年目ということもあり、職員や利用者との信頼関係は十分築かれています。

2	カテゴリ2	
	経営における社会的責任	
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			評点(A+)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし			
次世代の福祉を担うものの育成として近隣中学・高校の生徒を職場体験として年間20名述べ100名受け入れて、効果をあげています。受け入れに際しては心がけるべきマニュアルを示し、特に個人情報の漏洩には気をつけるように指導しています。園児たちも喜んで実習生になつき、実習生たちも福祉に関する認識が高まり、相まって良い結果を出していると認められます。			
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点(A)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当	
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし			

評価項目2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
◎あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目3

地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
◎あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 福祉サービスに従事するものとして守るべき法・規範・倫理などについて、区で発行した規程集などは備えてありますが、園独自のものはとくにありません。第三者評価制度については区の方針に従って対応しています。園の園庭開放や地域社会への対応などについてのPRはポスターやちらしなどにより地域内に情報開示をしています。
- ② 「身体測定」「ふれあい保育」「育児・栄養相談」などを地域に開放しています。また夏祭りや運動会の際には、参加を呼びかけて参加した人たちからは喜ばれています。隣接した児童館での「子育て講座」には、園長が講師として活動しています。子育てに悩んでいる地域の母親(利用者でない)の悩みを聞き、園庭開放の際に保育士や園児の所作・行動をその母親が観察することによってその母親が子育てのヒントを貰ったと喜んだ例があります。
- ③ 園長は地域ネットワークの会議には必ず出席し、保育園として出来る事柄を説明しています。また防犯対策連絡網を作成し、隣接の学校などとの連絡を密にし、危険発生の事態に備えています。

カテゴリ3

3

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

サブカテゴリ1

利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

評価項目1

利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目2

利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 苦情解決制度の存在は、保護者に分かるように掲示してありますが、実際に活用されたことは無いようす。この園の場合、園長の在任が長いため保護者とは殆んど顔見知りのため、利用者になにか苦情が生じた際には園長に直接話がくるようで、その点のコミュニケーションはよく取れています。利用者調査の内容を見ても、保護者はこの点を評価しています。
- ② 利用者の意向を探るためのアンケートはとっていないませんが、いろいろな行事のあとで感想を聞いたり意見箱を作ったりして意見の収集に気を配っています。クラス保護者会のあとで園長との懇談会を設けて要望を訊いています。対策が必要な要望にはすぐに処理をして、その状況は「事務所だより」に公表しています。
- ③ 地域懇談会には必ず参加して福祉ニーズの収集に取り組んでいます。そのことは出席報告書などで確認できます。また全社協、東社協などから情報を得て役立てています。これは印刷物などで確認できます。

カテゴリ4

4 計画の策定と着実な実行

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

カテゴリ4の講評(一つ以上)

①	計画の策定と実行面は区の中長期計画で策定した「五つ星のサービスを目指す杉並区」の保育園版「杉並区子供・子育て行動計画」に基づいて年間計画を策定し、行事の日程やその担当者の役割分担などが「年度役割表」で明確に決められています。「夏祭り」や「運動会」などの大きな行事には、何人かの職員でプロジェクトチームを組んで準備運営をするように決められています。
②	計画を策定し実施する際には職員会議などで話し合い、全員に周知徹底するように実行しています。これらについては記録に残して今後の参考資料として役立てています。
③	利用者の安全確保を図るためには、区の作成のマニュアルだけではなく園独自の防災・防犯対策を作成してあります。近隣とも連携を保ち安全対策を打ち合わせて不測の事態に備えています。

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(B)

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)

①	職員の人事制度については区の傘下にあるので、園としては特別な方針は持っていません。しかし園内の職員の適性を把握して、業務の割り当てや、担当クラス決定の際の適正配置に考慮しています。個人別の育成計画は出来ていないが、本人の能力向上に役に立つような研修に計画的に参加させています。
②	毎月の職員会議で日頃気づいたことや問題点を話し合い、対策を徹底させています。勤務計画表を作成し、全員がむらなく研修に参加できるように管理しています。研修に参加した職員はレポートを作成提出し、会議で報告して全員に共有化を図っています。
③	年次有給休暇取得の少ない職員については勤務表で確認して、取りやすいよう対応しています。個人の意向を吸い上げようとする取り組みをしていますが、職員との個人面接記録は作成されていません。

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)

①	<p>情報管理のマニュアルは、区から配布されたファイルを備えて、職員が読みやすいような管理をしています。パソコンの管理についても区の指導に基づいて運営しています。独自の情報の管理については、重要性を認識しているが、記録などでは確認できない状況です。</p>
②	<p>「個人情報保護法」については、園児の入園に際して『保育園のしおり』に「入園に当たって」のパンフレットを付して、その中で確認して、重要性を互いに認識しています。また職員に対しては、「個人情報保護法」についての研修を受講した職員が、全員会議の際にその内容を報告して理解の徹底を図っています。</p>
③	<p>個人情報保護の大切さは、アンケートの「昨年度より改善された点」の記載をみても職員間に浸透していることが確認されました。保護者との「個人連絡帳」の管理についても細心の注意を払っています。また受け入れるボランティア、実習生には園長がオリエンテーションの際に細かく伝えてその重要性を確認しています。</p>

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C
	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」 	
	改善の成果	
	園長は率先して業務を運営して職員を指導し意思決定をしています。職員は前年度に比較して互いにコミュニケーションをよくとって仕事をしていることは、アンケートにも現れています。社会的責任に関してもその重要性を認めて会議等で全職員に伝達しています。但し書面などには具体的に表現されていません。現実には、「地域の育児困難家庭の受け入れ」、「スポット保育の実施」、「延長保育児童の増加」などに現れています。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
業務を職員に任せて、もし失敗してもそれを責めずに原因を分析し、今後に備えることにより職員の能力を伸ばすようにしています。保育内容は前年より向上していると思いますが、特に書面では現されていません。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	○ A+ ● A ○ B ○ C	
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」 		
改善の成果		

サービスの提供については、各種の点で前年より向上している状況が「分析シート」の中にも記述されています。地域の子育て支援などについてはポスターなどで公示して積極的に参加し、実績を上げています。情報の保護・共有については外部的には保護者に対する認識を確認し、内部的には職員にその重要性を互いに認識するように研修をしています。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面に於いては保育料は据え置きであるが、補助金・交付金が一般財源化し運営費の増加が6%られます。職員費は減少しているが全体的には区の自主財源で賄っているので向上していると考えられます。園としては延長保育・スポット保育などを実施して収入を上げています。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

・カテゴリ3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

A+ A B C

改善の成果

保護者から出てくる意見・要望に対して、職員全員で対応策を検討し、改善できる事柄は速やかに改善するという手順が定着しています。園の諸行事に保護者の意見を取り入れるようにしています。地域に開かれた保育園として、「入園相談」・「ふれあい保育」・「育児相談」・「行事への地域の人の参加」など、前年より増加の傾向が見えます。

カテゴリ8の講評(一つ以上)

① 「リーダーシップと意思決定」「経営における社会的責任」「計画の策定と着実な実行」などの内容については、すべて前年度より定着して行われています。書面などには確認できませんでした。しかし職員間に定着していることは日頃の業務を通じて見受けられます。

② 「職員と組織の能力の向上」については、日頃の業務運営のなかでよく取り組んでいます。全体的な底上げの効果は評価出来る内容です。

③ 全般的な傾向として園長・主査ともに前向きに対応しており、前年度に比べて改善を進める姿勢が各所に見られます。特にサービス面の向上成果が上がっています。

II サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	園の情報は、区の保育情報誌やホームページ、園が独自に作成した「ほいくえんのしおり」というパンフレットがある。「ほいくえんのしおり」は、保育のねらいや定員、保育時間や年間行事などがカラーでわかりやすく作成されている。この「ほいくえんのしおり」は、地域交流事業「あそびにきませんか」の内容を記載した案内や子ども達が遊んでいる様子を撮影した写真などがA4サイズで作成され、3つ折で持ち帰りやすい形になっている。区のホームページにある在園児数と空き情報は、在園児数の変更が生じ次第、連絡され、掲載されている。	
②	園だよりはおひさまはらっぱという名称で、その月の行事や誕生児の紹介、お知らせ、保護者や職員の投稿コーナー「小さい頃、こんなことして、遊んでました」、ほけんだより、随時のクラスだより、事務所だよりが掲載されている。「小さい頃、こんなことして、遊んでました」は、投稿者の郷土の情景や懐かしい遊び、投稿者の子どもに対する思いなどが伝わるものとなっている。各月の行事もわかりやすく表にまとめられており、お知らせの重要事項はゴシック体の太字にするなどの工夫をして保護者が、必要な情報を即座に見分けられる工夫をしている。	
③	入園を検討中の保護者や見学を希望する人が気軽に訪問してもらおう、園の外周にある掲示板に「遊びにきませんか」のポスターを貼っている。ポスターを張り出した効果か、「ポスターを見た」と、近隣の親子などが入園の問い合わせをしたり、見学を希望するケースが増えている。園では、保護者が気負いなく見学できるよう、「遊びにきませんか」に誘い、誘われた近隣の親子は在園児と共に、園庭などで遊んだり、身体測定をうけるなど園の生活を体験している。また、電話での問い合わせには、見学希望の時間や曜日に見学できるように配慮している。	

サブカテゴリ2		
サービスの開始・終了時の対応		
2		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(A+)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
入園説明会の際には、地元のケーブルテレビ局が制作した「浜田山保育園の一日」15分のダイジェスト版をビデオで保護者に見せて、園での生活が把握しやすいように配慮している。また、「入園にあたって」という冊子では、各クラスごとに必要な持ち物を写真入りで、名前をつける位置や枚数、サイズ等の説明をつけて、保護者がわかりやすいように支援している。また、入園説明会では、在園児の保護者が入園当初の気持ちや現在までの体験談を話してもらえるため、不安を抱えた保護者の力強い味方となっている。		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <p style="text-align: right;">評点(A+)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
障害や病気、アレルギー、個別の配慮等が必要と思われる子どもの情報を細分化して記載したり、園全体で把握しやすいように一覧表を作成するなどの工夫をしている。なじむために家で使っているおもちゃやタオルなども持ってきてもらうようにしている。		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会は、子ども達の1日の生活のビデオ放映と、「入園にあたって」という冊子を用いて説明している。子ども達の一日の生活を撮影したビデオは、地元のケーブルテレビ局が子ども達の生活を朝の登園時間から閉園時間の17:30までの丸一日を取材したもので、15分のダイジェスト版となっている。「入園にあたって」という冊子には、園の保育目標と職員の取り組み姿勢、留意点、プライバシー保護についてなどの記載のほか、各クラスごとの持ち物を写真とコメントで示している。写真には名前をつける位置、枚数、サイズ等も記載されている。
②	入園説明会では、園の目標や職員がその目標に対して、どのような姿勢で、どのように取り組むのかなどを説明しているため、保護者は安心して園に子どもを預けられるという気持ちを持つことができる。また、在園児の保護者が入園当初と現在に至るまでの体験談を話している。在園児の保護者の話を聴き、入園当初の不安を抱えている保護者は、園に対しての期待を高め、保護者同士、理解しあえる関係を築きやすいことを知ることができる。入園前には、園長や栄養士、看護師と個別に面談している。
③	園では、心身の健康状態に不安やなんらかの配慮が必要と思われる保護者と個別の面談をし、その状態を児童票や、個別の面接記録、発達経過記録等にも記載している。また、病気や障害を有する子どもは、子ども一人ずつの既往歴の個人記録と一覽で病気や障害を有する子どもの状況がわかるように、また、薬類の使用の有無や処方・処置の時間、使用方法などの仔細を表にまとめて職員がわかりやすいように作成し、いつでも確認できる所定の場所においている。また、アレルギー児に対しても、一つずつがわかるように一覽表を作成している。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点(A+)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし	
より子どもの姿が把握しやすく課題が整理しやすいよう、また、保護者と職員、また職員同士の情報の共有化が図りやすくなるように、今まで使用していた保育日誌や連絡帳の様式を見直し、園独自で活用しやすい様式の記録用紙に改良している。	

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(**A+**)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

職員は半期ごと、子どもの生活、遊び、発達に即した支援の成果、保護者対応、クラス運営、その他の項目について具体的にその姿・反省・気がついたことと、今後に向けての課題をコメントする書式を活用し、自らの保育の評価と反省を行っている。

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(**A**)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		
評点(A)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	職員は半期ごと、子どもの生活、遊び、発達に即した支援の成果、保護者対応、クラス運営、その他の項目について具体的にその姿・反省・気がついたことと、今後に向けての課題をコメントする書式を活用し、自らの保育の評価と反省を行っている。日頃の職務に追われて、子どもの状態や保護者対応ばかりに目を向けがちな最近の保育所事情から一歩進んで、自己評価を行い、自らの課題を設定し、半期ごとに自らが高まる取り組みをしていく姿勢は評価に値する。	
②	職員は、より子どもの姿が把握しやすく課題が整理しやすいように、また、保護者と職員、また職員同士の情報の共有化が図りやすくなるように、今まで使用していた保育日誌や連絡帳の様式を見直し、園独自で活用しやすい様式の記録用紙に改良している。子どもの健康状態や日々の様子や変化の状態、発達の経過なども児童票や発達経過記録、健康台帳、健康カードなど、それぞれに適した書式に記録している。これらの記録は保護者の意向や要望が寄せられた際に確認したり、必要に応じて課題設定に加えられている。	
③	保育計画には、園の保育目標を元に子どもの発達や遊び、生活、行事などが盛り込まれて作成されたクラス別の年間計画(4期)、月の指導計画、週の指導計画と日々の計画がある。乳児クラスや障害児、アレルギー児、気になる子ども等には、個別の計画が作成されている。職員は半年ごとに計画を見直したり、子どもの変化や状態に応じて、また保護者の意見や要望により見直しの必要がある場合に、クラス内で、乳児クラスの職員間または幼児クラスの職員間で、及び職員会議で検討される。検討の結果、修正や変更が必要な場合には修正及び変更をしている。	
サブカテゴリ5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		
評点(A)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① 職員は児童福祉法、公務員規程、区の職務規程に基づき、適切な支援をするように定められており、それを遵守するように努めている。個人情報に関する保護については入園説明会の際に説明を行い、写真やビデオ撮影などの了承がある人のみの撮影とすることを約束している。また、おたよりや連絡の仕方などもプライバシーへの配慮を行い、以前は日付も記載していた誕生児紹介も日付の記載をやめるなどの工夫をしている。
- ② 園目標にも、「健康な子ども、心豊かな子ども、自分で考えて行動する子ども」を掲げており、日々の保育に反映させるように努めている。そのため、自分でできるように最後までがんばるような声かけをしている。適切な判断にこだわりすぎると子どもの自由な発想を制限してしまう可能性もあるため、子ども一人一人の個性や発達、その時々の子どもの気持ちを理解を深めた支援を意識し、更なる取り組みとされたい。
- ③ 園では保護者の意向や要望を反映させながら園の質の向上に努めている。そのため保護者からの総合的な満足度は高く、たいへん満足42%、満足42%、どちらかといえば満足16%をしめ、不満の回答は見られなかった。しかし、今回のアンケートには、保護者の顔色ばかり見ないで言うべきことは保護者にもきちんと知らせたほうが良いという意見も聴かれている。子どもの心身の健やかな発育と子どもの気持ち、保護者の気持ちの満足のバランスを考えた支援を全職員で検討し実施されたい。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 園では、区で作成したマニュアルを元に日々の職務を遂行するように努めるほか、職員はそれぞれの専門性をいかし、おもちゃプロジェクトや図書選定、行事プロジェクト等の担当を持ち、日頃の仕事の見直しにそれぞれが責任を持って各職員に確認したり、プロジェクトとしての提案や見直しなどの機会を持っている。職員は各クラスごとの反省を半期ごとに行うほか、さまざまなマニュアルについても必要に応じ、確認したり、年度末に全体の反省をするなどして点検している。
- ② 職員は、保護者からのアンケートや意見、要望が上がった際だけでなく、積極的に改善の必要を感じたことが生じた場合には、職員会議で意見を述べたり、提案をする機会を持っている。自らのスキルを向上させるために、園では職員一人一人の経験値や現状に応じた研修を受講するように勧めたり、園長や主査などが職員の相談や必要に応じた助言などを行うことで、標準化に努めている。
- ③ 衛生面や環境整備において様々な取り組みをしているが、日頃慣れてしまっている環境や、職員自身の言動の振り返りが必要な職員も場面も存在する。乳児室にある木製の仕切りは安全のために必要かもしれないが、できれば自由に出入りしやすくする工夫をされたい。また、使用していない空調機器の上に物品を置くことは、正しい認識を持っていない子どもにはしても良いことと判断される可能性もなくはない。物品の整理や保管場所を工夫されたい。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	子ども一人一人の発達や心身の状況、保護者との話し合いや日々の連絡帳等の活用のもとに子どもの全体像を把握し、児童票や指導計画に記載している。子ども達は職員が計画した一年間の遊びの計画に基づき、遊びの準備をし、関心を高めるための取り組みを設定する中で、経験値を高め、大きく成長している。職員は、常に子ども一人一人の今の力や発達段階、その時々のお気持ちや思いなどを受け止め、子どもが一人で達成しきれなくてもそのやろうとする努力や挑戦したことを認め、その成長が喜べるようにサポートしている。		
②	子どもの自主性や自発性が育つよう、室内でも遊びのために様々なおもちゃや、より遊びやすい環境としてコーナーを設けている。例をあげると、5歳児は毛糸で、コースターやテーブルクロスなどの織物やマフラー編み、紐編みなどを日常的に楽しんだり、ろうそく作りなども行っている。また、地図を使って散歩コースをたどるなどの経験もしている。乳児室の壁面には布絵本のようマジックテープのついたおもちゃの付けはずしをしたり、スイッチ、カンヌキなどの小物、ままごと、手づくりおもちゃなどもあり、それらを使用して自由に遊びこんでいる。		
③	園では区民農園の一部を借り、5歳児は地域の人と交流ながらじゃがいも、サツマイモ、小松菜、大根などを、4歳児は園内でプランターや庭の隅を活用し、オクラ、ミニトマト、きゅうり、なすなどを、3歳児は枝豆などを栽培し、植物の成長を観察したり、収穫の楽しみを味わったりしている。また、園庭にはブドウやブルーベリーも植えられており、それを収穫して調理してもらうこともある。食物栽培は植物の成長の過程を観察することもでき、自分達が水遣りや世話をしたものが成長することの喜び、自然とのふれあいだけでなく、食育にもつながっている。		

評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2の講評(一つ以上)		
①	日々の献立は、子ども一人一人の健康状態や食欲、咀嚼などの状態に応じて毎日提供されている。嘔吐や下痢などの体調不良の子どもには油物を避け、ご飯も乳児に提供する軟飯にしたり、アレルギー児に対しては除去食を中心に、たまごなどのアレルギーであれば魚に変えるなどの工夫をしている。アレルギー児の食事は間違えないように、トレーを変えたり、一つずつ調理と職員が確認してから提供するようにしている。調理師は時々、子ども達の食べる様子をみて嗜好を確認したり、園長が中心温度の確認や捨食などして確認している。	
②	冷凍母乳も持参可能で、希望に応じて調乳室で調乳してもらえ。離乳食は昨年度より、生後9か月までは10時と14時の2回食、生後9か月以上の子どもは3回食となるように配慮している。離乳食は1歳3か月程度までの5期を設定している。離乳食は、子供一人一人の離乳状況に応じるため、栄養士、調理師、保育士等で会議を持ったり、コミュニケーションを取るよう努めている。ミルクタイムがずれても子ども一人一人の空腹度に合わせるなどの対応をしている。	
③	乳児用のいすは特別注文のもので、生後10～15か月児の成長に合わせ、3段階に調節できるものである。0歳児のクラスには、じゅうたんではなく、拭きやすく抗菌効果のあるアレルギーの子どもにも安全なマットを敷いている。子どもの食に関する保護者からの相談にも、栄養士や園長、看護師も相談にのってもらえ、一人一人の食が健康を促進する取り組みとなるように努めている。区の方針で、衛生面を考慮し、生野菜もゆでて提供するなどしているため、彩りがよくない点を園では改善点としている。	

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	○非該当
	●あり ○なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	○非該当
	●あり ○なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
●あり ○なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	園では、乳幼児突然死症候群の防止のために、0歳児は10分おきに、1歳児は15分おきに午睡チェックを行っており、その状態を毎日、記録として残している。感染症に対しては流行が見られる時期には、保健日よりで知らせたり、感染があった子どもが見られた場合には早急にポスターを作成し、保護者が目にしやすい位置に貼付したり、お知らせを文書にして保護者に知らせるなどの工夫をしている。		
②	乳児の健康管理に留意し、抵抗力の低下している乳児の部屋には雑菌を持ち込まないように、気をつけている。ボランティアも生後8か月未満の子どもがいる場合には入室を遠慮してもらっている。乳児の沐浴室のシャワーのそばの壁面には、沐浴の仕方をイラストにした手順書が貼ってあり、職員はそれを見ながら正確な手順で沐浴できるようになっていく。洗濯においても衛生面に気をつけるため、おしぼり、ガーゼ、台拭き、おもちゃ拭きに分けて洗濯している。		
③	子どもの健康状態の把握は、看護師による朝の視診、乳児は検温、保護者からの連絡や連絡帳などにより確認している。子どもの体調が優れない場合には看護師が可能な限り、保護者の迎えがあるまで子どもに付き添い、看護し、子どもの状態を口頭で申し送るようにしている。服薬は区の規程どおり、慢性疾患や熱性けいれん、てんかんなどを持っている子どもの服薬や座薬、アトピーや湿疹などのある子どもの塗り薬に限定されているが、看護師が責任を持って保管し、医師の指示通りに与薬している。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	○非該当
	●あり ○なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	○非該当
●あり ○なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし			
乳児室には抱っこやミルクの授乳がしやすいようにソファが置いてある。また、トイレに脱臭効果のあるコーヒードリヤや備長炭を置き、消臭効果を高めている。園内のさまざまな場所には生花や観葉植物を飾り、心を和ませる環境づくりをしている。トイレの中にも生花が飾ってある。			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	子ども達が日々の生活を楽しめるよう、誕生会の時には子ども一人一人の誕生日にワッペンをつけたり、クラスの入り口付近に誕生時の写真を貼るなどして、皆で祝うようにしている。誕生児には、保護者と担任が書いたメッセージや子どもの言葉をカードにし、リボンにつけてプレゼントしている。また、楽しい行事としての運動会では、リズムや動と静の動きがある荒馬や海太鼓、山太鼓を、大縄跳びの一人とびを見せるなど、子どもが主役になれる場を設けている。夏まつりではみこしや山車なども繰り出され、 ダイナミックなものとなっている。		
②	園の行事にはお弁当持ち散歩や七夕と笹焼き、5歳児のプラネタリウム見学、敬老館との交流、運動会、サツマイモ掘り、園外遠足、焼き芋会、お楽しみ会、新年子ども会、豆まき、大きくなった会、ひな祭りなどの行事をしている。お楽しみ会を今年度はおみせやさんごっこに設定し、子ども達が作ったゲームや編み物、粘土、折り紙、空き箱工作などさまざまな作品をホールに展示し、皆で買い物ごっこを楽しんでいる。園外遠足では3～5歳は小金井公園に行き、5歳は公園内の江戸たても館も見学している。		
③	各クラスの室内は、一人ずつ好きな遊びができるようコーナーを設定して、自分の好きな遊びが継続できる空間作りを職員は目指し、さまざまな工夫をしている。また、乳児室には抱っこやミルクの授乳がしやすいようにソファが置いてある。環境づくりは細部にも行き渡り、トイレに脱臭効果のあるコーヒードリヤや備長炭を置き、消臭効果を高めている。園内のさまざまな場所には生花や観葉植物を飾り、心を和ませる環境づくりをしている。トイレの中にもかわいい生花が飾ってあり、職員の温かさを感じるスペースとなっている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
	●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
	●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
	●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
●あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし			
父母会では、自主的に「そらいろのたね」という父母会の会報を作成し、各クラスの懇親会情報やクラスごとの保護者から原稿が寄せられて作られている「がんばれ！子育て奮闘記」など、豊富な内容となっている。また、父母会では夏祭りやバザーなどを自主開催している。園は父母会の事業に協力している。			
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	当園では父母会の活動が活発でさまざまな活動をしている。代表的なものがクラスごとの懇親会で、保護者間の交流を図ったり、担任も招待しながら、パーベキューなどをしながら楽しいひとときを過ごすなどのとりくみをしたり、自主的に「そらいろのたね」という父母会の会報を作成している。「そらいろのたね」は、各クラスの懇親会情報やクラスごとの保護者から原稿が寄せられて作られている「がんばれ！子育て奮闘記」などの記載があり、豊富な内容となっている。園は、父母会の行うバザーなどに協力している。		
②	園では、年間行事予定に保護者に参加していただきたい行事を夏祭り、運動会、大きくなった会を掲げて、その協力を依頼している。また、クラス保護者会が年2回、個人面談は0歳児は5月に、5月と2月に全体の懇談会をしている。懇談会などに参加できない保護者への配慮として、園では子どもの様子がいつでも見られるように、各クラスの廊下側の窓に、パンチングや型抜き模様などをつけた紙を窓に貼り、保護者が子どもに気づかれずに遊びの様子が見学できるようにしている。保育参加や参観はいつでも受け付けている。		
③	園では、保護者の事情に応じた支援ができるように、地域の育児困難家庭の受け入れやスポット保育、延長保育の受け入れ人数を区と協議し、今年度、その受け入れ人数を増やしている。園では、土曜日に運動会を行ったり、大きくなった会と保護者会を同じ日に開催するようようしている。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握した際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 虐待防止や育児困難家庭の支援を職員が適切に行えるように、区や保健所の研修を受けたり、その研修の報告を職員会議で行ったり、資料や報告書を園内で回覧している。また、園内でも気になる子どもや職員の経験した事例をもとに、報告しあったり、検討会をすることでみな意識や情報の共有化が図れるようにと努めている。
- ② 園では、虐待を受けていると思われる子どもや育児のストレスや不安が強く、適切な子育てができていないと思える子どもを発見した場合には、職員間で事実確認し、支援の必要があると思われる場合には担任や園長が個人面談などをして、保護者の気持ちを受け止めるように努めている。また、その支援策として、区で設定している虐待防止マニュアルに従い、区や保健所、児童相談所と連携をとる体制を整えている。
- ③ 子育ての不安やストレスの原因ともなりうる子どもの発達の遅滞や育児の仕方がわからない家庭への支援を、特別の講演会や勉強会という形で提供はしていないが、看護師や園長、職員らが子育て相談を受けたり、懇談会などで、子育て経験の豊富な保護者からの話を聞く機会を持つなどの取り組みをしている。父母会が開催している各クラスの懇親会もピアカウンセリング機能を持ち、子育てという同じ悩みを持つもの同士が話をしたり、子育てを楽しめる企画に参加することで、ストレス解消の効果も図ることができるようにしている。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	

●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)		
①	園では、子ども達にさまざまな人と交流する機会を持てるよう、中学生、高校生の職場体験を受け入れている。中学生・高校生のボランティアは年間20名、延べ100日間の参加であり、子ども達は保護者とも職員とも、在園する異年齢の子どもとも異なる雰囲気を持つお姉さんやお兄さんと遊ぶことで、日頃できない遊びやかかわりを経験している。園は、ボランティアセンターや学校との連絡を取りあっている。また、子ども達は子ども発達センターとの交流により、障害を持つ子ども達とも交流し、一緒に遊んでいる。	
②	園では、児童館や保健センターなどから配布されたポスターを掲示したり、区や都のお知らせなどを配布したり、見やすい場所に貼り出すなどの情報提供をしている。また、園長や職員は出前保育や児童館での子育て講座の講師などを引き受け、子育て支援のサポートをするように努めている。また、地域の親子に「あそびにきませんか」や夏祭り、運動会の参加を呼びかけている。敬老館に来ている高齢者とは、歌と一緒に歌ったり、肩たたきをしたり、ゲームをしたりする交流をしている。	
③		
8	評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている
	○非該当	
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	
○非該当		
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	
○非該当		
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目8の講評(一つ以上)		
①	地域の子育て支援として、地域交流事業である「あそびにきませんか」で、地域の親子と遊んだり、身体計測をするなどの取り組みをしている。また、来園した保護者の一人一人と丁寧にコミュニケーションをとるよう努め、その話の中から子育ての不安やストレスを理解しながら相談にのり、安心してもらえた経験を園では持っている。ともだちとの関わり方を伝える役割を当園は持ち、温かいまなざしで支援しているといえる。	
②	園では、地域の子育て支援を展開する中で、不審者や事故にいつ会うかわからない時代と感じ、地域のさまざまな人にも子ども達を守ってもらいたいと思っている。そのため、保護者や子ども達が地域住民との交流が希薄なことを危惧し、地域住民としての意識を高めてもらえれば・・・と思っている。	
③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自然にふれあい、楽しい活動に取り組む元気な子ども達
	内容	園では区民農園で地域の人と交流ながらじゃがいも、サツマイモなどの野菜を、また、園内のプランターを用いてきゅうり、なす、枝豆などを栽培し、植物の成長を観察したり、収穫の楽しみを味わっている。また、散歩の際にどんぐりや木の葉などの自然物を用いて工作や創作画にしたり、スタンプングをしている。運動会では荒馬や和太鼓、みこしや山車などの経験をしたり、室内でも牛乳パックやダンボールを活用した手編み道具やはた織り機などを用意し、遊びの中で手芸もできる楽しさがある。豊富な経験を積みながら子ども達は大きく成長している。
2	タイトル	父母会の積極的な活動との連携
	内容	当園の父母会の活動にはクラスごとの懇親会を行い、保護者間の交流を図ったり、バーベキューなどをしながら楽しいひとときを過ごすなどのとりくみをしている。また自主的に「そらいろのたね」という父母会だよりがあり、懇親会情報やクラスごとの保護者から寄せられた「がんばれ！子育て奮闘記」などの記事があり、豊富な内容となっている。園はアンケートや口頭、連絡帳などで寄せられた意見や要望、質問などに答えたり、その内容について検討し、職務の改善を行っている。園と父母会とは懇親会、夏祭りやバザーなどで協力しあっている。
3	タイトル	自然を活かした心地よい空間作り
	内容	園庭にはブドウやプルーン、様々な草花が、各クラスの室内は、一人ずつ好きな遊びができるようコーナーが設定されており、気持ちを和ませたり、自分の好きな遊びが継続できる空間を作り出している。また、乳児室には抱っこやミルクの授乳がしやすいようにソファがあったり、園内のさまざまな場所には生花や観葉植物を飾り、インテリアとしての役目を果たしている。トイレに脱臭効果のあるコーヒー豆や備長炭を置き消臭効果を高め、小さな花器にいれられたかわいい生花が出迎えてくれる。当園は職員の温かさを感じる空間作りをしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員一人ひとりの育成計画
	内容	職員の育成には園長や主査も関心を持って対応していますが、OJTに必要な個人の育成計画表を作成し、本人の年度目標を設定させてこの表に記入し、年度育成計画に役立てるように工夫することが望ましいことです。
2	タイトル	リーダーシップと意思決定の問題点
	内容	アンケートによると経営層の認識と、職員層の認識とで乖離が見られます。職員層は経営層に対して更なるリーダーシップの発揮を望んでいます。また「職員間の話し合いの時間が少ない」との意見が幾つか見られました。通常業務の遂行との時間の遣り繰りの問題もあるでしょうが、なお一層のコミュニケーションのとり方の工夫が望まれます。
3	タイトル	サービス分析の全般の認識について
	内容	アンケートに寄る認識によると殆んど全般的に経営層が厳しく、リーダー層が甘くなっています。一般職員はその中間になっています。これは、リーダー層は自分たちとしては精一杯やっていることを現しているが経営層はもう少し期待をしていることを現していることです。この乖離が大きくなると互いに不信感を持つことになりかねないので、サービス業務全体についての認識の見直しをすることが必要です。

調査対象	調査対象者数(人)97名であり調査記入者は父と母で87%であり、年齢層は34歳までが41%、35歳以上が59%である。対象者の勤務状況は常勤が53%である。母の勤務状況は43%が常勤となっている。	
調査方法	調査対象者数97名に対して、園の協力により調査票を配布していただいた。回収については当機関所定の返信用封筒を用い直接当機関に郵送する方法により個人情報の保護に注意を払った。	
利用者総数(人)	97	
調査対象者数(人)	97	
有効回答数(人)	63	
回収率	64.9	

利用者調査全体のコメント

利用者の多くは、園に預けた子どもが楽しく過ごしていることに感謝の念を持っている。しかし一部の保護者の意見には、保育士にむらがある、年配者やパートの保育士に、挨拶や会話をしない対応が悪い人がある、などの意見もあった。またこの園は障害児を収容しているので、保育士もそちらのほうに注意が行きすぎてしまう点が問題である、などという意見があった。障害児を収容しているからか、外への散歩(公園行きなど)が最近少なくなった、との意向もあった。

アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	45	71.4	15	23.8	2	3.2	1	1.6
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	56	88.9	6	9.5	1	1.6	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	53	84.1	5	7.9	5	7.9	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	55	87.3	7	11.1	0	0.0	1	1.6
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	56	88.9	6	9.5	0	0.0	1	1.6
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	34	54.0	22	34.9	6	9.5	1	1.6

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	43	68.3	18	28.6	2	3.2	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	50	79.4	13	20.6	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	49	77.8	11	17.5	2	3.2	1	1.6
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	58	92.1	1	1.6	2	3.2	2	3.2
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	49	77.8	11	17.5	2	3.2	1	1.6
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	48	76.2	14	22.2	1	1.6	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	46	73.0	14	22.2	2	3.2	1	1.6
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	40	63.5	21	33.3	2	3.2	0	0.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	38	62.3	21	34.4	2	3.3	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	57	90.5	5	7.9	1	1.6	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	48	76.2	10	15.9	3	4.8	2	3.2
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	34	54.0	23	36.5	6	9.5	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	32	50.8	27	42.9	0	0.0	4	6.3
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	32	50.8	22	34.9	2	3.2	7	11.1

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	19	30.2	28	44.4	15	23.8	1	1.6
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	18	94.7	1	5.3	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	14	73.7	4	21.1	1	5.3	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	34	54.0	22	34.9	5	7.9	2	3.2

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
		○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○ 非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○ 非該当
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
		○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
		○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ1の講評(一つ以上)

- ① 子ども達が心も体も健やかに育つことを願い保護者の方々と共に、考えて日々保育を行っている。事業所の保育目標として「心身ともに健やか子ども」の育成をかけた、具体的には、意欲的に生活する子ども、思いやりのある子ども、友だちと遊べるこどもの3項目を目標としている。また当園は障害児保育の指定園になっているので、入園している障害児たちとも溶け合っって自然と一緒に支えてやる思いやりのある子どもの育成も大切に考えている。
- ② 保育目標は事務所に掲示すると共に保護者には、園のしおり、園だより等に記載して配布して認識してもらっている。また保護者会等の保護者との会合の際に話をして周知・徹底を図っている。職員とは「年間目標」、「年間指導計画」、「マニュアル」等の作成の折りに職員会議で討議して、全員によく認識させている。障害児保育の対応には特に留意している。
- ③ 重要な案件の意思決定の際は、職員会議などで職員の意見を聞きそれを参考にして園長は意思決定をしている。このことは打ち合わせ記録、職員会議議事録、夜の会議記録等に記録を残してある。朝の始業時に各クラスの担任と園長・主査の会議を持ち、その日の伝達事項(子どもの様子・食事の献立・衛生面の留意事項・行事など)、報告事項などをその場で出席者全員で認識を共通している。

2	カテゴリ2	
	経営における社会的責任	
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3
 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目1
 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

子ども達が中学生、高学生、大学生、社会人のボランティアを通して、世代間交流をする経験を積む。またボランティアも保育園や子ども達への理解を深めるために積極的に受け入れをおこなっている。

カテゴリ2の講評(一つ以上)

- ① 守るべき規範・個人の尊厳などについては、区の法令集・例規集に定められている事項を遵守している。地域の研修会に積極的に参加させると共に、区民からの要望についても当園の問題として、再確認をしている。地域社会に対して事業所の透明性を高めるため、各種お知らせの掲示、保護者の保育参加、園内の随時見学の受け入れ、実習生(希望に合わせてプログラムを組み込んでいる)の受け入れ、各学校からのインターシップの受け入れ、「サポート今川」の一時保育のお知らせ等を実施している。
- ② 地域の福祉に役立ち事業所の機能を還元するために、地域との交流・園庭開放・プール開放・地域児童の身体測定・園内研修・児童館への備品貸し出し・講師派遣・ケアセンター訪問・老人施設訪問・サポートセンター講習会等をおこなっている。保育園の理解を深めるためにボランティアを随時受け入れ、園長・各クラス担任が受け入れ時に指導・オリエンテーションを行い、特に守秘義務の重要性については必ず指導している。
- ③ 地域の関係機関との連携は、桃一小学校地域ネットワーク、行政機関連絡会、保健センターとの連携(ふれあい保育の誘い、心の病んでいる親への支援)講演会の実施、情報交換などを実施している。特に桃一小学校地域ネットワークの参加により、近隣の防犯の様子や小学校での取り組み等を把握することが出来て、当園の運営の参考になっている。

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○ 非該当
	【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○ 非該当	
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○ 非該当	
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○ 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

カテゴリ3の講評(一つ以上)

- ① 職員は親の要望をなるべく聞き出し、子どもの望みを察知するように努力して、利用者満足の実現に努力している。またご意見箱の設置、個人面談、保護者会等で園に対する要望を聞き、その事項に対して担任、園長が即対応している。さらに、苦情処理メンバーと日時を掲示して意見が出やすいようにし、投げられた意見はきちんと受け止めて、きちんと返答することに努めている。
- ② 園は地区の行政連絡会、地域ネットワークに参加している。福祉事業全体の動向については 区が作成した杉並区実施計画、保健福祉計画に基づいて情報収集をしている。事業所としての取り組みは年度末に経過を反省して、次年度計画に盛り込んでいる。
- ③ サービスの向上については、前述のように個人面接や保護者会などの際に出てくる意見を取り入れて、CS(顧客満足)の心で対応している。具体的な方策の策定は見当たらない。

カテゴリ4

4 計画の策定と着実な実行

サブカテゴリ1

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目1

取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

警察署員による職員向け、保護者向けの防犯講習会を行った。年間計画に基づいて、月一回職員が交代で想定状況を変えて訓練を企画演出している防犯訓練が充実している。

カテゴリ4の講評(一つ以上)

①	<p>チャレンジプランに則り3年程度の計画をベースにして、1年ごとに計画を見直している。職員を3グループに分けて、1ヶ月ごとにグループ毎に討議して実践を図っている。会議ではすべての職員が意見を出すように仕組み、さらに小グループでの話し合いを密にするように指導している。会議では保護者の要望や子どもの姿をふまえて問題点を把握している。計画を建てる時点で、利用者への影響、職員の業務負担、必要経費を勘案して策定している</p>
②	<p>年度計画で職員の役割分担が決まっているので、その業務の担当者が中心になって業務遂行に関する話し合いを進めるようにしている。推進過程での問題は過去の資料の検討または関係者との合議によって、解決されている。担当業務は一ヶ月以下がほとんどなので、結果が出てから見直し、今後の行動判断に役立つようにして整理しておく。</p>
③	<p>園の安全確保のためには、決められた避難訓練計画・防犯訓練計画を全員で確認し、各月ごとに内容を変えた訓練を実施している。防災訓練計画では、訓練の目的・保育士の活動・園児の行動・訓練の種類・避難場所などが指定されていて、あらゆる事態に対応できるようにしてある。担当者をその都度変えて、全員が対応できるようにしている</p>

カテゴリ5

5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評(一つ以上)

①

人事制度など人事の基本的な方針については、杉並区の方針に従っている。園内のクラス担任の決定などについては各職員の意向を確認しながら適材適所で園長が決定している。

②

職員の研修計画を予めきめておき、実施に際しては計画に沿ってすべての職員が参加できるように配慮している。研修終了後は研修報告書を提出させ、報告会やOJTを通して全職員・関係者に徹底を図るようにしている。

③

職員にはクラス毎にリーダーを設け園長・主査と相談しながら日々の業務を行っている。また各自が気づいた事柄については、毎月カリキュラムの確認の際に意見を交換している。職員の有給休暇の取得状況を園長は把握し、全員が取りやすいように配慮をしている。福利厚生制度は区役所の規定に則っている。

カテゴリ7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ7の講評(一つ以上)

①	各資料は保管庫で施錠管理している。職員が必要な情報は、キャビネット内に整理保管して、必要なときに取り出せるよう整理整頓されている。指導計画は毎月作成を行い、半期毎には9月・2月に実施している。3月には前年度の見直しをし、4月からそれを実施している。
②	個人情報、区役所規定・個人情報保護条例に則っている。個人情報を扱う場合には、園長の許可が必要とされている。情報の開示は区役所規定によっている。また全員が区が実施した個人情報保護法の講習会を受けている。非常勤職員・実習生やボランティアには、オリエンテーション時に説明している。
③	外部からの実習生やボランティアなどについては、受け入れの際のオリエンテーションの際に、園長または担当職員から個人情報管理の大切さ・機密保持について、説明し徹底を期している。

8	カテゴリ8		
	カテゴリ1～7に関する活動成果		
	サブカテゴリ1		
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している		
	<p>評価項目1</p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <p>・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」</p>		<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	<p>改善の成果</p> <p>自由にものが言える雰囲気が出来つつある(発言の内容には、上手な要約が大切)。全員が平等に発言ができてその発言内容が、他の人のアイデアを刺激するすることができることを期待する。3つのグループ別会議、職員会議、研究会、定例打ち合わせ、朝夕保育報告等の継続が職員の集団帰属意識を強くしている。</p>		
	サブカテゴリ2		
	前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
<p>評価項目1</p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <p>・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」</p>		<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
<p>改善の成果</p> <p>昨年度は怪我の件数が多かったことを課題にし「子ども達の生きる力を育てる」をメインテーマに「ケガをしない子どもを育てる」をサブテーマに活動した結果本年度は怪我が減少している。リズムあそびや運動面での継続的な取り組みをすることによって子どもたちの体力と運動神経が向上し、大きな怪我が解消されている。また子ども達の喫食状況が良くなっていると共にワクワクドキドキする「あそび」の提供が、子ども達のあそびへの意欲を高めている。</p>			
サブカテゴリ3			
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している			
<p>評価項目1</p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <p>・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」</p>		<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
改善の成果			

職員が子ども達にきめ細やかな保育をし、保護者に対しては早期に丁寧な対応をするようになった。「クラスだより」を毎月発行することにし、保護者のニーズに対応して「園だより」の内容を検討した。デジタルカメラを活用して、子どもの日常の様子を常時掲載することにし保護者に子どもの園内の生活を知らせることを実行した。また個人情報保護講習会の受講は、各資料の整理整頓、保管、厳重な施錠管理、個人情報の取り扱いに対する職員の意識の向上に役立った。

サブカテゴリ4

前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

A+ A B C

改善の成果

収入面においては保育料は据え置きであるが補助金・交付金が一般財源化し運営費の増加は6%であり、職員費は減少している区全体としては自主財源で賅っているので向上していると考えられる。園は食事の材料納入業者を変更して、賄費の支出を押さえ経費の削減に寄与した。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

A+ A B C

・カテゴリ3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

改善の成果

桃井第一小学校地域ネットワーク、行政機関連絡会、保健センターとの連携(ふれあい保育の誘い、心の病んでいる親への支援)講演会の実施、情報交換を行っている。特に桃井第一小学校地域ネットワークの参加により、近隣の防犯の様子や小学校での取り組み等知ることが出来て参考になっている。

カテゴリ8の講評(一つ以上)

① 昭和55年2月の開園当初より、障害児保育園の指定園となっており、子どもたちが共に生活するなかでいろいろな友達の存在を知り、仲間として育ち合うことを願って保育を続けている。保育に当たっては、保育園の生活を通して専門家の巡回指導を受けたり、障害児保育に関する他の機関と共に連絡をとって進めている。障害児と一緒に育ち合うために丁寧な保育を心掛け、親子が楽しむ企画が実践出来る園となっている。

② 満1才からの「延長保育」を平成18年4月から始める。時間は、18時30分から19時30分まで、定員20名で実する予定である。

③ 子育てサポート事業は、平成8年4月より「子育てサポートセンター園」となった。サポートセンター園は、保育園内外の乳幼児から学童期の子どもを持つ人を対象に、育児相談、講演会、講習会の開催や一時保育などを専門の職員が行っている。

II サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <div style="text-align: right;">評点(A+)</div>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の見学希望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし		
開園当初より障害児保育の指定園となり、子どもたちが共に生活するなかで、いろいろな友達の存在を知り、仲間として認め合い助け合いながら、共に学び『育ち合う』統合教育を保育目標に掲げ、保育の中に活かす取り組みを実施しています。保育に当たっては、保育園の生活を通して専門家の巡回指導を受けたり、障害児保育に関する他の機関とも連絡をとりながら勧めている事を、保護者に丁寧に説明して理解を得ています。		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	利用者に対する情報提供は、杉並区作成のホームページに掲載されています。所在地を示した地図を含め3ページにわたって園の情報を簡潔に提供しています。他の保育園も同じフォーマットで掲載されているので、保育内容や設備、環境を比べて見ることも出来て利用者にとって見易く便利です。その他、保育施設の案内資料、園で作成した入園のしおり、園日より、クラスだよりを希望者に配布して園の情報提供をおこなっています。園では、園だよりの改編の時間が取れない悩みを抱えていましたが、今回見直しして時間確保を目指しています。	
②	行政連絡会や障害児保育に関する他の機関との情報提供など定期的に行なわれています。また、園と併設されている児童館、子育てサポートセンターと連携を取りあって、一時保育の利用者が園の育児相談を受けたり、ふれあい保育の情報を得た希望者が申し込みを簡単に行えるように、情報提供をおこなっています。	
③	園では入園希望者の問い合わせや見学希望には園長または主任が担当して、希望者はいつでも気軽に見学ができる体制をとっています。なかでも「ふれあい保育」では、保護者の時間が許す限り、こどもと園生活を一日体験してもらい、園の保育のありのままを見学できるような体制を取っています。保護者からの質問にも丁寧に答えながら、園の保育方針への理解を得るように取り組んでいます。	

サブカテゴリ2

2

サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)													
①	入園が決まったら入園説明会や個人面接を行い、こどもの生活のリズムや発達の様子や、保護者の就労などの個別の生活環境を把握して児童票に整理されています。園からは、入園のしおり、保育目標、チャレンジプランや保健計画などを書いた資料を配布して、園の考え方や入園に備えて準備するものについての説明を行っています。												
②	児童票の個別対応の情報は整理され、各職員が情報を共有できるように管理されています。朝のミーティングを利用して、職員間のコミュニケーションを図りながら個別の情報を共有しています。ならし保育の期間は、園の方針では5日程度で慣れるようにカリキュラムの中で工夫して取り組んでいますが、慣れななことができなかったことには、担当の職員がこどもに合わせた柔軟な対応を取っています。初めてこどもを預ける保護者も、安心して預けられるように配慮されています。												
③	転園時は、こどもの担任の転園先の担任と連絡を取り、日常生活の中ですでに身につけていることや心配なことなどを伝え、転園後の生活に早くなじめるように配慮した対応を取っています。退園時には、一定の期間各クラスの担任がこどもと連絡を取りクラスの様子を伝えたり、卒園後も遊びに来たこどもの受け入れを行うなど関係を大切に続けています。												
サブカテゴリ3													
3	個別状況に応じた計画策定・記録												
	評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
	評価	標準項目											
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当											
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズ・課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当											
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当											
【標準項目を超えた取り組み】	○あり ●なし												

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくうえで、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ●あり ○なし

障害児のために、年に10回専門医の巡回指導を受けています。一人一人の障害に合わせて、専門医の指導に沿った身体面と心理面の両方を記録した「巡回指導記録」をていねいに作成しています。職員も専門医の話を聞いて、障害について、専門的な関わり方について、勉強する機会を設けて障害児保育に取り組んでいます。

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(A)
---	--	----------------

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

サブカテゴリ3の講評(一つ以上)

① 月初めに会議を開いて、一人一人の子どもの個別の注意事項や園生活の様子を担当が報告します。内容によっては他の職員と意見交換を行い、必要に応じて児童票、個人日誌、連絡ノートに記入して情報を共有しています。こどもの環境が変化した場合は、申し送りや引継ぎを行い、クラスで見直しをして速やかに臨機応変に対応しています。児童票の記入方法が各職員まちまちなので見直しを計画しています。

② 保護者の希望や意向を引き出すために、各職員は日頃からコミュニケーションを取るよう心がけ、気軽に意見が言える環境作りに配慮しています。保護者会のお知らせは早めに伝え、欠席者には事前に希望内容を提出してもらるか、直接口頭で伝えてもらうなどの工夫をしています。全職員は、個人面談は保護者の意向をじっくり聞く場でもあるという共通の認識を持って臨んでいます。

③ 職員会議(月1回)、週打ち合わせ、緊急会議、朝会、朝夕保育記録などを通じて、こどもの生活の様子は職員全員に情報の共有を行っています。特にアレルギーを持つこどもの食事の様子は、毎回朝会で伝えて詳細な情報交換と確認作業を行い職員全体が周知できる体制を取っています。アセスメントの見直しを定期的に行い、年間の反省資料を作成して次年度に役立てています。

5	サブカテゴリ5
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(A)
-------------------------------------	--	----------------

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、判断力を養う支援をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ5の講評(一つ以上)

- ① プライバシーの保護・人権の擁護に関しては、公務員に準じる形で規程に従って対応しています。パート職員に対しては、個人情報伝えない方針を取っています。園ではことば遣いや人権に配慮してこどもに穏やかな対応をしています。こどもが失敗した時は、人前で注意しないでまずフォローを心がける支援を共通認識として持って対応しています。トイレの使用方法も年齢に合わせた配慮を行っています。
- ② 園ではこどもの発達に合わせた保育を心がけています。そのひとつとして、ちびっこ先生があります。当番の年長さんが年下のクラスでおやつ準備のお手伝いをしたり、担任の代りに「いただきます」の声かけをしてリーダーを務め、皆と一緒におやつを食べ、後片付けも率先して行い、年下のこどもたちのお兄さんお姉さん役を務めます。年長さんのこどもたちは、当番になる日を心待ちにして、年長さんの自覚を持って役割を果たします。園独自の異年齢交流の取り組みを行なっています。
- ③ 虐待を見つけた時は、保育課、保健センター、相談センター、児童相談所と連携を取りながら対応する体制を整えています。何か問題が起こった時は緊急会議を開いて、職員全員で対応方法を考え、職員の保育姿勢を確認し合います。家庭からも詳しい情報をもらい、寄り添いながらこどもの保育に当たるよう配慮しています。

サブカテゴリ6

6

事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ6の講評(一つ以上)

- ① 園全体の保育計画、指導計画(個別指導計画)は整理され、それを基に保育標準サービスとして徹底されています。その他に、非常時の対応として保護者向けに医療機関の資料を事務所に用意されています。それらは周知された所定の場所があり、いつでも取り出せるように管理しています。提供している園のサービス基本事項や手順の変更は、園全体では年に1回行い、各職員は年2回見直しを行っています。組織目標などは、グループ会議の結果を全体の会議で検討して決めています。
- ② 職員アンケートにも見られるように、園の取り組みが全職員に行き渡るように常に話し合いが持たれ、サービス向上に関しての取り組みを一人一人の職員が良く理解して統一感ある保育を行っています。地域の声や保護者の声を積極的に取り入れて改善する努力をしています。保護者の中からパート職員への要望が出ているので、パート職員の仕事の範囲を明確にして、保護者の理解を得ることが大切だと考えます。
- ③ 職員はお互いにより良い関係持ち、お互いに理解し合える雰囲気作りを心がけ、相互に向上し仕事をより良くする努力をしています。職場内、外の研修会に積極的に参加して、サービス向上や職員のレベルアップに役立っています。職員同士気軽に話し合える雰囲気ができているので園長から助言を受けたり、先輩に相談したりすることが日常的に行われています。

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 ◎あり ○なし			
園では、こどもたちの運動能力が落ちてきているのを憂慮し、職員が研修で学んできた運動プログラムを取り入れて、園独自のリズム遊びをしています。ピアノに合わせて体を動かし、楽しみながら運動能力を高めることができるので、こどもたちにもとても好評です。こどもたちは保育室と兼用の広いホールで元気良く、障害児も一緒にのびのびと体を動かしています。園のチャレンジプラン「こどもの生きる力を育てる」ための基礎体力づくりの取り組みとして実践しています。			
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園ではこどもの発達年齢に合わせた、わくわくして夢中で遊びこめる環境作りに取り組み実践しています。ある日突然、いつも遊んでいる園庭の砂場が砂山に変っていたという仕掛けを、ボランティアの力を借りて行かない、こどもたちをびっくり、わくわくさせました。園ではこどもたちが”明日も保育園に行きたいなあ”という気持ちになれるよう努力して、環境設定の見直しを毎年行っています。次は、ボランティアの協力を得て、ウォークラリーを計画しています。		
②	園では年間行事の他に地域の人に広く呼びかけをして「みんなで遊ぼう会」を企画実践しています。園児の保護者、おじいさん、おばあさんに先生になってもらい伝承遊びのたこあげ、こままわし、お手玉、あやとりなどを教わり異世代交流を行っています。覚えた遊びを、こども同志で教えたり、教わったりしながら、遊びを習得していく楽しさを育て、遊びの中で、こどもの自主性や自発性を養う取り組みをおこなっています。		
③	障害児の保育は、専門医の指導を受けながら作成された指導計画や個人日誌に基づいて、障害の種類や特性に配慮した対応がなされています。障害児も他の園児と一緒に同じ体験をしながら、お互いを認め合い、助け合い『共に育ち合う』保育環境の中で成長していくように配慮されています。また、1歳未満のクラスでは一人一人の体調、食事の量、睡眠の変化などの生活のリズムを考慮して、個性を大切に保育を行っています。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし			
園では杉並区の統一献立を使用して食事を提供していますが、そのなかにも園独自の工夫を試みしています。畑作りやプランターで野菜作りから始めて、子どもたちに大切に育てられた野菜は収穫された後、園内の調理師に調理してもらい食卓に並べています。食育の視点に立ち、子どもたちは毎日食べている食事に関心を持ち、食べ物が命を繋いでいることを学び、好き嫌いをなくす対策にもなっています。食事の展示を行い、保護者にもこどもの食事に関心を持ってもらう試みを実践しています。			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	食事は区の統一献立を使用していますが、季節の食材を使い安全性に重視して調理されています。園内の調理室から暖かいものは暖かく適温で提供されています。食事がテーブルに届くまでに手洗い、エプロンの準備、食後のおしぼりが用意され清潔にする配慮がされています。食事前はクラスの中をきれいに片付けて、テーブルクロスをかけたたりして雰囲気作りにも配慮しています。		
②	食事は年齢に合わせた食べ易い工夫をして調理されています。乳児には経験豊富なベテランの職員や看護師を配置して、状況チェック表(授乳表と献立表)の確認を行いながら対応しています。アレルギー食のこどもの食事は、毎日朝会でアレルギー食の内容確認を行っています。色分けされたアレルギー食専用のお盆を使用して、調理師と職員で名前を確認したうえで、園児に配膳する手順で行っています。		
③	食事のテーブルや椅子には年齢にあったものを使用しています。とくに乳児は食事中おとなしく座っていることができない時期なので、安全性を重視した座りごちの良いシンプルなデザインのものを選んで使用しています。この椅子は、保護者や見学者にもとても評判が良いそうです。障害児には障害に合わせて足台を用意して個別に対応をしています。集中力がつき食欲も増してきたようです。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をする仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	こどもの健康状態は、春、夏の定期健康診断の他に、内科は年12回、歯科、耳鼻科、眼科は年1回健康診断を行い、結果は個々の健康カードに記録し児童票、個人記録と合わせて把握しています。病気の連絡を受けたら、病気についての相談にも乗り、きめ細かな対応を心がけています。登園できるようになった後も、保護者の仕事の都合でこどもの通院に付き添いができない時には、職員が代行して保護者の負担を軽くする対応を取っています。		
②	1歳未満のクラスでは、SIDS(乳幼児突然死症候群)を予防するために、10分おきの午睡チェック表をつけて対応しています。また、感染症の予防対策として、流行の兆しを察したら速やかに感染症マニュアルを配布しています。感染者がでたら各クラスの入り口に、病気の見分け方や対応方法など、わかり易く表示した感染情報を掲示して、いち早く保護者に知らせる体制を取っています。事前の対応として定期的に保健だよりで病気の予防策などの情報提供を行っています。		
③	医療的なケアが必要な子どもには、クラス担任が主治医や看護師と連携をとりながら対応しています。園で薬を服用する場合は、与薬表の範囲内で、与薬依頼書の、手続きが取られているものに限って、看護師が薬の服用管理を行い、個々に対応しています。園の廊下の棚の上には、こどもの嘔吐に備えて用具一式が準備されており、すぐ取り出せるように救急対策が取られています。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【標準項目を超えた取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし			
毎月の誕生会は、こどもの保護者にも参加して戴く、園独自の取り組みを行っています。こどもの1年間の心身の成長ぶりや、園生活の様子を知る事ができて、親子一緒に楽しめるので、日頃、多忙な保護者の出席率も高いとのことです。こどもにとっても、日頃の成果を見てもらう緊張するけれど、心待ちにしていた特別な日になっています。他のこどもたちにとっても、この日は、お友達のお父さんやお母さんとふれあうことのできる異世代交流の場となっています。			
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園の取り組みの中に「わくわくする」遊びの提供があります。季節に合わせた年間行事の他に、みんなで遊ぼう会、おもちゃで遊ぼう会、芋掘り、焼き芋会、お店屋さんごっこ、お楽しみ会、会食会、畑作りなど、こどもたちが遊びの中で「わくわくする」ような体験ができるように、職員全員で企画を考えて取り組んでいます。		
②	園では各部屋に遊びのコーナーを設置しています。コーナーの仕切りは手作りで、こじんまりした空間は、こどもたちが落ち着いて安心して過ごせる居心地の良い場所になるように配慮されて作られています。ぬくもりの感じられる木のおもちゃが充実しており、安全性を配慮した固定遊具を使用しています。廊下には絵本コーナー(今川文庫)が常設され、本の貸出しができています。		
③	昼寝はこどもの睡眠リズムに合わせて実施されており、身体を休める事を基本としています。園の生活リズムに合わない乳児のために特別室を利用して、担当の職員が個別にリズム作りに取り組み無理なく園の生活リズムに近づける工夫をしています。園では特別室を活用して個別の保育に役立てています。		

評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		
5		評点(A)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
◎あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
◎あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
◎あり ○なし	6. 保育所のイベントや行事等の企画から保護者が参画することが可能である	○非該当
【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目5の講評(一つ以上)		
①	園の方針は、常に保護者と共に保育を考え、行うことを心がけています。そのためいつでも気軽に参観できるように手続きを無くし、保護者の突然の訪問にも対応していますので、保護者は普段のありのままの園の生活を見ることができます。保育参観では、自然に子どもたちの遊びの中に入って過ごしてもらっています。子どもたちも参観者には慣れていて、通常と変わらない生活態度で自然に迎え入れています。	
②	園の生活は、園日よりクラスだよりを通して定期的に保護者に知らせています。毎日の様子は、各クラスの前に設置してある白ボードに書いて、送迎の保護者に知らせる工夫をしています。デジカメを使用して、わくわくする遊びに興じる子どもたちの様子を撮り、即日に教室に掲示する取り組みは、保護者に喜ばれています。いろいろな工夫を試みっていますが、個々に説明することが増えており、情報を的確に伝える方法を考える必要性を感じています。	
③	遅刻や欠席の連絡や、保護者に代わって家族がお迎えに来るファミリーサポートの利用は、事前に園に連絡を取る約束を保護者と交わし、お迎え時は名札を確認するなどの手順を決めて行っています。また、保護者の急な残業や用事など、やむを得ない事情ができた場合は、夕保育を受け入れる柔軟な対応をしています。	

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点 (A+)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

現在園では、母親が持病の悪化から育児不安に陥り、育児などの困難な家庭への支援を行っています。園長を始め、担任、看護師が一緒になって、環境や事情に配慮した子育ての支援を行いながら、母親には心療内科の受診を勧めたり、保護センターのアドバイスを受けて話をじっくり聞いて不安解消に努める対応を取っています。症状が落ち着いた後も、保護者のケアやサポートまで行う取り組みをしています。

評価項目6の講評(一つ以上)

- ① 虐待の早期発見は、職員が虐待について共通認識を持って取り組めるように、研修会に積極的に参加して、研修会で学んだ事例は全職員に報告して、周知させています。研修会で学んだ知識は問題を抱えた家族の支援に役立てています。
- ② 虐待の疑いがある子どもを発見した場合は、まず担任に報告、担任から園長に報告されると、速やかに園内のケース会議が開かれます。それに平行して、区の保育課、保健センター、相談センター、児童相談所など、事例に合わせて適切な相談先に報告、相談を行い、連携を取りながら対応する体制を整えています。
- ③ 仕事を持っているために、日頃近隣とお付き合いの機会がなく、情報交換の少ない保護者のために、クラスごとの保護者会のなかで、育児について話し合う機会を設けています。構えることなく自然な形でコミュニケーションを取りながら、育児技術が学べるような場づくりを心がけて、保護者同志の横の繋がりができるような配慮もしています。

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点 (A+)
	評価	標準項目	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

【標準項目を超えた取り組み】 あり なし

園では、家庭科の実習生を始め、職場体験の中学生、高校生、大学生の受け入れや、高齢者からは伝承遊びを覚えてもらうなどして、子どもたちが地域の人と接する機会を多く設けています。子どもたちが、年代の異なる人々と関わることで、新しい遊びを覚えたり、知識を得る事ができ、豊かな体験ができるよう配慮した取り組みを行っています。

評価項目7の講評(一つ以上)													
①	児童館や区役所、消防署などからのお知らせや、こどもの支援機関が行う講演会のお知らせ、情操教育に役立つ演劇や音楽会などの情報を掲示板に張り出しています。												
②	年中行事の中には、運動会やじゃがいもパーティなど、中学生、高校生、大学生や社会人のボランティアにも来てもらい子どもたちと一緒に楽しんでもらっています。また、子どもたちが近所の高齢者の施設(ケアハウス)を訪問して高齢者に大変喜ばれています。												
③	地域の人から寄付された絵本や本を、係りの職員が本棚に整理して「今川文庫」を開設しています。本は子どもたち、保護者、ボランティアなど、誰でもいつでも貸し出しができるようになっていて、利用し易い園の広い廊下に設置されています。												
8	<p>評価項目8 地域子育て支援の充実に努めている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 80%;">標準項目</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【標準項目を超えた取り組み】 ○あり ●なし</p>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当	●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズに基づいて、地域の子育て事業の実施を区市町村に働きかけている	○非該当											
●あり ○なし	2. 地域の子育て支援に対しては、利用している保護者の意向を汲み取る体制がある	○非該当											
●あり ○なし	3. 通常保育のノウハウをいかした支援(メニュー、子どもへの対応など)をしている	○非該当											
評価項目8の講評(一つ以上)													
①	園では、地域の子育て支援として、地域向けの身体測定を年に10回、プール開放夏に2回、園庭開放を年に8回行っています。参加者は顔見知りになり、保護者同志で子育ての情報交換をしたり、おともだち作りの輪ができるよう配慮して、入園前の不安解消の場となるように協力しています。												
②	園では、通常保育のノウハウを活かしたふれあい保育に取り組む他に、平成8年から子育てサポートセンター今川を開始しています。サポート保育園を利用する子どもを、園に受け入れて、園児と一緒に遊ぶ取り組みをおこなっています。												
③	ふれあい保育を体験した保護者には必ずアンケート調査を行い、気づいたや意見を聞く取り組みを行っています。アンケート調査に書かれた意見は取り入れたり、園の新しい取り組みの参考にして有効に活用されています。												

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	全員参加のアクションプラン
	内容	実体験を繰り返し職員の業務能力の向上を図っている。月毎に行われる誕生会(毎月第3木曜日)・各種行事(毎月1～2回)は、年度計画に基づいて「何を、誰が、いつからいつまでに」を担当するかを設定している。分担する業務については、情報を収集して企画し、上司や関係者に相談し、連絡をとりながら運営し、終了したら報告する。その後成果を見直して、今後の行動判断に役立つ資料にする。職員にはそれらの情報を発信する責任と権限が与えられている。日常業務についても係分担が明確に定められている。
2	タイトル	「生かした研修！目指せ体力づくり！」
	内容	園の保育目標のメインテーマ「子どもたちの生きる力を育てる」、サブテーマ「ケガをしない体力づくり」を目標とし、「柳沢プログラム」の研修成果を発表し合い知識の共有化をして意見交換を深めた。その過程でこれまで継続して来た「リズムあそび」に「柳沢プログラム」を取り込んだ。この「柳沢プログラム」の研修成果を職員全員が実践しているうちに、子どもの運動機能が発達して「ケガ」が少なくなるばかりでなく、「集中力」が付き食欲も出てきた。どんどん体を動かして「外遊び」を楽しむ子どもがふえてきた。
3	タイトル	職員が企画・演出する「防犯訓練」「避難訓練」
	内容	警察署員による職員や保護者向けの防犯講習会を行い、子ども防犯テキスト・病院マップ・応急手当てのシナリオづくり、さらに職員達は防犯訓練計画、避難訓練計画を作成し警察署・消防署に提出してある。年8回「防犯訓練」を実施し、園内に不審者が侵入、広い場所で不審者に遭遇などを想定した対応を訓練した。毎月の訓練では、朝夕の保育・食事・午睡・散歩・プール遊び時等の際の対応を考え、ベルの音を乳児に慣れさせる・幼児は保育士のまわりに集まる・避難靴をはく・防災頭巾を着用させる・バスタオルで身体を覆う等の状況を想定して実施している
No.		さらなる改善が望まれる点
1	タイトル	現場で何が起きているかを把握する。
	内容	職員は衆知を結集して、計画し実施し評価することにより、仕事をしたという達成感を味わうことができる。しかしながら業務の過程で発生した問題の解決には、経営層が保護者・職員の意向・満足状況や地域・事業環境など事業所を取り巻く環境の変化に関する情報とそれらに基づく状況を把握して、全体最適化の調整をおこない目標達成の支援をする必要がある。
2	タイトル	保護者との信頼関係をなお一層深めること。
	内容	常勤職員が少ない時間帯での非常勤職員が保護者との対応は、とかく誤解を招きやすい。仕事から帰ってくる保護者を顔見知りの常勤職員が出迎え、今日一日の子どもの様子を伝えたり、保護者の質問や不安に丁寧に答えことにより、保護者自身も安心して子どもを温かく迎え入れ、家庭でも親子のふれあいを深めることができる。
3	タイトル	利用者や保護者の要望・苦情をよくきき、対応を工夫すること。
	内容	保護者が園に対して持つ要望や苦情はよく聞き入れ、その時点で相互に納得するように解決しておかないと以後にシコリを残すことになる。園、保護者、保育士それぞれの立場が異なると、感じ取り方も変わってくる場合があるので、それぞれ相手の立場を考えて結論を出さないと、とり違ったものになってしまう。この点をよく認識して対応する心がけが必要である。